

# つがる市都市計画マスタープラン

自然・伝統文化を継承する 誇りあるまちづくり

“躍動”と“平穏”の共存都市 つがる



令和7年3月  
つがる市



## はじめに

つがる市ではこれまで、平成 22 年 3 月に策定したつがる市都市計画マスタープランに基づき、「都市づくりの目標」の実現を目指し、概ね 20 年先の将来を見据えたまちづくりを進めてまいりました。

策定から 10 数年が経過し、この間、社会情勢は急激に変化し、人口減少・少子高齢化の急激な進行、空き家や空き店舗の増加、ゼロカーボンシティなどの環境問題に対する意識の高まりなど、多くの課題が生じており、つがる市を取り巻く環境は大きく変化してきました。

また、津軽自動車道の整備により、人と物の流れが活発になることが予想されるため、広域的な道路ネットワークの活用などにより利便性の向上が期待されることから、人口増加や物流機能の集積等に向けた受け皿の確保が必要です。

こうした状況を踏まえ、社会の変化に柔軟に対応し、市民のニーズに応じていくため、つがる市都市計画マスタープランの見直しを実施いたしました。

見直しに際しましては、都市計画審議会、庁内検討委員会、市民アンケート、住民懇談会でのご意見を踏まえて課題を見出し、人口減少時代を見据えた都市計画に対応し、コンパクトで利便性の高いまちづくりを推進していくために、まちなか居住の推進や産業振興による活力ある都市づくり、地域が連携する多極ネットワーク型の都市づくり、物流機能の優位性を生かした工業・流通系の土地利用の推進、豊かな地域資源の活用や安全・安心の確保などに取り組むこととし、都市計画マスタープランを改定いたしました。

今後につきましては、市民・事業者・行政が一体となって住み続けたいと思える環境を整え、移住につながるまちづくり、少子高齢化に対応したまちづくり、企業立地の場所として選ばれるまちづくりを目指していきたいと思います。

最後に、都市計画マスタープラン改定にあたり、パブリックコメントや市民アンケートを通じて貴重なご意見、ご提言を賜りました市民の皆様をはじめ、ご尽力いただいたつがる市都市計画審議会の皆様方に対し心から感謝申し上げます。



令和 7 年（2025 年）3 月

つがる市長 倉 光 弘 昭



# 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 序章 計画の概要.....                | 1  |
| 序－1 計画策定の背景と目的.....          | 1  |
| 序－2 対象区域と目標年次.....           | 1  |
| 序－3 計画の位置づけと役割.....          | 2  |
| 序－4 都市計画マスタープランの構成.....      | 3  |
| 第1章 つがる市の現況.....             | 4  |
| 1－1 関連計画.....                | 4  |
| 1－1－1 県の計画.....              | 4  |
| 1－1－2 市の計画.....              | 14 |
| 1－2 社会的広域的条件.....            | 22 |
| 1－2－1 人口.....                | 22 |
| 1－2－2 産業関連.....              | 27 |
| 1－2－3 土地利用.....              | 31 |
| 1－2－4 交通.....                | 35 |
| 1－2－5 都市施設.....              | 40 |
| 1－3 地理的自然的条件.....            | 42 |
| 1－3－1 位置・地勢.....             | 42 |
| 1－4 その他条件.....               | 43 |
| 1－4－1 市の沿革.....              | 43 |
| 1－4－2 歴史的文化遺産・観光資源の分布状況..... | 44 |
| 1－4－3 指定避難所等の状況.....         | 45 |
| 第2章 まちづくりの課題整理.....          | 46 |
| 2－1 土地利用.....                | 46 |
| 2－2 都市施設.....                | 53 |
| 2－3 景観形成.....                | 59 |
| 2－4 その他.....                 | 61 |
| 第3章 都市の将来像.....              | 63 |
| 3－1 まちづくりの基本的な考え方.....       | 63 |
| 3－2 まちづくりの基本理念.....          | 64 |
| 3－3 将来まちづくりの目標.....          | 65 |
| 3－4 まちづくりのテーマ.....           | 68 |
| 3－5 将来フレームの設定.....           | 70 |
| 3－5－1 人口フレーム.....            | 70 |
| 3－5－2 世帯数フレーム.....           | 71 |
| 3－5－3 産業フレーム.....            | 73 |

|   |     |
|---|-----|
| 3-5-4 産業フレームを土地利用へ反映する際の考え方 .....         | 79  |
| 3-6 将来都市構造 .....                          | 80  |
| 3-6-1 土地利用ゾーニング 【P. 84 将来都市構造図に記載】 .....  | 80  |
| 3-6-2 都市拠点 【P. 84 将来都市構造図に記載】 .....       | 82  |
| 3-6-3 都市軸 【P. 84 将来都市構造図に記載】 .....        | 83  |
| 第4章 分野別構想 .....                           | 86  |
| 4-1 土地利用の方針 .....                         | 86  |
| 4-1-1 住居系土地利用の方針 【P. 91 土地利用方針図に記載】 ..... | 86  |
| 4-1-2 産業系土地利用の方針 【P. 91 土地利用方針図に記載】 ..... | 88  |
| 4-1-3 自然的土地利用の方針 【P. 91 土地利用方針図に記載】 ..... | 90  |
| 4-2 都市施設の方針 .....                         | 92  |
| 4-2-1 交通施設の方針 【P. 96 交通施設方針図に記載】 .....    | 92  |
| 4-2-2 公園・緑地の方針 .....                      | 98  |
| 4-2-3 河川・下水道の方針 .....                     | 99  |
| 4-2-4 公益的施設の方針 .....                      | 100 |
| 4-3 都市環境形成の方針 .....                       | 102 |
| 4-3-1 自然環境の保全・活用の方針 .....                 | 102 |
| 4-3-2 景観形成の方針 .....                       | 103 |
| 4-4 その他の方針 .....                          | 104 |
| 4-4-1 福祉のまちづくりの方針 .....                   | 104 |
| 4-4-2 都市防災まちづくりの方針 .....                  | 104 |
| 第5章 地域別構想 .....                           | 106 |
| 5-1 木造中央地域 .....                          | 107 |
| 5-1-1 地域の現況 .....                         | 107 |
| 5-1-2 地域づくりの課題 .....                      | 109 |
| 5-1-3 地域づくりの目標 .....                      | 110 |
| 5-1-4 整備構想 .....                          | 111 |
| 5-1-5 整備方針図 .....                         | 113 |
| 5-2 木造東部地域 .....                          | 114 |
| 5-2-1 地域の現況 .....                         | 114 |
| 5-2-2 地域づくりの課題 .....                      | 115 |
| 5-2-3 地域づくりの目標 .....                      | 116 |
| 5-2-4 整備構想 .....                          | 117 |
| 5-2-5 整備方針図 .....                         | 118 |
| 5-3 木造西部地域 .....                          | 119 |
| 5-3-1 地域の現況 .....                         | 119 |
| 5-3-2 地域づくりの課題 .....                      | 120 |
| 5-3-3 地域づくりの目標 .....                      | 121 |

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 5-3-4 整備構想                       | 122 |
| 5-3-5 整備方針図                      | 124 |
| 5-4 柏地域                          | 125 |
| 5-4-1 地域の現況                      | 125 |
| 5-4-2 地域づくりの課題                   | 126 |
| 5-4-3 地域づくりの目標                   | 127 |
| 5-4-4 整備構想                       | 128 |
| 5-4-5 整備方針図                      | 130 |
| 5-5 車力地域                         | 131 |
| 5-5-1 地域の現況                      | 131 |
| 5-5-2 地域づくりの課題                   | 132 |
| 5-5-3 地域づくりの目標                   | 133 |
| 5-5-4 整備構想                       | 134 |
| 5-5-5 整備方針図                      | 136 |
| 5-6 稲垣地域                         | 137 |
| 5-6-1 地域の現況                      | 137 |
| 5-6-2 地域づくりの課題                   | 138 |
| 5-6-3 地域づくりの目標                   | 139 |
| 5-6-4 整備構想                       | 140 |
| 5-6-5 整備方針図                      | 142 |
| 5-7 森田地域                         | 143 |
| 5-7-1 地域の現況                      | 143 |
| 5-7-2 地域づくりの課題                   | 144 |
| 5-7-3 地域づくりの目標                   | 145 |
| 5-7-4 整備構想                       | 146 |
| 5-7-5 整備方針図                      | 148 |
| 第6章 実現化方策の検討                     | 149 |
| 6-1 土地利用の実現化方策                   | 149 |
| 6-1-1 都市基盤が整備された良好な住環境の維持と向上     | 149 |
| 6-1-2 既成市街地で建物の密集等がみられる地区の住環境の改善 | 149 |
| 6-1-3 新しい住宅地の整備                  | 149 |
| 6-1-4 集落地の住環境の向上                 | 150 |
| 6-1-5 中心商業地の活性化                  | 150 |
| 6-1-6 幹線道路沿道への商業施設の誘導            | 151 |
| 6-1-7 地域特性を活かした地域の商業空間の形成        | 151 |
| 6-1-8 工業系土地利用の促進                 | 152 |
| 6-1-9 都市的土地利用の抑制                 | 152 |
| 6-2 都市施設整備の実現化の考え方               | 153 |
| 6-2-1 道路                         | 153 |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 6-2-2 公共交通機関.....          | 153 |
| 6-2-3 公園・緑地.....           | 153 |
| 6-2-4 河川・下水道.....          | 154 |
| 6-2-5 公共公益施設.....          | 154 |
| 6-3 都市環境形成の実現化の考え方.....    | 155 |
| 6-3-1 自然環境の保全・活用.....      | 155 |
| 6-3-2 景観形成.....            | 155 |
| 6-3-3 生活環境の向上.....         | 155 |
| 6-4 都市計画決定へ向けた基本的な考え方..... | 156 |
| 6-4-1 土地利用の誘導規制.....       | 156 |
| 6-4-2 都市施設.....            | 157 |
| 6-4-3 市街地開発事業.....         | 157 |
| 6-4-4 地区計画.....            | 158 |
| 6-5 住民主体のまちづくりの実現化.....    | 158 |
| 6-5-1 まちづくり意識の啓発.....      | 158 |
| 6-5-2 住民のまちづくり活動への支援.....  | 158 |
| 6-6 国・県等との連携.....          | 159 |
| 参考資料.....                  | 161 |

# 序章 計画の概要

## 序－１ 計画策定の背景と目的

都市計画マスタープランは、平成４年の都市計画法の改正により、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として市民の意見を反映させながら、市町村独自で定めることが制度化されました。つがる市都市計画マスタープランは、本市をとりまく社会経済環境の変化や市民のニーズ、まちづくりの課題等を的確にとらえることにより、まちづくりの実現に向け、将来あるべき都市像やまちづくりの基本的な方向を「都市計画に関する基本的な方針」として、全市的視点から整理したものです。

また、平成１２年法改正では、法第６条の２の規定に基づく「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（以下、「都市計画区域マスタープラン」という）について、県が策定することとなりました。この都市計画区域マスタープランは、広域的な視点から都市の将来像を描いて、土地利用のあり方や道路などの整備方針を定めるものです。

## 序－２ 対象区域と目標年次

### （１）都市計画マスタープランの対象区域

本市のほとんどが都市計画区域外であることを考慮し、本都市計画マスタープランの対象区域は、全市域を対象とします。



図 本市の都市計画区域

## (2) 目標年次

本都市計画マスタープランが目指す目標年次は、策定年次より概ね 20 年後の 2045（令和 27）年とし、2035（令和 17）年を中間年次とします。なお、各種統計データを用いる推計等については、国勢調査の最新年次である 2020（令和 2）年を基準としています。

## 序－3 計画の位置づけと役割

本都市計画マスタープランは、市議会の議決を経て定められた「第 2 次つがる市総合計画」（令和 3 年 6 月）や、青森県等の計画や構想に則し、都市計画の観点からみた長期的・総合的なまちづくりの施策として位置づけられています。

具体的には、今後、つがる市が定める都市計画は、このマスタープランに沿って定められることになり、都市計画の決定・変更、各種まちづくり事業の実施、地域のまちづくりルール等を定める際の指針として、さらに、市民・企業（事業者等）・行政が共有する都市計画やまちづくりの指針としての役割を果たします。

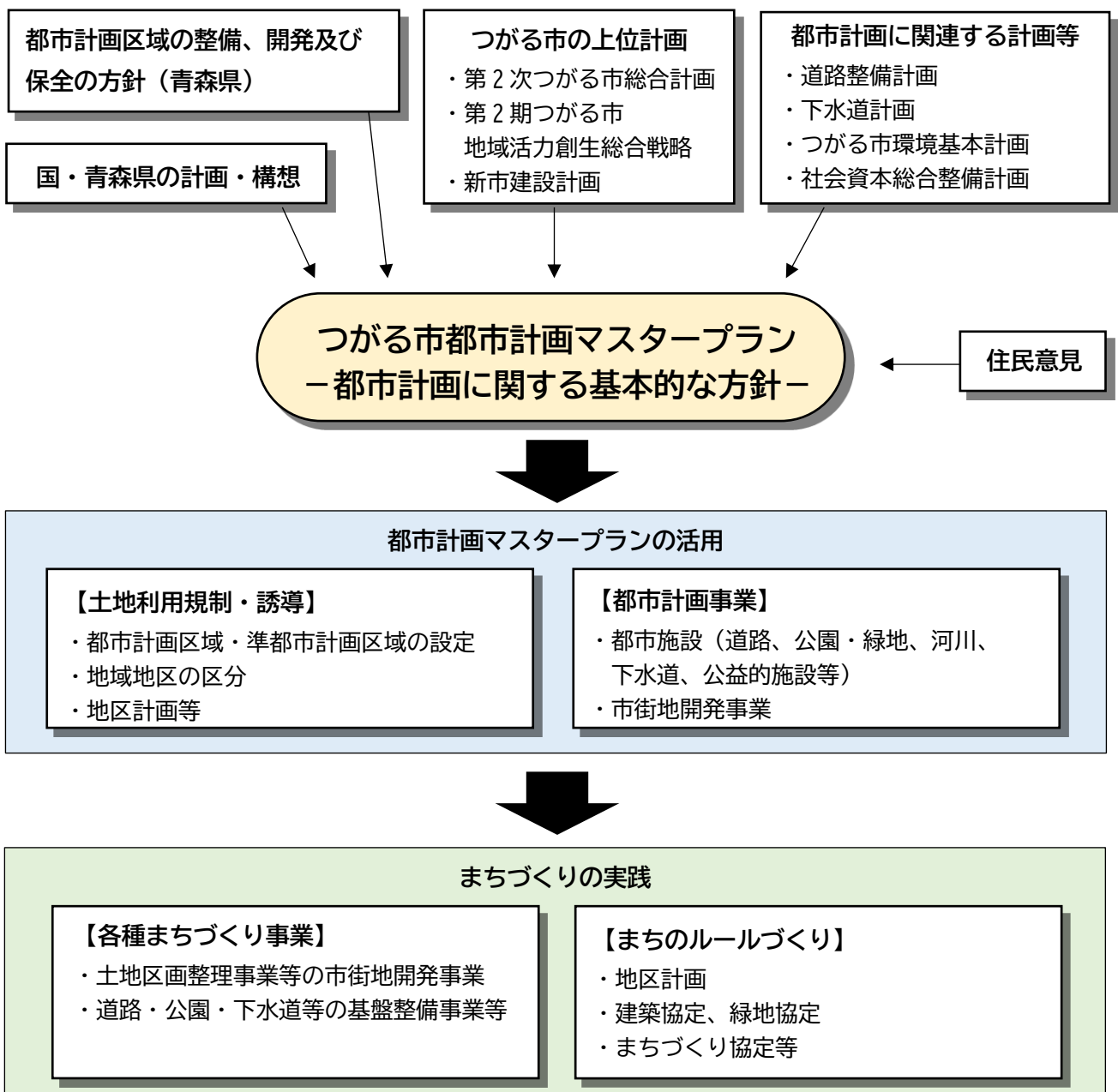


図 計画の位置づけ

## 序－４ 都市計画マスタープランの構成

本都市計画マスタープランは、次に示すように大きく５つの項目から構成されます。

「まちづくりの課題整理」は、つがる市の都市についての課題、「都市の将来像」は、つがる市のあるべき都市の姿を、「分野別構想」は、都市全体についての分野別のまちづくり方針を示しており、この２項目で「全体構想」を構成します。

「地域別構想」は、地域ごとに身近なまちづくりの方針を、「実現化方策の検討」は、目標としたまちづくりの実現に向けて、今後取り組むべき内容をそれぞれ示しています。

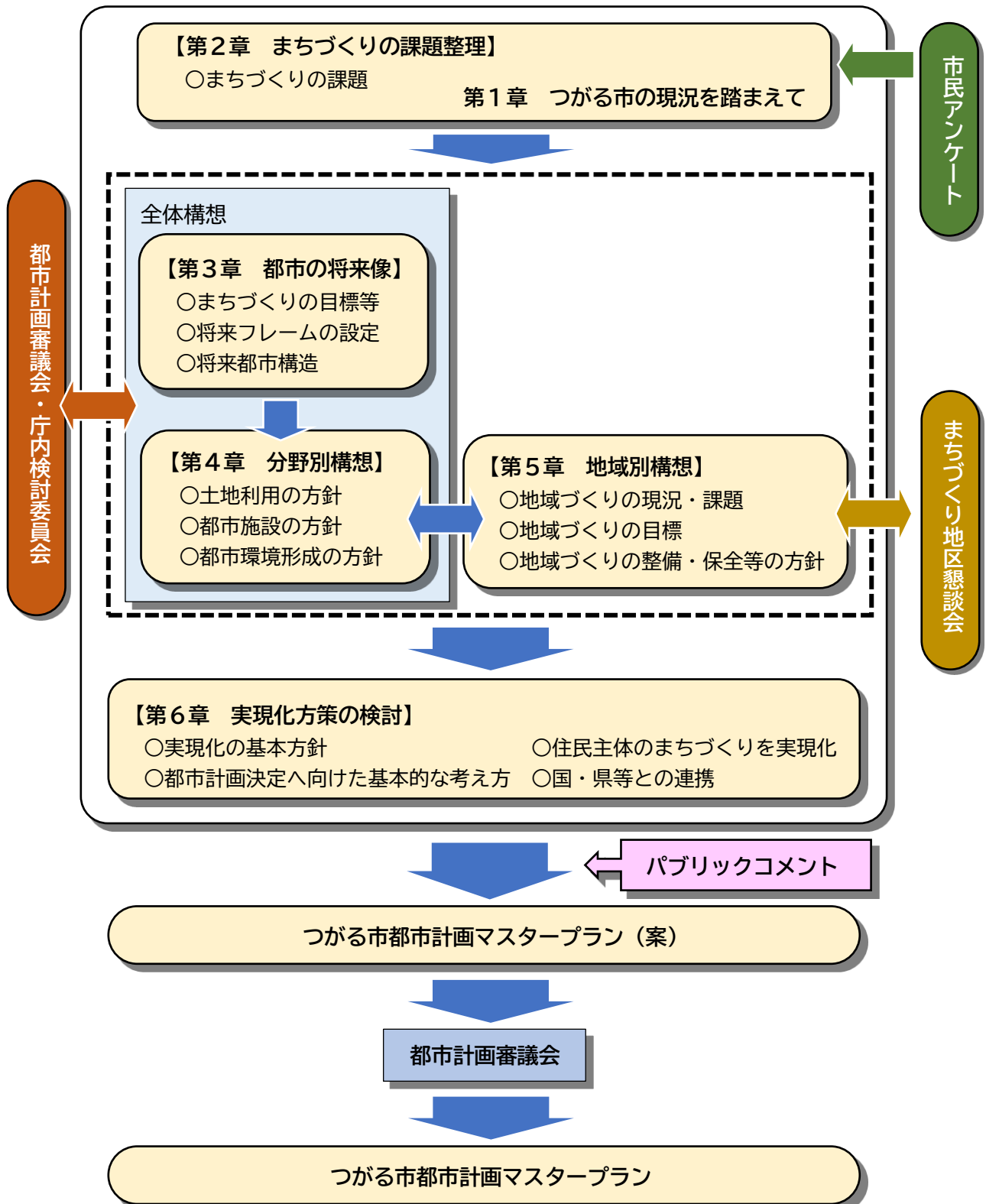


図 本都市計画マスタープランの構成

# 第1章 つがる市の現況

## 1-1 関連計画

### 1-1-1 県の計画

#### (1) 青森県基本計画「青森新時代」への架け橋 よりそい、未来へつなぐ

|                  |  |
|------------------|--|
| 年次               | 令和5年(2023年)12月8日 議決  |
| 計画期間             | 2024年度～2028年度の5年間  |
| 立ち向かうべき課題        | (1) 低水準にある所得状況<br>(2) 長期的な人口減少が及ぼす様々な影響<br>(3) 超高齢社会の今後<br>(4) 若い世代の減少、しごとの選択枝や生き方の多様性<br>(5) 少子化の進行<br>(6) 世界情勢の混迷と原材料価格、原油価格及び物価の高騰<br>(7) 新型コロナウイルス感染症と次なる感染症危機<br>(8) 気候変動や自然災害  |
| 2040年のめざす姿       | 「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」   |
| 政策テーマと2040年のめざす姿 | <p>政策テーマ1 しごと ～所得向上と経済成長～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県産業の強みを生かして地域経済が好循環する社会</li> <li>・農林水産業が持続的に発展する社会</li> <li>・所得向上につながるしごとづくりにより産業が成長する社会</li> </ul> <p>政策テーマ2 健康 ～健康を支える医療環境の向上と共生社会の実現～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりを支える社会</li> <li>・がんの克服をめざす社会</li> <li>・安心して医療サービスを楽しむ社会</li> <li>・地域ぐるみで支え合い、助け合うことができる社会</li> </ul> <p>政策テーマ3 こども ～こどもの健やかな成長～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心してこどもを産み育てられる社会</li> <li>・こどものウェルビーイングが実現している社会</li> <li>・こども・若者に必要な支援が届く社会</li> </ul> <p>政策テーマ4 環境 ～自然環境との調和とその活用～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境と経済が好循環する社会</li> <li>・暮らしと自然環境が守られている脱炭素社会</li> <li>・資源を有効活用し、快適な生活環境が守られている循環型社会</li> <li>・恵み豊かな自然と共生する社会</li> </ul> |

|           |  |
|-----------|--|
|           | <p>政策テーマ5 交流 ～国内外とつながる交流・物流の拡大～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何度も訪れたくなる青森県</li> <li>・ 青森にしながら世界とつながっている社会</li> <li>・ 多様な文化を尊重し、共に成長する社会</li> </ul> <p>政策テーマ6 地域社会 ～持続可能な地域社会の形成～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元気な地域社会、自分らしく生きられる地域社会</li> <li>・ 安心して快適な日常を過ごせる地域社会</li> <li>・ 心が充実する地域社会</li> </ul> <p>政策テーマ7 社会資本 ～安全で利便性の高いインフラの整備～</p> <p>【2040年のめざす姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命と暮らしが安全に守られる社会</li> </ul> |
| 西北地域の取組方針 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○スマート農業と高収益作物の導入等による持続可能な農林水産業の所得向上</li> <li>○国内外の誘客推進と風力発電施設の立地による経済循環</li> <li>○安心して生活を送れる地域サービスの充実</li> <li>○誰もが住み続けたくなる地域づくり</li> </ul>   |

## (2) 青森県都市計画マスタープラン

|               |  |
|---------------|--|
| 年次            | 平成 22 年（2010 年）6 月   |
| 基本理念          | 生活創造社会の実現に向けた持続可能な都市   |
| 都市づくりの方針      | <ol style="list-style-type: none"> <li>にぎわいと活力のある都市 <ul style="list-style-type: none"> <li>産業・雇用の創出・拡大</li> <li>中心市街地の活性化</li> <li>農山漁村部の活性化</li> </ul> </li> <li>安心して住み続けられる都市 <ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能の充実</li> <li>安全・安心の確保</li> </ul> </li> <li>環境と共生する美しい都市 <ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境の保全</li> <li>地球環境問題への対応</li> <li>景観の保全・創出</li> </ul> </li> <li>協働で育む都市 <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体の協働</li> <li>人財の育成</li> </ul> </li> </ol> |
| つがる市の目標とする都市像 | <ol style="list-style-type: none"> <li>市街地（市街化区域・用途地域） <p>中規模都市の市街地においては、地域の生活中心地として、利便性に優れた多様な機能をまちなかへ集積します。さらに地域固有の歴史や伝統、文化などアイデンティティに支えられた、住民が誇りと愛着の持てる市街地の形成をめざします。</p> </li> <li>市街地周辺（市街化調整区域・白地地域） <p>中規模都市の市街地周辺においては、市街化を抑制すべき区域を明確にするとともに、適切な土地利用規制を図り、優良な農地や自然環境の保全をめざします。</p> </li> <li>都市・生活基盤など <p>中規模都市においては、近隣都市を含めた生活を支える鉄道や路線バスなどの公共交通の充実と維持・確保を図り、過度に自動車に依存しないまちの形成をめざします。</p> </li> </ol> <p>図 中規模都市のイメージ</p>  |

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 西 北 圏 域<br>の将来像                    | 農・林・水・観が連動し、地域と文化を育む広域型の田園都市圏域  |
| 西 北 圏 域<br>の 都 市 づ<br>く り の 方<br>針 | <p>(1)「豊かな自然の恩恵を受けた6次産業が展開する圏域」</p> <p>【土地利用に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本県を代表する穀倉地帯である平野部の農地の保全</li> <li>●七里長浜港や青森テクノポリスハイテク工業団地漆川を核とする産業・流通拠点の形成</li> </ul> <p>【都市施設の整備に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●骨格的な物流軸として、津軽自動車道、東西方向の国道101号、南北方向の国道339号を軸とした広域的な道路網の強化</li> <li>●広域的な観光・交流を促進する新青森駅や北海道新幹線奥津軽（仮称）駅、JR五能線、津軽鉄道などを活用した交通ネットワークの形成</li> <li>●広域的な観光・交流の促進と地域産業の振興などに資する西津軽能代沿岸道路の計画推進</li> </ul> <p>(2)「五所川原市を中心に連携した広域型田園都市圏域」</p> <p>【土地利用に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●五所川原市の中心市街地における商業などの活性化に資する市街地の再生</li> <li>●鰺ヶ沢町における医療・教育分野を中心とした補完的な都市機能の維持</li> <li>●木造、金木、中里、鶴田、板柳、深浦といった主要な市街地における五所川原市を補完する都市機能の維持</li> <li>●ある程度人口が集積している集落における生活機能の維持</li> </ul> <p>【都市施設の整備に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●青森市や弘前市の高次都市機能を享受できる圏域間交通ネットワークの強化</li> <li>●生活の足となるJR五能線や津軽鉄道の維持</li> <li>●中里地区以北やつがる市北部の各集落を結ぶ公共交通の維持</li> <li>●地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備</li> <li>●既存の都市的サービス供給拠点の利用促進による維持</li> <li>●市町村間の分担・連携による都市機能の適正な再配置</li> <li>●農山漁村と五所川原市をはじめとする各都市との連絡強化</li> </ul> <p>(3)「世界に誇る自然環境がいきる持続的な圏域」</p> <p>【土地利用に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平野部に広がる穀倉地帯の農地の保全と活用</li> <li>●主な視点場から眺めた、津軽平野と岩木山が織り成す眺望景観を保全する沿道土地利用の規制・誘導</li> <li>●斜陽館をはじめ圏域内に残る伝統的景観建造物の保全</li> </ul> <p>【都市施設の整備に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●岩木川の水質保全を図るため、中南圏域と連携した公共下水道などの効率的な整備</li> <li>●圏域を貫く緑の軸として、岩木川の水辺環境の保全と親水性の向上</li> <li>●丘陵地や溜池などの緑と水辺をいかした広域的な緑の拠点の配置</li> </ul> <p>【自然的環境の整備または保全に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●圏域を象徴する自然美豊かな景観として、白神山地、十二湖、岩木山、赤石溪流、十三湖、変化に富んだ海岸線などの保全</li> </ul> |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| つがる市<br>において<br>検討すべ<br>き項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●つがる市木造地区、柏地区、森田地区の非線引き都市計画区域の白地地域及び周辺の都市計画区域が指定されていない地区では、周辺環境との調和の観点から都市計画区域の拡大を検討するとともに、特定用途制限地域や地区計画の指定などを推進します。</li> <li>●つがる市、中泊町に広がる平野部の農村においては、圏域経済の基盤となる肥沃な農地の保全を図るため、社会情勢の変化などに伴う土地需要の変化が予想された場合、都市計画区域の拡大を検討するとともに、農業振興に係る諸制度の活用を推進します。</li> </ul> |
|-----------------------------|--|

### (3) つがる都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

#### (つがる都市計画区域マスタープラン)

|            |  |
|------------|--|
| 年次         | 平成 23 年（2011 年）2 月   |
| 目標年次       | 令和 12 年（2030 年）  |
| 将来の都市像     | 自然・伝統文化を継承する誇りあるまちづくり“躍動”と“平穏”の共存都市つがる   |
| 都市づくりの基本理念 | <p>●安全で、安心して暮らせる利便性の高いネットワーク型都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少・少子高齢社会を迎え、バリアフリーや子育て支援等に対応した安全・安心な住環境づくり、都市施設の改善をめざす。</li> <li>・旧町村の中心地において、都市機能を集約した拠点の形成を図り、高齢者にも優しく、環境負荷の低減にも配慮したコンパクトな市街地の形成を進める。</li> <li>・木造地域の中心市街地を中心に、近隣市町や旧町村の中心地の拠点を機能的に結ぶ道路ネットワーク、誰にでも利用しやすい公共交通ネットワークの充実・強化を進める。</li> <li>・JR 五能線木造駅前周辺の中心市街地の活性化を積極的に行い、賑わいがあり、便利に暮らすことのできる都市づくりを進める。</li> </ul> <p>●豊かな自然・田園環境と共生する都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広大な田園地帯、岩木川をはじめとする豊かな自然環境・自然眺望の維持に努め、自然環境が身近に感じられる自然と共生する都市づくりを進める。</li> <li>・市街地、集落地においては、生活に潤いを与える水辺・緑の空間の創出や景観を創造し、居住・生活環境と自然環境が共生する地域づくりを進める。</li> <li>・豊かな自然環境を次世代に継承していくため、「自然や農地、山林を保全していく区域」を明確化し、無秩序な都市的土地利用の拡大を抑制する。</li> </ul> <p>●産業の育成による活力ある都市づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産業を軸として様々な産業が連動する「6 次産業化」（1 次×2 次×3 次産業）を展開するため、基幹産業の農業の高度化や生産基盤の強化を進める。</li> <li>・歴史文化遺産や豊かな自然・景観資源を有機的に結びつけ、観光・交流ネットワークの形成を進める。</li> <li>・6 次産業や広域観光ネットワークを支えるため、津軽自動車道等の骨格的な交通網の整備を進める。</li> </ul> |
| 地域ごとの市街地像  | <p>今後とも現在の市街地を基本としてコンパクトな市街地の維持・形成を図るとともに、周辺の田園ゾーンの保全を図っていく。</p> <p>①市街地ゾーン</p> <p>本区域の市街地は、JR 五能線木造駅前から北側に伸びる商店街とその周辺に広がる住宅地などから構成される。今後は、適切な土地利用の誘導を図り、利便性の高い、良好な市街地の形成を図っていく。</p> <p>柏地区の国道 101 号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、中心商業地等とのバランスに配慮し、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導を図るとともに、良好な沿道景観の形成を進める。</p> <p>②田園ゾーン</p> <p>市街地周辺の農地、集落地については、良好な生産環境や田園景観等の保全を図るとともに、集落地の環境整備などを進めていく。</p>  |

### ③その他拠点等

柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の中心地を地域拠点と位置づけ、行政窓口等の支所機能、医療福祉・教育文化など、地域の生活に必要な機能の集積を図る。

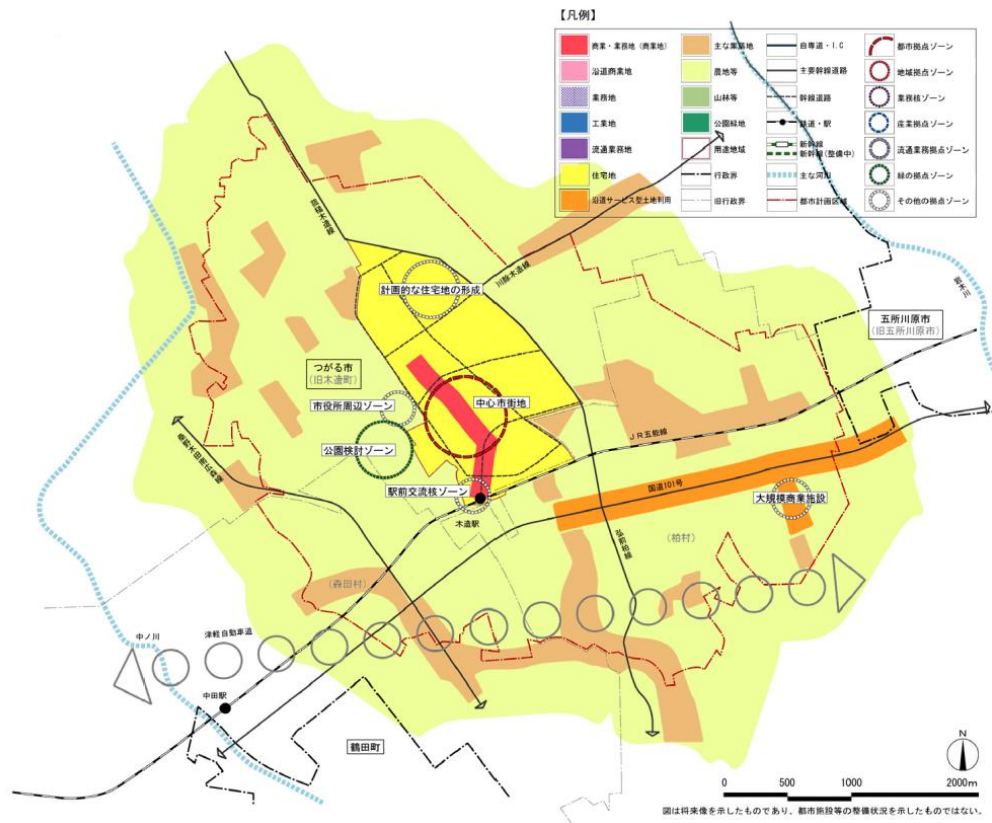


図 目標とする市街地像（つがる都市計画区域）

#### (4) 第2期 まち・ひと・しごと創生 青森県総合戦略

|                      |   |
|----------------------|---|
| 年次                   | 令和5年(2023年)3月改訂   |
| 計画期間                 | 2020年度から2024年度までの5年間  |
| 政策分野<br>及び今後<br>の方向性 | <p>&lt;政策分野1&gt;～「経済を回す」～魅力あるしごとづくり</p> <p><u>○アグリ分野の持続的成長</u></p> <p>農林水産業の持続的成長に向け、これまで培った人脈やネットワーク、「A!Premium」の活用や、中食・外食市場やネット販売など成長分野への対応などにより、販売体制を一層強化し、西日本や東南アジアなど新たな市場へのさらなる販路拡大を図るとともに、りんご、ほたて、ながいも、にんにくを始め、「青天の霹靂」、「ジュノハート」、「新サーモン」、酒米「吟烏帽子」といった県内各地の高品質な農林水産物の生産、農商工連携や6次産業化の推進による付加価値の高い加工品の生産拡大など、青森県産品の一層のブランド化に取り組みます。</p> <p>また、農林水産業の成長を支える多様な経営体の育成や次代を担う農林漁業者の確保・育成、省力化や生産性向上が期待されるAIやIoTなどを活用したスマート農業技術の導入による産地力の強化を図ります。</p> <p><u>○世界から選ばれる「あおもりツーリズム」の推進</u></p> <p>世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を始め、自然、食、歴史・文化、魅力的な人財などの地域特性や、旅行形態の変化や観光客の多様なニーズに対応した観光コンテンツづくりを推進するほか、ターゲットに応じた戦略的な情報発信に取り組めます。</p> <p>また、国内外の観光客の満足度向上に向け、多言語対応やAI・IoTを活用した観光案内機能の充実、電子決済の普及・拡大、多様な交通手段の組み合わせによる目的地へのアクセス向上など、誘客促進のための受入環境づくりを促進します。</p> <p>滞在時間の増加と質の向上による観光消費額の拡大をめざします。</p> <p><u>○ライフ・グリーン分野の産業創出</u></p> <p>医工連携や幅広い県内企業の参画による健康・医療関連サービス産業の創出を図るほか、商店街、農協・漁協、地域経営体、福祉・医療機関など多様な主体の連携による買物支援を始めとした生活関連サービス産業の創出に取り組めます。</p> <p>また、産学官金のネットワークを強化し、エネルギー関連産業への県内事業者の参入を促進するほか、次世代核融合炉の実現に向けた国際的な研究拠点の形成に取り組み、新産業の創出に向けた人財育成や研究開発に取り組めます。</p> <p><u>○地域産業の振興による多様な「しごと」の創出</u></p> <p>起業意欲を持った人財の発掘などを通じた創業・起業の促進を図るほか、産学官金の連携強化や研究開発の促進、AI・IoT等の革新技術や知的財産などの活用による新産業や新事業の創出、金融機関と連携した後継者不在企業の円滑な事業承継を推進します。</p> <p>また、海外ビジネス事業者の裾野拡大や意欲ある県内企業による海外ビジネス展開を促進するほか、本県の強みを生かした分野での戦略的な企業誘致活動を展開し、立地企業の定着や事業拡大を促進します。</p> <p><u>○「経済を回す」ための基盤づくり</u></p> <p>各産業分野の実情に応じたAI・IoT等の革新技術の活用を促進し、特に観光サービス産業を始めとした労働生産性が低い産業での生産性向上を促進するほか、それらの革新技術を支える情報通信基盤の整備促進と利活用人材の確保・育成を図ります。</p> <p>また、様々な分野での交流を拡大するため、交通ネットワークの充実・強化やMaaSによる二次交通の利便性向上、幹線道路ネットワークや港湾物流拠点などの整備を促進します。</p> <p>&lt;政策分野2&gt;出産・子育て支援と健康づくり</p> <p><u>○安心して子どもを産み育てられる環境づくり</u></p> <p>結婚・妊娠・出産・子育てに希望と喜びを持てる社会的気運を醸成し、多様な出会いの場の創出や結婚、子育てなどに対する地域や職域を越えた切れ目のない支援活動、仕事と子育ての両立支援の充実を推進します。</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>また、不妊治療への支援、妊産婦、新生児、乳幼児の健康づくり、発達障害に関する支援の充実に向けた市町村や関係機関などの取組を推進します。</p> <p>全ての子どもたちが将来に希望を持ち、健やかに育つよう、ひとり親家庭などに対する支援を引き続き行い、貧困の連鎖の解消をめざすとともに、児童虐待の防止に向け、県と市町村等とが連携し、相談・支援体制を強化します。</p> <p><u>○県民一人ひとりの健康づくりの推進</u></p> <p>県民一人ひとりのヘルスリテラシーの向上を図り、ライフステージに応じた食生活、運動等の健康的な生活習慣づくりを推進するとともに、生活習慣病の発症予防と重症化予防に取り組みます。</p> <p>自殺については、高齢者、生活困窮者など対象に応じた支援の充実を図り、市町村、民間団体など関係機関と連携して予防対策に取り組みます。</p> <p>がんの早期発見・早期治療の推進のため、検診を受けやすい環境の整備等により検診受診率と精密検査受診率の向上を図るとともに、がん登録データの活用など、科学的根拠に基づいた効果的な取組を進めます。</p> <p>また、安心して質の高いがん治療が受けられるよう、医療連携体制の充実に取り組むほか、がん患者や家族の苦痛の軽減、療養生活の質の向上を推進します。</p> <p><u>○安心して医療が受けられる体制の充実</u></p> <p>地域医療サービスの充実に向け、地域医療の担い手となる医師や看護師等の確保・定着に向けた環境整備、医療機関の機能分化・連携の促進、在宅医療提供体制の整備、周産期医療体制の維持強化等を推進するとともに、県民が医療の適切な選択や受診を行うことができるよう、県民への啓発に取り組みます。</p> <p><u>○スポーツを通じた健康づくりと地域活性化</u></p> <p>県民が年間を通じてスポーツに取り組める環境を充実させるとともに、スポーツや適度な運動の推進を通じて健康増進を図ります。</p> <p>また、全国大会などで活躍できる選手や指導者を育成し、スポーツによる地域活性化を進めます。</p> <p>&lt;政策分野3&gt; 若者の県内定着・還流と持続可能な地域づくり</p> <p>人口が減少しても持続可能な地域づくりを進めるとともに、その担い手となる人財の確保・育成を図ります。</p> <p><u>○若者の県内定着・還流と移住の促進</u></p> <p>高校生、大学生等のターゲットに応じた、本県の「暮らし」や「しごと」に関する情報提供や生徒・学生・保護者・教員・県内企業の相互理解を促進するほか、子どもたちがふるさとに対する誇りと愛着を持ち、夢や志の実現に向けて、創造力を生かして果敢にチャレンジする人財として成長するよう、学校・家庭・地域等が連携したキャリア教育の充実に取り組みます。</p> <p>若者を始め幅広い層の移住希望者の視点に立ち、市町村や関係団体と連携しながら、各種媒体やイベントでのPRのほか、移住希望者のニーズに応じたきめ細かな相談・受入態勢の充実に取り組みます。</p> <p>また、関係人口の創出・拡大に向けて、関係人口になるきっかけづくりや本県での継続的な活動につながる仕組みづくり、受入態勢の整備などに取り組みます。</p> <p><u>○あおもりの未来をつくる人財の育成</u></p> <p>子どもたち一人ひとりが輝く「知・徳・体」の調和のとれた人づくり、子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばすための教育環境の整備や、障害のある子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進等に取り組みます。</p> <p>学校・家庭・地域の様々な人々のつながりにより、社会全体で子どもの「生きる力」を育む取組を進めるほか、親子が共に学び、共に育つ家庭教育を支援するとともに、子育て支援の観点から、子どもの放課後対策の充実に取り組みます。</p> <p><u>○あおもりの今をつくる人財の育成</u></p> <p>地域の課題に主体的に取り組む意欲ある人財の育成や地域における持続可能な人財育成の仕組みづくりに取り組みます。</p> |
|--|---|

|  |  |
|--|--|
|  | <p>また、県民の生涯を通じた学びの機会を提供するほか、社会貢献活動や NP0 活動の促進に取り組み、若者や女性、高齢者などが生きがいを持って生活できる環境づくりを進めます。</p> <p>労働力確保に向けて、誰もが多様な働き方のできる環境づくりに取り組みます。</p> <p><u>○誰もが生き生きと安心して暮らせる環境づくり</u></p> <p>2025 年の超高齢化時代を迎えても、高齢者、障害者、子どもなど誰もが住み慣れた地域の中で居場所や生きがいを持ち、安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。</p> <p>また、快適な暮らしを支える地域交通ネットワークの構築・維持や消費生活と「食」の安全・安心確保などに取り組むとともに、歴史・文化の継承と活用、文化芸術施設の魅力づくりなどを進めます。</p> <p><u>○災害や危機に強い人づくり、地域づくり</u></p> <p>災害時に人命を守ることを最優先に、「孤立集落をつくらない」「逃げる」という考え方を重視した「防災公共」を推進するため、防災インフラの整備等のハード面と、県民の自助・共助の取組の促進などのソフト面の対策を総合的に進めます。</p> <p>また、年齢、性別、障害の有無等の県民の多様な視点を取り入れた防災対策を確立するため、効果的な防災訓練の実施などにより地域の防災力の実効性を高めます。</p> |
|--|--|

## 1-1-2 市の計画

### (1) 第2次つがる市総合計画

|           |  |
|-----------|--|
| 年次        | 【前期】平成28年（2016年）3月 【後期】令和3年（2021年）6月   |
| 計画期間      | 基本構想：平成28年（2016年）度から令和7年（2025年）度までの10年間<br>前期基本計画：平成28年（2016年）度から令和2年（2020年）度までの5年間<br>後期基本計画：令和3年（2021年）度から令和7年（2025年）度までの5年間   |
| 基本理念      | 新田の歴史が彩る 日本のふるさと   |
| まちの将来像    | <p>I「未来に希望を感じる活力あるまち」</p> <p>年齢や性別、一人一人の個性や状況にかかわらず、誰もが将来に夢や希望を持つことができ、また、本市の未来に可能性を感じて、これからもずっと暮らしていきたいと思える、明るく活力のある「つがる市」を目指します。</p> <p>II「思いやりとやさしさにあふれるまち」</p> <p>すべての市民の幸せのために、市民・企業・行政がそれぞれの役割の中で連携しながら活動し、地域全体で支え合うまちづくりを推進し、すべての人の個性が尊重され、お互いを理解し思いやることのできる、やさしさにあふれる「つがる市」を目指します。</p> <p>III「郷土に誇りと愛着を感じるまち」</p> <p>本市における独自性を、厳しくも美しい自然環境とそこに根付いた風土、受け継がれた産業や伝統・文化等に見だし、このまちの個性として伸ばしていくことで、郷土の個性に誇りと愛着を感じることできる「つがる市」を目指します。</p>  |
| 基本政策・主要施策 | <ol style="list-style-type: none"> <li>若者が集まるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>若者の働く場の確保</li> <li>魅力ある住環境・公園等の整備</li> <li>結婚・出産・子育て支援の充実</li> </ul> </li> <li>活力あふれるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>生業として魅力ある農林水産業の推進</li> <li>地域特性を生かした商工業の推進</li> <li>魅力があふれる観光の推進</li> </ul> </li> <li>利便性の高いまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通システムの構築</li> <li>安全で快適な道路ネットワークの整備</li> </ul> </li> <li>健やかに暮らせるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの推進</li> <li>生きがいづくり・介護予防の推進</li> <li>安心な医療体制の充実</li> </ul> </li> <li>地域で支え合うまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体による地域福祉の推進</li> <li>安心して暮らせる高齢者福祉の充実</li> <li>きめ細かな障害者・児施策の充実</li> </ul> </li> <li>やすらぎと安心のあるまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>自然と共生する生活環境の整備</li> <li>防災対策の強化</li> <li>防犯・交通安全対策の強化</li> </ul> </li> </ol> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>7 未来を担う人と文化を育むまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知・徳・体を育む学校教育の充実</li> <li>・ 生涯学習・スポーツの振興</li> <li>・ かけがえのない文化財の保存と活用</li> <li>・ 国内外交流の促進と未来をつくる人材の育成</li> </ul> <p>8 協働のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民参画・協働体制の構築</li> <li>・ 庁内組織の強化</li> <li>・ 効率的かつ効果的な行政サービスの推進</li> <li>・ 財政力の強化</li> </ul> |
|--|--|

## (2) 第2期 つがる市地域活力創生総合戦略

|         |   |
|---------|---|
| 年次      | 令和2年(2020年)3月   |
| 基本的な考え方 | <p>1 現行の総合戦略の検証</p> <p>現行の総合戦略では、国の基本的方向性や青森県で策定した総合戦略との整合性を図り、「魅力ある就労・雇用の場を創出する」、「ここに住みたいと思えるまちをつくる」、「希望する結婚・出産・子育てをかなえ、地域全体で子どもを育む」、「健康長寿を目指す、ソーシャルキャピタルを高める」の4つの基本目標及び基本目標ごとの推進施策を掲げ、取り組んできました。また、毎年度、施策や事業の進捗状況を検証し、PDCAサイクルによる進行管理を行ってきました。</p> <p>このような取組の結果、それぞれの推進施策については一定の成果が得られたものの、基本目標ごとの数値目標では、策定時に比べて改善がみられたのは4つのうち1つであり、依然として本市の人口減少に結実する成果が得られていない状況です。</p> <p>第2期総合戦略では、国の基本的な考え方を踏まえるとともに、これまでの取組における課題等に向き合い、人口減少を和らげることが期待できる施策を実践し、施策間の連携等による効果を最大限に図る必要があります。</p> <p>2 第2期総合戦略における取組の方向性</p> <p>本市は「将来にわたって活力あるつがる市」を目指します。具体的には、人口減少を和らげるため、結婚・出産・子育ての希望をかなえ、生活面の充実を図り、本市の地域資源を活かした「魅力あるしごと」、「暮らしやすさ」を追求し、本市の魅力を育み、ひとが集う地域を実現します。また、人口減少や少子高齢化の進展に適応した、持続可能なまちをつくります。</p> |
| 基本目標    | <p>1 地域資源を活かした魅力あるしごとをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農業の持続可能性、付加価値を高める</li> <li>○つがるブランドの発信力を高め、経済循環につなげる</li> <li>○地域外から価値を獲得できる新しい事業、起業を支援する</li> </ul> <p>2 つがる市とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光資源を発掘し、PRする</li> <li>○関係人口・交流人口を増加させる</li> <li>○本市の魅力を発信し、移住・定住を促進する</li> </ul> <p>3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚を希望する人の出会いの場をつくる</li> <li>○出生率の上昇、出生数の増加を目指す</li> <li>○育児・教育を充実させるとともに負担の軽減を図る</li> </ul> <p>4 安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民の健康長寿を促進する</li> <li>○すべての人にとって暮らしやすいまちづくりを進める</li> <li>○地域コミュニティを活性化し支え合う地域社会をつくる</li> </ul>              |

### (3) 木造新田地域5町村 新市建設計画

|                 |  |
|-----------------|--|
| 年次              | 令和元年（2019年）12月変更   |
| 計画期間            | 合併後20年間（平成17年（2005年）度～令和6年（2024年）度）  |
| 新市の基本理念         | 新田の歴史が彩る 日本のふるさと   |
| 将来都市像           | <p>I 郷土の特性を活かした誇りのもてるまち<br/> 当地域の、厳しくも美しい自然環境とそこに根付いた風土、受け継がれた伝統・文化等をこのまちの個性として伸ばし、郷土の個性に誇りと愛着を感じるまちの姿を目指します。</p> <p>II 人間を尊重し、思いやりと優しさにあふれるまち<br/> すべての住民の幸せのために、市民・企業・行政がそれぞれの役割の中で連携しながら活動し、地域全体で支え合うまちづくりを推進し、すべての人の個性が尊重され、お互いを理解し思いやることのできる、優しさにあふれるまちの姿を目指します。</p> <p>III 市民の知恵と力で創る活力のあるまち<br/> 市民が積極的にまちづくりに参画し、さまざまな人や組織が連携して活動できる、元気で開かれた活力あるまちの姿を目指します。</p>  |
| まちづくりの基本目標と主要施策 | <p>I 潤いと誇りに満ちた活力ある産業づくり（産業・経済）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産業の振興</li> <li>・就労機会の確保による定住促進</li> <li>・地域特性を活かした観光開発</li> <li>・生活に根付いた商業の活性化</li> </ul> <p>II 個性と郷土を大切に作る心豊かな人づくり（教育・文化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の充実</li> <li>・生涯学習活動の推進</li> <li>・地域文化の振興</li> <li>・スポーツ・文化活動による交流の推進</li> <li>・国内・外交流の推進</li> </ul> <p>III 快適とやすらぎのある暮らしづくり（生活環境）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な環境の保全</li> <li>・魅力ある公共空間の創出</li> <li>・快適な住環境の整備</li> <li>・安心・安全な生活の場の確保</li> </ul> <p>IV 活発な交流とふれあいの拠点づくり（都市基盤整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路ネットワークの整備促進</li> <li>・公共交通機関の機能充実</li> <li>・ITを利用した情報基盤整備</li> </ul> <p>V お互いを認め合い支え合う共生のこころづくり（保健・医療・福祉）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉ネットワークの構築</li> <li>・高齢者・障害者（児）福祉の充実</li> <li>・子育て支援体制の充実</li> <li>・健康づくりの推進</li> <li>・地域医療体制の充実と高度・救急医療の強化</li> </ul> |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>Ⅵ みんなで考え実行するまちづくり（行財政運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり推進体制の強化</li> <li>・行政サービスの充実</li> <li>・財政力の強化</li> <li>・住民参画によるまちづくりの推進</li> </ul>   |
| 5つの約束 | <p>I 全国的ブランド“つがる”への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つがる」総合ブランド化事業</li> <li>○有機農業の推進</li> <li>○歴史的遺産・文化財の保全・整備</li> </ul> <p>Ⅱ 農業振興への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○屏風山地帯新規作物研究開発事業</li> <li>○「地産地消」のまちづくり事業</li> <li>○農産物加工残渣・生ごみ等堆肥化事業</li> <li>○高付加価値化販売推進事業</li> </ul> <p>Ⅲ ひとづくりへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育委員会事務局への指導課の設置</li> <li>○公立学校校舎の整備</li> <li>○「図書館等総合情報センター（仮称）」の整備</li> <li>○「つがる匠の館（仮称）」の整備（廃校利用）</li> <li>○運動公園の整備</li> </ul> <p>Ⅳ 安心・快適・便利な地域社会への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域医療体制強化対策事業</li> <li>○地域資源活用型健康増進施設の整備</li> <li>○一般廃棄物最終処分場閉鎖及び最終処分場建設</li> <li>○斎場の統合整備</li> <li>○バス事業の再編成</li> <li>○大型 S・C 内への出張所設置</li> </ul> <p>V 健全な行財政運営への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務事業評価システムの導入</li> <li>○新市総合計画の策定</li> <li>○中期財政見通しの作成及び公表</li> </ul> |

#### (4) つがる市環境基本計画

|           |   |
|-----------|---|
| 年次        | 平成 28 年（2016 年）3 月  |
| 計画期間      | 平成 27 年（2015 年）度から令和 6 年（2024 年）度までの 10 年間  |
| 望ましい環境像   | 恵まれた自然と文化を未来に語りつぐ誇りあるまち つがる市  |
| 環境目標と主な施策 | <p>I つがるの自然環境を伝える環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業振興による地域環境の保全と整備</li> <li>・自然風景や歴史文化遺産、地域産業を活かした観光開発</li> <li>・景観の保全と形成</li> <li>・公園・緑地の整備</li> <li>・住環境の整備</li> </ul> <p>II 環境への負荷の少ない生活環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー対策の推進</li> <li>・地球温暖化防止対策の取組み</li> <li>・ごみの減量化とリサイクル</li> </ul> <p>III 安全・安心で快適な暮らしづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水環境の保全</li> <li>・大気汚染・悪臭対策、不法投棄などの防止対策</li> </ul> <p>IV みんなで創り、取り組むまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育・学習機会の充実</li> <li>・環境情報の提供</li> <li>・環境保全活動の推進</li> </ul> |

#### (5) 社会資本総合整備計画

##### ①地域内・間の交流・連携を支える道路交通ネットワークの機能向上・維持による産業・生活基盤の形成

|         |  |
|---------|--|
| 年次      | 令和 3 年（2021 年）4 月  |
| 計画期間    | 令和元年（2019 年）年度～令和 5 年（2023 年）度（5 年間）   |
| 計画の目標   | 県内各地域が地域内・間の交流・連携を深められるよう、これを支える道路交通ネットワークの機能向上・維持を行い、地域の成長力強化・活性化につながる、産業・生活基盤の形成を図る。   |
| 計画の成果目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内・隣接地域における主要拠点間の移動時間の総和を、17.87 時間（H31・R1）から 17.05 時間（R5）まで短縮する。</li> <li>・冬期道路ネットワークの確保のため、老朽化している大型除雪機械の更新等を行い、雪寒道路指定延長 10km あたりの除雪機械保有台数を、0.52 台（H31・R1）から 0.72 台（R5）まで向上させる。</li> </ul> |

## ②命と暮らしを守るインフラの整備・補修による安心・安全な生活空間の確保（防災・安全）

|         |   |
|---------|---|
| 年次      | 令和3年（2021年）4月   |
| 計画期間    | 令和元年（2019年）年度～令和5年（2023年）度（5年間）   |
| 計画の目標   | 災害・雪害等に備えたインフラの整備・補修および歩道整備等による歩行空間の確保により、地域の生活空間の安全の確保を図る。   |
| 計画の成果目標 | ・道路ストック総点検に基づく道路施設（橋梁を除く）の修繕対応率を向上させる（20.6%（H31・R1当初）→197.2%（R5末））。<br>・流・融雪溝整備率を43.1%（H31・R1）から71%（R5）まで向上させる。 |

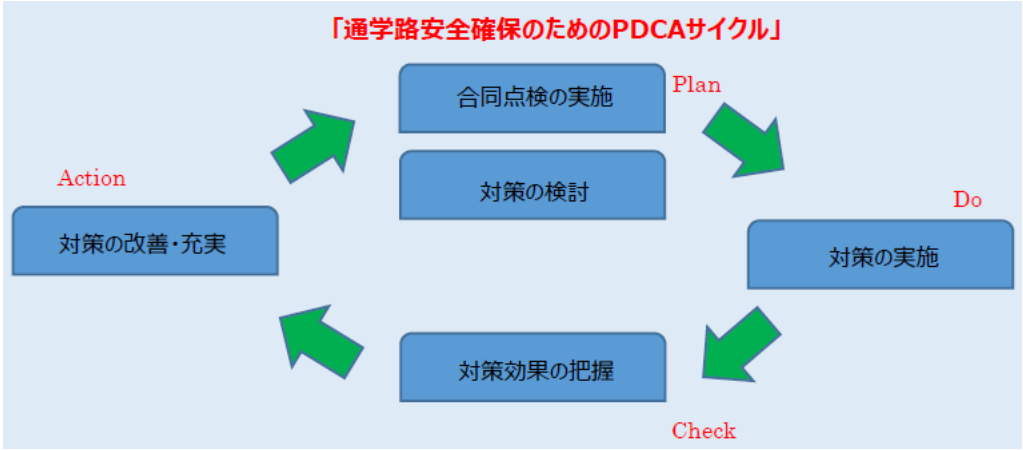
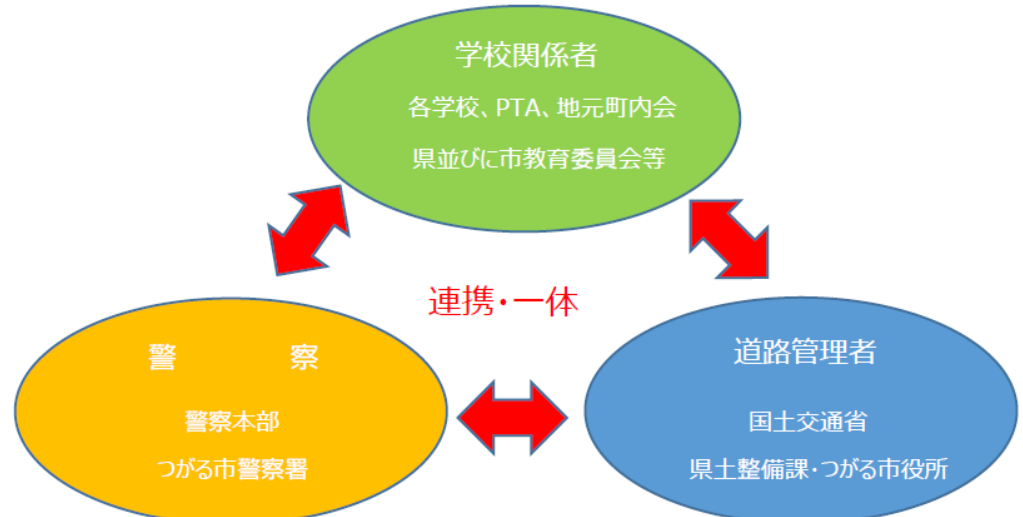
## ③道路施設の戦略的維持管理・更新による安心・安全な生活空間の保持（防災・安全）

|         |  |
|---------|--|
| 年次      | 令和2年（2020年）3月                                  |
| 計画期間    | 令和元年（2019年）年度～令和2年（2020年）度（2年間）                |
| 計画の目標   | 各種点検・計画（定期点検、橋梁長寿命化計画等）における対策必要箇所の対策実施率を向上させる。 |
| 計画の成果目標 | ・橋梁長寿命化修繕計画対応率の向上                              |

## ④通学路等の生活空間における交通安全対策を推進する整備（防災・安全）

|         |   |
|---------|---|
| 年次      | 令和2年（2020年）3月   |
| 計画期間    | 平成30年（2018年）度～令和4年（2022年）度（5年間）                       |
| 計画の目標   | 通学路交通安全プログラムの対策箇所において、生活空間の交通安全対策を行い、安心・安全な歩行空間の確保を図る |
| 計画の成果目標 | ・安全な歩行空間の整備率の向上                                       |

## (6) つがる市通学路交通安全プログラム「通学路の安全確保に関する取組の方針」

|              |   |
|--------------|---|
| 年次           | 令和4年（2022年）2月   |
| 基本的な考え方      | <p>継続的に通学路の安全を確保するため、緊急合同点検後も合同点検を継続するとともに、対策実施後の効果把握も行い、対策の改善・充実を行います。</p> <p>これらの取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図っていきます。</p>  <p>The diagram illustrates the PDCA cycle for ensuring school route safety. It consists of four main stages in blue boxes: 'Plan' (Plan) at the top, 'Do' (Do) on the right, 'Check' (Check) at the bottom, and 'Action' (Action) on the left. The 'Plan' stage includes 'Contract Point Inspection Implementation' and 'Countermeasure Review'. The 'Do' stage is 'Countermeasure Implementation'. The 'Check' stage is 'Countermeasure Effect Confirmation'. The 'Action' stage is 'Countermeasure Improvement/Enhancement'. Green arrows show the clockwise flow from Plan to Do, Do to Check, Check to Action, and Action back to Plan. The title 'PDCA Cycle for Ensuring School Route Safety' is written in red at the top.</p> |
| 各関係機関の連携イメージ |  <p>The diagram shows the collaboration between three main groups: 'School-related parties' (green oval at the top), 'Police' (yellow oval at the bottom left), and 'Road managers' (blue oval at the bottom right). The 'School-related parties' group includes 'All schools, PTA, Local Town/Village Associations' and 'Prefecture and City Education Committees, etc.'. The 'Police' group includes 'Police Headquarters' and 'Toguri City Police Department'. The 'Road managers' group includes 'Ministry of Land, Infrastructure, and Transport' and 'Prefecture Road Maintenance Section, Toguri City Office'. Red double-headed arrows connect each group to the others, with the text 'Collaboration - Integrated' (連携・一体) in red in the center.</p>  |

## 1-2 社会的広域的条件

### 1-2-1 人口

#### (1) 総人口・世帯数

- 総人口は一貫した減少傾向
- 総世帯数は平成17年（2005年）をピークに微減
- 世帯あたり人員は一貫した減少傾向

○令和2年（2020年）における本市の総人口は30,934人であり、平成2年（1990年）の43,699人から12,765人の減少となっています。

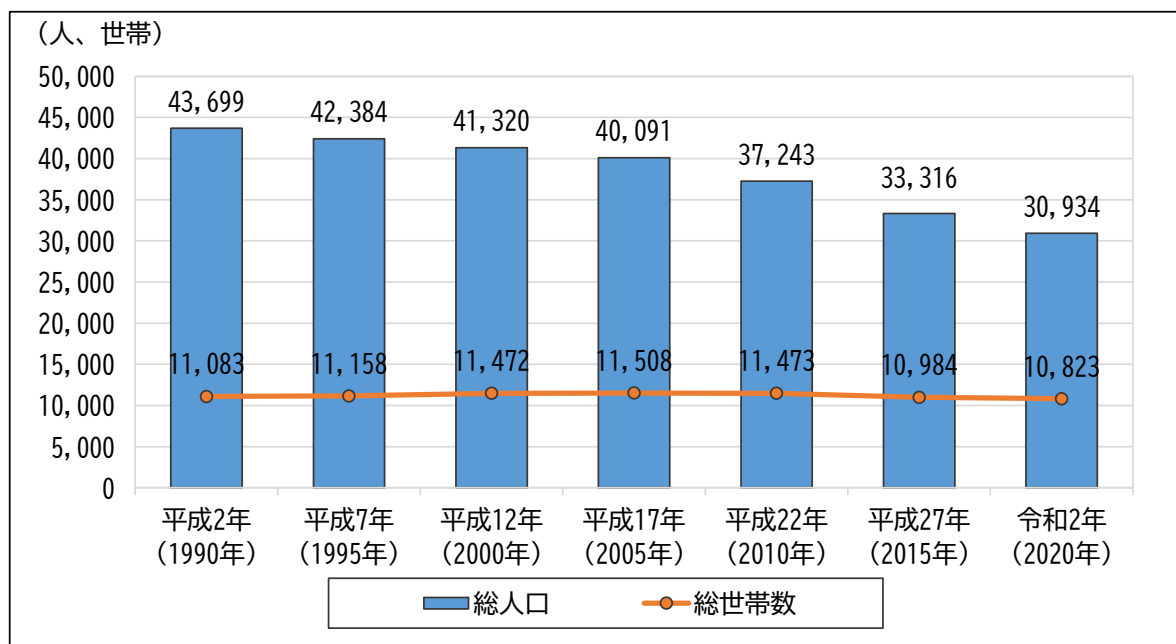
○令和2年（2020年）における本市の総世帯数は10,823世帯であり、平成17年（2005年）以降、減少傾向で推移しています。

○世帯あたり人員は平成2年（1990年）の3.94人／世帯から減少傾向で推移しており、令和2年（2020年）の2.86人／世帯まで減少しています。

図表 人口と世帯数の推移

|                   | 平成2年<br>(1990年) | 平成7年<br>(1995年) | 平成12年<br>(2000年) | 平成17年<br>(2005年) | 平成22年<br>(2010年) | 平成27年<br>(2015年) | 令和2年<br>(2020年) |
|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 総人口<br>(人)        | 43,699          | 42,384          | 41,320           | 40,091           | 37,243           | 33,316           | 30,934          |
| 総世帯数<br>(世帯)      | 11,083          | 11,158          | 11,472           | 11,508           | 11,473           | 10,984           | 10,823          |
| 世帯あたり人員<br>(人／世帯) | 3.94            | 3.80            | 3.60             | 3.48             | 3.25             | 3.03             | 2.86            |

資料：国勢調査



## (2) 年齢別人口

- 年少人口、生産年齢人口はともに減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行
- 高齢化率は一貫した増加傾向

○令和2年(2020年)の年少人口は2,903人(9.4%)、生産年齢人口は16,001人(51.7%)、老年人口は12,002人(38.8%)となっています。

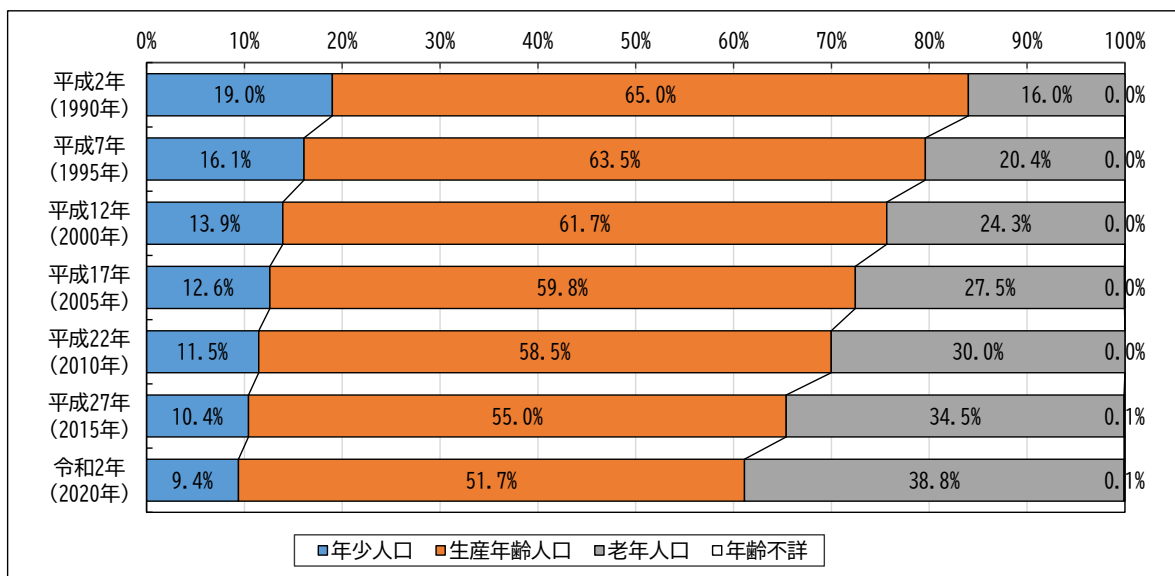
○平成2年(1990年)以降、年少人口、生産年齢人口が減少する一方、老年人口は1.7倍以上に増加しており、高齢化率も一貫して増加しています。

○青森県(令和2年)の老年人口と比較すると、つがる市の老年人口の構成比が5.4%高くなっています。

図表 年齢3階層別人口の推移

| 【つがる市】           | 年少人口     |        | 生産年齢人口        |        | 老年人口     |        | 年齢「不詳」(人) |        | 総人口(人)    |
|------------------|----------|--------|---------------|--------|----------|--------|-----------|--------|-----------|
|                  | 15歳未満(人) | 構成比(%) | 15歳以上65歳未満(人) | 構成比(%) | 65歳以上(人) | 構成比(%) |           | 構成比(%) |           |
| 平成2年(1990年)      | 8,299    | 19.0   | 28,409        | 65.0   | 6,991    | 16.0   | 0         | 0.0    | 43,699    |
| 平成7年(1995年)      | 6,821    | 16.1   | 26,922        | 63.5   | 8,641    | 20.4   | 0         | 0.0    | 42,384    |
| 平成12年(2000年)     | 5,759    | 13.9   | 25,502        | 61.7   | 10,059   | 24.3   | 0         | 0.0    | 41,320    |
| 平成17年(2005年)     | 5,050    | 12.6   | 23,991        | 59.8   | 11,038   | 27.5   | 12        | 0.0    | 40,091    |
| 平成22年(2010年)     | 4,268    | 11.5   | 21,792        | 58.5   | 11,183   | 30.0   | 0         | 0.0    | 37,243    |
| 平成27年(2015年)     | 3,474    | 10.4   | 18,309        | 55.0   | 11,507   | 34.5   | 26        | 0.1    | 33,316    |
| 令和2年(2020年)      | 2,903    | 9.4    | 16,001        | 51.7   | 12,002   | 38.8   | 28        | 0.1    | 30,934    |
| 【青森県】令和2年(2020年) | 129,112  | 10.4   | 676,167       | 54.6   | 412,943  | 33.4   | 19,762    | 1.6    | 1,237,984 |

資料：国勢調査



### (3) 地区別人口

■用途地域内の全ての地区で減少傾向

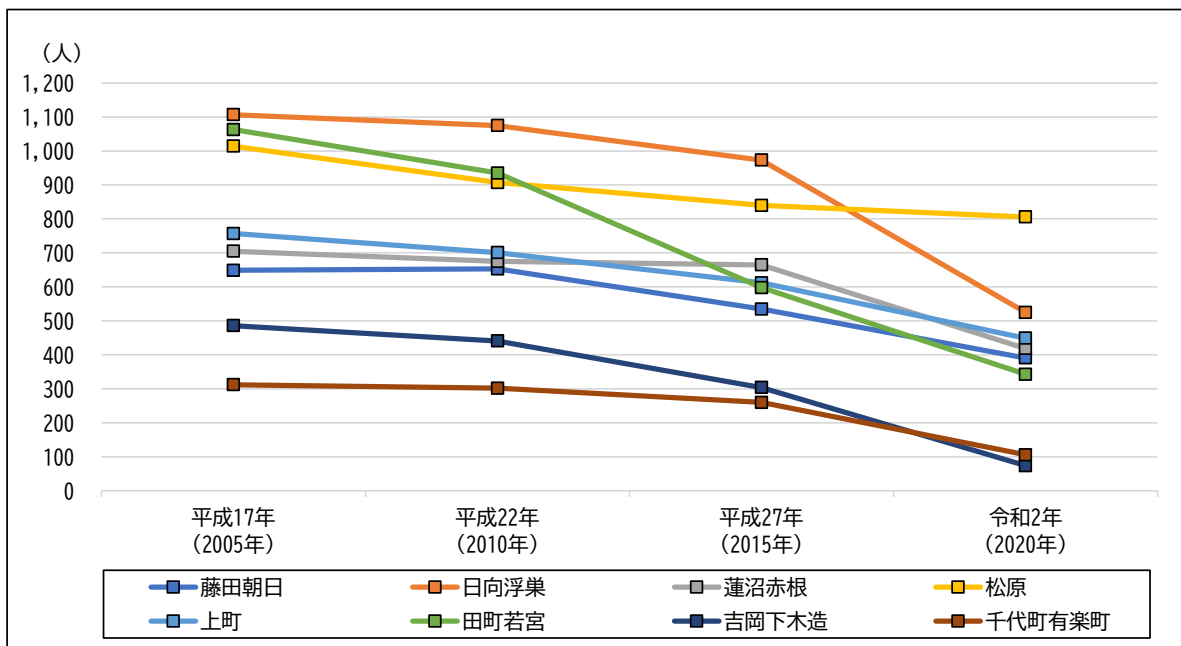
○地区別人口をみると、用途地域内では日向浮巢、蓮沼赤根、松原、上町で 400 人を超えています。

○人口密度で見ると、松原が 81.4 (人/ha) で最も高く、次いで蓮沼赤根が 41.1 (人/ha)、上町が 27.4 (人/ha) となっています。

図表 地区別人口の推移

| 地区名    | 平成 17 年 | 平成 22 年 | 平成 27 年 | 令和 2 年 | 増加率<br>(%)<br>※H17 を基準<br>年として計算 | R2 人口密度<br>(人/ha) |
|--------|---------|---------|---------|--------|----------------------------------|-------------------|
| 用途地域   | 6,093   | 5,689   | 4,787   | 3,113  | -48.9                            | 26.1              |
| 藤田朝日   | 649     | 653     | 535     | 391    | -39.8                            | 11.8              |
| 日向浮巢   | 1,107   | 1,075   | 973     | 525    | -52.6                            | 22.5              |
| 蓮沼赤根   | 705     | 675     | 665     | 419    | -40.6                            | 41.1              |
| 松原     | 1,014   | 907     | 840     | 806    | -20.5                            | 81.4              |
| 上町     | 757     | 701     | 612     | 449    | -40.7                            | 27.4              |
| 田町若宮   | 1,063   | 935     | 598     | 343    | -67.7                            | 26.0              |
| 吉岡下木造  | 486     | 441     | 304     | 74     | -84.8                            | 8.3               |
| 千代町有楽町 | 312     | 302     | 260     | 106    | -66.0                            | 24.7              |
| 白地地域   | 862     | 3,779   | 3,398   | 4,796  | 456.4                            | 5.0               |
| 都市計画区域 | 6,955   | 9,468   | 8,185   | 7,909  | 13.7                             | 7.3               |
| 市全体    | 40,091  | 37,243  | 33,316  | 30,934 | -22.8                            | 1.2               |

資料：平成 30 年度都市計画基礎調査、令和 5 年度都市計画基礎調査、国勢調査より作成



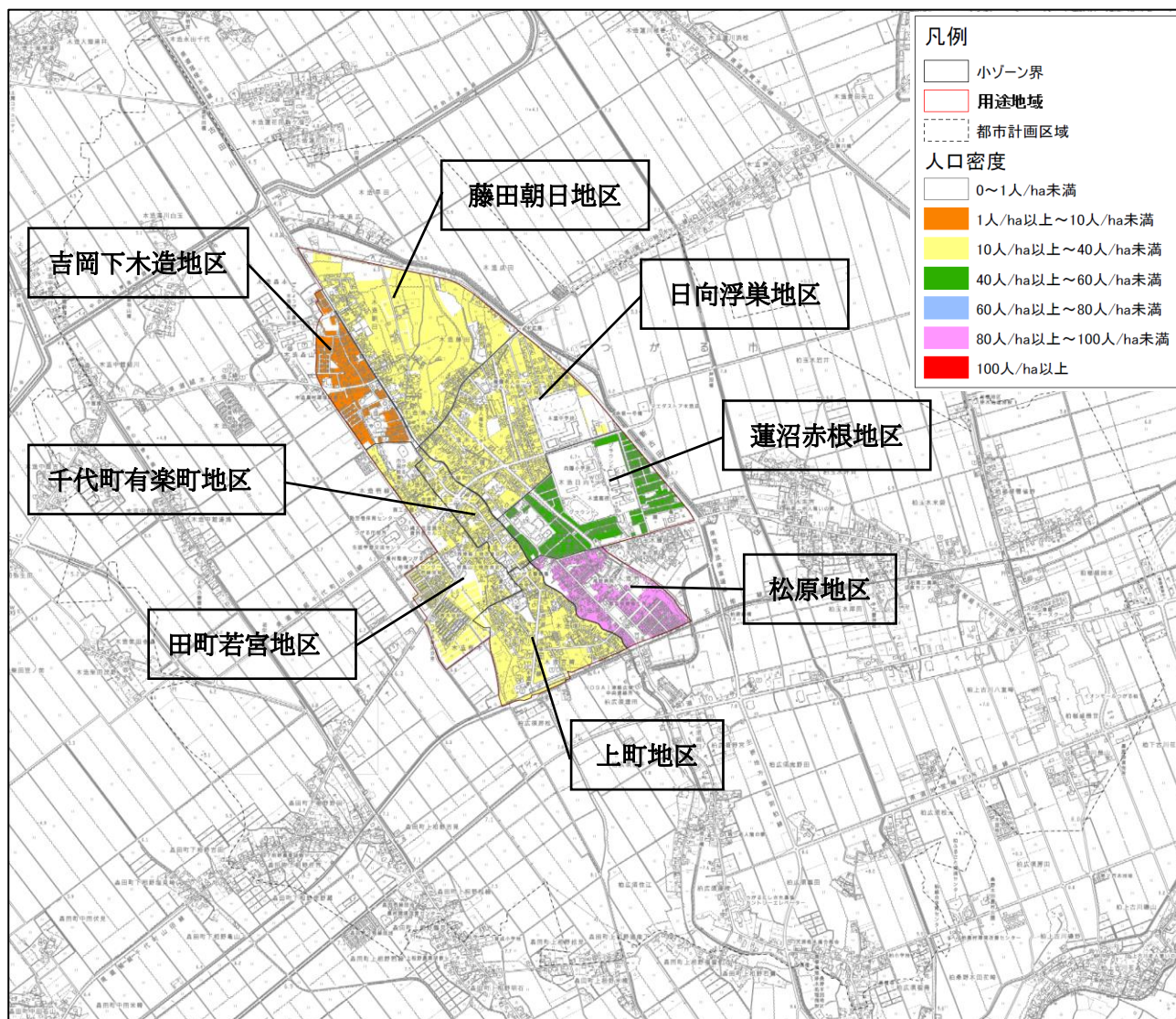


図 地区別人口密度現況図

資料：令和5年度都市計画基礎調査より作成

#### (4) 将来人口予想

■将来的にも人口減少が続くものと見込まれる

○国立社会保障・人口問題研究所による本市の人口推計結果をみると、今後も人口減少が続き、令和 27 年（2045 年）では 17,557 人まで減少するものと見込まれています。

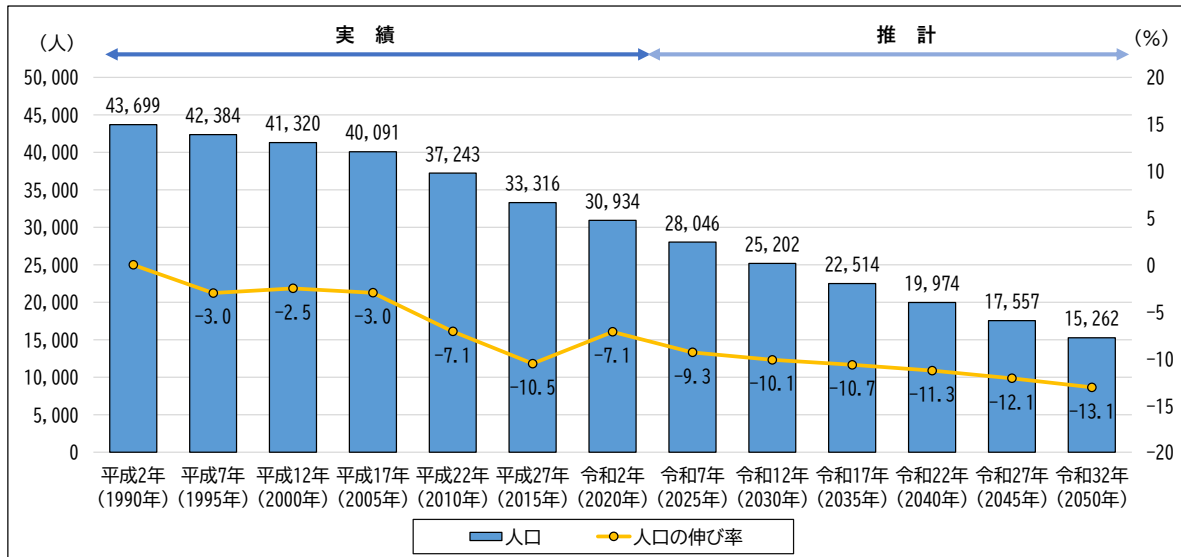


図 将来人口

資料：国勢調査（平成 2 年（1990 年）～令和 2 年（2020 年））

※令和 7 年（2025 年）以降は「日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）」国立社会保障・人口問題研究所

## 1-2-2 産業関連

### (1) 就業構造

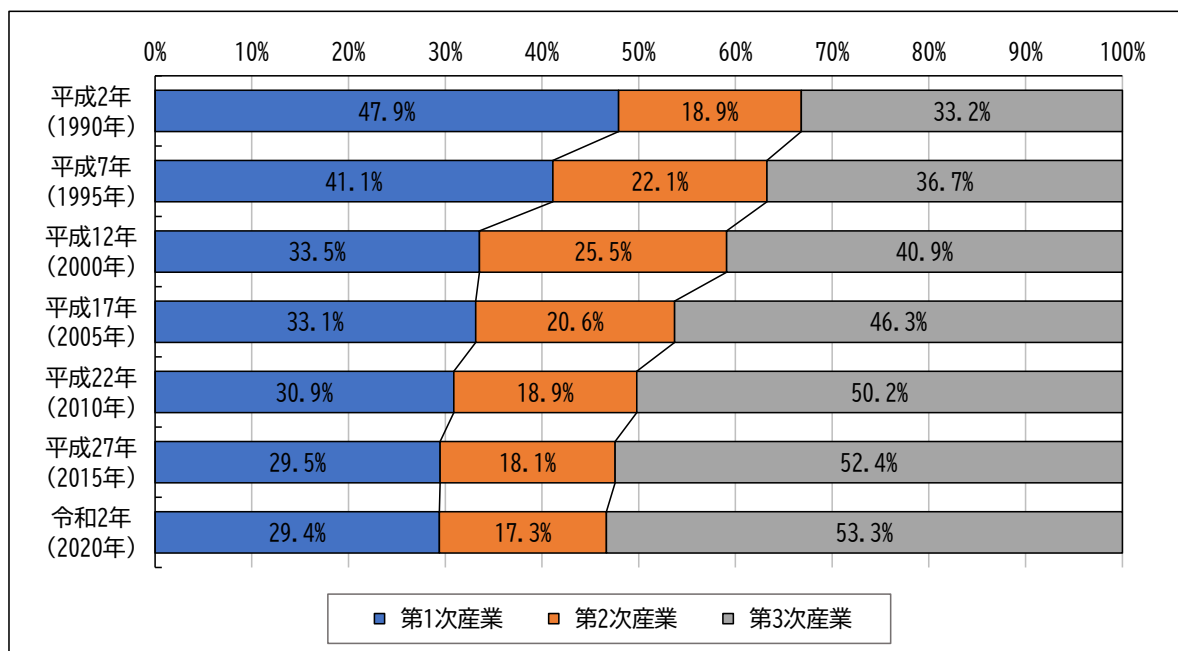
- 就業者数全体は減少傾向
- 第1次産業の割合は減少傾向
- 第3次産業の割合は増加傾向

- 令和2年（2020年）の就業者数は15,508人で、平成2年（1990年）から5,681人減少しています。
- 令和2年（2020年）の産業別の就業者数は、第3次産業が8,273人（53.3%）で最も多く、次いで第1次産業が4,559人（29.4%）、第2次産業が2,676人（17.3%）となっています。
- 第1次産業の割合は減少傾向にあり、平成2年（1990年）には47.9%を占めていましたが、平成12年（2000年）に33.5%と4割を切り、その後も減少傾向にあります。
- 第2次産業の割合は平成12年（2000年）が25.5%と最も高く、その後は減少傾向にあります。

図表 就業者数の推移

|       | 平成2年<br>(1990年) | 平成7年<br>(1995年) | 平成12年<br>(2000年) | 平成17年<br>(2005年) | 平成22年<br>(2010年) | 平成27年<br>(2015年) | 令和2年<br>(2020年) |
|-------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 第1次産業 | 10,155          | 8,426           | 6,701            | 6,285            | 5,201            | 4,681            | 4,559           |
| 第2次産業 | 4,000           | 4,538           | 5,102            | 3,901            | 3,184            | 2,872            | 2,676           |
| 第3次産業 | 7,034           | 7,527           | 8,174            | 8,777            | 8,454            | 8,328            | 8,273           |
| 総数    | 21,189          | 20,491          | 19,977           | 18,963           | 16,839           | 15,881           | 15,508          |

資料：国勢調査



※分類不能は第3次産業に含む

## (2) 農業

■農家総数は減少傾向

■経営耕地面積は長期的に見ると減少傾向

○平成 12 年（2000 年）と比較すると、令和 2 年時点で総農家総数が 2,363 戸と半数以下になっています。

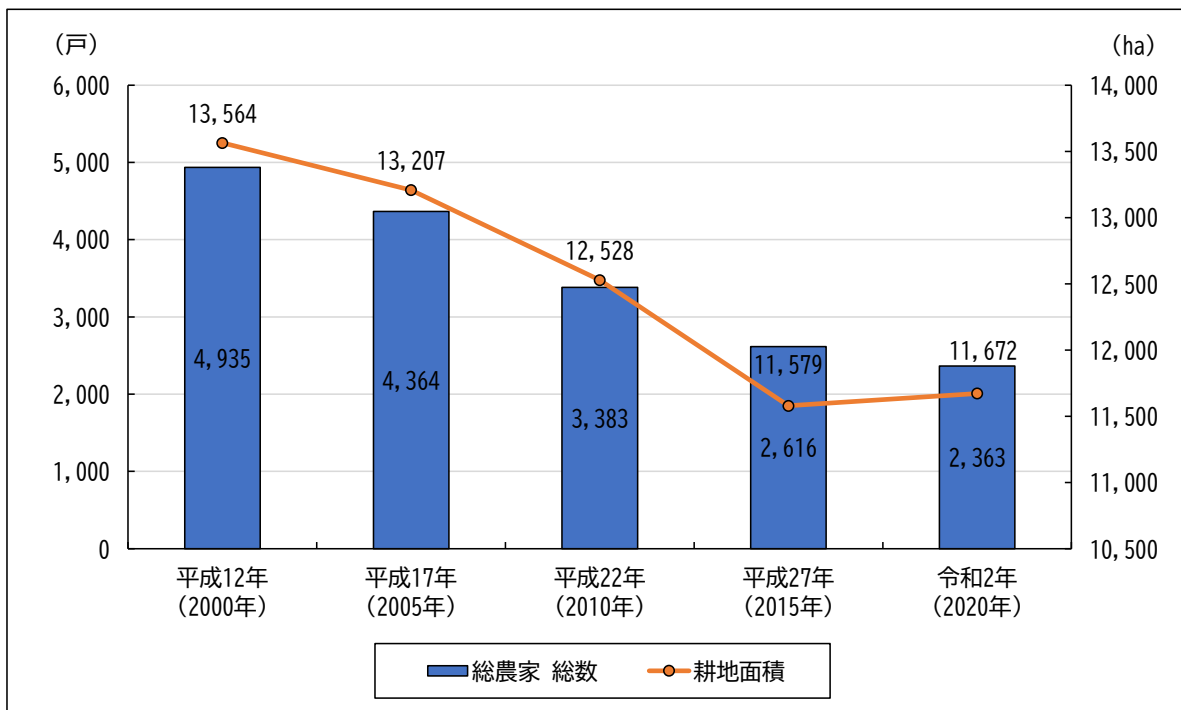
○平成 12 年（2000 年）と比較すると、令和 2 年時点で経営耕地面積が 1,892ha 減少しています。

○経営耕地面積は平成 12 年（2000 年）から平成 27 年（2015 年）まで減少傾向でしたが、令和 2 年（2020 年）に増加に転じました。

図表 農家数、耕地面積の推移

|                 | 総農家<br>総数 | 農家数（戸）     |           | 経営耕地面積<br>(ha) |
|-----------------|-----------|------------|-----------|----------------|
|                 |           | 販売農家<br>総数 | 自給的<br>農家 |                |
| 平成 12 年（2000 年） | 4,935     | 4,639      | 296       | 13,564         |
| 平成 17 年（2005 年） | 4,364     | 4,162      | 202       | 13,207         |
| 平成 22 年（2010 年） | 3,383     | 3,164      | 219       | 12,528         |
| 平成 27 年（2015 年） | 2,616     | 2,431      | 185       | 11,579         |
| 令和 2 年（2020 年）  | 2,363     | 2,205      | 158       | 11,672         |

資料：農林業センサス



### (3) 工業

■事業所数、従業者数ともに長期的に見ると減少傾向

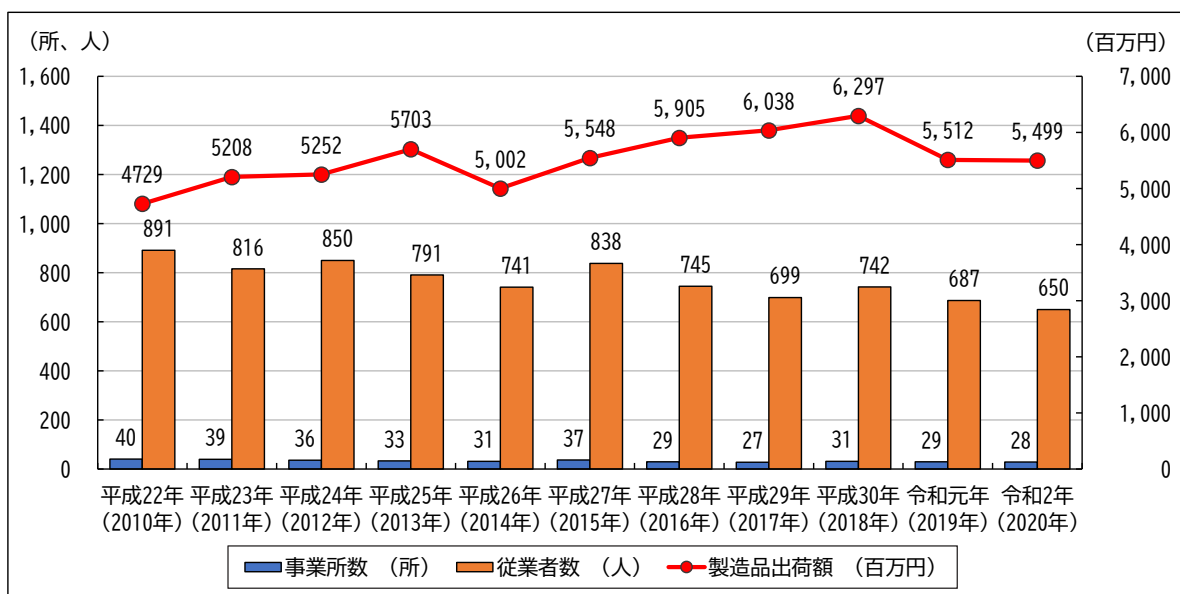
■製造品出荷額は長期的に見ると増加傾向

- 令和 2 年（2020 年）の事業所数は 28 事業所で、平成 22 年（2010 年）から 12 事業所減少しています。
- 従業者数は平成 22 年（2010 年）以降増減を繰り返しており、平成 30 年（2018 年）以降は減少しています。
- 令和 2 年（2020 年）の製造品出荷額は 5,499 百万円で、平成 22 年（2010 年）から 770 百万円増加しています。

図表 事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移

|                  | 事業所数<br>(所) | 従業者数<br>(人) | 製造品出荷額<br>(百万円) |
|------------------|-------------|-------------|-----------------|
| 平成 22 年 (2010 年) | 40          | 891         | 4,729           |
| 平成 23 年 (2011 年) | 39          | 816         | 5,208           |
| 平成 24 年 (2012 年) | 36          | 850         | 5,252           |
| 平成 25 年 (2013 年) | 33          | 791         | 5,703           |
| 平成 26 年 (2014 年) | 31          | 741         | 5,002           |
| 平成 27 年 (2015 年) | 37          | 838         | 5,548           |
| 平成 28 年 (2016 年) | 29          | 745         | 5,905           |
| 平成 29 年 (2017 年) | 27          | 699         | 6,038           |
| 平成 30 年 (2018 年) | 31          | 742         | 6,297           |
| 令和元年 (2019 年)    | 29          | 687         | 5,512           |
| 令和 2 年 (2020 年)  | 28          | 650         | 5,499           |

資料：工業統計調査、経済センサス



#### (4) 商業

■事業所数、従業者数ともに長期的に見ると減少傾向

■年間商品販売額は長期的に見ると横ばい

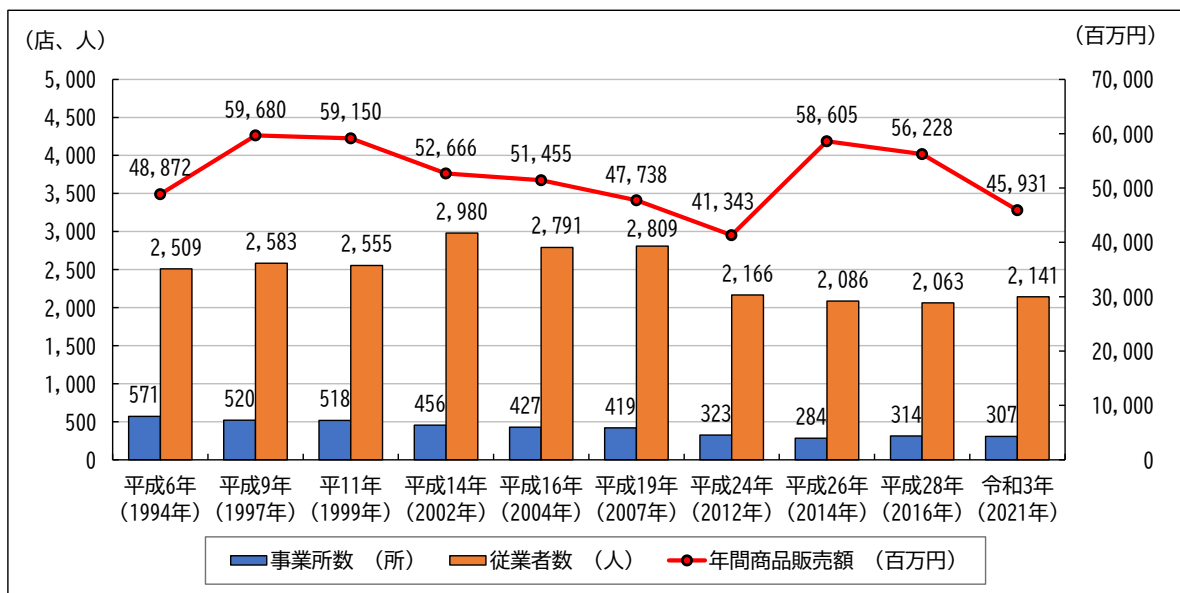
○令和3年(2021年)の従業者数は2,141人で、平成6年(1994年)から368人減少しています。

○事業所数は長期的に見ると平成6年(1994年)から減少傾向ですが、1店舗あたりの年間販売額は平成26年(2014年)に大きく増加しました。

図表 事業所数、従業者数、年間商品販売額の推移

|              | 事業所数<br>(所) | 従業者数<br>(人) | 年間商品販売額<br>(百万円) | 1店舗あたりの<br>年間販売額<br>(百万円) |
|--------------|-------------|-------------|------------------|---------------------------|
| 平成6年(1994年)  | 571         | 2,509       | 48,872           | 86                        |
| 平成9年(1997年)  | 520         | 2,583       | 59,680           | 115                       |
| 平成11年(1999年) | 518         | 2,555       | 59,150           | 114                       |
| 平成14年(2002年) | 456         | 2,980       | 52,666           | 115                       |
| 平成16年(2004年) | 427         | 2,791       | 51,455           | 121                       |
| 平成19年(2007年) | 419         | 2,809       | 47,738           | 114                       |
| 平成24年(2012年) | 323         | 2,166       | 41,343           | 128                       |
| 平成26年(2014年) | 284         | 2,086       | 58,605           | 206                       |
| 平成28年(2016年) | 314         | 2,063       | 56,228           | 179                       |
| 令和3年(2021年)  | 307         | 2,141       | 45,931           | 150                       |

資料：商業統計調査、経済センサス



## 1-2-3 土地利用

### (1) 都市計画の指定状況

■都市計画区域内に用途地域が指定

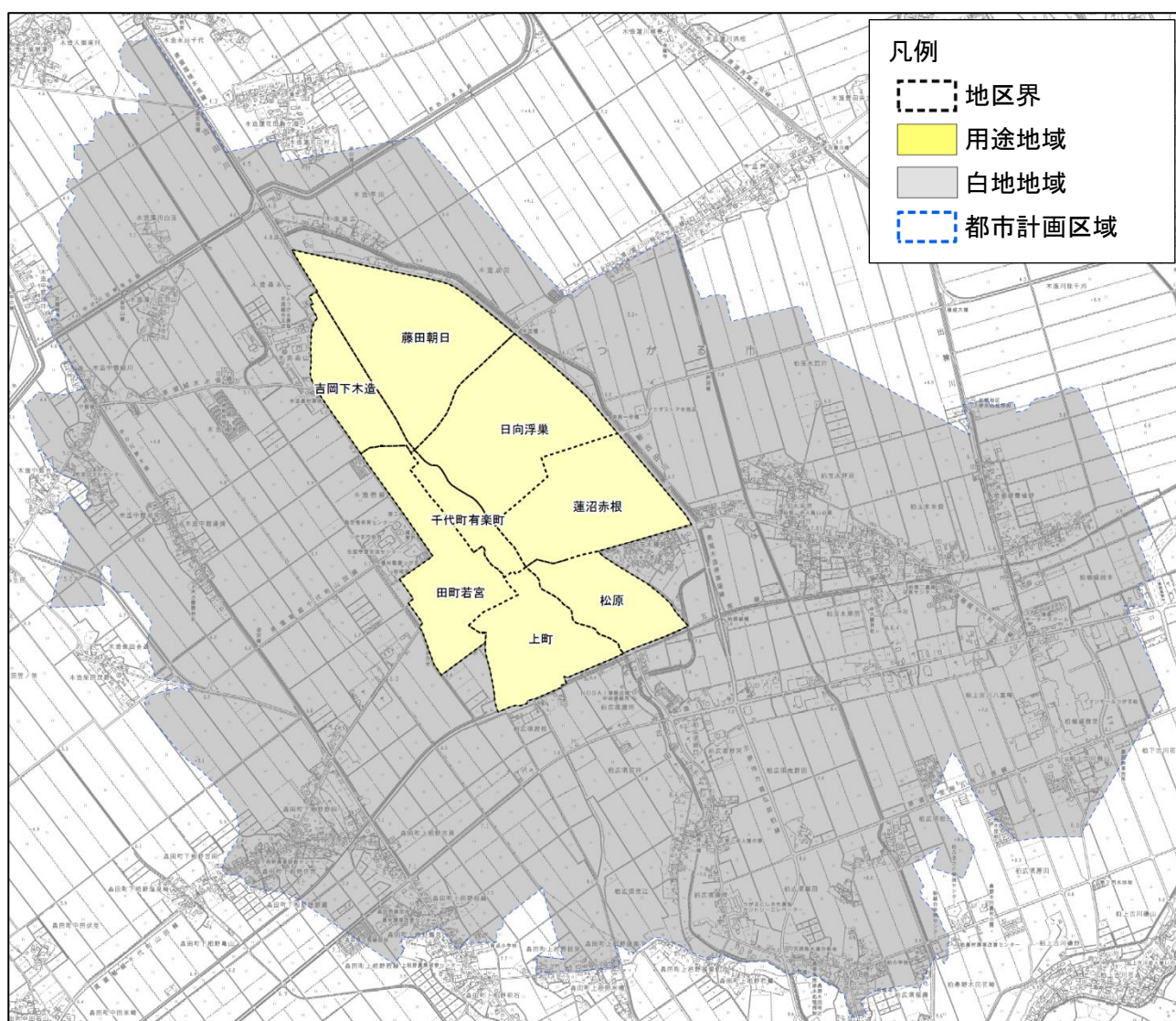
○用途地域の面積は 201.7ha となっています。

○白地地域の面積は 1,179.3ha となっています。

図表 都市計画の指定状況

| 区域名        | 面積 (ha) | 割合 (%) |
|------------|---------|--------|
| 用途地域       | 201.7   | 14.6   |
| 白地地域       | 1,179.3 | 85.4   |
| 都市計画区域 (計) | 1,381.0 | 100.0  |

資料：令和 5 年度都市計画基礎調査



## (2) 用途地域の指定状況

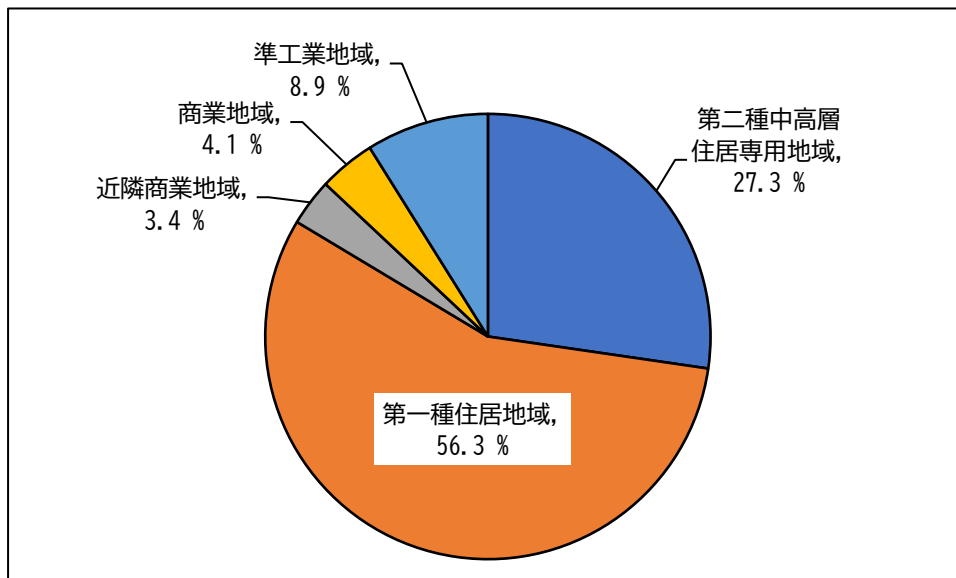
■用途地域は住居系用途地域が中心

- 用途地域は、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域の5種類が指定されています。
- 用途地域のうち、住居系用途地域（第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域）が8割以上を占めています。

図表 用途地域の指定状況

| 用途地域名        | 面積 (ha) | 割合 (%) |
|--------------|---------|--------|
| 第二種中高層住居専用地域 | 55.0    | 27.3   |
| 第一種住居地域      | 113.5   | 56.3   |
| 近隣商業地域       | 6.9     | 3.4    |
| 商業地域         | 8.3     | 4.1    |
| 準工業地域        | 18.0    | 8.9    |
| 計            | 201.7   | 100.0  |

資料：令和4年都市計画現況調査



### (3) 地目別土地利用状況

■都市計画区域の土地利用は、自然的土地利用が約 70%、都市的土地利用が約 30%

■都市的土地利用のうち宅地は約 50%

○都市計画区域の土地利用は、自然的土地利用（農地、山林、水面など）が全体の 68.7%（949.9ha）となっており、その中では田が 82.7%（786.0ha）と高い割合になっています。

○都市的土地利用（宅地、農林業施設用地、公共・公益施設用地など）は全体の 31.3%（431.9ha）となっており、その中では宅地が 51.9%（224.2ha）と高い割合になっています。

表 土地利用状況

単位：ha

|        | 自然的土地利用 |       |       |     |      |       |            |       |
|--------|---------|-------|-------|-----|------|-------|------------|-------|
|        | 農地      |       |       | 山林  | 水面   | 原野・牧野 | 荒低<br>蕪湿地・ | 小計    |
|        | 田       | 畑     | 計     |     |      |       |            |       |
| 用途地域   | 19.7    | 13.3  | 33.0  | 1.1 | 1.6  | 4.6   | 0.4        | 40.7  |
| 藤田朝日   | 15.5    | 4.8   | 20.3  | 0.0 | 0.2  | 1.6   | 0.0        | 22.1  |
| 日向浮巢   | 1.6     | 3.1   | 4.7   | 0.0 | 0.2  | 0.4   | 0.2        | 5.5   |
| 蓮沼赤根   | 0.4     | 0.5   | 0.9   | 0.0 | 0.0  | 0.4   | 0.0        | 1.3   |
| 松原     | 0.0     | 0.6   | 0.6   | 0.0 | 0.2  | 0.7   | 0.0        | 1.5   |
| 上町     | 1.6     | 1.8   | 3.4   | 1.1 | 0.2  | 0.9   | 0.0        | 5.6   |
| 田町若宮   | 0.2     | 0.9   | 1.1   | 0.0 | 0.4  | 0.3   | 0.1        | 1.9   |
| 吉岡下木造  | 0.4     | 1.6   | 2.0   | 0.0 | 0.3  | 0.3   | 0.1        | 2.7   |
| 千代町有楽町 | 0.0     | 0.0   | 0.0   | 0.0 | 0.1  | 0.0   | 0.0        | 0.1   |
| 白地地域   | 766.3   | 91.9  | 858.2 | 1.8 | 10.3 | 26.3  | 12.6       | 909.2 |
| 計      | 786.0   | 105.2 | 891.2 | 2.9 | 11.9 | 30.9  | 13.0       | 949.9 |

単位：ha

|        | 都市的土地利用 |      |      |       |         |           |       |        |      |        |        |      |       |
|--------|---------|------|------|-------|---------|-----------|-------|--------|------|--------|--------|------|-------|
|        | 宅地      |      |      |       | 農林業施設用地 | 公共・公益施設用地 | 道路用地  | 交通施設用地 | 公共空地 | 防衛施設用地 | その他の空地 | 未利用地 | 小計    |
|        | 住宅用地    | 商業用地 | 工業用地 | 小計    |         |           |       |        |      |        |        |      |       |
| 用途地域   | 76.0    | 9.8  | 1.5  | 87.3  | 1.2     | 31.7      | 26.4  | 0.5    | 4.6  | 0.0    | 5.4    | 4.6  | 161.7 |
| 藤田朝日   | 10.7    | 2.5  | 0.1  | 13.3  | 0.2     | 1.2       | 3.2   | 0.0    | 0.1  | 0.0    | 1.6    | 0.5  | 20.1  |
| 日向浮巢   | 16.8    | 1.8  | 0.2  | 18.8  | 0.1     | 7.9       | 5.9   | 0.0    | 0.0  | 0.0    | 0.6    | 1.4  | 34.7  |
| 蓮沼赤根   | 8.8     | 0.5  | 0.0  | 9.3   | 0.0     | 13.8      | 4.0   | 0.0    | 1.4  | 0.0    | 1.1    | 0.1  | 29.7  |
| 松原     | 8.3     | 0.7  | 0.1  | 9.1   | 0.0     | 3.0       | 2.1   | 0.0    | 0.7  | 0.0    | 0.3    | 0.3  | 15.5  |
| 上町     | 9.7     | 0.6  | 0.2  | 10.5  | 0.1     | 1.3       | 2.8   | 0.4    | 0.5  | 0.0    | 0.7    | 1.3  | 17.6  |
| 田町若宮   | 11.4    | 1.5  | 0.2  | 13.1  | 0.2     | 3.1       | 4.6   | 0.1    | 1.5  | 0.0    | 0.7    | 0.4  | 23.7  |
| 吉岡下木造  | 6.6     | 0.9  | 0.5  | 8.0   | 0.3     | 1.0       | 2.4   | 0.0    | 0.4  | 0.0    | 0.3    | 0.0  | 12.4  |
| 千代町有楽町 | 3.7     | 1.3  | 0.2  | 5.2   | 0.3     | 0.4       | 1.4   | 0.0    | 0.0  | 0.0    | 0.1    | 0.6  | 8.0   |
| 白地地域   | 68.8    | 62.1 | 6.0  | 136.9 | 6.3     | 21.0      | 81.6  | 2.8    | 1.6  | 0.0    | 15.7   | 4.3  | 270.2 |
| 計      | 144.8   | 71.9 | 7.5  | 224.2 | 7.5     | 52.7      | 108.0 | 3.3    | 6.2  | 0.0    | 21.1   | 8.9  | 431.9 |

資料：令和 5 年度都市計画基礎調査

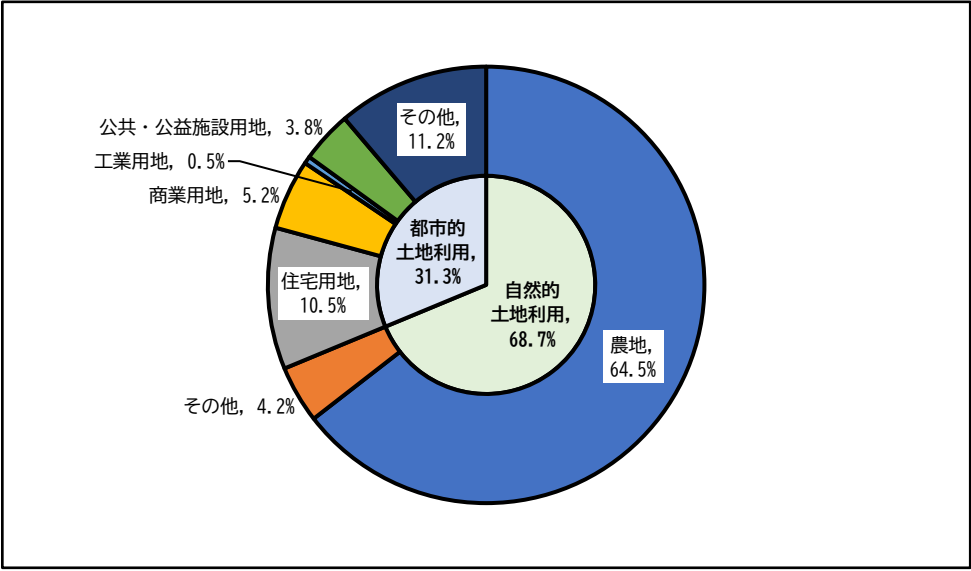


図 土地利用状況

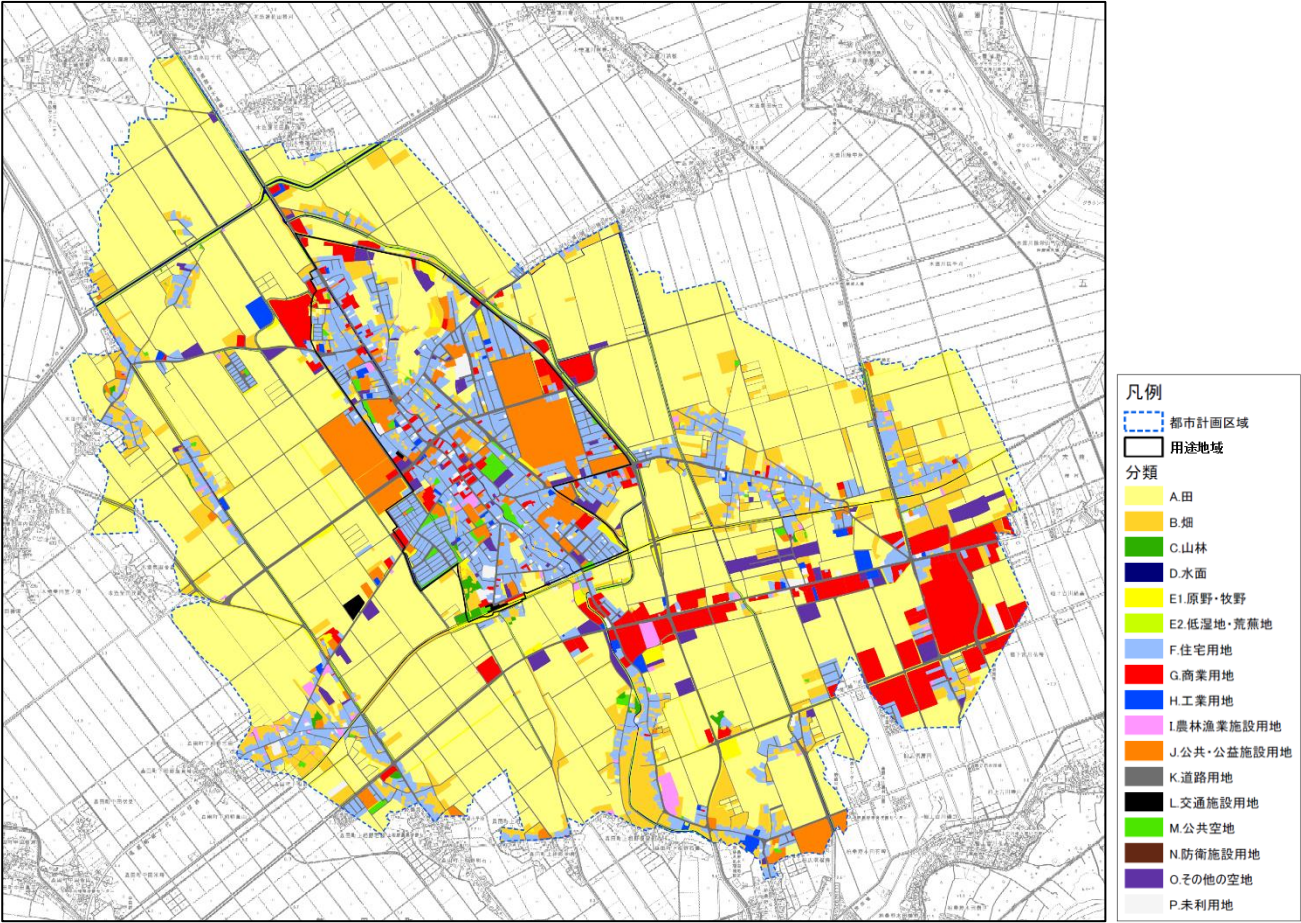


図 土地利用現況図

資料：令和5年度都市計画基礎調査

## 1-2-4 交通

### (1) 道路網

■本市の道路の骨格は、国道、主要地方道、一般県道、市道によって形成されている

○広域的な幹線道路として、市内を国道 101 号が横断し、五所川原西バイパスが接続しています。

○主要な地域・集落地が、(主) 五所川原車力線、(主) 鰯ヶ沢蟹田線、(主) 弘前柏線、(主) 長平町森田線、(一) 十腰内陸奥森田停車場線、(一) 菰槌木造線、市道木造屏風山線、市道富范 23 号線などにより結ばれています。

※ (主) 主要地方道、(一) 一般県道

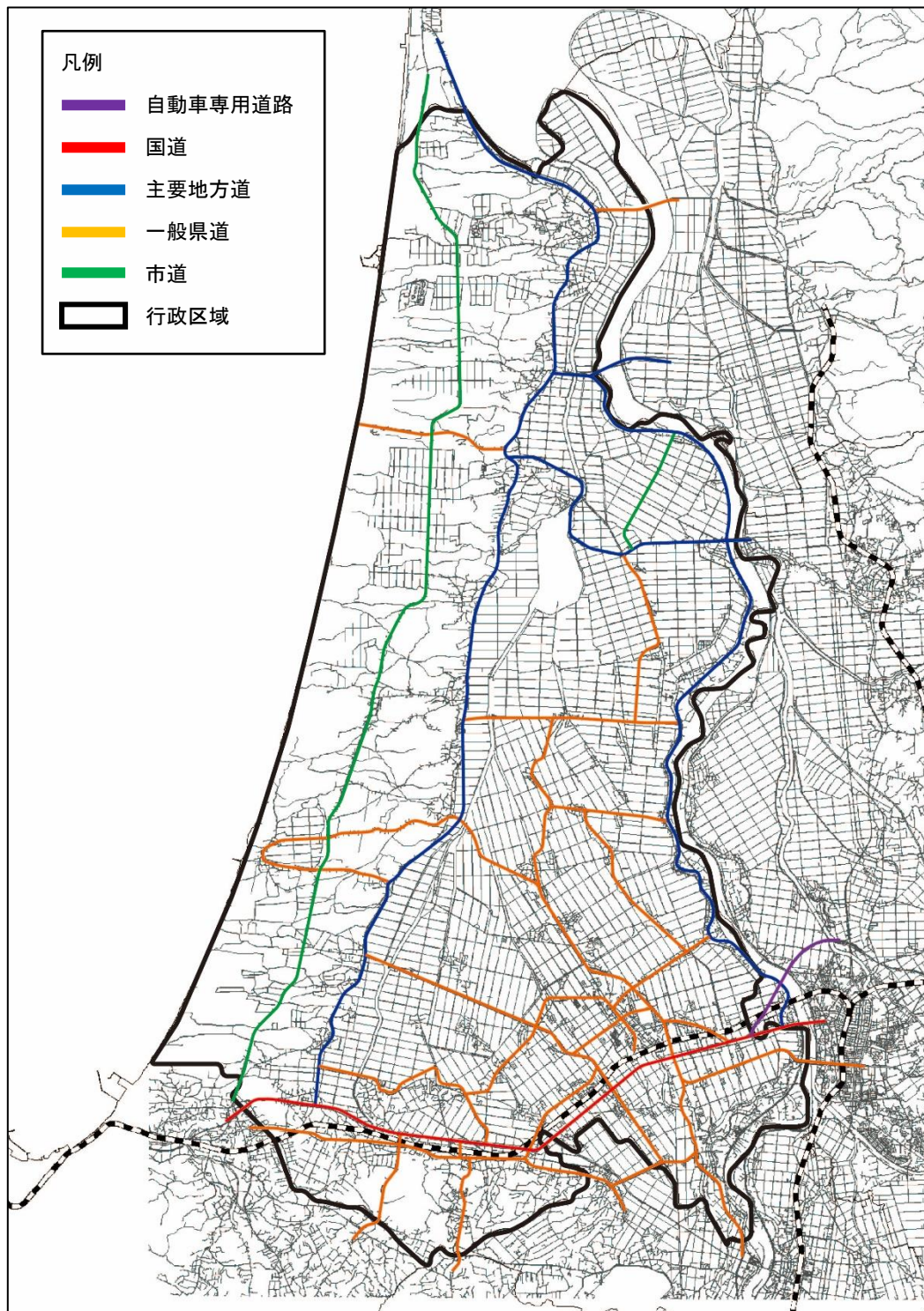


図 道路網図

資料：基盤地図情報より作成

## (2) 鉄道

■市内には JR 五能線が運行されている

■木造駅、陸奥森田駅ともに、乗車人員は長期的に見て減少傾向

○令和 4 年（2022 年）の木造駅の 1 日平均乗車人員は 167 人で、平成 25 年（2013 年）から 99 人減少しています。

○令和 4 年（2022 年）の陸奥森田駅の 1 日平均乗車人員は 56 人で、平成 25 年（2013 年）から 24 人減少しています。

○平成 25 年（2013 年）と令和 4 年（2022 年）を比較すると、木造駅と陸奥森田駅の 1 日平均乗車人員は 123 人（35.5%）減少しています。

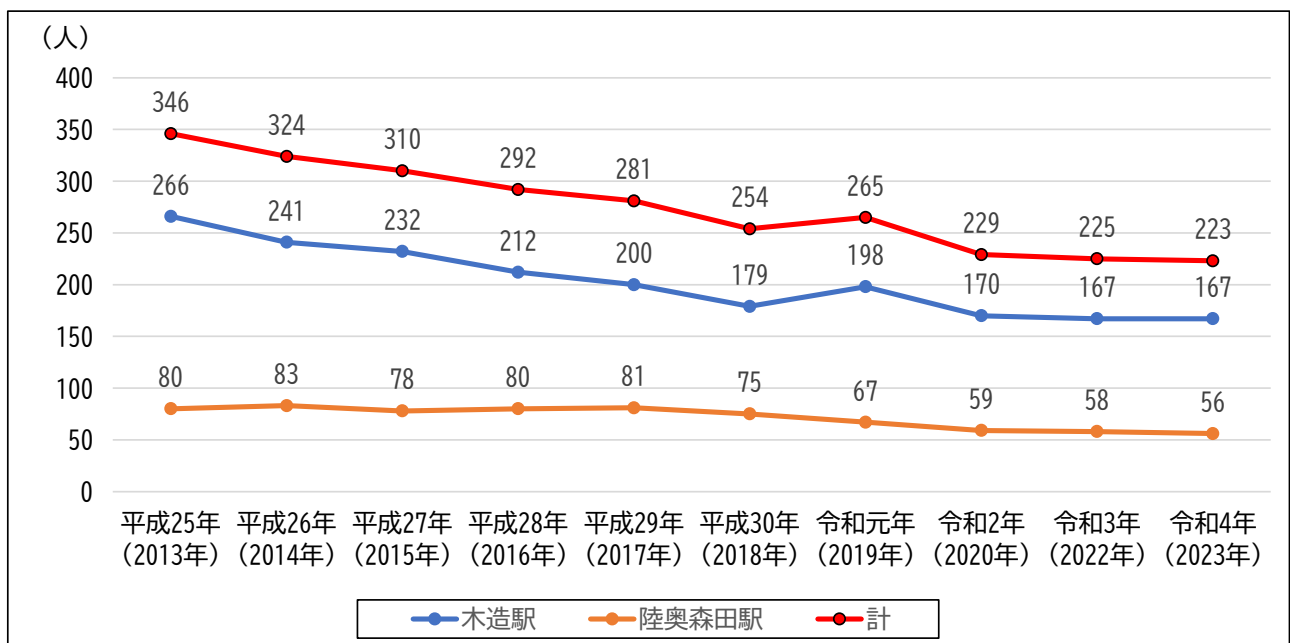
図表 1 日平均乗車人員の推移

単位：人／日

| 路線名 | 駅名   | 平成<br>25 年<br>(2013 年) | 平成<br>26 年<br>(2014 年) | 平成<br>27 年<br>(2015 年) | 平成<br>28 年<br>(2016 年) | 平成<br>29 年<br>(2017 年) | 平成<br>30 年<br>(2018 年) | 令和<br>元年<br>(2019 年) | 令和<br>2 年<br>(2020 年) | 令和<br>3 年<br>(2021 年) | 令和<br>4 年<br>(2022 年) |
|-----|------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 五能線 | 木造   | 266                    | 241                    | 232                    | 212                    | 200                    | 179                    | 198                  | 170                   | 167                   | 167                   |
|     | 中田   | —                      | —                      | —                      | —                      | —                      | —                      | —                    | —                     | —                     | —                     |
|     | 陸奥森田 | 80                     | 83                     | 78                     | 80                     | 81                     | 75                     | 67                   | 59                    | 58                    | 56                    |
|     | 越水   | —                      | —                      | —                      | —                      | —                      | —                      | —                    | —                     | —                     | —                     |
| 計   |      | 346                    | 324                    | 310                    | 292                    | 281                    | 254                    | 265                  | 229                   | 225                   | 223                   |

資料：東日本旅客鉄道株式会社ウェブサイトより作成

※中田駅と越水駅は無人駅のためデータの公表なし



### (3) バス

■バス交通は民間路線バスおよびデマンドバスが運行している

○市内には6路線が運行しています。

○乗降客総数（日平均）は五所川原～鯉ヶ沢線が98人/日で最も多くなっています。

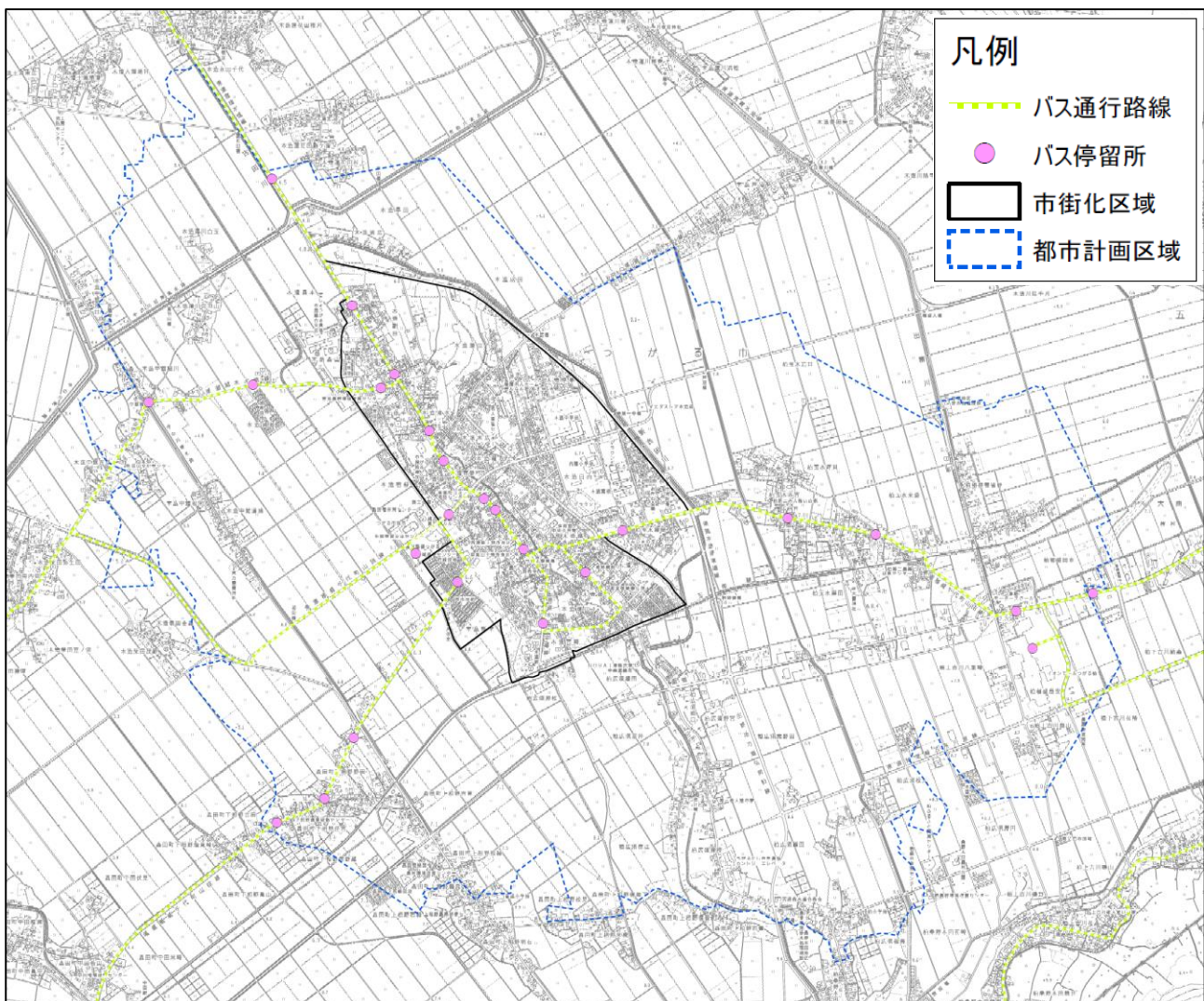
○運行頻度（平日）は五所川原～鯉ヶ沢線が20本/日で最も多く、次いで五所川原～市浦庁舎線が14本/日となっています。

図表 バスの乗客数・運行状況

| 区分       | 事業者名    | 路線名        | 乗降客総数<br>(日平均) | 運行頻度<br>(平日) |
|----------|---------|------------|----------------|--------------|
| 路線バス（民間） | 弘南バス(株) | 五所川原～鯉ヶ沢線  | 98             | 20/日         |
|          |         | 五所川原～出来島線  | 84             | 10/日         |
|          |         | 五所川原～市浦庁舎線 | —              | 14/日         |
|          |         | 広田団地線      | —              | 1/日          |
| デマンドバス   | つがる交通   | 吹原線        | —              | 1/日          |
|          |         | 柏線         | —              | 1/日          |

資料：令和5年度都市計画基礎調査

※五所川原～市浦庁舎線、広田団地線、吹原線、柏線の乗降客数資料無し



#### (4) 通勤通学

- 通勤、通学ともに流出超過
- 五所川原市とのつながりが強い
- 通勤の流出入率が増加傾向

○令和2年(2020年)の通勤による流出者数は4,722人、流入者数は3,283人であり、流出超過となっています。流出先は五所川原市が最も多く2,586人、次いで弘前市が525人となっています。流入元は五所川原市が最も多く1,747人、次いで鰺ヶ沢町が355人となっています。

○令和2年(2020年)の通学による流出者数は664人、流入者数は263人であり、流出超過となっています。流出先は五所川原市が最も多く394人、次いで弘前市が135人となっています。流入元は五所川原市が最も多く127人、次いで鶴田町が41人となっています。

表 流入流出の状況(通勤)

|              | 常住地による就業者数 | 流出先     |        | 従業地による就業者数 | 流入元     |        | 従業地/常住地就業者比率(%) |
|--------------|------------|---------|--------|------------|---------|--------|-----------------|
|              |            | 就業者数(人) | 流出率(%) |            | 就業者数(人) | 流入率(%) |                 |
| 平成22年(2010年) | 16,839     | 4,707   | 28.0   | 15,399     | 3,136   | 20.4   | 91.4            |
| 平成27年(2015年) | 15,881     | 4,573   | 28.8   | 14,702     | 3,354   | 22.8   | 92.6            |
| 令和2年(2020年)  | 15,508     | 4,722   | 30.4   | 14,135     | 3,283   | 23.2   | 91.1            |

|              | 通勤流出先  |         |        |        |         |        |
|--------------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|
|              | 流出率第1位 |         |        | 流出率第2位 |         |        |
|              | 市町村名   | 流出者数(人) | 流出率(%) | 市町村名   | 流出者数(人) | 流出率(%) |
| 平成22年(2010年) | 五所川原市  | 2,520   | 15.0   | 弘前市    | 526     | 3.1    |
| 平成27年(2015年) | 五所川原市  | 2,486   | 15.7   | 弘前市    | 525     | 3.3    |
| 令和2年(2020年)  | 五所川原市  | 2,586   | 16.7   | 弘前市    | 525     | 3.4    |

|              | 通勤流入先  |         |        |        |         |        |
|--------------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|
|              | 流入率第1位 |         |        | 流入率第2位 |         |        |
|              | 市町村名   | 流入者数(人) | 流入率(%) | 市町村名   | 流入者数(人) | 流入率(%) |
| 平成22年(2010年) | 五所川原市  | 1,752   | 11.4   | 鰺ヶ沢町   | 322     | 2.1    |
| 平成27年(2015年) | 五所川原市  | 1,822   | 12.4   | 鰺ヶ沢町   | 368     | 2.5    |
| 令和2年(2020年)  | 五所川原市  | 1,747   | 12.4   | 鰺ヶ沢町   | 355     | 2.5    |

資料：国勢調査

表 流入流出の状況（通学）

|                  | 常住地による通学者数 | 流出先      |         | 従業地による通学者数 | 流入元      |         | 従業地 / 常住地通学者比率 (%) |
|------------------|------------|----------|---------|------------|----------|---------|--------------------|
|                  |            | 通学者数 (人) | 流出率 (%) |            | 通学者数 (人) | 流入率 (%) |                    |
| 平成 22 年 (2010 年) | 1,597      | 1,024    | 64.1    | 1,026      | 437      | 42.6%   | 64.2               |
| 平成 27 年 (2015 年) | 1,242      | 781      | 62.9    | 811        | 348      | 42.9%   | 65.3               |
| 令和 2 年 (2020 年)  | 1,096      | 664      | 60.6    | 708        | 263      | 37.1%   | 64.6               |

|                  | 通学流出先    |          |         |          |          |         |
|------------------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|
|                  | 流出率第 1 位 |          |         | 流出率第 2 位 |          |         |
|                  | 市町村名     | 流出者数 (人) | 流出率 (%) | 市町村名     | 流出者数 (人) | 流出率 (%) |
| 平成 22 年 (2010 年) | 五所川原市    | 603      | 37.8    | 弘前市      | 184      | 11.5    |
| 平成 27 年 (2015 年) | 五所川原市    | 492      | 39.6    | 弘前市      | 110      | 8.9     |
| 令和 2 年 (2020 年)  | 五所川原市    | 394      | 35.9    | 弘前市      | 135      | 12.3    |

|                  | 通学流入先    |          |         |          |          |         |
|------------------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|
|                  | 流入率第 1 位 |          |         | 流入率第 2 位 |          |         |
|                  | 市町村名     | 流入者数 (人) | 流入率 (%) | 市町村名     | 流入者数 (人) | 流入率 (%) |
| 平成 22 年 (2010 年) | 五所川原市    | 239      | 23.3    | 鶴田町      | 51       | 5.0     |
| 平成 27 年 (2015 年) | 五所川原市    | 172      | 21.2    | 鶴田町      | 56       | 6.9     |
| 令和 2 年 (2020 年)  | 五所川原市    | 127      | 17.9    | 鶴田町      | 41       | 5.8     |

資料：国勢調査

## 1-2-5 都市施設

### (1) 都市計画道路

■都市計画道路は、8 路線が計画決定されている

■整備済みは 2 路線

○都市計画道路は 8 路線が都市計画決定されており、計画路線の総延長は 23,300m となっています。

○このうち、整備済み路線は広須朝日線、若宮赤根線の 2 路線となっています。

表 都市計画道路の整備状況

| 都市計画道路名称 |         | 機能<br>分類 | 道路<br>種別 | 計画決定   |        | 整備状況    |         |
|----------|---------|----------|----------|--------|--------|---------|---------|
| 路線番号     | 路線名     |          |          | 幅員 (m) | 延長 (m) | 整備済 (m) | 未整備 (m) |
| 1・5・1    | つがる鰯ヶ沢線 | 自専       | 一県       | 13.5   | 12,620 | 0       | 12,620  |
| 3・4・1    | 広須朝日線   | 幹線       | 一県       | 16.5   | 3,140  | 3,140   | 0       |
| 3・4・2    | 木造駅通り線  | 幹線       | 一県       | 18.5   | 1,180  | 0       | 1,180   |
| 3・4・3    | 若宮赤根線   | 補助       | 市道       | 18.5   | 1,040  | 1,040   | 0       |
| 3・4・4    | 日向朝日線   | 補助       | 市道       | 16.5   | 1,560  | 910     | 650     |
| 3・4・5    | 藤田若宮線   | 幹線       | 一県       | 16     | 880    | 0       | 880     |
| 3・5・1    | 曙桜川線    | 幹線       | 市道       | 15     | 1,070  | 0       | 1,070   |
| 3・5・2    | 若緑朝日線   | 幹線       | 市道       | 15     | 1,810  | 0       | 1,810   |
| 総延長(m)   |         |          |          |        | 23,300 | 5,090   | 18,210  |

資料：令和 5 年度都市計画基礎調査

## (2) 都市計画公園

■都市計画公園は 5 箇所

■都市計画公園は 4 箇所が整備済み

○都市計画公園の総面積は 20.28ha であり、都市計画公園 5 箇所のうち 4 箇所が整備済みとなっています。

表 都市計画公園の整理・分布状況

| 都市計画公園名称 |          | 公園<br>種別 | 位置            | 整備（開設）済    |       |
|----------|----------|----------|---------------|------------|-------|
| 公園番号     | 公園・緑地名   |          |               | 面積<br>(ha) | 率 (%) |
| 2・2・1    | 中央公園     | 街区       | つがる市木造萩野      | 0.30       | 100.0 |
| 2・2・2    | 松原公園     | 街区       | つがる市木造照日      | 0.18       | 100.0 |
| 3・3・1    | 銀杏ヶ丘公園   | 近隣       | つがる市木造曙       | 1.10       | 100.0 |
| 4・4・1    | 亀ヶ岡公園    | 地区       | つがる市木造館岡上沢辺   | 9.10       | 87.9  |
| 5・4・1    | つがる地球村公園 | 総合       | つがる市森田町床舞藤山 外 | 9.60       | 100.0 |

資料：青森県の都市計画【資料編】（2023 年 3 月 31 日現在）

## (3) 公共下水道

■公共下水道事業が計画されている

○公共下水道事業の普及率は 30.5%となっています。

表 公共下水道の整備状況

|         | 事業区分 | 全体計画         |             | 着工年度 | 整備状況         |            |
|---------|------|--------------|-------------|------|--------------|------------|
|         |      | 計画面積<br>(ha) | 計画人口<br>(人) |      | 整備面積<br>(ha) | 普及率<br>(%) |
| 公共下水道事業 | 単独公共 | 505.8        | 10,200      | H3   | 448.5        | 30.5       |

資料：つがる市庁内資料（2023 年 3 月 31 日現在）

## 1－3 地理的自然的条件

### 1－3－1 位置・地勢

- 青森県の西北部、津軽平野の北部中央から西に位置しています。
- 東は岩木川を境に五所川原市、中泊町に接し、西は日本海に面しており、その海岸線は「七里長浜」と呼ばれ、北は五所川原市から南は鰺ヶ沢町まで続き、海岸に併走して「屏風山」と呼ばれる丘陵地帯が続いています。
- 南方には津軽の秀峰「岩木山」と世界遺産「白神山地」を望み、平野部は、岩木川の自然堤防帯及び三角州に育まれた広大な津軽平野が拓け、弘前藩の新田開拓以来の一大穀倉地帯が形成されています。
- 市の総面積は 253.55 ㎢で、県域の約 2.6%を占めています。

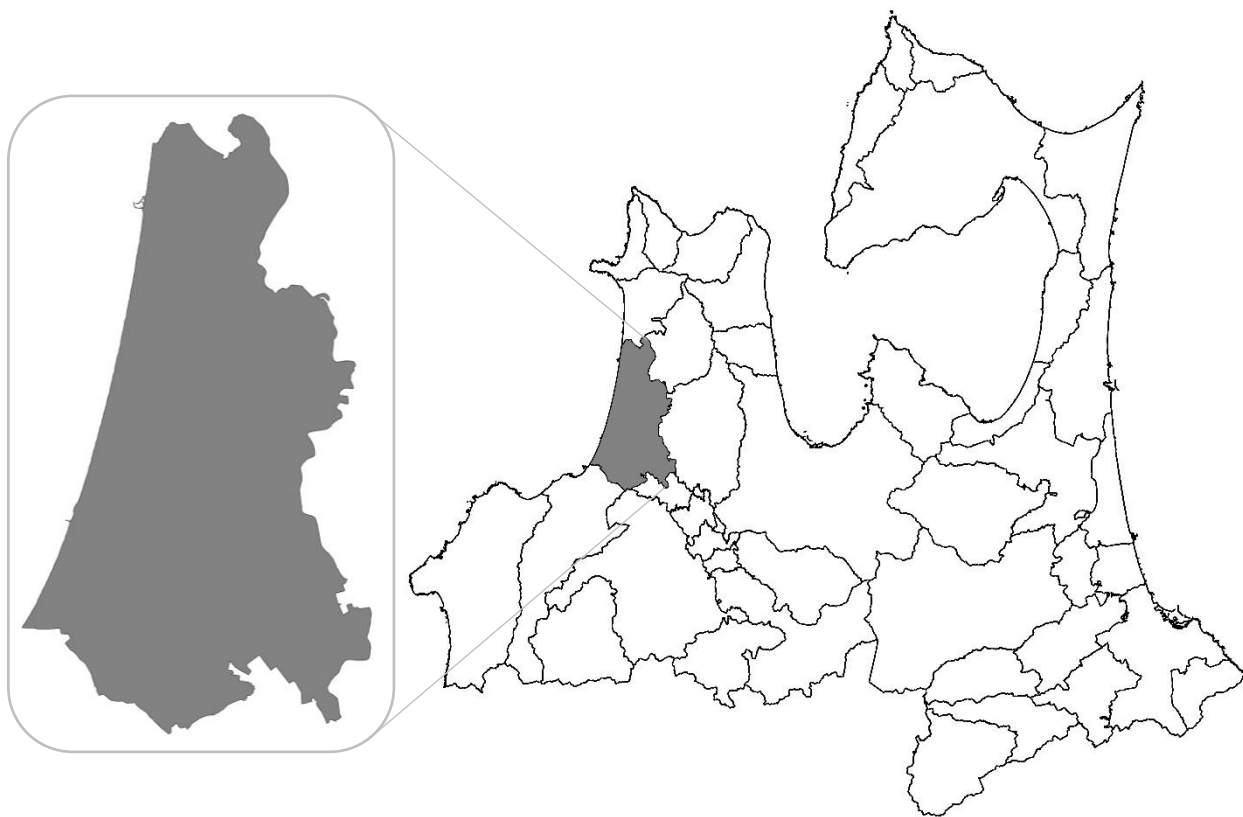


図 つがる市の位置

資料：国土数値情報より作成

## 1－4 その他条件

### 1－4－1 市の沿革

#### ①縄文文化

本市は、縄文遺跡が豊富なところで、現在確認されている 114 ヲ所の遺跡のうち、83 ヲ所が縄文遺跡です。

田小屋野貝塚は日本海側に数少ない貝塚を有する貴重な集落遺跡で、縄文時代前期中頃～中期末頃の環境への適応や生業、交易のあり方がわかる遺跡です。

亀ヶ岡石器時代遺跡は、国内外で有名な「遮光器土偶」をはじめとする優れた土器・土偶が出土し、縄文時代晩期の北日本を中心とする「亀ヶ岡文化」の名称の由来となった遺跡です。

これらは、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の 17 の構成資産の一つとなっています。

#### ②新田開発

本市の特性である岩木山を背景とした美しい田園風景は、今からおよそ 400 年前の江戸時代初頭の弘前藩津軽家による新田開発から始まっています。

かつて一面不毛の湿地帯であった土地は、先人たちの開拓の歴史によって、現在の豊かな水田地帯が築かれています。

新田開発には、人々の手となり足となる農耕馬の存在が欠かせませんでした。

明治後期には、馬の競り市が始まり、のちに東北三大馬市に数えられるほどの賑わいをみせました。

その後、農業の機械化に伴い農耕馬が減少し、馬市が衰退していくと、新田開発に尽くし亡くなった馬の霊を慰めるため、昭和 50 年から「馬市まつり」が行われるようになり、今に受け継がれています。

#### ③市町村合併

明治 22 年の市町村制施行直前は、西津軽郡には 11 町 108 村が設置されていましたが、同制度施行後、鯨ヶ沢町、舞戸村、中村、赤石村、鳴沢村、木造村、館岡村、出精村、越水村、柴田村、川除村、深浦村、大戸瀬村、岩崎村、森田村、柏村、稲垣村、車力村、水元村、十三村が成立しました。

その後、明治 34 年に木造村が町制を施行して木造町となり、昭和 30 年には木造町、館岡村、出精村、越水村、柴田村、川除村、鳴沢村の一部（出来島）が合併し、木造町となりました。

平成 17 年 2 月に木造町、森田村、柏村、稲垣村、車力村の 1 町 4 村が新設合併し、県内では 9 番目の市としてつがる市が設置され、現在に至っています。

## 1-4-2 歴史的文化遺産・観光資源の分布状況

### ■市内に指定文化財が分布

○指定文化財は、木造地区に 9 件、森田地区に 5 件、柏地区に 1 件、稲垣地区に 6 件、車力地区に 1 件が分布しています。このうち国指定史跡の 2 件は、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産になっています。

表 指定文化財

| 指定区分     | 種別   | 名称                   | 地区 | 指定年月日             |
|----------|------|----------------------|----|-------------------|
| 国指定重要文化財 | 考古資料 | 青森県石神遺跡出土品           | 森田 | 平成 2 年 6 月 29 日   |
| 国指定史跡    |      | 亀ヶ岡石器時代遺跡            | 木造 | 昭和 19 年 6 月 26 日  |
|          |      | 田小屋野貝塚               | 木造 | 昭和 19 年 6 月 26 日  |
| 国登録有形文化財 |      | 旧高谷銀行本店<br>(盛農薬商会倉庫) | 木造 | 平成 15 年 7 月 17 日  |
| 県重宝      | 工芸品  | 日本刀 銘津軽住安宗           | 森田 | 昭和 56 年 4 月 18 日  |
|          | 考古資料 | 盤形籃胎漆器               | 木造 | 昭和 31 年 5 月 14 日  |
|          | 考古資料 | 石神遺跡出土縄文式遺物          | 森田 | 昭和 48 年 12 月 3 日  |
| 県天然記念物   |      | りんごの樹                | 柏  | 昭和 35 年 11 月 1 日  |
| 市指定文化財   |      | 千代の松                 | 木造 | 昭和 60 年 4 月 4 日   |
|          |      | 公孫樹                  | 木造 | 昭和 60 年 4 月 4 日   |
|          |      | 書蹟掛軸                 | 木造 | 昭和 60 年 4 月 4 日   |
|          |      | 扁額                   | 木造 | 昭和 62 年 3 月 5 日   |
|          |      | 旧制木造中学校講堂            | 木造 | 平成 4 年 5 月 8 日    |
|          |      | 「藤の木」三本              | 森田 | 昭和 53 年 12 月 18 日 |
|          |      | 増田家住宅母屋              | 森田 | 平成 8 年 6 月 17 日   |
|          |      | 久米川遺跡                | 稲垣 | 昭和 54 年 4 月 1 日   |
|          |      | 松枝遺跡                 | 稲垣 | 昭和 54 年 8 月 1 日   |
|          |      | ヤチダモ                 | 稲垣 | 昭和 56 年 9 月 30 日  |
|          |      | 櫨                    | 稲垣 | 平成 5 年 3 月 10 日   |
|          |      | 旧尾野家住宅               | 稲垣 | 平成 6 年 4 月 28 日   |
|          |      | 銀杏                   | 稲垣 | 平成 6 年 12 月 16 日  |
|          |      | 黒印状                  | 車力 | 平成 15 年 2 月 19 日  |

資料：つがる市ホームページ

### 1－4－3 指定避難所等の状況

■市内に指定避難所兼緊急避難場所、緊急避難場所、福祉避難所が分布

○市内に指定避難所兼緊急避難場所が 88 箇所、緊急避難場所が 23 箇所、福祉避難所が 11 箇所あります。

○木造地区では指定避難所兼緊急避難場所が 45 箇所、緊急避難場所が 14 箇所、福祉避難所が 5 箇所と他地区に比べて最も多くなっています。

表 指定避難所、緊急避難場所、福祉避難所の地域別箇所数

| 地区名 | 指定避難所<br>兼<br>緊急避難場所 | 緊急避難場所 | 福祉避難所 |
|-----|----------------------|--------|-------|
| 木造  | 45                   | 14     | 5     |
| 森田  | 8                    | 3      | 2     |
| 柏   | 8                    | 2      | 2     |
| 稲垣  | 13                   | 2      | 1     |
| 車力  | 14                   | 2      | 1     |
| 計   | 88                   | 23     | 11    |

資料：つがる市ホームページ

## 第2章 まちづくりの課題整理

### 2-1 土地利用

#### (1) 市街地形成・都市構造

| 現況・計画の位置づけ等   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・ 少子高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりの推進</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 総人口の減少、世帯数の微減</li><li>・ 用途地域内の人口の減少、白地地域・都市計画区域外での人口増加</li><li>・ 将来における人口減少の予測</li><li>・ 都市計画区域の15%に満たない用途地域</li><li>・ 都市計画区域の7割を占める自然的土地利用（都市的土地利用は3割）</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・ 非線引き都市計画区域の白地地域及び周辺の都市計画区域が指定されていない地区では、周辺環境との調和の観点から都市計画区域の拡大を検討するとともに、特定用途制限地域や地区計画の指定などを推進（県都市マス）</li><li>・ 旧町村の中心地において、都市機能を集約した拠点の形成を図り、高齢者にも優しく、環境負荷の低減にも配慮したコンパクトな市街地の形成（区域マス）</li><li>・ 居住・生活環境と自然環境が共生する地域づくり（区域マス）</li><li>・ 「自然や農地、山林を保全していく区域」を明確化し、無秩序な都市的土地利用の拡大を抑制（区域マス）</li><li>・ 現在の市街地を基本としてコンパクトな市街地の維持・形成を図るとともに、周辺の田園ゾーンの保全（区域マス）</li><li>・ 適切な土地利用の誘導を図り、利便性の高い、良好な市街地の形成（区域マス）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・ コンパクトなまちづくりを実現するために必要な取組として、「生活の拠点となる地区において、身近な商業施設、医療施設や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる」との意見が多くあります。</li><li>・ コンパクトなまちづくりは、集落に住む方の移動の負担が増えるとの意見があります。（自由意見）</li><li>・ 木造地区の中心部はある程度コンパクトなまちになっているとの意見があります。（自由意見）</li></ul></li></ul> |



## 課題

### ◆コンパクトな市街地づくり

- ・既存の用途地域内に居住と都市機能の集積を誘導し、コンパクトなまちづくりの実現を目指す必要があります。
- ・用途地域周辺において、現況土地利用との整合を図った用途地域の適正化を図る必要があります。
- ・無秩序な都市的土地利用の拡大を抑制するよう、適正な規制・誘導を図る必要があります。

### ◆地域拠点の形成とネットワーク化

- ・旧町村における地域拠点の維持と誘導を図るとともに、中心市街地・地域拠点間を繋ぐネットワーク・連携の強化を図る必要があります。

## (2) 住宅地

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・ライフサイクル・スタイルの多様化</li><li>・QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活環境の質）の追求</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・総人口の減少、世帯数の微減</li><li>・少子高齢化の進行、高齢化率の上昇</li><li>・将来における人口減少の予測</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・バリアフリーや子育て支援等に対応した安全・安心な住環境づくり（区域マス）</li><li>・魅力ある住環境・公園等の整備（市総合計画）</li><li>・自然と共生する生活環境の整備（市総合計画）</li><li>・本市の魅力を発信し、移住・定住を促進（市総合戦略）</li><li>・すべての人にとって暮らしやすいまちづくり（市総合戦略）</li><li>・地域コミュニティを活性化し支え合う地域社会（市総合戦略）</li><li>・快適な住環境の整備（新市建設）</li></ul></li><li>【集落地】<ul style="list-style-type: none"><li>・集落地の環境整備（区域マス）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・柏地区を除く全ての地区において、住宅を新築するための宅地の整備や、住宅地のまち並みの整備についての満足度が、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。</li><li>・空き地、空き家等への対策は、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li><li>・道路脇に倒壊の危険を感じる空き家が多いとの意見があります。（自由意見）</li></ul></li></ul> |



| 課題   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆住環境の向上<ul style="list-style-type: none"><li>・だれもが安全かつ快適に過ごせる住環境づくりを進める必要があります。</li><li>・これまで培われてきた地域における生活様式、コミュニティを維持するとともに、多様化するライフスタイルへ対応する住環境づくりが必要です。</li><li>・集落居住地においては、自然や田園地域と共生する住環境の維持、保全に努める必要があります。</li></ul></li><li>◆居住誘導<ul style="list-style-type: none"><li>・用途地域内に居住を促進するための住宅地供給を進める必要があります。</li></ul></li><li>◆空き家・空き地の有効活用<ul style="list-style-type: none"><li>・空き家・空き地を有効活用していくことで、居住の促進を図る必要があります。</li></ul></li></ul> |

### (3) 商業地

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中心市街地の衰退化、空き店舗の増加</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・ 第3次産業就業者の比率の増加</li><li>・ 事業所数の減少</li><li>・ 年間商品販売額、1店舗当たり年間商品販売額の増加</li><li>・ 幹線沿道などへの大型店舗の出店</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・ JR 五能線木造駅前周辺の中心市街地の活性化を積極的に行い、賑わいがあり、便利に暮らすことのできる都市づくり（区域マス）</li><li>・ 柏地区の国道101号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、中心商業地等とのバランスに配慮し、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導（区域マス）</li><li>・ 地域特性を生かした商工業の推進（市総合計画）</li><li>・ 就労機会の確保による定住促進（新市建設）</li><li>・ 生活に根付いた商業の活性化（新市建設）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・ 柏地区を除く全ての地区において、買物をする店舗の整備については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li><li>・ 柏地区では、地区の役割として「周辺地域のための商業を担う地区」との意見が多くなっています。</li><li>・ 木造地区及び柏地区では、魅力を高めるために必要な取組として、「中心市街地や拠点となる地域を活性化し、にぎわいのあるまちづくりを進める」との意見が多くなっています。</li><li>・ 商業施設、商店街が少ないとの意見があります。（自由意見）</li><li>・ 観光地やイベント参加者が利用できる商業施設を希望する等の意見があります。（自由意見）</li></ul></li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆にぎわいの再生<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中心部において、中心市街地の魅力の向上を図るよう、活性化対策を検討する必要があります。</li></ul></li><li>◆沿道商業地・大型店舗の計画的な規制・誘導<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幹線道路の沿道利用について、土地利用を計画的に進めるよう、適正な規制・誘導を図る必要があります。</li><li>・ 大型店の出店について、適正に出店を誘導していく必要があります。</li><li>・ 住民のニーズに沿った商業地（拠点）の維持が必要とされています。</li></ul></li></ul> |

#### (4) 工業地

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <p>◆今日の社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・環境への負荷に配慮した工業地</li><li>・ICTの進化に伴う産業のグローバル化</li></ul> <p>◆本市の現況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第2次産業就業者、事業所数の減少</li><li>・製造品出荷額は長期的に増加</li></ul> <p>◆上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・柏地区の国道101号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、中心商業地等とのバランスに配慮し、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導（区域マス）</li><li>・地域産業の振興による多様な「しごと」の創出（県総合戦略）</li><li>・「経済を回す」ための基盤づくり（幹線道路ネットワークや港湾物流拠点などの整備）（県総合戦略）</li><li>・働く場の確保（市総合計画）</li></ul> <p>◆市民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・働く場所（工場・事業所）については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li><li>・森田地区及び稲垣地区では、地区の役割として「工業・産業など、周辺地域からの雇用の場を担う地区」との意見が多くなっています。</li><li>・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「事務所・店舗・工場などを増大させ、働ける場所を増やす」との意見が多くあります。</li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <p>◆雇用の促進、産業の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・雇用の確保・拡大に向けた取り組みとして、新たな産業を誘致する受け皿となる産業業務系の用地を創出する必要があります。</li></ul> <p>◆地域資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・津軽自動車道のICが整備されている立地の優位性を活かした企業誘致を進める必要があります。</li><li>・広大な自然地、農地、海岸湖岸等の地域特性を生かした産業の拡大・創造を図るとともに、新たな起業を支援する基盤づくりが必要です。</li></ul> |

## (5) 農地・山林・自然地

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <p>◆今日の社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全に対する意識が高まっています。</li> </ul> <p>◆本市の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次産業就業者、農家総数の減少</li> <li>・経営耕地面積の長期的な減少傾向</li> </ul> <p>◆上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化を抑制すべき区域を明確にするとともに、適切な土地利用規制を図り、優良な農地や自然環境の保全（県都市マス）</li> <li>・本県を代表する穀倉地帯である平野部の農地の保全（県都市マス）</li> <li>・圏域経済の基盤となる肥沃な農地の保全を図るため、社会情勢の変化などに伴う土地需要の変化が予想された場合、都市計画区域の拡大を検討するとともに、農業振興に係る諸制度の活用を推進（県都市マス）</li> <li>・広大な田園地帯、岩木川をはじめとする豊かな自然環境・自然眺望の維持に努め、自然環境が身近に感じられる自然と共生する都市づくり（区域マス）</li> <li>・「6次産業化」を展開するため、基幹産業の農業の高度化や生産基盤の強化（区域マス）</li> <li>・市街地周辺の農地は、良好な生産環境や田園景観等の保全（区域マス）</li> <li>・アグリ分野の持続的成長（県総合戦略）</li> <li>・生業として魅力ある農林水産業の推進（市総合計画）</li> <li>・農業の持続可能性、付加価値を高める（市総合戦略）</li> <li>・農林水産業の振興（新市建設）</li> <li>・農業振興による地域環境の保全と整備（市環境）</li> </ul> <p>◆市民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山林・農地・河川などの自然環境が保全されていることについての満足度が、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。</li> <li>・つがる市のイメージとして、「豊かな自然環境や田園環境が保全されるまち」や「農林・畜産・漁業が盛んなまち」との意見が多くあります。</li> <li>・稲垣地区及び車力地区では、地区の役割として「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」「漁業を中心とした水産物の生産を担う地区」との意見が多くなっています。</li> <li>・車力地区では、将来の地区のあり方として、「農林・畜産・漁業が盛んな地区」との意見が多くなっています。</li> <li>・稲垣地区及び車力地区では、将来の地区のあり方として「豊かな自然環境や田園環境が保全される地区」との意見が多くなっています。</li> </ul> |



| 課題   |
|--|
| <p>◆自然環境の保全</p> <p>・森林、水辺などの豊かな自然環境を適切に維持・保全していく必要があります。</p> <p>◆農地・田園環境の保全</p> <p>・つがる市を象徴する、津軽平野の広大な農地・田園環境を保全していく必要があります。</p> <p>◆第1次産業の活性化</p> <p>・農地、農産物などの地域産品を活かした6次産業化の確立や観光との連携の構築を図り、第1次産業の活性化に取り組んでいく必要があります。</p> |

## 2-2 都市施設

### (1) 道路

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・既存ストックの維持管理の適正化、長寿命化の推進</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・国道、主要地方道、一般県道等による幹線道路ネットワークの形成</li><li>・津軽自動車道つがる柏 IC まで整備完了、柏～浮田間の延伸計画</li><li>・都市計画道路は 8 路線が計画決定され、うち、2 路線が整備済み</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・骨格的な物流軸として、津軽自動車道、東西方向の国道 101 号、南北方向の国道 339 号を軸とした広域的な道路網の強化（県都市マス）</li><li>・地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備（県都市マス）</li><li>・木造地域の中心市街地を中心に、近隣市町や旧町村の中心地の拠点を機能的に結ぶ道路ネットワーク、誰にでも利用しやすい公共交通ネットワークの充実・強化（区域マス）</li><li>・6 次産業や広域観光ネットワークを支えるため、津軽自動車道等の骨格的な交通網の整備（区域マス）</li><li>・安全で快適な道路ネットワークの整備（市総合計画）</li><li>・道路ネットワークの整備促進（新市建設）</li><li>・安全な歩行空間の整備率の向上（交通安全対策）</li><li>・災害・雪害等に備えたインフラの整備・補修および歩道整備等による歩行空間の確保により、地域の生活空間の安全の確保（インフラ整備）</li><li>・各種点検・計画（定期点検、橋梁長寿命化計画等）における対策必要箇所の対策実施率を向上（道路施設維持管理・更新）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・幹線道路の整備についての満足度は、（土地利用や建物等に関する他の項目と比較して）高くなっています。</li><li>・歩道の整備については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li><li>・柏地区では、将来の地区のあり方として「道路や歩道が充実した地区」との意見が多くなっています。</li><li>・歩道が整備されていない通学路が多いとの意見があります。（自由意見）</li></ul></li></ul> |



## 課題

### ◆安全安心な道路づくり

- ・安全で快適な生活のため、歩行空間の確保や雪に強い道路づくりを進めていく必要があります。
- ・融雪施設など、住民ニーズに対応した施設を誘致していく必要があります。

### ◆都市計画道路の整備促進と見直し検討

- ・未着手となっている都市計画道路は、計画的な整備を進めていく一方で、整備の必要性などを再検討し、見直しを行う必要があります。

### ◆新たなネットワークの構築

- ・津軽自動車道の延伸を早期に実現するよう、関係機関との調整を進める必要があります。

### ◆インフラの維持

- ・既存ストックの維持・長寿命化が必要です。

## (2) 公共交通

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <p>◆今日の社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・コンパクト・プラス・ネットワークを実現する公共交通ネットワークの形成</li></ul> <p>◆本市の現況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・JR 五能線木造駅、陸奥森田駅の乗車人員の長期的な減少傾向</li><li>・民間による 6 路線のバスの運行</li></ul> <p>◆上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活を支える鉄道や路線バスなどの公共交通の充実と維持・確保を図り、過度に自動車に依存しないまちの形成（県都市マス）</li><li>・生活の足となる JR 五能線の維持（県都市マス）</li><li>・地域社会の高齢化や冬季の運行の安定性に配慮した公共交通網の維持や交通施設の整備（県都市マス）</li><li>・木造地域の中心市街地を中心に、近隣市町や旧町村の中心地の拠点を機能的に結ぶ道路ネットワーク、誰にでも利用しやすい公共交通ネットワークの充実・強化（区域マス）</li><li>・公共交通システムの構築（市総合計画）</li><li>・公共交通機関の機能充実（新市建設）</li><li>・バス事業の再編成（新市建設）</li></ul> <p>◆市民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・路線バスや鉄道については、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li><li>・木造地区、稲垣地区及び車力地区では、「交通の利便性が良い」との意見が少なくなっています。</li><li>・森田地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「公共交通を充実させ、自動車に頼らない交通手段を便利にする」との意見が多くなっています。</li><li>・電車・バスの増便や、それらに代わる移動手段により、高齢者が自動車を利用しなくても移動できるような環境の整備を希望する意見があります。（自由回答）</li></ul> |



| 課題   |
|--|
| <p>◆公共交通機関の維持と利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活の足となるとともに、コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を構築するよう、公共交通機関の維持と利便性の向上を図っていく必要があります。</li><li>・高齢者など、誰もが利用しやすい移動手段となるよう、設備や運行システムなどの更新を交通事業者とともに検討する必要があります。</li></ul> |

### (3) 公園・緑地

| 現況・計画の位置づけ等   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・防災面に配慮した機能や設備、需要が拡大しています。</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・都市計画公園 5 箇所のうち 4 箇所が整備済み</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・魅力ある住環境・公園等の整備（市総合計画）</li><li>・公園・緑地の整備（市環境）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・公園の整備については、市民ニーズを再確認するとともに、満足度を高める改善が必要又は、施策のあり方を見直す必要があります。（重要度低・満足度低）</li><li>・柏地区では、将来の地区のあり方として、「公園や緑地が充実した地区」との意見が多くなっています。</li><li>・柏地区では、公園や広場が必要との意見が多くなっています。</li><li>・公園が少ない、公園に遊具の設置・充実を希望するなどの意見があります。（自由意見）</li></ul></li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆公園・緑地等の適正配置と管理<ul style="list-style-type: none"><li>・都市計画公園の整備を引き続き進めていく必要があります。</li><li>・地域のニーズに見合った身近な公園を計画的に確保する必要があります。</li><li>・自然災害に備え、公園の役割や機能を見直していく必要があります。</li></ul></li></ul> |

#### (4) 河川・下水道

| 現況・計画の位置づけ等   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・大規模な風水害が全国的に頻発しています。避難体制の構築など、災害時の対応に対する意識が高まっています。</li><li>・公共施設の総合的な維持管理に関する計画が策定されています。</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・公共下水道事業の普及率は 30.5%</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・岩木川の水辺環境の保全と親水性の向上（県都市マス）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・下水道の整備については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（満足度高・重要度高）</li><li>・車力地区では、暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として「水害、土砂災害などの防災に対する安心感を高める」との意見が多くなっています。</li></ul></li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆河川等の維持<ul style="list-style-type: none"><li>・河川の水辺環境や周辺の自然環境を維持していく必要があります。</li><li>・水害対策の強化を図っていく必要があります。</li></ul></li><li>◆下水道の整備推進と維持管理<ul style="list-style-type: none"><li>・衛生的な市街地を形成するよう、公共下水道事業による普及率を高めていく必要があります。</li><li>・既存の下水道施設を適正に維持管理し、長寿命化を図っていく必要があります。</li></ul></li></ul> |

## (5) 公共公益施設・生活利便施設

### 現況・計画の位置づけ等

#### ◆今日の社会情勢

- ・配置や維持管理など、公共公益施設の総合的なあり方が検討されています。

#### ◆本市の現況

- ・小学校7校、中学校5校、高校1校があります。
- ・通学の流出入人口は減少傾向にあります。

#### ◆上位関連計画

- ・広域圏において、五所川原市を補完する都市機能の維持（県都市マス）
- ・柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の中心地を地域拠点と位置づけ、行政窓口等の支所機能、医療福祉・教育文化など、地域の生活に必要な機能の集積（区域マス）
- ・健康づくりの推進、生きがいづくり・介護予防の推進、安心な医療体制の充実（市総合計画）
- ・多様な主体による地域福祉の推進、安心して暮らせる高齢者福祉の充実、きめ細かな障害者・児施策の充実（市総合計画）
- ・学校教育の充実、生涯学習活動の推進、地域文化の振興、スポーツ・文化活動による交流の推進（新市建設）
- ・地域福祉ネットワークの構築、高齢者・障害者（児）福祉の充実、子育て支援体制の充実、健康づくりの推進、地域医療体制の充実と高度・救急医療の強化（新市建設）
- ・公立学校校舎の整備、「図書館等総合情報センター（仮称）」の整備、「つがる匠の館（仮称）」の整備（廃校利用）、運動公園の整備（新市建設）

#### ◆市民アンケート

- ・公共施設のバリアフリー化については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（満足度高・重要度高）
- ・体育館などスポーツ施設及び図書館など文化施設については、現在の満足度の水準を維持又は、施策の重要性認識を含め改善する必要があります。（重要度低・満足度高）
- ・高齢者、障害者等の施設及び保育園等の子育て支援施設については、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（重要度高・満足度高）
- ・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「高齢者や障害者、子育て世代など誰でも不自由なく暮らせるための施設を充実させる」との意見が多くあります。
- ・お住まいの地区の周辺に必要な施設として、「消・融雪施設」（特に森田地区）、「食料品など日常的な買物をする店舗」（特に車力地区、稲垣地区）、「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」（特に森田地区、柏地区、稲垣地区）が多くなっています。



### 課題

#### ◆適正配置

- ・中心市街地や地域の拠点などへ施設等の適正配置を図る必要があります。
- ・廃校などの既存ストックを有効に活用していく必要があります。

#### ◆住民ニーズへの対応

- ・高齢者や障害者等が不自由なく暮らせるよう、医療・福祉施設を適正配置し、健康づくりを推進していく必要があります。

## 2-3 景観形成

### (1) 自然景観

| 現況・計画の位置づけ等   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・環境問題への意識が高まり、地球規模での取り組みが進められています。</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・都市計画区域における自然的土地利用が7割を占めています。</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・津軽平野と岩木山が織り成す眺望景観を保全する沿道土地利用の規制・誘導（県都市マス）</li><li>・圏域を象徴する自然美豊かな景観として、十三湖、変化に富んだ海岸線などの保全（県都市マス）</li><li>・市街地周辺の農地は、良好な生産環境や田園景観等の保全（区域マス）</li><li>・景観の保全と形成（市環境）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・つがる市の良いところとして、「自然や公園等の緑が豊かにある」との意見が多くなっています。</li><li>・稲垣地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「豊かな自然環境と田園景観を守っていく」との意見が多くなっています。</li><li>・豊かな自然環境を守っていききたい等の意見があります。（自由回答）</li></ul></li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆自然環境の維持保全<ul style="list-style-type: none"><li>・つがる市を象徴する平野部の田園地帯、農地内に共生する集落で構成される田園景観を保全していく必要があります。</li><li>・岩木川、十三湖、海岸、湿地帯などの水辺・緑の景観を保全していく必要があります。</li></ul></li></ul> |

## (2) まちなみ景観

| 現況・計画の位置づけ等   |
|---|
| <p>◆今日の社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活環境の質）の追究</li></ul> <p>◆本市の現況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然が豊かであり、農村風景が残っています。</li></ul> <p>◆上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市街地、集落地においては、生活に潤いを与える水辺・緑の空間の創出や景観を創造（区域マス）</li><li>・柏地区の国道101号及び（一）妙堂崎五所川原線沿道については、適切な商業系・工業系の土地利用の規制・誘導を図るとともに、良好な沿道景観の形成（区域マス）</li></ul> <p>◆市民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・稲垣地区では、つがる市のよいところとして、「良好なまちなみ」との意見が多くなっています。</li><li>・木造地区では、将来の地区のあり方として、「閑静な住環境のある地区」との意見が多くなっています。</li><li>・ベンチのある散歩コースの設置によるきれいで住みよいまちなみを希望する意見があります。（自由意見）</li></ul> |



| 課題   |
|--|
| <p>◆幹線道路沿道のまちなみ景観の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幹線道路周辺の環境と調和した魅力ある商業地を形成するために、幹線道路沿道のまちなみの誘導が必要です。</li></ul> <p>◆景観に配慮した公共空間の整備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活環境の質を高めるため、景観に配慮した公共空間の整備が必要です。</li></ul> |

## 2-4 その他

### (1) 防災関連

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆今日の社会情勢<ul style="list-style-type: none"><li>・地震、風水害など自然災害に対する意識の高まり</li></ul></li><li>◆本市の現況<ul style="list-style-type: none"><li>・指定避難所兼緊急避難場所が 88 箇所、緊急避難場所が 23 箇所、福祉避難所が 11 箇所あります。</li></ul></li><li>◆上位関連計画<ul style="list-style-type: none"><li>・防災対策の強化（市総合計画）</li><li>・空き家の利活用の促進と適正管理などにより、持続可能な環境づくりの推進（県基本計画）</li><li>・防災インフラの整備等のハード面と、県民の自助・共助の取組の促進などのソフト面の対策の総合的推進（県総合戦略）</li><li>・地域の生活空間の安全の確保（社会資本総合整備計画）</li></ul></li><li>◆市民アンケート<ul style="list-style-type: none"><li>・防災施設や災害時の避難路、避難施設の整備について、現在の満足度の水準を維持する必要があります。（重要度高・満足度高）</li><li>・稲垣地区では、つがる市の魅力を高めるために必要な取組として、「避難場所、避難路の整備や建築物の耐震化などの防災まちづくりを進める」との意見が多くなっています。</li><li>・将来の地区のあり方として、「災害に強い地区」との意見が多くなっています。</li><li>・森田地区及び稲垣地区では、地区周辺に必要な施設として、「防災公園や消防署などの防災施設」との意見が多くなっています。</li><li>・車力地区では、暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「水害、土砂災害などの防災に対する安心感を高める」との意見が多くなっています。</li></ul></li></ul> |



| 課題  |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>◆都市防災の推進<ul style="list-style-type: none"><li>・災害対策機能を備えた防災活動の拠点となる防災拠点施設や、安全な避難場所の確保、建築物の耐震化などの都市防災の強化による安全・安心なまちづくりが必要です。</li></ul></li><li>◆空き家の解消、適正管理の促進<ul style="list-style-type: none"><li>・増加傾向にある空き家の適切な管理及び空き家の解消を促進する必要があります。</li></ul></li></ul> |

## (2) 歴史文化・観光

| 現況・計画の位置づけ等  |
|--|
| <p>◆今日の社会情勢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保護と一体となった歴史的風致の維持及び向上</li> </ul> <p>◆本市の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財は、木造地区に 10 件、森田地区に 5 件、柏地区に 1 件、稲垣地区に 6 件、車力地区に 1 件が分布</li> <li>・広域的な観光・交流施設として、つがる地球村公園が整備</li> </ul> <p>◆上位関連計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史文化遺産や豊かな自然・景観資源を有機的に結びつけ、観光・交流ネットワークの形成（区域マス）</li> <li>・世界から選ばれる「あおもりツーリズム」の推進（県総合戦略）</li> <li>・魅力があふれる観光の推進（市総合計画）</li> <li>・観光資源を発掘し、PR（市総合戦略）</li> <li>・地域特性を活かした観光開発（新市建設）</li> <li>・歴史的遺産・文化財の保全・整備（新市建設）</li> <li>・自然風景や歴史文化遺産、地域産業を活かした観光開発（市環境）</li> </ul> <p>◆市民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設の整備について、施策の重点化や改善を検討し、満足度を高める必要があります。（重要度高・満足度低）</li> <li>・暮らしやすいつがる市をつくるために必要な取組として、「魅力ある観光やイベントなどを充実させて、たくさんの人を集め、賑わいをつくる」との意見があります。</li> <li>・宿泊先も考慮したイベント等の開催を希望する意見があります。（自由意見）</li> <li>・観光客を呼び込み、また来たくなるようなまちを目指してほしいとの意見があります。（自由意見）</li> </ul> |



| 課題   |
|--|
| <p>◆歴史的遺産・文化財の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人から受け継いできた歴史的遺産・文化財を保全し、活用していく必要があります。</li> </ul> <p>◆観光・交流ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区に分布する文化財や公園などの情報を効果的に発信し、広域連携による観光・交流のネットワークを形成する必要があります。</li> </ul> |

## 第3章 都市の将来像

### 3-1 まちづくりの基本的な考え方

まちづくりの理念・目標は、本市の目指すべき都市の将来像やまちづくりの方向性等の理念等を文言で表現します。

まちづくりの理念・目標の設定の流れは次のとおりであり、市民懇談会やアンケート調査による市民意見、市や県のまちづくりに関する上位関連計画等を踏まえるとともに整合性を考慮して定められます。

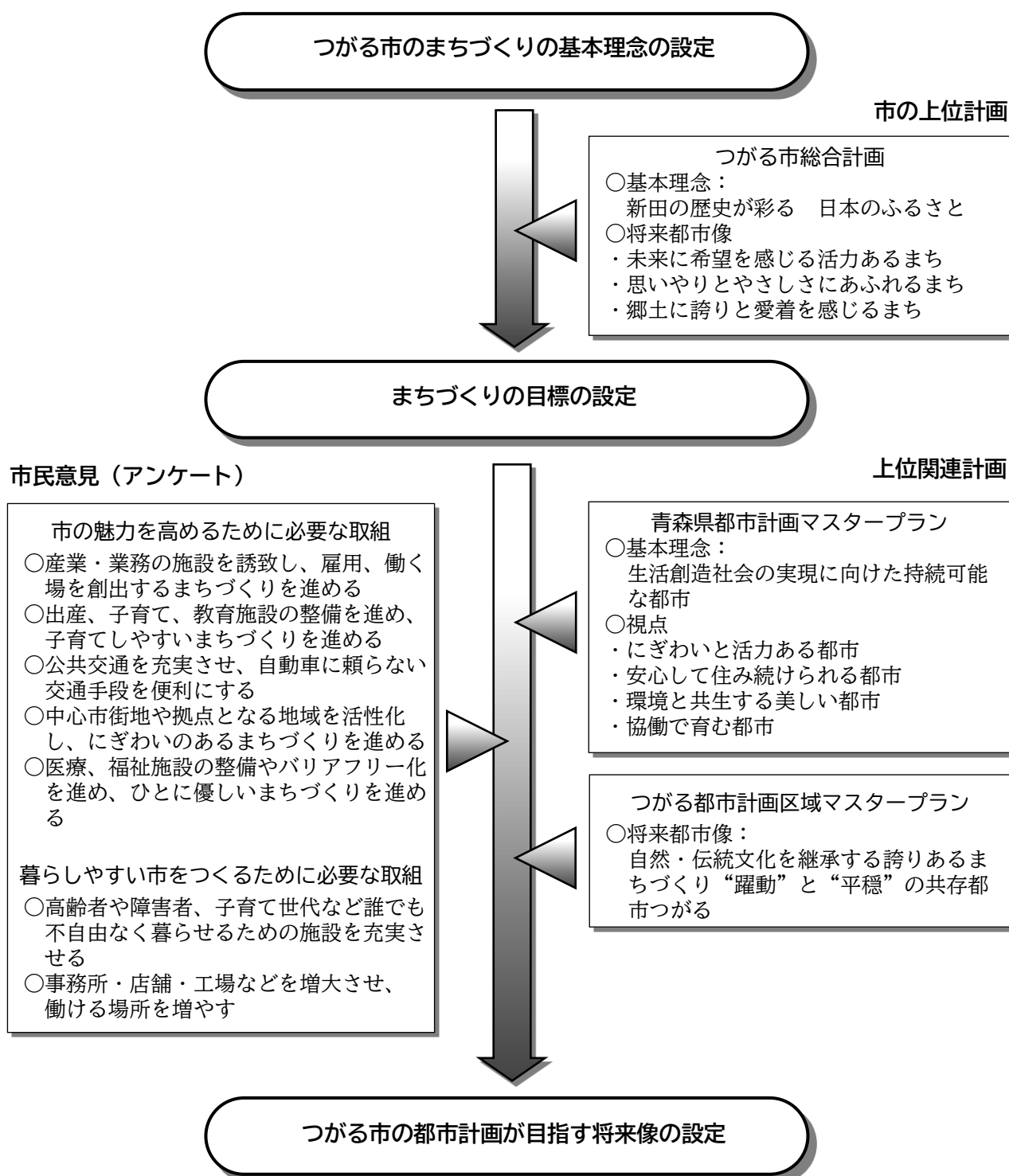


図 まちづくりの理念・目標の設定の流れ

## 3-2 まちづくりの基本理念

まちづくりの理念は、つがる市のまちづくりの上位計画である「つがる市総合計画」において定められた基本理念『新田の歴史が彩る 日本のふるさと』を共有していくものとします。

今後のまちづくりを進めていく上において、行政と市民がまちづくりの将来像を共有していくことが重要です。「つがる市総合計画」は、目指すべき将来像の実現に向けて取り組むべき施策の方向性や、各分野における個別計画に方向性を示す指針であるとともに、青森県基本計画をはじめ、国・県等が進める政策・施策との整合性を図った計画であることから、その将来のまちづくりの理念を本都市計画マスタープランにおいても踏襲していくものです。

### ■基本理念の考え方（つがる市総合計画より抜粋）

#### 《つがる市の地域特性》

本市は、豊かな自然に恵まれている地域であり、南方に岩木山を望む津軽平野の田園風景はどこか懐かしく、日本の原風景を感じさせます。その風景は藩政時代の新田開発事業により人々が創り出した歴史の積み重ねであり、この稲作を中心とした歴史が現在の本市の産業や文化、住民の気質の礎となりました。

#### 《社会背景》

近年、高度な技術化と情報化に伴い、社会環境や日常生活が急速に変化する一方で、豊かな自然や田園風景、伝統文化に癒しを感じる人々や、より安全で健康な食生活を求める人々が増えるなど、価値の指標が見直される時代となっています。

#### 《基本理念の考え方》

本市においては、人口減少と高齢化が進むなかで個性豊かで持続可能なまちづくりを目指すために、「本市の強みである農業や豊かな自然を生かした観光などの活性化」、「人びとが互いに支え合う地域づくり」、「郷土に愛着や誇りを感じられるまちづくり」を基本とし、地域創生を推進していく必要があります。

### 【まちづくりの基本理念（つがる市総合計画）】 『新田の歴史が彩る 日本のふるさと』

と設定し、つがる市のまちづくりを推進していきます。

#### 《まちづくりの基本理念の共有》

##### つがる市総合計画

- つがる市の市政に関わる最上位の計画
- 都市計画マスタープランの上位計画

理念の共有

##### 本都市計画マスタープラン

- つがる市総合計画を踏まえて、まちづくり・都市計画の分野を受け持つ計画

### 3-3 将来まちづくりの目標

本市のまちづくりの目標を次の通り設定します。

| 【まちづくりの目標】 |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 都市構造       | 地域の実情に即した利便性の高い多極ネットワーク型のまちづくりを目指します |
| 生活         | 安全で、安心して暮らせる生活空間づくりを目指します            |
| 歴史・文化      | 歴史・文化が維持・継承されるまちづくりを目指します            |
| 自然         | 豊かな自然・田園環境の保全、自然と共生する生活環境の維持を目指します   |

#### (1) 地域の実情に即した利便性の高い多極ネットワーク型のまちづくりを目指します

- それぞれの市街地、集落地の規模に応じた生活・商業業務・行政等の様々な都市活動に必要な機能が集約した拠点を結び、子どもから高齢者までの全ての年代に優しく、環境負荷の低減（脱炭素社会）にも配慮した多極ネットワーク型のまちづくりを目指します。
- 中心市街地と地域拠点、地域拠点相互を機能的に連携する、誰もが気軽に安心して利用できる公共交通システムの構築や安全で快適な道路ネットワークの整備等により、利便性の確保と人々の活発な交流が展開されるまちづくりを目指します。

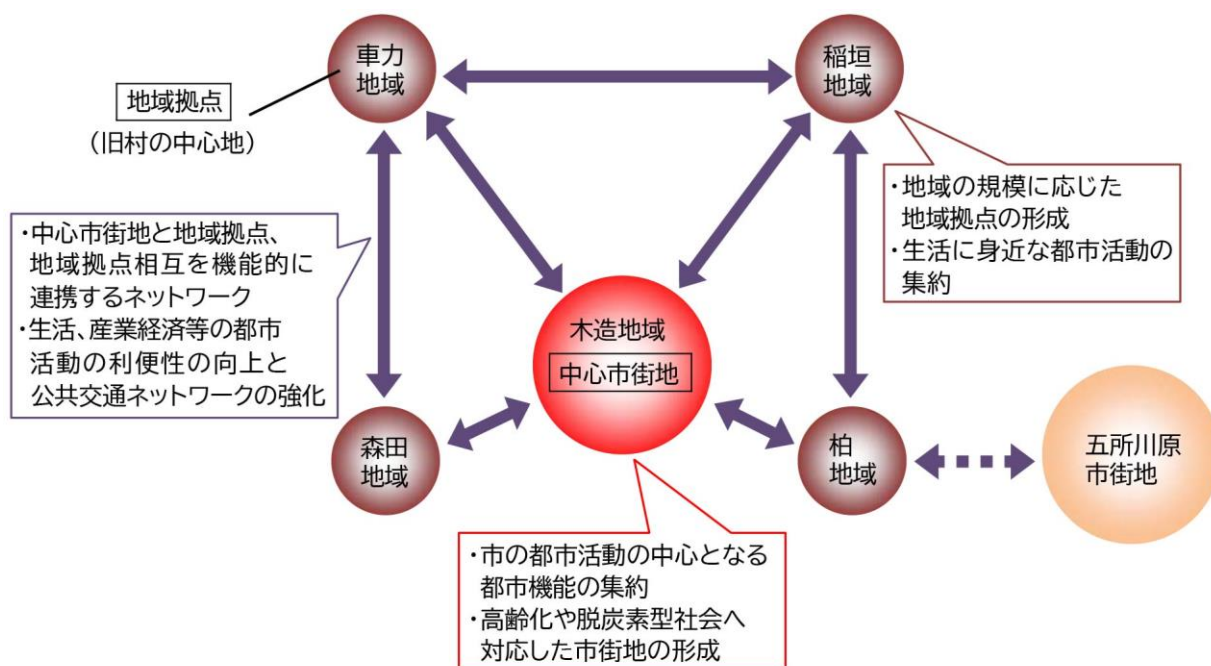


図 多極ネットワーク型都市構造の概念

## (2) 安全で、安心して暮らせる生活空間づくりを目指します

- 人口減少や少子高齢化、過疎化、社会インフラの老朽化などに対応した安全・安心な住環境づくり、都市施設の改善を目指します。
- 雪害のための道路の改善や不規則な道路ネットワークの改善を図り、生活利便性の向上や、災害・犯罪に強い住環境づくりを目指します。
- 子育て世代の交流や高齢者等の生きがいづくり、災害に備えた地域住民同士の見守りや支え合いなど、地域住民等が支え合う地域コミュニティの維持に努めます。

## (3) 歴史・文化が維持・継承されるまちづくりを目指します

- 長い年月をかけて現在に継承されてきた各地域に分布している歴史・文化資源を維持・継承し、まちづくりと共存していくことを目指します。
- 地域独自の観光資源を活用することにより滞在コンテンツの充実を図り、市内に分布している魅力ある歴史・文化資源を有機的に結びつけた観光ネットワークを強化します。

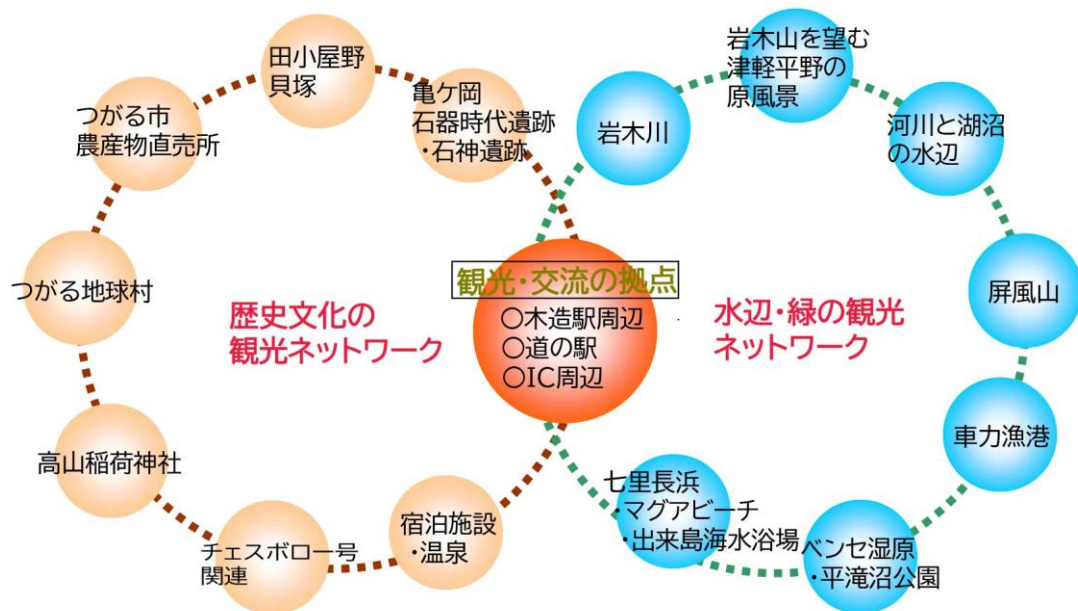


図 観光ネットワークの概念

#### (4) 豊かな自然・田園環境の保全、自然と共生する生活環境の維持を目指します

- つがる市を象徴する広大な田園地帯、岩木川をはじめとする水辺等の豊かな自然環境・自然眺望の維持に努め、かけがえのない共有の財産を次世代に継承していくとともに、自然環境が身近に感じることのできる自然と共生するまちづくりを目指します。
- 市街地、集落地においては、生活に潤いを与える水辺・緑の空間の創出や景観を創造し、居住・生活環境と自然環境が共生する地域づくりを目指します。
- 豊かな自然環境を次世代に継承していくため、「都市的土地利用を図る区域」と「自然や農地、山林を保全していく区域」を区分し、位置づけの明確化を目指します。「自然や農地、山林を保全していく区域」においては、無秩序な都市的土地利用の拡大の抑制を誘導していきます。

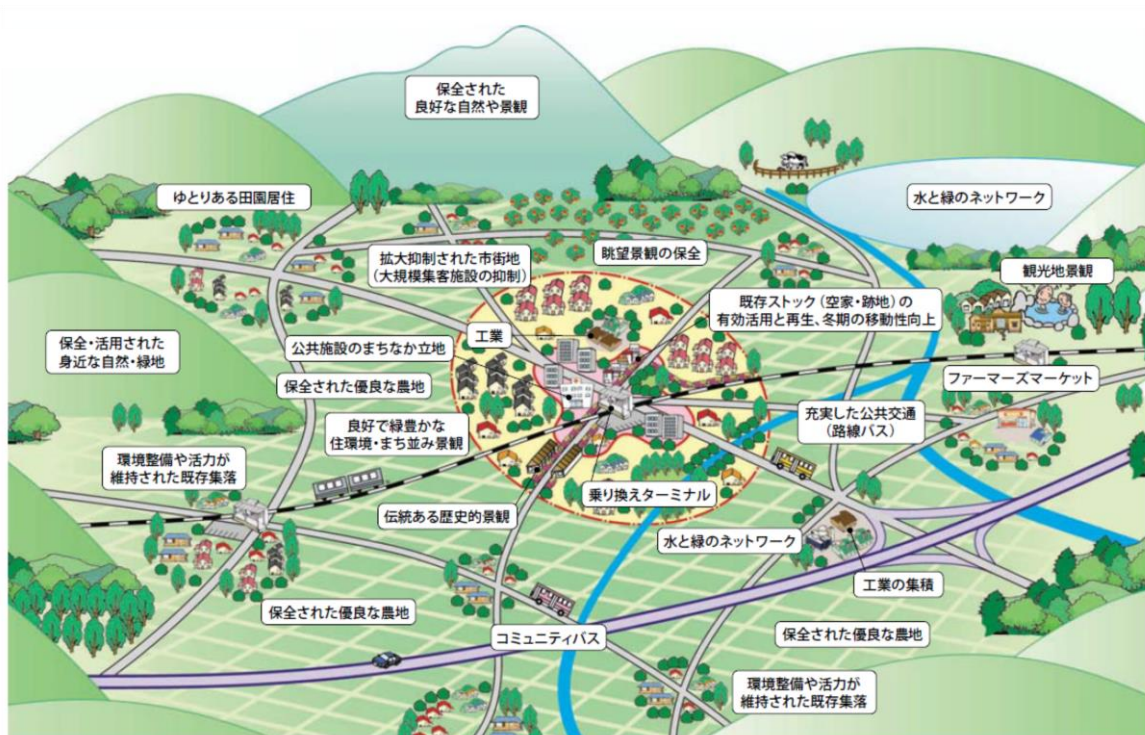


図 土地利用区分のイメージ

出典：青森県都市計画マスタープラン 平成 22 年 6 月 青森県県土整備部都市計画課

### 3-4 まちづくりのテーマ

まちづくりの基本テーマは、まちづくりの基本理念『新田の歴史が彩る 日本のふるさと』を踏まえて、つがる市の「都市計画が目指す将来像」を示すものとして定めます。

【まちづくりの基本テーマ（つがる市の都市計画が目指す将来像）】

#### 自然・伝統文化を継承する 誇りあるまちづくり “躍動”と“平穏”の共存都市 つがる



##### 【基本テーマ設定の考え方】

###### ○自然・伝統文化の継承：地域固有の資源の保全と活用

広大な田園地帯、屏風山地帯等の起伏に富んだ自然環境、岩木山を望む津軽平野の原風景、縄文遺跡等の歴史・伝統文化、優れた農産物等、つがる市には恵まれた固有の地域資源があります。これらの地域固有の資源は、維持・保全し未来へ継承していくことはもとより、本市のまちづくりの原点となるものであり、まちづくりの背景に「自然・伝統文化」を活用していくことをイメージします。

###### ○誇りあるまち：愛着のある地域づくりとコミュニティの継承

地域の気候・風土、歴史・文化を誇りに思えるまちづくり、人と人とのふれあい・長い間培われてきた地域コミュニティが継承されていくまちづくり、地域づくり、人づくりをイメージします。

###### ○躍動のまちづくり：賑わい・活力・交流の促進

商業地の賑わい、基幹産業である農林水産業の活性化と特産品開発等による発展、地域資源を活かした観光の促進等により、地域固有の資源や特産品のつがるブランドを有効活用していく躍動するまちづくりをイメージします。

また、5つの町村が合併して誕生した本市では、固有の生活・産業・歴史文化が集約されている各地域があり、各地域の個性を活かすとともに地域間での様々なネットワーク連携の強化による躍動感あるネットワーク型まちづくりをイメージします。

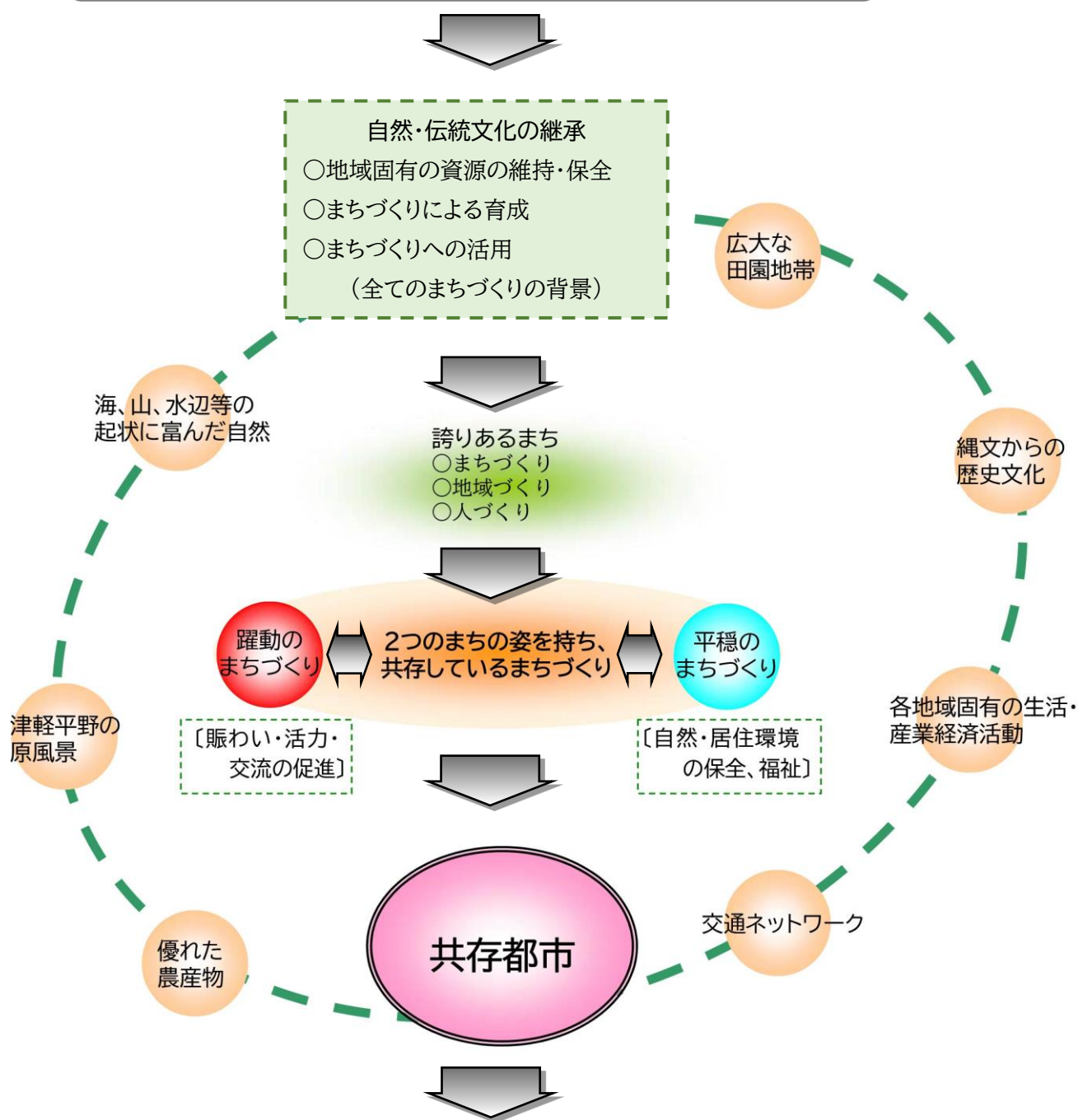
###### ○平穏のまちづくり：自然・居住環境の保全と福祉への配慮

海・山・水辺・平野等の豊かな自然環境を維持し未来へ継承していくとともに、自然環境・景観と共生する閑静な居住環境、高齢者や子育て世代等の福祉環境にも配慮した、誰もが快適に暮らせる心地よい生活空間を備えた「日本のふるさと」となる平和で穏やかなまちづくりをイメージします。

###### ○共存都市

「躍動」的な産業・観光・交流等と「平穏」的な自然環境・居住環境・福祉等の2つのまちの姿を持ち、その2つのまちの姿が対立することなく共存していくまちづくりをイメージします。

【まちづくりの基本理念（つがる市総合計画と共有）】  
**新田の歴史が彩る 日本のふるさと**



《つがる市の都市計画が目指す将来像》

【まちづくりの基本テーマ】  
**自然・伝統文化を継承する 誇りあるまちづくり**  
**“躍動”と“平穏”の共存都市 つがる**

## 3-5 将来フレームの設定

### 3-5-1 人口フレーム

本市の将来人口については、令和2年（2020年）の国勢調査に基づく国立社会保障・人口問題研究所の最新の推計人口（令和5年（2023年）公表）において、令和27年（2045年）に17,557人となると見込まれています。

一方、「つがる市総合計画」では、「つがる市人口ビジョン 改訂版」における人口推計シミュレーションの結果を踏まえ、目指すべき将来の方向性に即した取組を推進することにより、令和27年（2045年）に23,000人程度、令和42年（2060年）に20,000人程度の維持を目指すと定めています。

本都市計画マスタープランにおいては「つがる市総合計画」との整合を図り、おおむね20年後の令和27年（2045年）の将来人口を23,000人と設定します。

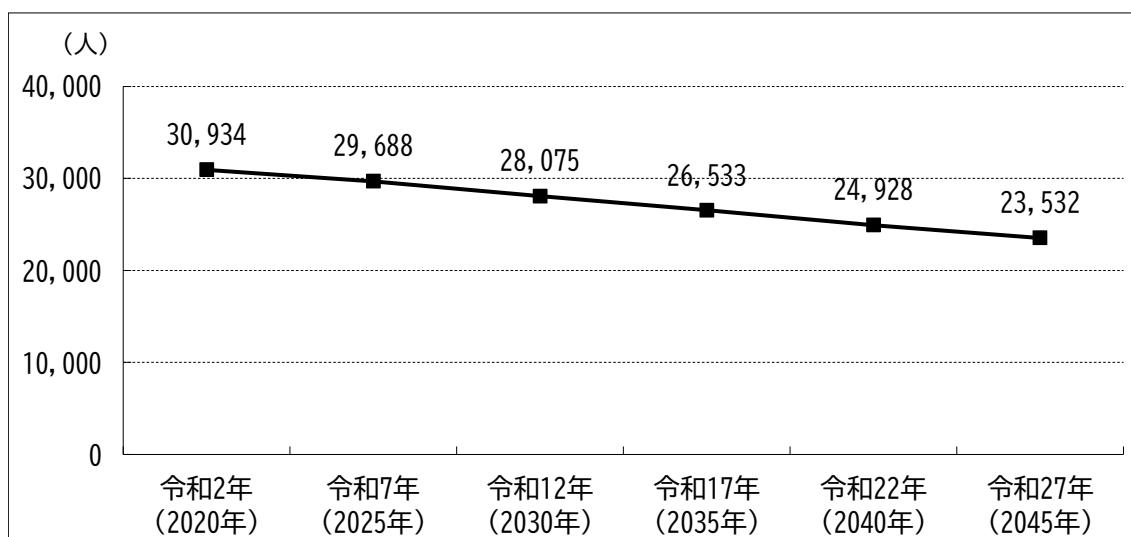


図 つがる市の将来人口

### 3-5-2 世帯数フレーム

#### (1) 推計方法と推計結果

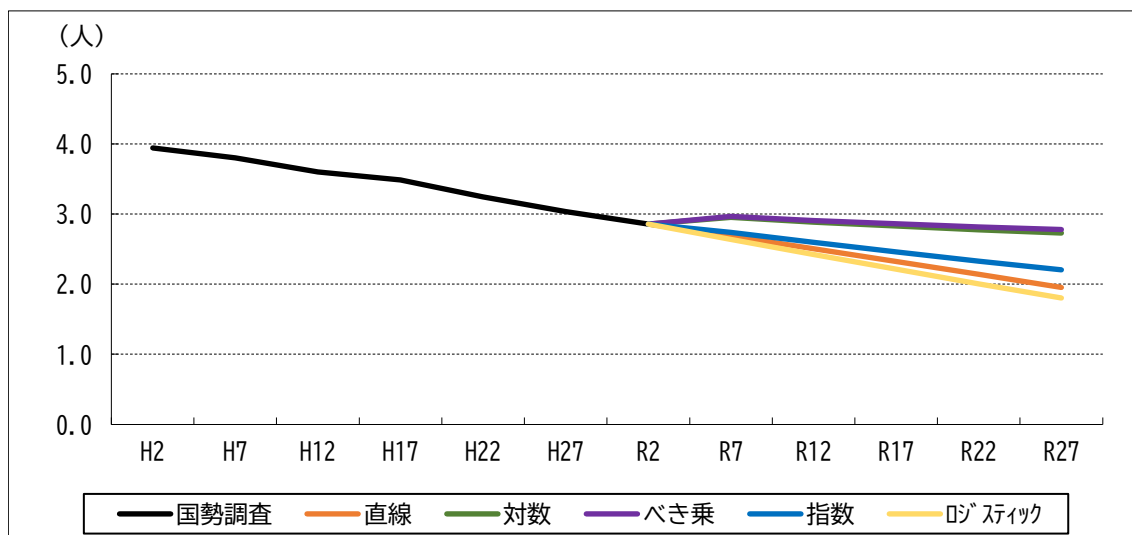
将来の世帯人員を平成2年（1990年）から令和2年（2020年）の国勢調査をもとに各種推計式により推計値を算出しました。

決定係数が高い推計式の直線式、指数式、ロジスティック式により算出した値の平均値を推計値としました。

図表 将来世帯人員の推計結果

(単位：人/世帯)

|        | 年度  | 国勢調査   | 直線   | 対数   | べき乗  | 指数          | ロジスティック | 推計値<br>(確定値) |
|--------|-----|--|------|------|------|-------------|---------|--------------|
| 実績値    | H2  | 3.94   |      |      |      |             |         |              |
|        | H7  | 3.80   |      |      |      |             |         |              |
|        | H12 | 3.60   |      |      |      |             |         |              |
|        | H17 | 3.48   |      |      |      |             |         |              |
|        | H22 | 3.25   |      |      |      |             |         |              |
|        | H27 | 3.03   |      |      |      |             |         |              |
|        | R2  | 2.86   |      |      |      |             |         |              |
| 推計値    | R7  |  | 2.69 | 2.95 | 2.96 | 2.74        | 2.64    | 2.69         |
|        | R12 |  | 2.51 | 2.89 | 2.91 | 2.59        | 2.42    | 2.51         |
|        | R17 |  | 2.32 | 2.83 | 2.86 | 2.46        | 2.21    | 2.33         |
|        | R22 |  | 2.14 | 2.78 | 2.82 | 2.33        | 2.00    | 2.16         |
|        | R27 |  | 1.95 | 2.73 | 2.78 | 2.20        | 1.80    | 1.99         |
| 推計式No. |     | 推計式及び係数  |      |      |      | 精度          |         | 採用           |
| 1      |     | 関数式：直線 $y = ax + b$<br>係数 a -0.18<br>定数項 b 4.16                                    |      |      |      | 決定係数 0.9942 |         | ○            |
| 2      |     | 関数式：対数 $y = a \log x + b$<br>係数 a -0.55<br>定数項 b 4.09                              |      |      |      | 決定係数 0.8942 |         |              |
| 3      |     | 関数式：べき乗 $y = ax^b$<br>係数 a -0.16<br>定数項 b 4.14                                     |      |      |      | 決定係数 0.8677 |         |              |
| 4      |     | 関数式：指数 $y = ab^x$<br>係数 a 0.95<br>定数項 b 4.23                                       |      |      |      | 決定係数 0.9877 |         | ○            |
| 5      |     | 関数式：ロジスティック $y = k / (1 + a \exp^{-bx})$<br>係数 a -0.17<br>定数項 b 0.24<br>上限値 k 5.06 |      |      |      | 決定係数 0.9972 |         | ○            |



## (2) 世帯数フレームの設定の考え方

○前述にて求められた人口と世帯人員の推計値を用いて将来世帯数を算出します。

○推計結果によると目標年次（令和 27 年（2045 年））の将来世帯人員は、1.99 人/世帯となりました。

この推計結果を用いて、将来の世帯数（将来の人口÷将来の世帯人員）を設定します。

## (3) 目標年次（令和 27 年（2045 年））の将来世帯数

○目標年次の世帯数は、12,000 世帯を目指します。

### 3-5-3 産業フレーム

#### (1) 農業産出額

##### ①推計値の算出結果

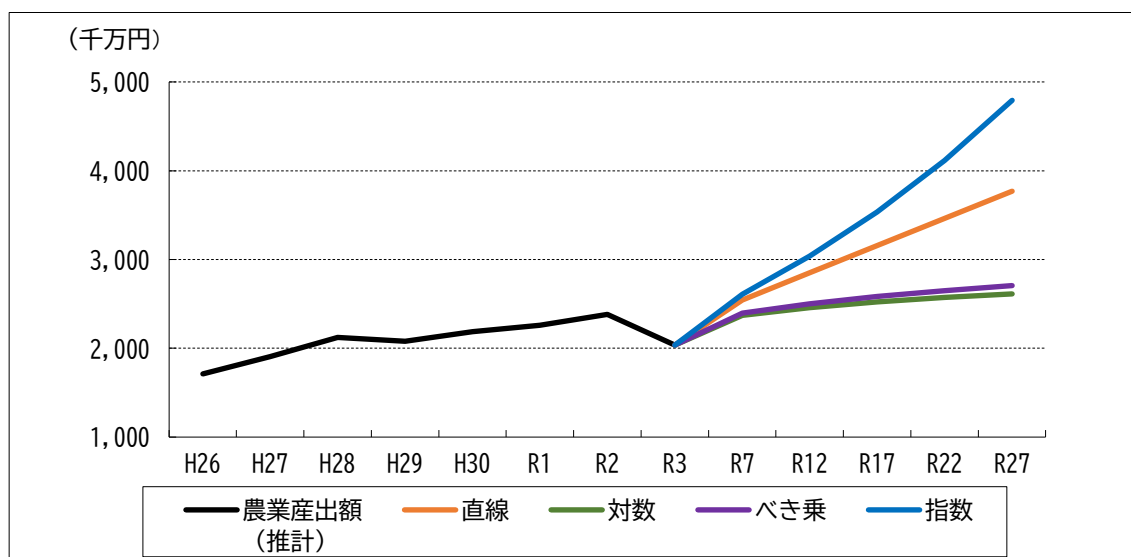
将来の農業産出額を平成 26 年（2014 年）から令和 3 年（2021 年）の市町村別農業産出額（推計）をもとに各種推計式により推計値を算出しました。

決定係数が高い推計式の対数式、べき乗式により算出した値の平均値を、推計値としました。

図表 将来農業産出額の推計結果

(単位：千万円)

|        | 年度  | 農業産出額<br>(推計)  | 直線    | 対数    | べき乗   | 指数     | 推計値<br>(確定値) |
|--------|-----|--|-------|-------|-------|--------|--------------|
|        | H26 | 1,713  |       |       |       |        |              |
|        | H27 | 1,908  |       |       |       |        |              |
|        | H28 | 2,121  |       |       |       |        |              |
|        | H29 | 2,081  |       |       |       |        |              |
|        | H30 | 2,187  |       |       |       |        |              |
|        | R1  | 2,259  |       |       |       |        |              |
|        | R2  | 2,381  |       |       |       |        |              |
|        | R3  | 2,036  |       |       |       |        |              |
| 推計値    | R7  |  | 2,545 | 2,371 | 2,396 | 2,609  | 2,384        |
|        | R12 |  | 2,852 | 2,457 | 2,502 | 3,037  | 2,479        |
|        | R17 |  | 3,158 | 2,521 | 2,583 | 3,536  | 2,552        |
|        | R22 |  | 3,464 | 2,571 | 2,649 | 4,117  | 2,610        |
|        | R27 |  | 3,770 | 2,613 | 2,705 | 4,793  | 2,659        |
| 推計式No. |     | 推計式及び係数  |       |       | 精度    |        | 採用           |
| 1      |     | 関数式：直線 $y = ax + b$<br>係数 $a$ 61.3<br>定数項 $b$ 1,810.1        |       |       | 決定係数  | 0.5224 |              |
| 2      |     | 関数式：対数 $y = a \log x + b$<br>係数 $a$ 246.4<br>定数項 $b$ 1,759.1 |       |       | 決定係数  | 0.6969 | ○            |
| 3      |     | 関数式：べき乗 $y = ax^b$<br>係数 $a$ 0.1<br>定数項 $b$ 1,762.7          |       |       | 決定係数  | 0.7190 | ○            |
| 4      |     | 関数式：指数 $y = ab^x$<br>係数 $a$ 1.03<br>定数項 $b$ 1,810.74         |       |       | 決定係数  | 0.5285 |              |



## ②将来農業産出額の設定の考え方

○本市の農業産出額は増加傾向にあります。

○本計画の上位計画である「つがる市総合計画」では、より一層の高付加価値化と生産性の向上に向けた基盤整備、地産地消及び販路拡大を支援し、競争力の高い農業の推進を図るとしています。

○そのための主要施策として、「生業として魅力ある農林水産業の推進」が掲げられており、下記の具体的な取り組みを掲げています。

- ・農業施設について、老朽化や故障の状況を勘案しつつ計画的な改修整備を推進します。
- ・ICT※を活用して品質向上や省力化、労働力不足解消等を目指すスマート農業を推進するため、GNSS※の基地局の整備、ロボット機械の導入を推進し、県や関係市町などと連携した実証実験や情報提供に努めます。
- ・農地中間管理機構を活用し、制度の利点を説明しながら一層の農地集積を図り、経営規模の拡大を進めます。
- ・複合経営については、TPP※や米政策の変換など厳しい農業情勢を踏まえ、販売単価の高い新規作物の導入等を促進し、農家所得の安定化を図ります。
- ・農産物のブランド力の向上に向け、認定農産物 8 品目のさらなる認知度及びイメージの向上を図るためのプロモーションを SNS※も活用するなどして推進します。
- ・認定農産物を使用した加工品の開発及びブランディングを推進し、本市の農産物における総合的なブランド価値の向上を図ります。

### 【用語解説】

ICT：Information and Communication Technology の略称で、情報通信技術を指します。

GNSS：Global Navigation Satellite System の略称です。人工衛星によって地上の現在位置を決定する衛星測位システムを NSS と呼びます。その中で、地球すべてを測位可能なものを GNSS と呼びます。

TPP：Trans-Pacific Partnership（環太平洋パートナーシップ協定）の略称で、モノの関税だけでなく、サービス・投資の自由化を進め、さらには知的財産、電子商取引、国有企業の規律、環境など、幅広い分野で 21 世紀型のルールを構築する経済連携協定のことです。

SNS：Social Networking Service の略称で、インターネット等を通じて人と人とのつながりの場を提供するサービスのことです。

## ③目標年次（令和 27 年（2045 年））の将来農業産出額

○主要施策の効果を見込んで、目標年次の農業産出額は、約 270 億円を目指します。

## (2) 製造品出荷額等

### ①推計値の算出結果

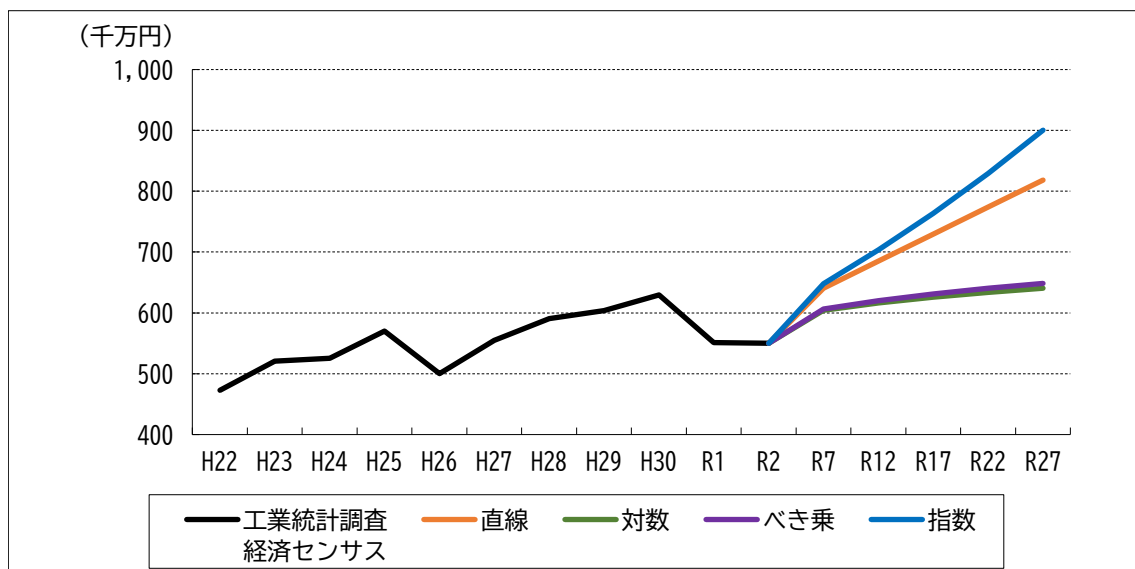
将来の製造品出荷額等を平成22年（2010年）から令和2年（2020年）の工業統計調査及び経済センサスをもとに各種推計式により推計値を算出しました。

決定係数が高い推計式の対数式、べき乗式により算出した値の平均値を、推計値としました。

図表 将来製造品出荷額等の推計結果

(単位：千万円)

|        | 年度  | 工業統計調査<br>経済センサス  | 直線  | 対数  | べき乗  | 指数     | 推計値<br>(確定値) |
|--------|-----|---|-----|-----|------|--------|--------------|
|        | H22 | 473   |     |     |      |        |              |
|        | H23 | 521   |     |     |      |        |              |
|        | H24 | 525   |     |     |      |        |              |
|        | H25 | 570   |     |     |      |        |              |
|        | H26 | 500   |     |     |      |        |              |
|        | H27 | 555   |     |     |      |        |              |
|        | H28 | 590   |     |     |      |        |              |
|        | H29 | 604   |     |     |      |        |              |
|        | H30 | 630   |     |     |      |        |              |
|        | R1  | 551   |     |     |      |        |              |
|        | R2  | 550   |     |     |      |        |              |
| 推計値    | R7  |   | 641 | 604 | 606  | 648    | 605          |
|        | R12 |   | 685 | 616 | 620  | 704    | 618          |
|        | R17 |   | 730 | 626 | 631  | 764    | 629          |
|        | R22 |   | 774 | 634 | 640  | 829    | 637          |
|        | R27 |   | 818 | 640 | 648  | 900    | 644          |
| 推計式No. |     | 推計式及び係数   |     |     | 精度   |        | 採用           |
| 1      |     | 関数式：直線 $y = ax + b$<br>係数 $a$ 8,889<br>定数項 $b$ 498,417        |     |     | 決定係数 | 0.4102 |              |
| 2      |     | 関数式：対数 $y = a \log x + b$<br>係数 $a$ 44,447<br>定数項 $b$ 481,028 |     |     | 決定係数 | 0.5177 | ○            |
| 3      |     | 関数式：べき乗 $y = ax^b$<br>係数 $a$ 0.1<br>定数項 $b$ 482,217           |     |     | 決定係数 | 0.5387 | ○            |
| 4      |     | 関数式：指数 $y = ab^x$<br>係数 $a$ 1.0<br>定数項 $b$ 498,388            |     |     | 決定係数 | 0.4213 |              |



## ②将来製造品出荷額等の設定の考え方

- 本市の製造品出荷額等は増加傾向にあります。
- 本計画の上位計画である「つがる市総合計画」では、既存企業への支援策を講じていくとともに、高品質な農産物や気候風土などの地域特性を生かせる分野で研究開発の促進に努めるとしています。
- そのための主要施策として、「地域特性を生かした商工業の推進」が掲げられており、下記の具体的な取り組みを掲げています。
  - ・県との連携による特別保証融資制度の実施や商工会との連携による経営支援、融資における利子補給等により、市内中小企業の経営支援と経営力の安定を図ります。
  - ・景気低迷により資金繰りが悪化している多くの中小企業の経営安定をサポートできるよう、各種制度の周知や交付要綱の見直し等を行います。
  - ・農商工連携を推進するために実施している食と産業まつりの内容充実を図るとともに、農商工連携による地域産品の開発を支援します。
- 物流拠点や交流拠点として機能する五所川原西バイパスの IC や津軽自動車道の一部を構成する柏浮田道路が整備されることから、利便性の向上により IC 周辺に新たな産業立地が想定されます。

## ③目標年次（令和 27 年（2045 年））の将来製造品出荷額等

- 主要施策や津軽自動車道の延伸による、集客や企業進出などの効果を見込んで、目標年次の製造品出荷額等は、約 70 億円を目指します。

### (3) 商品販売額

#### ①推計値の算出結果

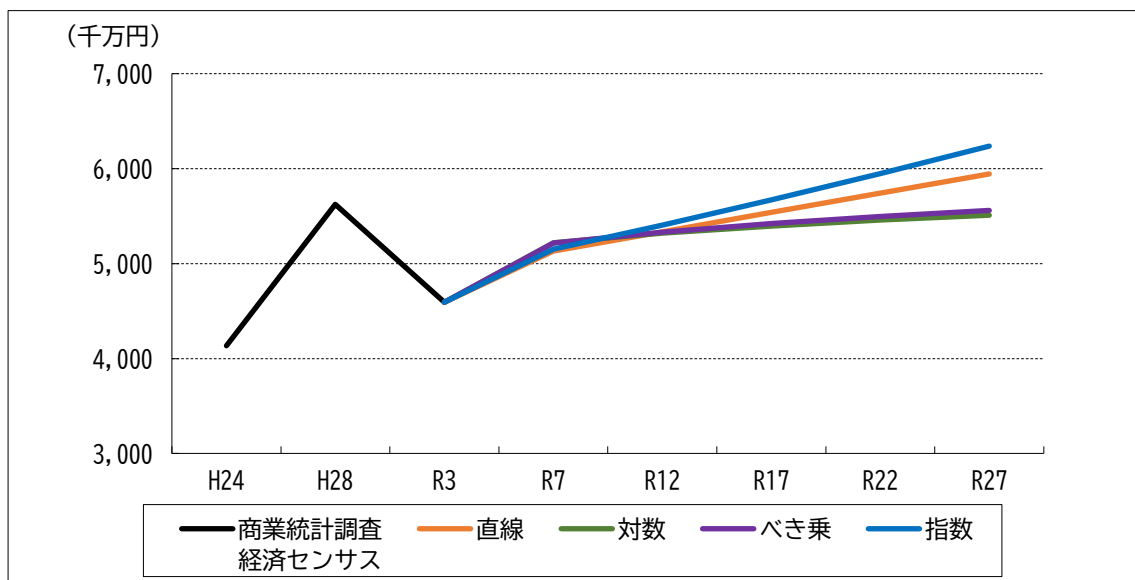
将来の商品販売額を平成 24 年（2012 年）から令和 3 年（2021 年）の商業統計調査及び経済センサスをもとに各種推計式により推計値を算出しました。

決定係数が高い推計式の対数式、べき乗式により算出した値の平均値を、推計値としました。

図表 将来商品販売額の推計結果

(単位：千万円)

|        | 年度  | 商業統計調査<br>経済センサス  | 直線    | 対数    | べき乗   | 指数     | 推計値<br>(確定値) |
|--------|-----|---|-------|-------|-------|--------|--------------|
|        | H24 | 4,134   |       |       |       |        |              |
|        | H28 | 5,623   |       |       |       |        |              |
|        | R3  | 4,593   |       |       |       |        |              |
| 推計値    | R7  |   | 5,134 | 5,220 | 5,218 | 5,154  | 5,219        |
|        | R12 |   | 5,336 | 5,320 | 5,333 | 5,406  | 5,326        |
|        | R17 |   | 5,538 | 5,396 | 5,422 | 5,670  | 5,409        |
|        | R22 |   | 5,741 | 5,458 | 5,496 | 5,948  | 5,477        |
|        | R27 |   | 5,943 | 5,510 | 5,559 | 6,239  | 5,534        |
| 推計式No. |     | 推計式及び係数   |       |       | 精度    |        | 採用           |
| 1      |     | 関数式：直線 $y = a x + b$<br>係数 $a$ 404.5<br>定数項 $b$ 45,676.8        |       |       | 決定係数  | 0.0573 |              |
| 2      |     | 関数式：対数 $y = a \log x + b$<br>係数 $a$ 3,270.6<br>定数項 $b$ 43,569.1 |       |       | 決定係数  | 0.2569 | ○            |
| 3      |     | 関数式：べき乗 $y = a x^b$<br>係数 $a$ 0.1<br>定数項 $b$ 43,228.5           |       |       | 決定係数  | 0.2905 | ○            |
| 4      |     | 関数式：指数 $y = a b^x$<br>係数 $a$ 1.0<br>定数項 $b$ 45,083.7            |       |       | 決定係数  | 0.0760 |              |



## ②将来商品販売額の設定の考え方

○本市の商品販売額は増加傾向にあります。

○本計画の上位計画である「つがる市総合計画」では、既存商店街の活性化を支援し、人々が行き交い、地域の魅力を感じる場としての機能の充実を図る、あわせて、商業施設や公共施設の集積による中心市街地を形成し、利便性の高い環境づくりを推進するとしています。

○そのための主要施策として、「地域特性を生かした商工業の推進」が掲げられており、下記の具体的な取り組みを掲げています。

- ・社会全体のデジタル化に対応した働き場（テレワーク施設やサテライトオフィス）確保に向け、空き店舗や使用されていない倉庫などの遊休施設の有効活用を検討します。
- ・商工会や関係団体と連携を図り、各種イベントの拡充やプレミアム付き商品券の発行、空き店舗の有効活用等を推進し、市内外からの一層の集客と消費拡大につなげます。
- ・巨大な遮光器土偶が出迎える JR 木造駅は誘客が期待できるため、観光案内や地域商品の販売を促進します。
- ・コミュニティ活動や福祉事業等と連携し、それぞれの地区に根ざした特色のある商店活動を支援します。
- ・高齢者の買い物の利便性の向上を図るため、出張販売を促進するとともに、見守り活動を兼ねた宅配サービスを実施します。
- ・農商工連携を推進するために実施している食と産業まつりの内容充実を図るとともに、農商工連携による地域商品の開発を支援します。

## ③目標年次（令和 27 年（2045 年））の将来商品販売額

○主要施策の効果を見込んで、目標年次の商品販売額は、約 550 億円を目指します。

### 3-5-4 産業フレームを土地利用へ反映する際の考え方

#### (1) 農業

農業産出額は増加傾向にあり、今後も増加していくことが見込まれます。そのため、農地において次の取り組みが考えられます。

- ・農地の保全
- ・6次産業化の推進などによる農産物の高付加価値化
- ・農地集積による規模拡大
- ・スマート農業の推進

#### (2) 工業

製造品出荷額等は増加傾向にあり、今後も増加していくことが見込まれます。そのため、工業地において次の取り組みが考えられます。

- ・幹線道路の沿道を活用した企業誘致
- ・工業地の適正配置

#### (3) 商業

商品販売額は増加傾向にあり、今後も増加していくことが見込まれます。そのため、商業地において次の取り組みが考えられます。

- ・ICを活かした商圈の拡大
- ・企業誘致とその受け皿の整備

## 3-6 将来都市構造

将来都市構造は、将来の都市の姿形を概念図で表現します。本マスタープランでは、市民意向（アンケート結果）及び本市の現況を踏まえて「基本ゾーニング」「都市の拠点」「骨格となる都市軸」等の配置、機能の位置づけを行います。

### 3-6-1 土地利用ゾーニング 【P.84 将来都市構造図に記載】

#### 【基本的な考え方】

土地利用ゾーニングの基本的な考え方は、「都市的な土地利用を促進する区域」と田園地帯・農業集落地等に位置する集落居住の「自然環境と共生する区域」、及び農地・森林・水辺等の「自然環境を維持・保全する区域」の区域区分を明確にします。

#### （１）都市的な土地利用を促進する区域

##### ①都市機能ゾーン

木造地域の用途地域を位置づけます。住居・商業及び業務等の都市的な土地利用と地域の生活及び都市活動に必要な機能が、適正かつ効率的に配置された利便性の高い都市機能を持った市街地を形成します。

##### ②商工業ゾーン

柏地域の国道101号の沿道、（一）妙堂崎五所川原線の沿道（大規模商業地を中心とした範囲）の商業地を位置づけます。商業系、工業系の土地利用を展開していくとともに、必要に応じて新たな商業施設や、生活利便性に資する都市機能の適切な誘導を図りつつ、道路沿道の良い景観を形成します。

#### （２）自然環境と共生する区域

##### ①生活・地域共生ゾーン

各地域の中心を位置づけます。地域住民の居住機能や日常生活に必要な施設がコンパクトに集約された生活の空間を形成し、地域住民に密着したサービスや地域交流を図ります。

##### ②田園生活共生ゾーン

都市計画区域内の用途地域外を位置づけます。周辺に広がる豊かな自然環境等を背景に、これらと共生する田園の集落居住の空間を維持していきます。なお、既存の自然環境を保全していくことを原則とし、新たな開発整備を抑制します。

##### ③田園ゾーン

都市計画区域外の市の東側の田園地帯を位置づけます。本市及び津軽平野を象徴する豊かな田園空間は将来に渡って地域の貴重な財産として、保全、継承に努めます。また、古きよき昔の田園風景の空間としての有効活用を図ります。さらに、農村集落のコミュニティの継続を図ります。

##### ④観光ゾーン

七里長浜周辺の地域及び亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、ベンセ湿原等の地域一体を位置づけます。古代のロマンにふれられる観光資源の一体的な整備や豊かな自然資源の有効活用に努めます。

### (3) 自然環境を維持・保全する区域

#### ①自然・水辺・畑作ゾーン

市の西側の臨海部から（主）鰯ヶ沢蟹田線までの池沼群と保安林、国有林、畑作が分布している丘陵地帯を位置づけます。池沼群、森林、農地等の自然環境を維持・保全することに努めます。

## 3-6-2 都市拠点 【P.84 将来都市構造図に記載】

### (1) 都市拠点

つがる市役所等の行政サービス施設、木造中学校や木造高校等の文教施設、つがる市民診療所等の医療・福祉施設、中心商店街等が立地する木造地域の中心市街地周辺を位置づけます。

生活、産業経済、行政、交流等のつがる市における都市活動の中心となる機能が集約された都市拠点を形成します。

### (2) 地域拠点

柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の中心地を位置づけます。

地域の医療福祉・教育文化等、地域の生活に必要な機能が集積するとともに、地域コミュニティを育成する地域の生活の拠点を形成します。

### (3) レクリエーション拠点

つがる地球村、つがる市森田集落農園、亀ヶ岡・平滝沼公園、山田川河川公園、及び岩木川河川公園を位置づけます。市民や観光客等の来街者が楽しめる憩い・レクリエーションの空間を形成します。

### (4) 観光・交流拠点

亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、高山稻荷神社、チェスボロー号関連、ベンセ湿原等の観光施設、及び木造駅、つがる市農産物直売所、柏口マン荘、柏ふるさと交流センター（ハーモニー未来館）、むらおこし拠点館「フラット」、稲穂いこいの里、道の駅もりた（アーストップ）、つがる地球村の交流施設を位置づけます。

豊かな自然・歴史文化資源を活用して市内外から訪れる人々をもてなす、人と地域資源がふれあう交流の拠点を形成します。また、木造駅、道の駅もりた（アーストップ）等の交流施設は、つがる市の観光・交流の玄関口となる景観や情報発信機能等を備えた、活動の拠点を形成します。

### (5) 水産拠点

車力漁港を位置づけます。水産物を安定的に供給する水産業の拠点となるとともに、漁港や水産資源を活かしたイベント等が行われる交流の拠点を形成します。

### (6) 水辺環境拠点

山田川水系の田光沼、狄ヶ館溜池を位置づけます。良好な水辺の環境、景観を維持し、水辺の眺望等ができる水に親しめる拠点を形成します。

### 3-6-3 都市軸 【P.84 将来都市構造図に記載】

#### 【基本的な考え方】

都市軸の基本的な考え方は、主要都市を結ぶ「広域連携軸」、主に五所川原生活・経済圏を結ぶ「地域連携軸」、本市内の主要な拠点等を結ぶ「都市内連携軸」の区分を明確にします。また、本市の特徴の1つである水辺の軸を位置づけます。

本市の南側を横断する国道101号線、五所川原西バイパス及びJR五能線の東西軸と市の西側を縦断する（主）鰺ヶ沢蟹田線及び市道木造屏風山線、市道富范23号線が本市の骨格的な道路ネットワークと考えられます。

さらに、市外の国道339号線と市内の地域連携軸、都市内連携軸がラダー状（はしご状）に配置されています。

#### （1）広域連携軸

県内主要都市と連絡する国道101号、JR五能線、さらに建設中の高規格幹線道路の津軽自動車道を位置づけます。本市と青森市等の周辺主要都市等を結び、人流・物流の拡大を図る広域連携軸を形成します。

【東西軸】国道101号、JR五能線、津軽自動車道

#### （2）地域連携軸

五所川原生活・経済圏を連絡する（主）五所川原車力線、（主）鰺ヶ沢蟹田線、（主）弘前柏線、（主）長平町森田線、（一）菰槌木造線、（一）十腰内陸奥森田停車場線、市道木造屏風山線、市道富范23号線を位置づけます。

五所川原生活・経済圏の連携・交流を図る連携軸を形成します。

【南北軸】（主）五所川原車力線、（主）鰺ヶ沢蟹田線、（主）弘前柏線、（主）長平町森田線、（一）菰槌木造線、（一）十腰内陸奥森田停車場線、市道木造屏風山線、市道富范23号線

#### （3）都市内連携軸

本市内の主要な拠点や広域連携軸及び地域連携軸へ連絡する（主）屏風山内真部線、（主）五所川原車力線、（一）下派立沼崎線、（一）富范薄市線、（一）豊川館岡線、（一）出来島丸山線、（一）妙堂崎五所川原線、（一）山田鰺ヶ沢線、市道牛潟54号線、市道川除沼崎線を位置づけます。本市内の主要な拠点間の連携・交流及び広域連携軸及び地域連携軸への強化を図る連携軸を形成します。

【東西軸】（主）屏風山内真部線、（主）五所川原車力線、（一）富范薄市線、（一）豊川館岡線、（一）出来島丸山線、（一）妙堂崎五所川原線、（一）山田鰺ヶ沢線

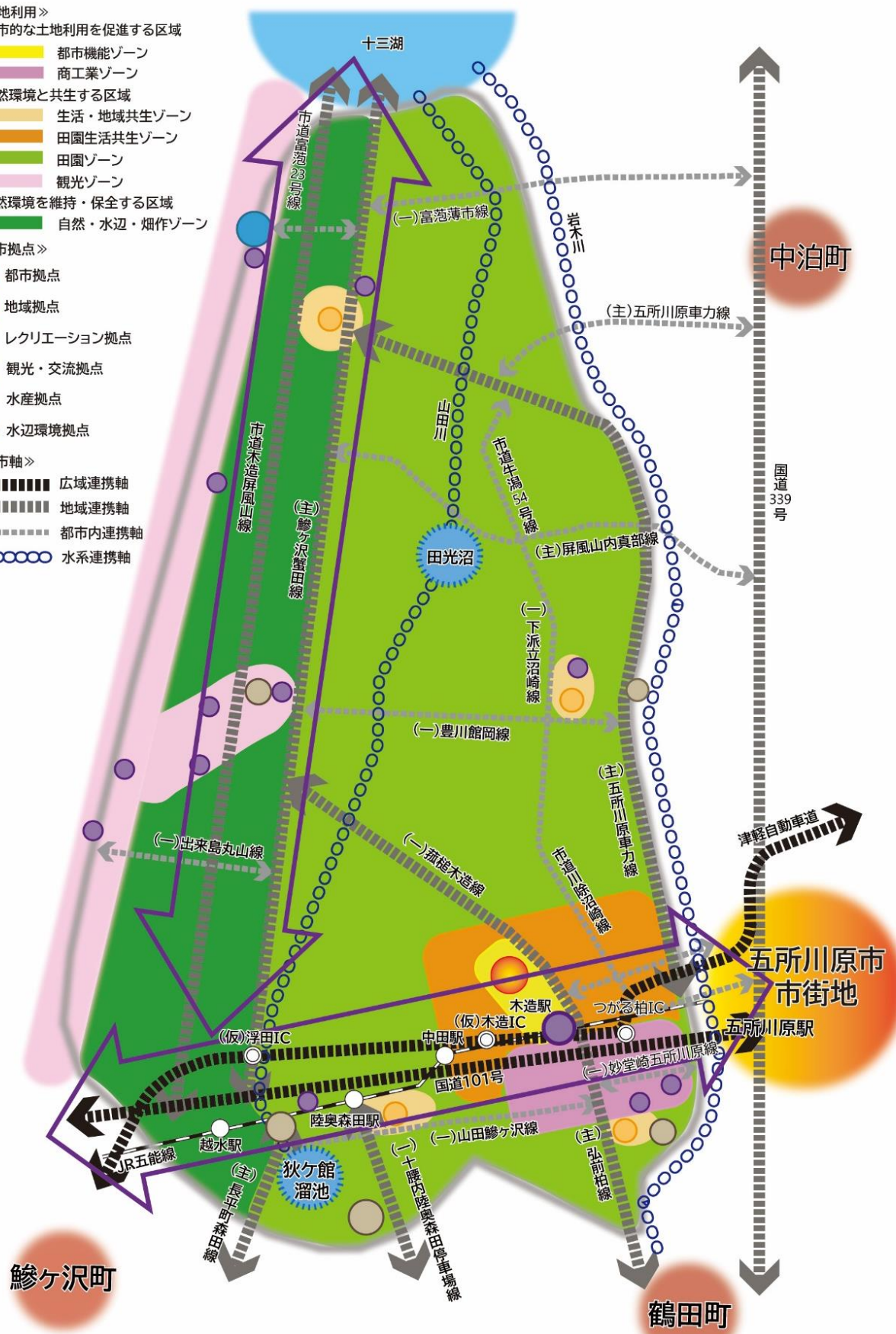
【南北軸】（一）下派立沼崎線、市道牛潟54号線、市道川除沼崎線

#### （4）水系連携軸

山田川水系、岩木川を位置づけます。本市内の水辺の環境及び景観のネットワークを形成します。

【南北軸】山田川水系、岩木川

- 《土地利用》
- 都市的な土地利用を促進する区域
  - 都市機能ゾーン
  - 商工業ゾーン
  - 自然環境と共生する区域
  - 生活・地域共生ゾーン
  - 田園生活共生ゾーン
  - 田園ゾーン
  - 観光ゾーン
  - 自然環境を維持・保全する区域
  - 自然・水辺・畑作ゾーン
- 《都市拠点》
- 都市拠点
  - 地域拠点
  - レクリエーション拠点
  - 観光・交流拠点
  - 水産拠点
  - 水辺環境拠点
- 《都市軸》
- 広域連携軸
  - 地域連携軸
  - 都市内連携軸
  - 水系連携軸



※ (主)：主要地方道  
(一)：一般県道

図 将来都市構造図

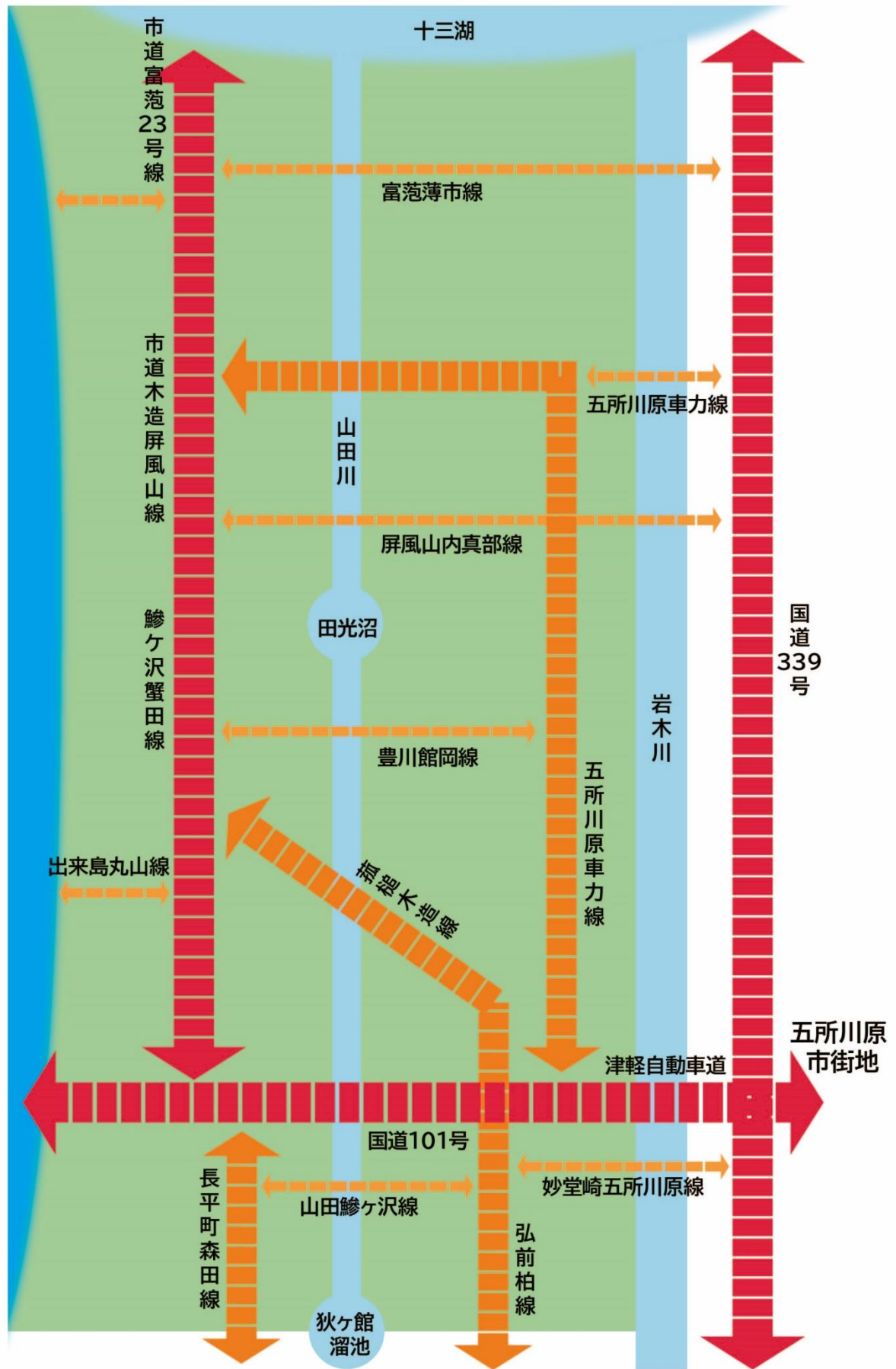
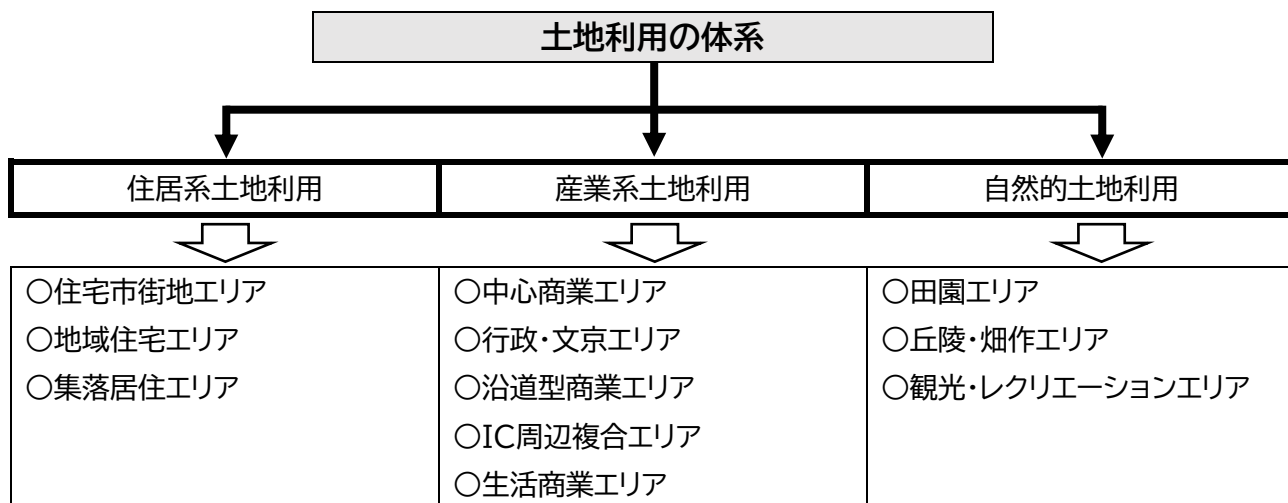


図 都市軸の考え方

## 第4章 分野別構想

### 4-1 土地利用の方針



#### 4-1-1 住居系土地利用の方針 【P. 91 土地利用方針図に記載】

##### (1) 住宅市街地エリア

###### 〔対象範囲〕

◇JR 木造駅北側、中心商業地の後背に広がる既成市街地を対象とします。

###### 〔位置づけ〕

- 戸建て住宅や集合住宅等が立地する専用住宅の市街地として、閑静な居住環境を維持していくことを基本とします。
- 都市機能が集積する中心商業地と連続した、歩いて暮らせる利便性の高い生活環境の向上を図ります。

###### 〔整備保全等の方針〕

- 道路、公園等の生活基盤が整った市街地においては、既存の良好な生活環境の保全を図るとともに、住宅地としてのさらなる質の向上を図るため、土地利用の規制・誘導による街並み景観づくりに取り組んでいきます。
- 身近な生活道路や公園が不足している市街地においては、生活道路の幅員・ネットワークの確保や憩いの場となる公園の整備等を進め、生活環境の改善に努めます。
- 既成市街地内の空き地・空き家等の計画的な宅地利用を誘導し、新たな市街地の拡大を原則として抑制していきます。
- 市街地内の低未利用地等を活用し、高齢社会に向けたケア付き住宅や多世代交流型住宅等の福祉型住宅地の供給、防災・防犯や子育て世代にも優しい誰もが安全で安心して暮らせる住宅地等、需要に応じた多様な住宅市街地づくりの展開を図ります。

## (2) 地域住宅エリア

### 〔対象範囲〕

◇柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の中心地に位置する居住地を対象とします。

### 〔位置づけ〕

○地域特性を活かした住宅地の形成を位置づけます。

### 〔整備保全等の方針〕

■住環境の向上を図るため、生活道路や排水施設等の生活基盤の整備改善を適正に進め、高齢者や子育て世代にも安全で安心して生活できるよう、誰もが利用しやすい施設づくりを進め、歩いて暮らせる地域の中心地づくりを図ります。

## (3) 集落居住エリア

### 〔対象範囲〕

◇本市の東側の田園地帯や西側の沿岸部丘陵地帯に点在している農漁村の集落地を対象とします。

### 〔位置づけ〕

○自然環境と共生する田園集落・農村集落の住環境及びコミュニティの維持・保全を位置づけます。

○田園集落・農村集落を農業生産基盤と位置づけます。

### 〔整備保全等の方針〕

■田園地帯に隣接する集落地は、自然環境が感じられる居住環境を維持します。

■既存の集落地を維持するため、生活道路や排水施設等の生活基盤の整備改善を適正に図り、定住環境の確保に努めます。

■これまで育まれてきた集落の生活・文化、集落コミュニティや農村・田園等の景観を維持していくことに努めます。

## 4－1－2 産業系土地利用の方針 【P.91 土地利用方針図に記載】

### （１）中心商業エリア

#### 〔対象範囲〕

◇JR 木造駅の北側に形成されている中心商業地を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○市民の生活や産業・買い物等の都市活動の中心となる、魅力ある商業地の形成を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

■施設や道路のユニバーサルデザイン化の促進や歩道の拡幅等の改善を図り、安心して誰もが利用できる中心商業地づくりに努めます。

■駅前広場や道路空間をにぎわいのために利活用するとともに、木造駅周辺へのアクセスの向上を図ります。

■空き店舗や空地等を高齢者の活動・憩いの場、チャレンジショップ、イベント等に活用し、賑わいのある中心商業地の形成に取り組みます。

■市の中心商業地にふさわしい街並みの景観づくりを適正に誘導し、魅力と賑わいのある中心商業地の演出を図ります。

### （２）行政・文教エリア

#### 〔対象範囲〕

◇つがる市役所等の行政施設や中学校・高校等の文教施設の周辺を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○本市の行政サービスや教育活動の中心となる行政・文教地の形成を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

■現在の行政・文教施設の機能を持続させるため、既存の集積環境の維持を図ります。

■利便性の高い行政サービスを図るため、既存施設の周辺の空地を活用し、必要に応じて新たな施設の集積を検討します。

### (3) 沿道型商業エリア

#### 〔対象範囲〕

◇柏地域の国道 101 号、津軽自動車道及び（一）妙堂崎五所川原線の沿道地域を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○良好な交通条件を活かし、広域圏からの利用に対応する幹線道路沿道型の商業地の形成を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

- 中心商業地等とのバランスに配慮した土地利用、店舗の立地を計画的に規制・誘導します。
- 沿道型商業エリア外の無秩序な商業地の拡大を抑制します。
- 日常生活のサービスや公共交通、広域的な交流を促進する施設の集積を図ります。

### (4) IC 周辺複合エリア

#### 〔対象範囲〕

◇柏地域のつがる柏 IC 周辺を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○つがる市の玄関口となるつがる柏 IC 周辺の高い利便性を活かした新たな商・工業地の形成を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

- 整備済み区間の五所川原西バイパスと鰯ヶ沢道路を連絡する柏浮田道路を活かし、雇用対策を支援する商・工業地の整備を検討します。
- 受け皿となる商・工業地を整備し、商・工業系企業の誘致を図ります。

### (5) 生活商業エリア

#### 〔対象範囲〕

◇柏地域、森田地域、車力地域、稲垣地域の各地域の公的な生活利便施設等が立地する地域の中心地を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○既存の商業施設や生活サービス施設が立地する生活中心機能の維持を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

- 地域の生活に密着した、個性のある商業の空間形成を目指します。
- 高齢者をはじめとした誰もが安全で安心して買い物等ができる、利用しやすい施設づくりを図ります。

## 4－1－3 自然的土地利用の方針 【P.91 土地利用方針図に記載】

### (1) 田園エリア

#### 〔対象範囲〕

◇市の東側に形成される広大な田園地帯を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○田園、自然環境の維持・保全を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

■本市の豊かな田園、自然環境を維持・保全していくことを基本とします。

■生産性の高い農業の実現に向けて、農業生産基盤の整備等に努めます。

### (2) 丘陵・畑作エリア

#### 〔対象範囲〕

◇市の西側及び南側に形成される沿岸部丘陵地帯、岩木川上流部の河川敷地帯を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○農地、森林等の豊かな自然環境の維持・保全を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

■つがるブランドを育む畑作等の豊かな自然環境の維持に努めます。

■農産物等を活かした地域交流、地産地消・食農食育の場としての空間を形成していくことを目指します。

■生産性の高い農業の実現に向けて、農業生産基盤の整備等に努めます。

### (3) 観光・レクリエーションエリア

#### 〔対象範囲〕

◇つがる地球村、マグアビーチ、亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、ベンセ湿原等の一帯を対象とします。

#### 〔位置づけ〕

○自然とふれあう場として整備すべき区域、生態系や環境の保全、災害防止、地表水の浸透性等の多面的な機能を保持する区域等の区分を検討して、保全整備を図ります。

#### 〔整備保全等の方針〕

■周辺の自然環境等の地域資源を活用し、自然と文化、人々がふれあう観光・レクリエーション空間の形成を図ります。

■観光・レクリエーション空間を形成する施設、環境の整備に際しては、自然環境に対する負荷の抑制に努めます。

■レクリエーション機能を有する公園については、施設の充実を図ります。

凡例

【住居系土地利用】

- 住宅市街地エリア
- 地域住宅エリア
- 集落居住エリア

【産業系土地利用】

- 中心商業エリア
- 行政・文教エリア
- 沿道型商業エリア
- IC周辺複合エリア
- 生活商業エリア

【自然的土地利用】

- 田園エリア
- 丘陵・畑作エリア
- 観光・レクリエーションエリア

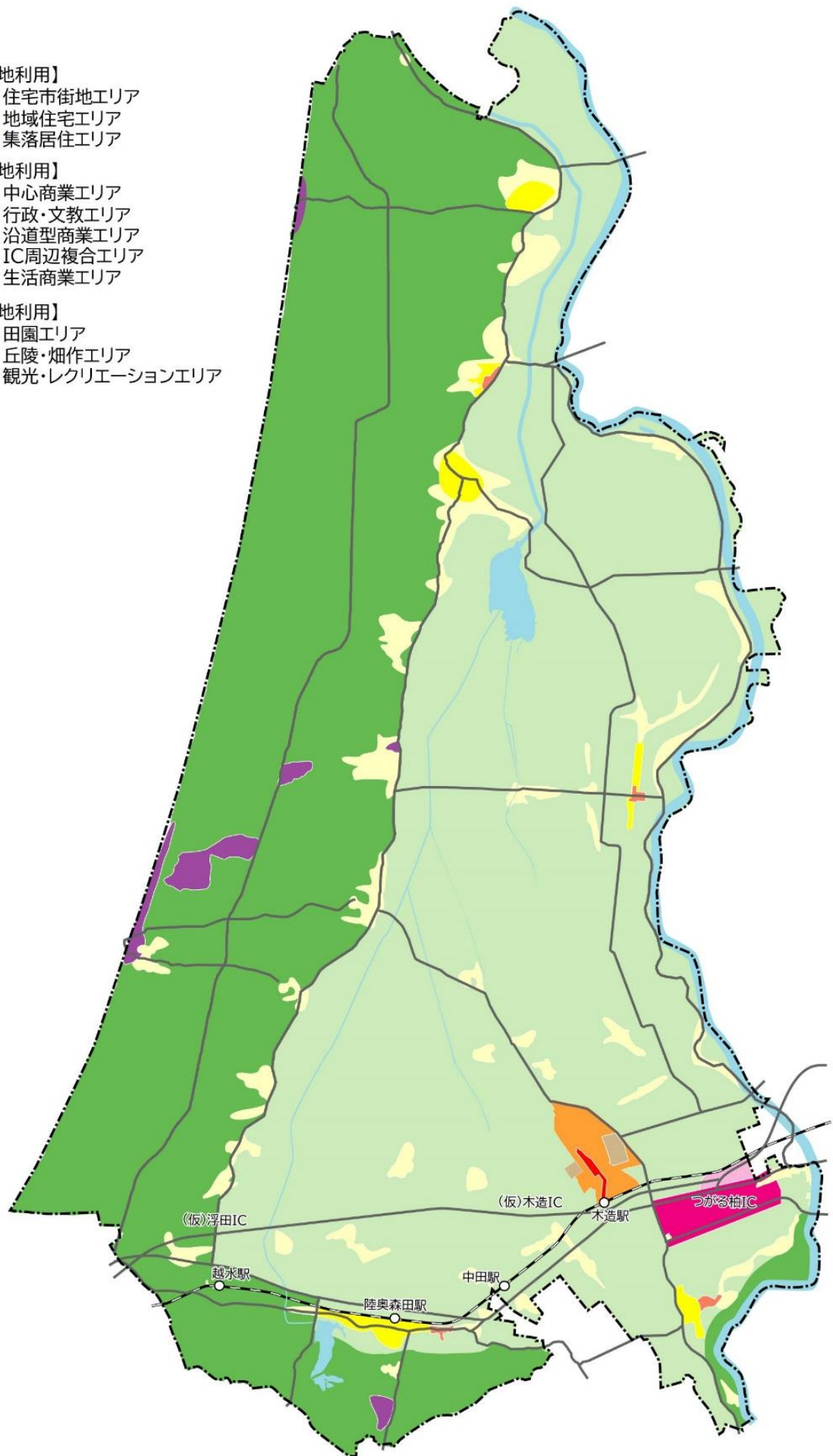
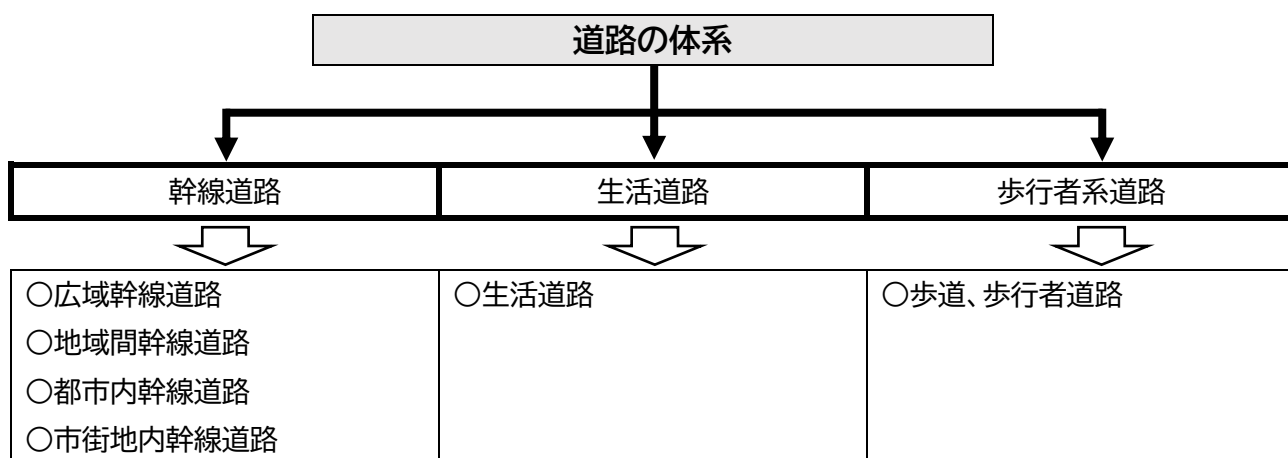


図 土地利用方針図

## 4-2 都市施設の方針

### 4-2-1 交通施設の方針 【P.96 交通施設方針図に記載】

#### (1) 道路



#### ①広域幹線道路

##### 〔対象範囲〕

- ◇高規格幹線道路：津軽自動車道
- ◇一般国道：国道101号

##### 〔機能役割〕

- 隣接する五所川原市および青森市、弘前市等の県内主要都市や東北縦貫自動車道に直結し盛岡、仙台、さらには首都圏等の広域都市圏・都市間を結ぶ広域的な交通を担う高規格幹線道路・幹線道路を位置づけます。
- さらに国道101号は本市の骨格を形成する役割を併せ持つ、市内の主要な交通流動と広域的な交通流動を円滑に処理する機能を有する道路として位置づけます。

##### 〔整備保全等の方針〕

- 高規格幹線道路、(仮)木造IC、(仮)浮田ICおよび国道101号と接続するつがる柏ICの整備を関係機関との調整を図り、早期整備を目指します。
- 国道101号は、円滑な交通流動を確保するために必要な道路改良、除雪対策等を施し、既存の道路機能を維持します。

## ②地域間幹線道路

### 〔対象範囲〕

◇南北方向：(主) 五所川原車力線、(主) 鰯ヶ沢蟹田線、(主) 弘前柏線、(主) 長平町森田線、(一) 菰槌木造線、(一) 十腰内陸奥森田停車場線、市道木造屏風山線、市道富范 23 号線

### 〔機能役割〕

○本市の市街地及び広域幹線道路（国道 101 号）と主要な地域・集落地を結ぶ地域間のネットワークを形成する役割を担う、市内の生活・産業経済等の各種都市活動の交通流動を支える機能を有する幹線道路を位置づけます。

### 〔整備保全等の方針〕

■既存の幹線道路を活用していくことを基本とします。

■円滑な交通流動を確保するために必要な道路改良、除雪対策等を施し、既存の道路機能を維持します。

## ③都市内幹線道路

### 〔対象範囲〕

◇東西方向：(主) 屏風山内真部線、(主) 五所川原車力線、(一) 富范薄市線、(一) 豊川館岡線、(一) 出来島丸山線、(一) 妙堂崎五所川原線、(一) 山田鰯ヶ沢線

◇南北方向：(一) 下派立沼崎線、市道牛潟 54 号線、市道川除沼崎線

### 〔機能役割〕

○地域間幹線道路を補完し、市内の地域及び主要集落間、観光レクリエーション施設等を連絡する役割を担う、都市内の生活・交流・観光レクリエーション等の交通流動を支える機能を有する幹線道路を位置づけます。

### 〔整備保全等の方針〕

■車力地域と隣接する中泊町を結ぶ(主) 五所川原車力線については、引き続き交通流動機能を維持していきます。

■海岸沿いと市道木造屏風山線、市道富范 23 号線や(主) 鰯ヶ沢蟹田線を結ぶ、市内の観光ネットワークの一翼を担う既存道路については、海岸沿いの自然・観光資源へのアクセス性の向上を図る道路としての機能を維持します。

■その他の路線については、既存の幹線道路を活用していくことを基本とし、危険箇所や幅員狭小区間等の必要な道路改良、除雪対策等を施し、既存の道路機能を維持します。

#### ④市街地内幹線道路

##### 〔対象範囲〕

- ◇（一）菰槌木造線、（一）木造停車場線、（都）3・4・1 広須朝日線、（都）3・4・2 木造駅通り線、（都）3・4・3 若宮赤根線、（都）3・4・4 日向朝日線、（都）3・4・5 藤田若宮線、（都）3・5・1 曙桜川線、（都）3・5・2 若緑朝日線 他

##### 〔機能役割〕

- 中心市街地内のネットワークを形成する道路を位置づけます。
- 市街地内における日常の生活・産業経済・交流等の各種活動を支える道路であり、車両と人の円滑な交通流動と安全な移動空間の機能を担います。

##### 〔整備保全等の方針〕

- 一般県道は、既存の幹線道路を活用していくことを基本とし、安全な歩行空間を確保するために必要な道路改良、除雪対策等を施し、既存の道路機能を維持します。
- 都市計画道路は、都市計画決定の内容に即した道路機能の維持及び整備を進めることを基本とします。ただし、計画が決定されてから長期間に渡って整備が未着手な都市計画道路は、計画の見直し等を検討していきます。

#### ⑤生活道路

##### 〔対象範囲〕

- ◇一般の市道、住宅地等の地先道路

##### 〔機能役割〕

- 沿道の生活者等のサービス道路として位置づけ、主に日常生活の交通の円滑な処理、災害時の避難路となる最も身近な公共空間としての機能を担います。

##### 〔整備保全等の方針〕

- 円滑な生活の交通処理機能の向上、消防活動の困難区域の解消等、生活環境の向上を図るため、狭あい道路の拡幅、すみ切りの確保、行き止まり道路の解消、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。
- 通学や高齢者等にも安全で安心な道路空間を確保するため、狭あい道路の拡幅、自動車の速度を抑制する工夫や街路灯の適正な配置等を進めます。

## ⑥歩道、歩行者道路

### 〔対象範囲〕

◇幹線道路の歩道、市街地内の遊歩道等

### 〔機能役割〕

○歩行者・自転車交通の安全性の確保と快適性を市街地に提供する役割を担うとともに、災害時には避難路及び延焼を防止する緩衝帯となる空間としての役割を担う歩行者・自転車の専用道を位置づけます。

### 〔整備保全等の方針〕

- 幹線道路の歩道は、道路整備や改良に伴って歩道の確保または拡充を図ります。また、冬期間の通行を確保するため、流・融雪溝の充実、防雪柵やロードヒーティングの整備等の工夫を凝らした対応を進めます。
- 市街地内の商業地や公園、学校・病院等公益的施設周辺のアクセス道路には遊歩道（歩行者専用道）の設置に努めます。
- 幹線道路の歩道や市街地内の遊歩道による歩行者・自転車道ネットワークの形成に努め、“歩いて暮らせるコンパクトな市街地”づくりを進めます。

-  広域幹線道路
-  地域間幹線道路
-  都市内幹線道路
-  市街地内幹線道路

※ (主)：主要地方道  
(一)：一般県道  
(都)：都市計画道路

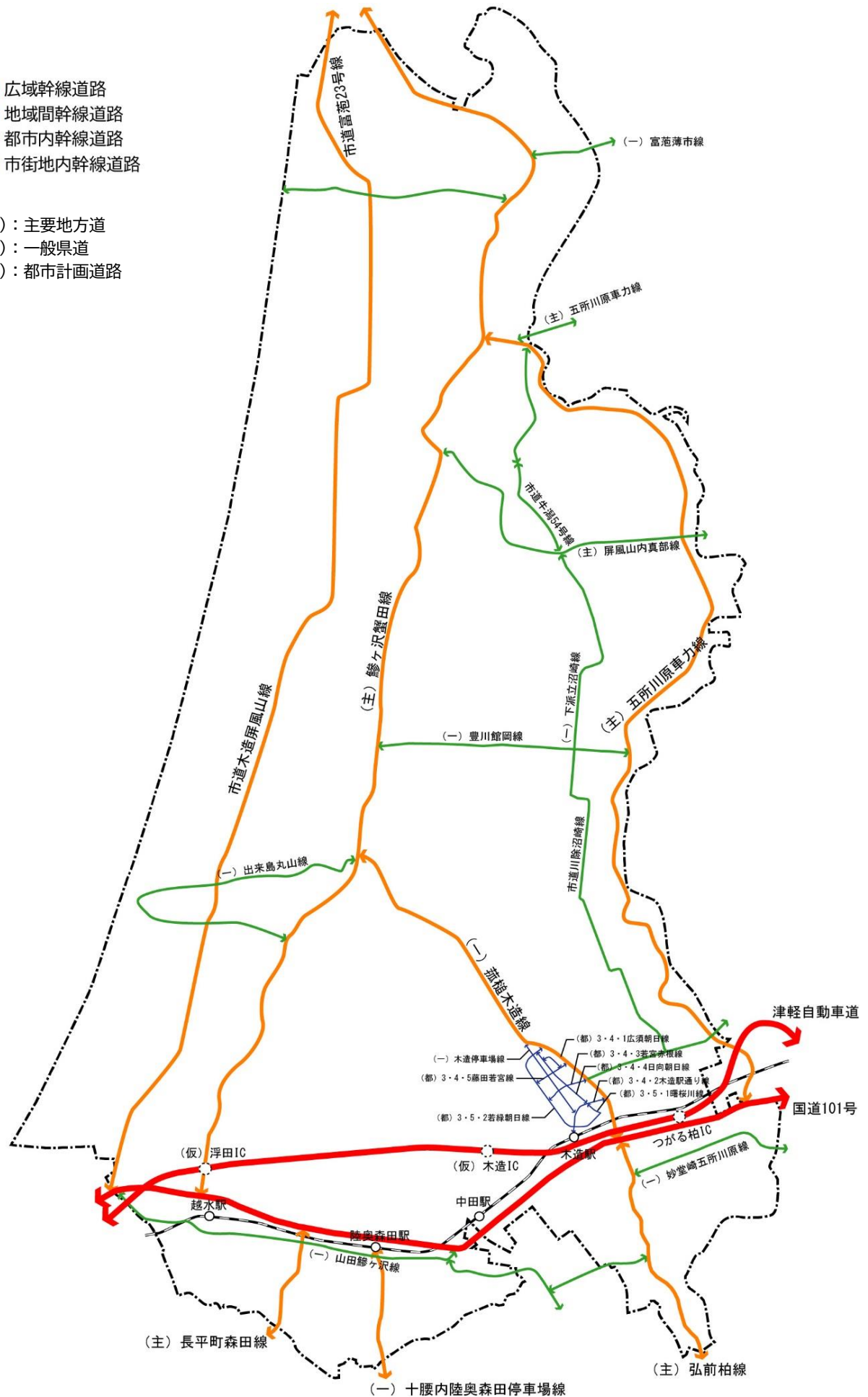


図 交通施設方針図

## (2) 公共交通

### ①鉄道

#### 〔対象範囲〕

◇JR 五能線

#### 〔機能役割〕

○通勤通学、買い物等の生活や広域的な交流を促進する公共交通の基幹となる軸としての機能を位置づけます。

#### 〔整備保全等の方針〕

- JR 木造駅は、鉄道とバス、タクシー等の交通結節機能の強化を図るため、必要に応じて駅前広場や関連する各種交通施設の整備・改善を図ります。
- 各駅において、高齢者をはじめとする誰もが快適に鉄道を利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備・改善を関係機関と調整し進めます。
- 鉄道の利便性の向上と鉄道利用の促進を図るため、鉄道利用者用の駐車場・駐輪場の確保に努めます。

### ②バス

#### 〔対象範囲〕

◇民間路線バス、市民バス

#### 〔機能役割〕

○市民の身近な移動手段である民間路線バス、市民バスの運行維持に努めます。

#### 〔整備保全等の方針〕

- 運行路線の見直し等によるバスネットワークの強化と利用者の利便性の向上を進めます。
- 福祉サービス事業や学校教育等との連携を図り、高齢者、障害者、児童生徒等移動制約者の移動手段の確保を考慮した、市民の身近な公共交通を目指します。

## 4－2－2 公園・緑地の方針

### ①都市公園

#### 〔対象範囲〕

◇街区公園、近隣公園、地区公園、総合公園

#### 〔機能役割〕

○市民のニーズにあった公園の改善整備を図ります。

#### 〔整備保全等の方針〕

■既設公園は適正な維持管理するとともに、新たなニーズに対応できるように整備を図ります。

### ②広域的な観光・交流の公園・広場

#### 〔対象範囲〕

◇つがる地球村公園、亀ヶ岡・平滝沼公園、史跡公園（亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚）

#### 〔機能役割〕

○体系的かつバランスのとれた公園・緑地の整備を図ります。

#### 〔整備保全等の方針〕

■豊富な文化財等の保護と、観光施設を兼ね備えた公園整備を検討します。

■つがる地球村公園は、新たなニーズに対応できるように施設の充実を図ります。

### ③農村公園

#### 〔対象範囲〕

◇集落地等に位置する公園・児童遊園

#### 〔機能役割〕

○主要な集落においては、各集落の集い、交流・レクリエーションの中心となる公園・広場を配置します。

#### 〔整備保全等の方針〕

■高齢者の増加が顕著なことから、地域のニーズに対応できるように改修を検討します。

■地区の歴史文化を活かした公園の整備を検討します。

## 4－2－3 河川・下水道の方針

### ①河川・水路

#### 〔対象範囲〕

◇岩木川、山田川水系

#### 〔整備保全等の方針〕

- 公共下水道等の早期全面供用・全面加入を図り、農業用水路の水質汚濁防止に努めます。
- 旧古田川の雨水幹線整備にあわせた親水空間の整備を継続し、河川環境整備を促進します。
- 新古田川の用水路としての機能の維持管理が継続されるよう関係機関と連携します。
- 河川の水質浄化を図る等、自然的環境の再生を検討します。

### ②下水道

#### 〔対象範囲〕

◇公共下水道、農業集落排水、浄化槽

#### 〔整備保全等の方針〕

- 汚水処理について「公共下水道事業」「農業集落排水事業」は令和7年度で完了予定のため加入促進に努めます。「浄化槽設置事業」は今後も継続し、生活環境の向上を図るとともに、公共用水域の水質の維持による優れた自然環境の保全に努めます。

## 4－2－4 公益的施設の方針

### ①教育施設

#### 〔対象範囲〕

◇既存の小学校、中学校及び廃校施設

#### 〔整備保全等の方針〕

- 統廃合により使用されなくなった学校については、有効活用を検討します。
- 通学の安全性を確保するため、通学路への歩道の設置等を進めます。

### ②文化施設

#### 〔対象範囲〕

◇縄文住居展示資料館（カルコ）等の文化活動、コミュニティ形成を図る施設

#### 〔整備保全等の方針〕

- 亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚に隣接したガイダンス施設の建設、縄文住居展示資料館（カルコ）の展示内容の充実、企画展示等本市の誇るべき文化のPRを推進していきます。
- 地域の伝統文化や歴史に関する地域資源を有効活用するため、（仮称）縄文ミュージアムの建設整備を検討します。
- 公民館・コミュニティセンター等の地域住民のふれあいの場となる施設を維持します。

### ③医療施設

#### 〔対象範囲〕

◇つがる市民診療所等の医療施設

#### 〔整備保全等の方針〕

- 病院等の医療施設と福祉施設との機能連携の強化を図り、医療福祉の拠点・ネットワークの形成を図ります。

### ④福祉施設

#### 〔対象範囲〕

◇各地域の老人福祉施設、社会福祉施設等

#### 〔整備保全等の方針〕

- 介護保険事業を支えるサービス施設として市民の介護のニーズに迅速に対応できるよう福祉と医療のサービスを総合的に提供していきます。
- 高齢者、子育て世代等への行政サービス機能を維持することを基本とします。

## ⑤観光交流施設

### 〔対象範囲〕

◇木造駅、道の駅もりた（アーストップ）、つがる市農産物直売所、柏ふるさと交流センター、つがる地球村、柏ロマン荘、稲穂いこいの里、むらおこし拠点館（フラット）、史跡（亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚）公開活用ゾーン

### 〔整備保全等の方針〕

- 自動車利用者の利便に供する場、鉄道利用客の玄関としての場、観光客の滞在の場、地域・広域の交流の場として活用を図ります。
- 地域特性を活かしたイベント開催や観光 PR の場として地域の活性化を支援します。

## ⑥処理施設

### 〔対象範囲〕

◇ごみ処分場

### 〔整備保全等の方針〕

- ごみ処理基本計画に基づく実施計画により、社会情勢に合わせた減量化を推進します。
- 一般廃棄物の現処理施設の維持に努めます。

## 4－3 都市環境形成の方針

### 4－3－1 自然環境の保全・活用の方針

#### (1) 自然環境の保全

##### 〔対象〕

◇東側の田園地帯、西側及び南側の沿岸部丘陵地帯、岩木川上流部の河川敷地帯、河川、池沼群

##### 〔基本方針〕

◇市の重要な財産である自然環境の保全を基本とします。

##### 〔整備保全等の方針〕

- 西側の沿岸部丘陵地帯の林、緑地、丘陵地の保全と適正な維持管理に努めます。
- 山田川水系、岩木川等の主要な河川は、河川の水質浄化と河川緑地の保全を図ります。
- ベンセ沼等の池沼群は、自然環境の保全に努め、周辺土地利用の規制・誘導を図ります。

#### (2) 農地の保全・活用

##### 〔対象〕

◇水田、畑

##### 〔基本方針〕

◇農業生産の基盤として位置づけます。

##### 〔整備保全等の方針〕

- 農業振興地域の整備に関する法律に基づき、適正な保全を図ります。

## 4－3－2 景観形成の方針

### (1) 自然景観の形成

#### 〔対象〕

◇東側の田園地帯、西側及び南側の沿岸部丘陵地帯、岩木川上流部の河川敷地帯、河川、農村集落地

#### 〔基本方針〕

◇東側の田園地帯、西側の沿岸部丘陵地帯の農地は、自然環境を活かした景観資源として位置づけ、適切に維持管理することを基本とします。

#### 〔整備保全等の方針〕

■東側の田園地帯に広がる水田及び農村集落は、本市を象徴する広大でゆとりのある「日本のふるさと」の田園風景として、景観眺望の保全を図ります。

■地域の特性を踏まえ、農村景観を活用した観光を推進します。

■畑地・果樹地の景観（りんご、メロン等）を活用し、新たな景観の創造を検討します。

### (2) 市街地景観の形成

#### 〔対象〕

◇住宅市街地、中心商業地

#### 〔基本方針〕

◇建築物等の形態や色彩等の統一化を図り、良好な市街地のまちなみを形成し、住環境の維持、向上に努めます。

#### 〔整備保全等の方針〕

■県の景観条例に基づき、市全体で統一感のある景観形成を図ります。

■中心商業地の活性化のため、電線類の地中化等を検討し、まちなみ景観の改善に努めます。

### (3) 道路景観の形成

#### 〔対象〕

◇主要な幹線道路

#### 〔基本方針〕

◇幹線道路の街路景観の連続性を確保します。

#### 〔整備保全等の方針〕

■点在する観光施設の案内板のサインは、観光客にも分かりやすいデザインにするとともに、デザインの統一化、特色のあるデザインにする等、本市のPRにも活用していきます。

## 4－4 その他の方針

### 4－4－1 福祉のまちづくりの方針

〔対象〕

◇市全体

〔基本方針〕

◇高齢者、子育て世代等の誰にでも安心して快適に生活できるまちの形成に努めます。

〔整備保全等の方針〕

■道路等の交通施設や公共公益施設のユニバーサルデザイン化を進めます。

■バス交通の充実、鉄道と他の交通機関との交通結節機能の充実を図る等、スムーズに移動できる公共交通機関の利便性の向上に努めます。

■市街地には、高齢社会に向けたケア付き住宅や多世代交流型住宅等の福祉型住宅の整備を検討していきます。

■各地域の中心地には、高齢者と子育て支援施設等の福祉施設を配置し、地域での福祉の充実を図ります。

### 4－4－2 都市防災まちづくりの方針

#### （１）都市の防災拠点

〔対象〕

◇市役所、市役所出先機関、消防署、診療所等の施設を中心とする地区

〔基本方針〕

◇災害に対して安全・安心な都市空間を形成するため、防災ネットワークの形成を図ります。

◇防災ネットワークは、情報発信、災害復旧、避難等の各種防災機能を備えた防災拠点と防災拠点につながる避難路等の防災軸から形成されます。

〔整備保全等の方針〕

■市役所、市総合体育館、市防災備蓄倉庫、防災ヘリポート、消防署、警察署、診療所等を本市の一体的な防災拠点施設として位置付け、情報発信、災害復旧などの機能を維持し、災害備蓄の整備に努めます。

## (2) 防災ネットワーク軸

### 〔対象〕

◇幅員の広い主要幹線道路、主要な河川等

### 〔基本方針〕

◇「都市の防災拠点」と同様

### 〔整備保全等の方針〕

■幅員の広い主要幹線道路、主要な河川等を市の防災軸として位置づけ、災害時の延焼を防止する機能や防災拠点間を結ぶ緊急道路としてのネットワーク機能を検討します。

■狭あい道路の拡幅や、避難場所までの避難経路の安全性の確保等を検討します。

## 第5章 地域別構想

### 【地区区分の設定の考え方】

本都市計画マスタープランの地域区分は、歴史ある市街地や集落地を形成してきた経緯がある旧町村の区域を基本とし、さらに市街地や沿道商業地の位置等の土地利用を勘案して、次の図のとおり区分します。

なお、つがる市の将来のまちづくりの方向性を示すことを目的とするため、都市計画区域の内外に関わらず各地域の位置づけ、将来像及び地域づくりの方針を地域別構想で定めます。

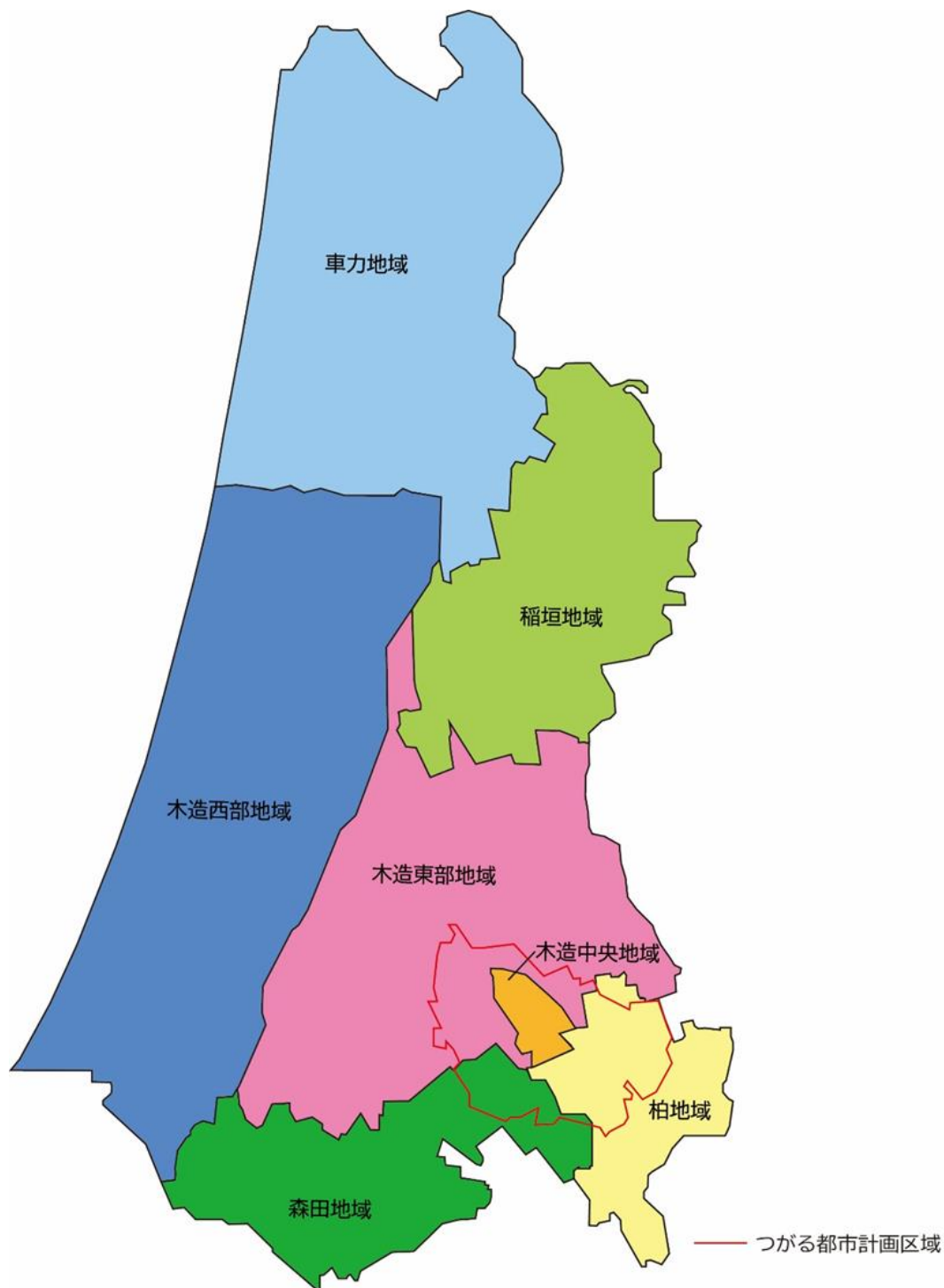


図 区域区分

## 5-1 木造中央地域

### 5-1-1 地域の現況

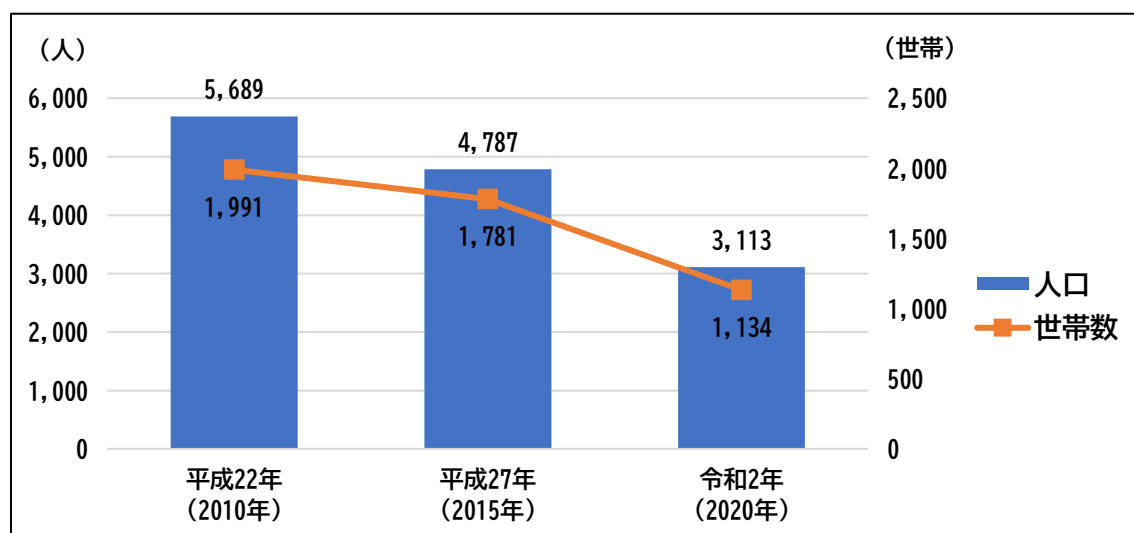
#### ■地域の特性

- ・本地域は、都市計画区域内であり、用途地域に指定されています。指定されている用途は、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域となっています。
- ・本市の中心商業地は、歴史がある商店街を形成していますが、空き店舗等が多い状態となっています。
- ・近隣商業地域に指定されている旧古田川沿いには、店舗併用住宅が多く立地しています。
- ・一団の未利用地が地域の北部にあります。
- ・広大な田園に包まれ、静かな住宅地の環境が形成されています。
- ・建替事業の実施が予定されている木造若緑団地、建替工事が完了した桜木団地等の公営住宅が存在します。
- ・地域内には、都市計画道路が8路線計画されており、計画延長は、約23.3kmとなっています。その内、約5.1kmが整備済みとなっています。
- ・亀ヶ岡石器時代遺跡から発掘された土偶をモチーフとした木造駅の駅舎は、東北の駅百選に選ばれています。
- ・地域の人口は、平成22年から減少傾向となっており、世帯数も同様な傾向となっています。

#### ■人口・世帯数

| 年次               | 人口<br>(人) | 人口増加率<br>(%) | 世帯数<br>(世帯) | 世帯数増加率<br>(%) | 人口密度<br>(人/ha) |
|------------------|-----------|--------------|-------------|---------------|----------------|
| 平成22年<br>(2010年) | 5,689     | —            | 1,991       | —             | 48.4           |
| 平成27年<br>(2015年) | 4,787     | -15.9        | 1,781       | -10.5         | 42.3           |
| 令和2年<br>(2020年)  | 3,113     | -35.0        | 1,134       | -36.3         | 26.1           |

資料：都市計画基礎調査

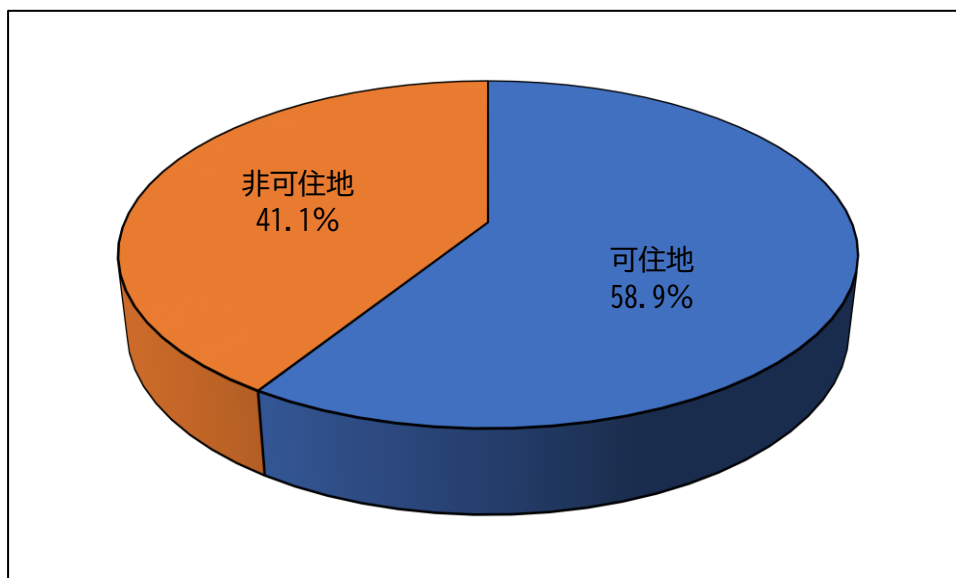


## ■土地利用の状況

| 可住地   | 面積 (ha) | 比率 (%) |
|-------|---------|--------|
| 田     | 19.7    | 16.5   |
| 畑     | 13.3    | 11.1   |
| 山林    | 1.1     | 0.9    |
| 原野・牧野 | 4.6     | 3.9    |
| 住宅用地  | 76.0    | 63.7   |
| 未利用地  | 4.6     | 3.9    |
| 合計    | 119.3   | 100.0  |

| 非可住地      | 面積 (ha) | 比率 (%) |
|-----------|---------|--------|
| 水面        | 1.6     | 1.9    |
| 低湿地・荒蕪地   | 0.4     | 0.5    |
| 商業用地      | 9.8     | 11.8   |
| 工業用地      | 1.5     | 1.8    |
| 農林漁業施設用地  | 1.2     | 1.4    |
| 公共・公益施設用地 | 31.7    | 38.1   |
| 道路用地      | 26.4    | 31.8   |
| 交通施設用地    | 0.5     | 0.6    |
| 公共空地      | 4.6     | 5.5    |
| 防衛施設用地    | 0.0     | 0.0    |
| その他の空地    | 5.4     | 6.5    |
| 合計        | 83.1    | 100.0  |

資料：都市計画基礎調査



## ■法規制

第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域

## ■都市基盤

| 国道 | 県道    |      | 都市計画道路 |         |        | 都市公園 |
|----|-------|------|--------|---------|--------|------|
|    | 主要地方道 | 一般県道 | 路線数    | 計画延長    | 整備済み   |      |
| —  | —     | 6 路線 | 8 路線   | 23,300m | 5,090m | 3 箇所 |

資料：都市計画基礎調査

## 5-1-2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等                            | 地域づくりの課題  |
|--------------------------------------|---|
| ◇中心商業地に空き家、空き店舗、空地がみられ、魅力が低下しています。   | ◆市の中心となる商業地、商店街は、魅力向上を図り活性化させる必要があります。                        |
| ◇徒歩や自転車で買物できるための道路の整備等が不十分です。        | ◆安心して回遊できる道路空間を確保する必要があります。                                   |
| ◇自然豊かで静かな住環境が魅力となっています。              | ◆田園に包まれた良好な住環境及び閑静な住宅地を維持していく必要があります。                         |
| ◇お祭りなどのイベントが多く開催され、地域のつながりが強化されています。 | ◆地域でのつながりや助け合える関係を維持していくための場を確保する必要があります。                     |
| ◇有効活用されていない一団の未利用地が地域の北部に存在します。      | ◆計画的な住宅地の整備、開発を行う必要があります。                                     |
| ◇長期未整備となっている都市計画道路が存在します。            | ◆長期にわたり整備が未着手となっている都市計画道路の見直し検討や機能の検討も含め、計画的に整備する必要があります。     |
| ◇観光者の交流のための施設が不足しています。               | ◆観光者等の外来者のための宿泊施設の確保、交流施設を有効活用する必要があります。                      |
| ◇本市のシンボルとなっている駅舎が存在します。              | ◆木造駅周辺は、駅前広場や道路空間をにぎわいのために利活用するとともに、木造駅周辺へのアクセスの向上を図る必要があります。 |

### 5-1-3 地域づくりの目標

木造中央地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇本市の中心 ◇身近な生活を支える商店、商業  
◇街の駅「あるびょん」 ◇馬市まつり・ネブタまつり

#### 目標Ⅰ

#### 交流とにぎわいの中心市街地づくり

##### 【将来の方向性】

- 中心商業地の賑わいの再生と活性化を目指します。
- 本市の中心となる生活・商業・経済の拠点の形成を目指します。
- 生活の利便性の高いまちなか居住を目指します。

#### 【キーワード】

◇閑静な住環境 ◇平穏 ◇快適

#### 目標Ⅱ

#### 閑静な居住地環境づくり

##### 【将来の方向性】

- 閑静な住環境の維持を目指します。
- 暮らしやすい住環境の創造を目指します。

#### 【キーワード】

◇木造中学校 ◇木造高等学校 ◇向陽小学校 ◇学校の集積

#### 目標Ⅲ

#### 学ぶ環境が充実した文教拠点づくり

##### 【将来の方向性】

- 閑静で緑が多い等の学ぶ環境の向上を目指します。
- さらなる安心・安全な文教拠点の向上を目指します。

## 5-1-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 高齢社会に向けたケア付き住宅や多世代交流型住宅等の福祉型住宅の供給、子育て世代にも優しい誰もが安全で安心して暮らせる住宅地等、需要に応じた住宅市街地づくりの展開を図ります。
- 若緑団地の建替えを実施し、桜木団地とともに緑豊かなゆとりのある良好な住宅地として維持していきます。
- 地区内の一団の未利用地は、将来の土地利用を検討し、計画的な市街地の形成を図ります。
- 商業関係者が一体となった魅力ある商店街づくりを推進し、大型商業施設とは違う視点をもった店づくりを目指して、現在の商店街の形態を将来的にも維持していくことに努めます。
- 魅力ある商店街づくりとしての整備手法を検討していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 都市計画決定されてから長期間にわたって整備が未着手な都市計画道路は、計画の見直し等を検討していきます。
- 中心商業地の活性化を図るために、駅前広場や道路空間をにぎわいのために利活用するとともに、木造駅周辺へのアクセスの向上を図ります。
- 向陽小学校、木造中学校、木造高校の周辺の生活道路は、通学の安全・安心を確保するため、自動車の速度を抑制する工夫や街路灯の適正な配置等を推進します。
- 狭あい道路が多い地区については、冬期間の除排雪を計画的、効率的に行うよう努めます。
- 木造駅は、鉄道とバス、タクシー等の交通結節機能の強化を図るため、駅前広場や関連する各種交通施設の整備改善を図ります。
- 木造駅周辺に鉄道の利便性向上と鉄道利用の促進を図るため、鉄道利用者用の駐車場・駐輪場の確保に努めます。
- 商店街に集客させる手段として、高齢者タクシー助成事業等の周知やワンコインバス等の運行を検討します。

#### ②公園・緑地の方針

- 地域ニーズに見合った身近な公園の整備を検討します。
- 既存公園は、コミュニティの場、防災、高齢化対策等の新たなニーズに対応できるように改修整備を検討します。
- 中心商業地の活性化のために空店舗等の既存ストックの活用、空地を利用したポケットパークの設置を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造するため、引き続き公共下水道の維持・管理に務めます。

#### ④公益的施設の方針

- 市の鉄道の玄関口となる木造駅舎内の観光案内所は、観光と交流、情報発信の場としての活用を図ります。
- 街の駅「あるびょん」は、地域の交流の場、広域の交流の場、情報発信の場としての活用を図ります。また、観光ネットワークの拠点の形成を図り、地域の活性化を図っていきます。
- イベント広場は、馬市まつり等のメイン会場として活用し、交流・観光の促進を図っていきます。

### (3) 地域環境形成の方針

#### ①自然環境保全の方針

- 魅力ある商店街の形成のために、中心街を流れている旧古田川を水質改善し、自然とふれあうことができる親水空間として、活用を図ります。

#### ②景観形成の方針

- 周辺市街地との調和のとれた住宅地景観を形成するために、規制誘導を図ります。
- 伝統ある祭りを後世まで残せるようにイベント広場の活用を図っていきます。

## 5-1-5 整備方針図



## 5－2 木造東部地域

### 5－2－1 地域の現況

#### ■地域の特性

- ・本地域は、津軽平野の優良な農地が広がる田園地帯を形成しており、東側には岩木川、西側には、山田川水系が流れており、南側の一部は都市計画区域に指定されています。
- ・その南側に市役所、つがる市木造福祉交流センター「花しょうぶの館」、つがる市木造福祉センター「かっこうの館」、つがる市生涯学習交流センター「松の館」、つがる市総合体育館、木造体育センター等、本市の行政・文化の中心となっている施設が集積しています。
- ・田園地帯には、集落地が点在しています。主な集落地は、中館、柴田、菊川、福原、千代田、川除、出野里、永田、土滝、林等です。

#### ■法規制

都市計画区域、農業振興地域、農用地区域

#### ■都市基盤

|         |      |   |
|---------|------|---|
| 高規格幹線道路 | 1 路線 | 津軽自動車道  |
| 主要地方道   | 1 路線 | 五所川原車力線   |
| 一般県道    | 8 路線 | 桑野木田南広森線、越水木造線、再賀木造線、林五所川原線、菰槌木造線、川除木造線、稻盛千代町山田線、福原陸奥森田停車場線 |
| 市道      | 1 路線 | 川除沼崎線   |

## 5－2－2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等  | 地域づくりの課題  |
|--|---|
| ◇本市の行政・文化の中心となっている施設が集積しています。                        | ◆行政・文化施設の集積機能を維持していく必要があります。<br>◆行政・文教エリアを活性化させ、ゾーンに相応しい地域づくりを進める必要があります。 |
| ◇田園地帯に集落が点在しています。<br>◇住民同士のつながりが強く、助け合いの関係が構築されています。 | ◆集落の居住環境と営農環境の向上を図る必要があります。<br>◆集落の古くから培われたコミュニティの維持を図る必要があります。           |
| ◇広大な田園地帯が形成されています。<br>◇地域の主な特産品は米となっています。            | ◆優良な水田等を保全していく必要があります。<br>◆良好な田園風景を保全していく必要があります。                         |
| ◇公共交通の利用が不便な地区が存在します。                                | ◆既存のバス路線に該当していない集落地の公共交通の利便性を向上させる必要があります。                                |

## 5-2-3 地域づくりの目標

木造東部地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

### 【キーワード】

◇本市の行政機能の中心 ◇文化施設等の集積

### 目標Ⅰ

### 都市の活動の拠点づくり

#### 【将来の方向性】

- 行政拠点の形成と機能の強化を目指します。
- 行政・文化施設の既存の集積している機能の維持を目指します。
- 様々な市民活動の拠点を目指します。

### 【キーワード】

◇集落地の点在 ◇田園

### 目標Ⅱ

### 生活・居住環境の向上

#### 【将来の方向性】

- 居住環境の向上、営農と共生する環境の維持を目指します。
- 集落地においてコミュニティの維持を目指します。
- 高齢化社会に対応する生活・住環境を目指します。

### 【キーワード】

◇米 ◇広大な田園 ◇岩木川

### 目標Ⅲ

### 学ぶ環境が充実した文教拠点づくり

#### 【将来の方向性】

- 稲作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農基盤等の充実と営農環境の向上を目指します。
- 良好な田園景観の維持を目指します。

## 5-2-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 行政・文教エリア周辺は、行政・文化施設が集積する本市の中心的な機能を維持していきます。  
また、利便性の高い行政サービスを図るため、必要に応じて行政・文化施設周辺の土地利用の転換を検討します。
- 集落居住エリアは、生活の利便性の向上のための改善や、良好な田園居住環境、コミュニティの維持を図ります。
- 田園エリアは、農業基盤として優良な農地を維持していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 集落居住エリアのネットワーク強化のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。
- 集落居住エリアを維持するために、既存のバス路線が運行していない集落地と病院や駅等を結ぶコミュニティバス等の導入を検討します。

#### ②公園・緑地の方針

- 点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、防災、高齢社会等の新たなニーズに対応できるように改修を検討します。
- 集落地内では、必要に応じて、地域ニーズに見合った身近な公園・広場の確保を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 公共下水道認可区域外については、農業集落排水事業や浄化槽による整備を進めます。既存施設については、適切な維持管理に努めます。

#### ④公益的施設の方針

- 縄文住居展示資料館カルコ等の文化施設は、展示品の充実を図ります。
- 行政・文教エリアのつがる市生涯学習交流センター「松の館」及びつがる市総合体育館は、特産品をPRするイベントの会場等の交流の場として活用を図ります。

### (3) 地域環境形成の方針

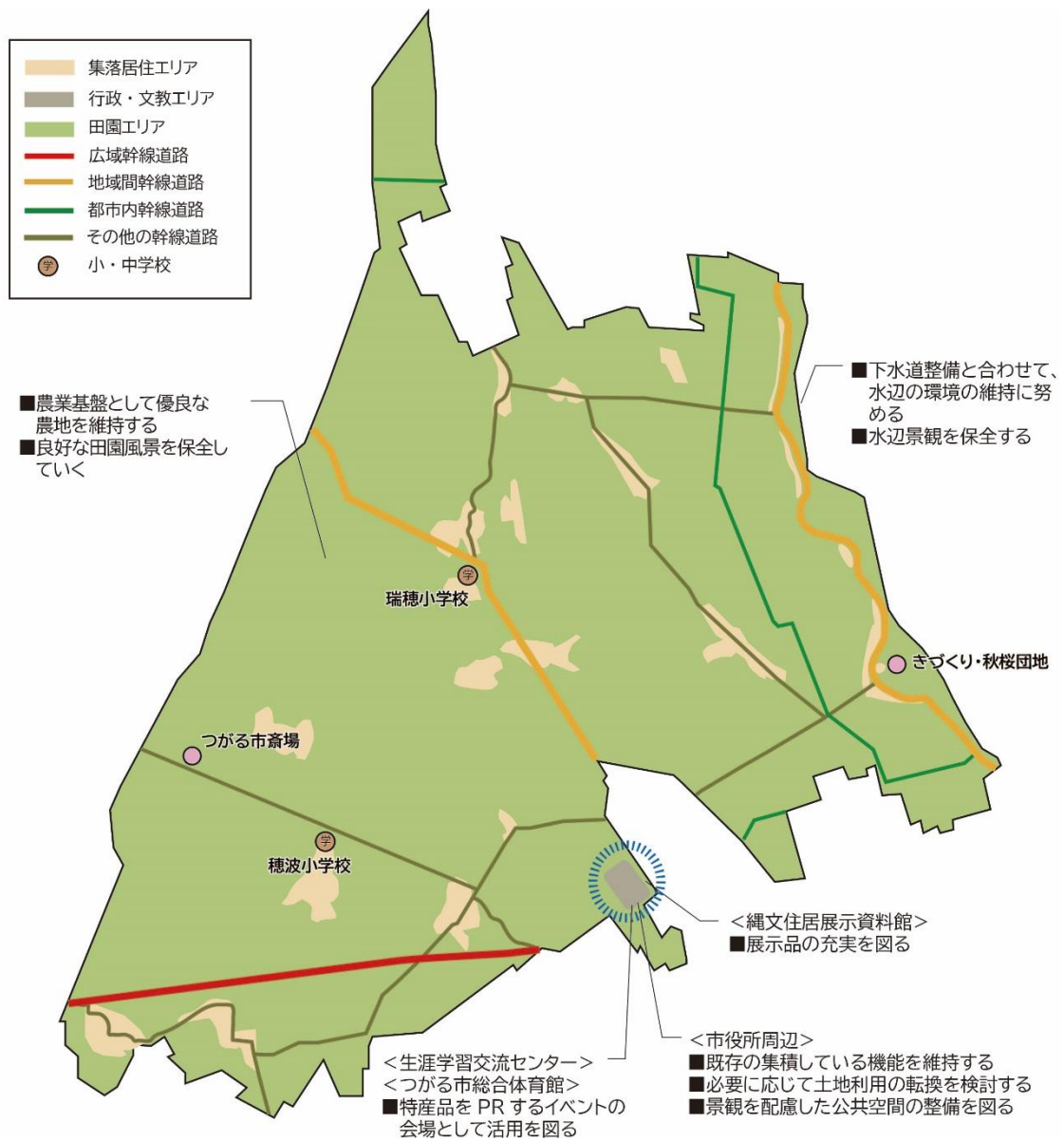
#### ①自然環境保全の方針

- 岩木川・山田川水系は、優良な水田を維持していくために、下水道整備とあわせて、水辺の環境の維持に努めていきます。

#### ②景観形成の方針

- 良好な田園風景、岩木川、山田川水系の水辺景観を保全していきます。
- 市役所周辺は、魅力ある生活環境の形成のために、景観を配慮した公共空間の整備を図ります。

## 5-2-5 整備方針図



## 5－3 木造西部地域

### 5－3－1 地域の現況

#### ■地域の特性

- ・本地域は、（主）鰯ヶ沢蟹田線を境界にして、西側は防風林を持つ丘陵地帯、東側は田園地帯となっています。
- ・本地域の西側では、ベンセ湿原をはじめとする湿地帯や平滝沼をはじめとする池沼群が点在しています。また、メロンやスイカの畑作が盛んに行われています。
- ・本市の誇るべき地域資源が豊富な地域であり、特に亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚とベンセ湿原が有名です。
- ・出来島海水浴場へのアクセス道路が脆弱となっております。
- ・主に（主）鰯ヶ沢蟹田線の沿道に集落地が点在しています。主な集落地は、越水、吹原、丸山、出来島、菰槌、館岡、筒木坂、平滝等です。
- ・統廃合による廃校が点在しています。

#### ■法規制

農業振興地域、農用地区域、保安林、国定公園

#### ■都市基盤

|         |      |  |
|---------|------|--|
| 高規格幹線道路 | 1 路線 | 津軽自動車道                                   |
| 国道      | 1 路線 | 101 号                                    |
| 主要地方道   | 1 路線 | 鰯ヶ沢蟹田線                                   |
| 一般県道    | 6 路線 | 出来島丸山線、越水木造線、桑野木田南広森線、菰槌木造線、豊川館岡線、山田鰯ヶ沢線 |
| 市道      | 1 路線 | 木造屏風山線                                   |

### 5-3-2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等                                     | 地域づくりの課題  |
|---|---|
| ◇亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚、ベンセ湿原等の本市が誇るべき地域資源が数多くあります。 | <p>◆地域資源が集積している亀ヶ岡地区は、その公開活用を図るために、2つの史跡の現地整備、並びに新たなガイダンス施設の建設を推進する必要があります。</p> <p>◆地域資源は、基本的には保全に努める必要があります。</p> <p>◆その地域資源を活用し、地域の活性化を図る必要があります。</p> <p>◆地域文化の振興のために、観光資源を活かしたネットワークを形成する必要があります。</p> |
| ◇出来島海水浴場等の観光地へのアクセスが不便です。                     | ◆観光地へのアクセス道路の整備・改善の必要があります。   |
| ◇（主）鰯ヶ沢蟹田線の沿道に集落地が点在しています。                    | <p>◆集落の居住環境と営農環境の向上を図る必要があります。</p> <p>◆集落の古くから培われたコミュニティの維持を図る必要があります。</p>  |
| ◇地域の主な特産品は、メロンやスイカとなっています。                    | ◆優良な農地を生産基盤として位置づけ、維持していく必要があります。   |
| ◇丘陵地には松林、池沼群が多く存在しています。                       | <p>◆自然環境を維持していくため、水辺環境を保全する必要があります。</p> <p>◆丘陵地の松林等が創り出す自然景観を保全していく必要があります。</p>   |
| ◇統廃合による廃校が点在しています。                            | ◆廃校となった跡地を有効活用する必要があります。  |

### 5-3-3 地域づくりの目標

木造西部地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚 ◇ベンセ湿原 ◇出来島海水浴場 ◇亀ヶ岡・平滝沼公園

#### 目標Ⅰ

#### 自然環境と歴史文化資源を活かした空間づくり

##### 【将来の方向性】

- 亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚等の歴史文化資源の活用を目指します。
- ベンセ湿原、平滝沼等の自然環境の保全と活用を目指します。
- 出来島海水浴場は、交流の場としての活用を目指します。

#### 【キーワード】

◇点在する集落地 ◇丘陵地の畑地

#### 目標Ⅱ

#### 生活・居住環境の向上

##### 【将来の方向性】

- 居住環境の向上、営農と共生する環境の維持を目指します。
- 集落地においてコミュニティの維持を目指します。
- 高齢化社会に対応する生活・住環境を目指します。

#### 【キーワード】

◇メロン ◇スイカ ◇防風林 ◇丘陵地

#### 目標Ⅲ

#### 農業（メロン・スイカ）の地域づくり

##### 【将来の方向性】

- 畑作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農基盤等の充実と営農環境の向上を目指します。
- 松林が形成する良好な景観の維持を目指します。

## 5-3-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 観光・レクリエーションエリアのベンセ湿原、平滝沼等の観光拠点は、基本的に維持・保全を図ります。また、観光の場としての整備が必要となる場合においては、自然に対する環境負荷の抑制に努めます。
- 防風林等の自然地については、維持保全を図ります。
- 市内外の交流の場である出来島海水浴場、亀ヶ岡・平滝沼公園は、現在の機能の維持に努め、利用者のニーズや利便性の向上のために、必要に応じた改善を図ります。
- 集落居住エリアは、良好な田園居住環境、コミュニティを維持していきます。また、集落地周辺への無秩序な宅地化を抑制していきます。
- 丘陵・畑作エリア及び田園エリアは、農業基盤として優良な農地を維持していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 集落居住エリアのネットワーク強化のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。
- 市道木造屏風山線、市道富范 23 号線と（主）鯉ヶ沢蟹田線は、主要な観光拠点を結ぶアクセス道路として活用し、デザイン等に配慮した観光案内板等のサイン計画を検討します。
- 観光拠点のネットワークの形成を図るため、市道木造屏風山線、市道富范 23 号線及び、（主）鯉ヶ沢蟹田線と海岸線を結ぶ既存道路の幅員拡幅等の整備を検討します。
- 観光・交流の玄関口となる（仮）浮田 IC の早期完成を関係機関に働きかけます。

#### ②公園・緑地の方針

- 点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、防災、高齢化社会等の新たなニーズに対応できるように改修を検討します。
- 亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚の史跡公園の整備を推進します。
- 集落地内では、必要に応じて、地域ニーズに見合った身近な公園・広場の確保を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 公共下水道認可区域外については、農業集落排水事業や浄化槽による整備を進めます。既存施設については、適切な維持管理に努めます。

#### ④公益的施設の方針

- レクリエーション施設である亀ヶ岡・平滝沼公園は、現在の機能の維持に努め、地域ニーズに応じて施設の充実を図ります。
- 文化・交流活動を図る施設として、亀ヶ岡地区に建設予定の史跡ガイダンス施設の管理に努めます。

### (3) 地域環境形成の方針

#### ①自然環境保全の方針

○良質な自然環境を維持していくために、水田、畑地、防風林、池沼群等の自然地の保全を図ります。

#### ②景観形成の方針

○良好な田園風景、丘陵地に点在する湿地帯、松林等の自然景観等が創り出す「日本のふるさと」の景観を維持・保全していきます。

## 5-3-5 整備方針図



## 5-4 柏地域

### 5-4-1 地域の現況

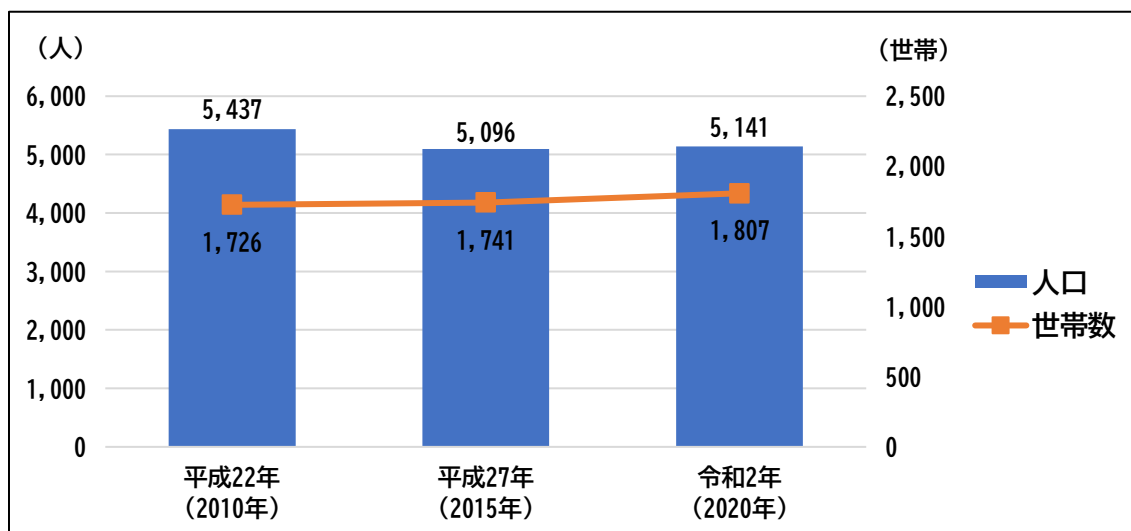
#### ■地域の特性

- ・本市の交通軸の東西方向の骨格軸を担う、津軽自動車道、国道 101 号、(一) 妙堂崎五所川原線があります。
- ・その沿道部には、商業店舗が多く立地しており、大型ショッピングセンターをはじめ郊外型店舗が立地し、賑わいがある一方で、空き店舗も目立つ状況となっています。
- ・つがる柏 IC が広域交通の玄関口となっており、広域的な交通利便性が向上しています。
- ・田園地帯では稲作、畑作地帯ではりんごの生産が盛んに行われています。
- ・地域の北側の一部は、都市計画区域に指定されています。市役所出先機関の周辺に主要な都市施設が集積しています。
- ・主な施設としては、柏口マン荘、柏ふるさと交流センター、つがる市農産物直売所が地域内にあります。
- ・主に(主) 弘前柏線、(一) 妙堂崎五所川原線の沿道に集落地が点在しています。主な集落地は、桑野木田、広須、玉水、下古川、上古川等です。また、公営住宅が点在しています。
- ・地域の人口は平成 27 年に減少したものの令和 2 年には増加へと転じています。世帯数は平成 22 年から増加傾向にあります。

#### ■人口・世帯数

| 年次                  | 人口<br>(人) | 人口増加率<br>(%) | 世帯数<br>(世帯) | 世帯数増加率<br>(%) |
|---------------------|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 平成 22 年<br>(2010 年) | 5,437     | -            | 1,726       | -             |
| 平成 27 年<br>(2015 年) | 5,096     | -6.3         | 1,741       | 0.9           |
| 令和 2 年<br>(2020 年)  | 5,141     | 0.9          | 1,807       | 3.8           |

資料：国勢調査



## ■法規制

都市計画区域、農業振興地域、農用地区域

## ■都市基盤

|         |      |                            |
|---------|------|----------------------------|
| 高規格幹線道路 | 1 路線 | 津軽自動車道                     |
| 国道      | 1 路線 | 101 号                      |
| 主要地方道   | 1 路線 | 弘前柏線                       |
| 一般県道    | 3 路線 | 妙堂崎五所川原線、桑野木田南広森線、稲盛千代町山田線 |

## 5-4-2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等  | 地域づくりの課題   |
|--|--|
| <p>◇幹線道路沿道部には、商業店舗が多く立地しており、大型ショッピングセンターをはじめ郊外型店舗が立地しています。</p> <p>◇大型ショッピングセンターの周辺に空き店舗、空地等がみられます。</p> | <p>◆中心商業地との経済的なバランスを考慮して、幹線道路沿道土地利用の方向性を明確化するとともに、出店を計画的に規制、誘導していく必要があります。</p> <p>◆市内における買い物の利便性を図るため、柏地域と各地域を結ぶ公共交通の利便性を向上させる必要があります。</p> |
| <p>◇つがる柏 IC が設置され、広域交通の玄関口となっています。</p> <p>◇つがる柏 IC の完成により、広域的な交通利便性が向上されています。</p>                      | <p>◆つがる柏 IC の完成により、広域的な交通利便性が向上したことから、IC 周辺ではその利便性を踏まえた土地利用の活用が必要です。</p>   |
| <p>◇近年の人口は、増加傾向にあり、柏ニュータウンをはじめとして公営住宅が多く存在します。</p> <p>◇つがる市の中心市街地、五所川原市の中心市街地に近接する位置的条件を備えています。</p>    | <p>◆住宅の需要やニーズに応じた住宅を計画的に供給していく必要があります。</p> <p>◆柏ニュータウン等の良好な居住環境を維持していく必要があります。</p> <p>◆人口の増加に対応し、公共交通機関を充実させていく必要があります。</p>                |
| <p>◇りんごの畑作、稲作が盛んに行われています。</p>  | <p>◆優良な田園、畑地を保全していく必要があります。</p> <p>◆岩木川沿いの農地を活用し、地域の特徴ある景観の創造を図る必要があります。</p>   |
| <p>◇柏ロマン荘、柏ふるさと交流センター、つがる市農産物直売所等の交流施設が存在します。</p>  | <p>◆交流施設を拠点化し、イベント等に活用する必要があります。</p>   |

### 5-4-3 地域づくりの目標

柏地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇骨格的な交通軸 ◇高規格幹線道路 ◇国道  
◇市外から人を呼べる商業施設 ◇商業施設の集積

#### 目標Ⅰ

#### 産業経済と活力を創出する基盤づくり

##### 【将来の方向性】

- 国道 101 号線と（一）妙堂崎五所川原線の沿道商業地の形成を目指します。
- 広域交通の利便性、立地条件を活かした、本市の産業を支える商業と工業の複合拠点の形成を目指します。
- つがる柏 IC 周辺は、交通利用を活かした新たな土地利用の展開を目指します。
- 都市的土地利用の促進区域と農地等の保全区域の明確化を目指します。

#### 【キーワード】

◇木造中心市街地 ◇五所川原市中心市街地 ◇国道 ◇高規格幹線道路 ◇商業施設の集積

#### 目標Ⅱ

#### 職住近接の利便性の高い居住地づくり

##### 【将来の方向性】

- 木造の中心市街地、五所川原市の中心市街地等の通勤・通学に便利な住宅地の形成を目指します。
- 多様なニーズに対応する需要に応じた住宅の供給の計画的誘導を目指します。

#### 【キーワード】

◇水田 ◇岩木川河川敷沿いの果樹地

#### 目標Ⅲ

#### 農業（米・りんご）の地域づくり

##### 【将来の方向性】

- 稲作、畑作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農基盤等の充実と営農環境の向上を目指します。
- 岩木川沿いの果樹地、田園等の良好な景観の維持を目指します。

## 5-4-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 沿道型商業エリアは、中心商業地とのバランスに配慮するとともに、住民及び関係機関との協働で将来像を検討し、適切な土地利用の誘導を図り、無秩序な沿道商業地の拡大を抑制します。
- IC 周辺複合エリアは、良好な交通条件を活かし、計画的に商業系の流通業務系企業や工業系の物流系会社の誘致を図ります。
- 国道 101 号及び(一)妙堂崎五所川原線に囲まれている沿道商業地エリアの未利用地については、新たな土地利用の転換を検討します。
- 地域住宅エリアは、住環境の維持・向上に努め、コンパクトな地域生活の場を図り、周辺への無秩序な宅地化を抑制していきます。
- 生活商業エリアは、現在の市役所出先機関を中心として、集積している機能の維持を図り、バランスに考慮し、地域生活に必要な商業や生活サービス等を確保していきます。
- 集落居住エリアは、既存の集落地周辺への無秩序な宅地化を抑制し、良好な田園居住環境、コミュニティを維持していきます。
- 田園エリア、丘陵・畑作エリアの果樹地は、農業生産基盤として優良な農地を維持していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 地域の活性化や地域間交流の効果が十分に発揮されるよう、津軽自動車道及びつがる柏 IC の適切な維持管理を関係機関に働きかけます。
- 集落居住エリアのネットワーク強化のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。

#### ②公園・緑地の方針

- 集落地内に点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、防災、高齢化社会等の新たなニーズに対応できるように改修を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 農業集落排水事業や浄化槽による整備を進めます。既存施設については、適切な維持管理に努めます。

#### ④公益的施設の方針

- 柏ロマン荘、柏ふるさと交流センター、つがる市農産物直売所は既存の機能の維持に努め、つがるブランド 8 品目の特産品を PR するイベントの会場として活用を図ります。
- 柏村名の起源となった歴史ある観光資源の「柏の木」の活用を図ります。
- 市役所出先機関は、現在のサービスの維持・向上に努め、地域にとって利便性の高い複合的な利用を図ります。
- 公営住宅は、適切な維持管理を図ります。

### (3) 地域環境形成の方針

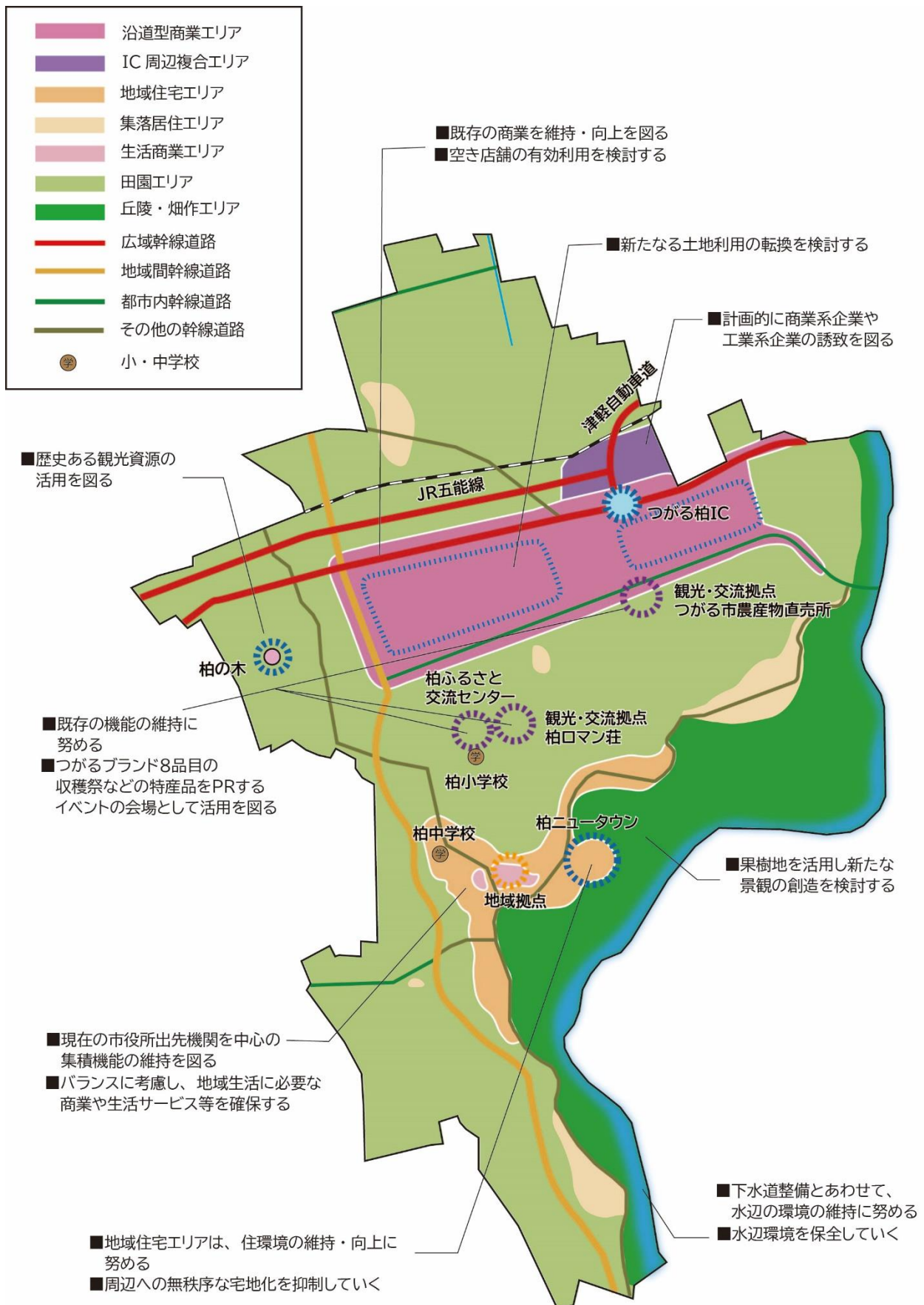
#### ①自然環境保全の方針

- 優良な農地の保全を基本とします。
- 優良な水田、山田川水系の水質を維持していくために、下水道整備とあわせて、自然環境の維持に努めていきます。

#### ②景観形成の方針

- 国道 101 号及び（一）妙堂崎五所川原線の沿道商業地は、周辺環境との調和のとれたまちなみ景観となるよう、建築物や看板等の工作物の形態、意匠の規制誘導を検討します。
- 良好な田園風景、岩木川水系の景観を保全していきます。
- 果樹地を活用し、地域の特徴ある景観の創造に努めます。

## 5-4-5 整備方針図



## 5-5 車力地域

### 5-5-1 地域の現況

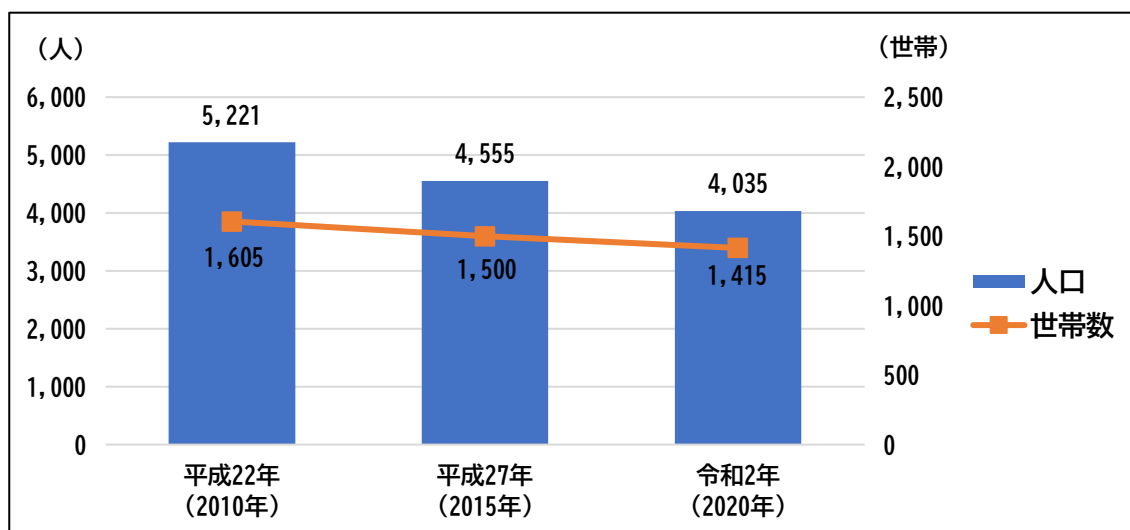
#### ■地域の特性

- ・本地区は、優良な農地が広がる丘陵地帯を形成しており、北側には十三湖、南側には田光沼、東側には、岩木川が流れており、（主）鯡ヶ沢蟹田線を境界として、東側は田園地帯、西側は畑作地帯となっています。
- ・その畑作地帯では、つがるブランドの品目であるごぼう、メロン、ながいも、ねぎの畑作、十三湖の周辺や山田川の下流では、しじみ漁が盛んに行われています。
- ・主な施設としては、むらおこし拠点館（フラット）、車力漁港、マグアビーチ、高山稻荷神社、また航空自衛隊車力分屯基地、米軍車力通信所が地域内にあります。
- ・主に（主）鯡ヶ沢蟹田線の沿道に集落地が点在しています。主な集落地は、富范、豊富、車力、牛潟等です。
- ・統廃合による廃校が存在しています。
- ・地域の人口、世帯数ともに平成22年から減少傾向にあります。

#### ■人口・世帯数

| 年次               | 人口<br>(人) | 人口増加率<br>(%) | 世帯数<br>(世帯) | 世帯数増加率<br>(%) |
|------------------|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 平成22年<br>(2010年) | 5,221     | -            | 1,605       | -             |
| 平成27年<br>(2015年) | 4,555     | -12.8        | 1,500       | -6.5          |
| 令和2年<br>(2020年)  | 4,035     | -11.4        | 1,415       | -5.7          |

資料：国勢調査



## ■法規制

農業振興地域、農用地区域、保安林、国定公園

## ■都市基盤

|       |      |                                |
|-------|------|--------------------------------|
| 国道    | —    | —                              |
| 主要地方道 | 4 路線 | 鰯ヶ沢蟹田線、五所川原車力線、屏風山内真部線、高山稲荷神社線 |
| 一般県道  | 1 路線 | 富范薄市線                          |
| 市道    | 2 路線 | 木造屏風山線、富范 23 号線                |

## 5-5-2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等  | 地域づくりの課題  |
|--|---|
| ◇丘陵部の富范地区、車力地区、牛潟地区の中心となる集落地では、道路幅員が狭小となっています。<br>◇農地に集落地が点在しています。   | ◆丘陵地であることから、土砂災害等の自然災害の危険性の安全対策を講じる必要があります。<br>◆狭あい道路の拡幅等の改善、建物密集を解消する必要があります。<br>◆集落の機能の維持する必要があります。<br>◆集落のコミュニティの維持を図る必要があります。 |
| ◇十三湖の周辺や山田川の下流では、しじみ漁が盛んに行われています。<br>◇車力漁港が存在します。                    | ◆車力漁港を活かした、地域振興や交流振興を図ることが必要です。   |
| ◇丘陵地帯の畑作地では、ごぼう、メロン、ながいも、ねぎの生産が盛んに行われています。<br>◇山田川沿いでは、田園地帯が広がっています。 | ◆優良な田園、畑地を保全していく必要があります。  |
| ◇マグアビーチ等のレクリエーションの場があります。<br>◇高山稲荷神社の歴史的文化資源が存在しています。                | ◆レクリエーション施設の活用やイベントの継続を支援する場の維持が必要です。<br>◆基本的には歴史的文化資源の景観の維持に努め、観光資源として活用する必要があります。   |
| ◇十三湖、田光沼の水辺の拠点や山田川水系等の水辺のネットワークが形成されています。                            | ◆良好な水辺環境を維持していく必要があります。   |

### 5-5-3 地域づくりの目標

車力地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇マグアビーチ ◇高山稻荷神社 ◇車力漁港 ◇十三湖のしじみ

#### 目標Ⅰ

#### 地域資源を活かした交流づくり

##### 【将来の方向性】

- 水産資源を活かした交流拠点の形成を目指します。
- マグアビーチを活用して、交流の促進や地域の活性化を目指します。

#### 【キーワード】

◇丘陵地の畑地 ◇集落地の点在

#### 目標Ⅱ

#### 生活・居住環境の向上

##### 【将来の方向性】

- 既存集落の防災面の向上を目指します。
- 居住環境の向上、営農と共生する環境の維持を目指します。
- 集落地においてコミュニティの維持を目指します。
- 高齢化社会に対応する生活・住環境を目指します。

#### 【キーワード】

◇丘陵地の畑地 ◇ごぼう ◇ながいも ◇ねぎ  
◇メロン ◇むらおこし拠点館（フラット）

#### 目標Ⅲ

#### 農業（ごぼう、ながいも、ねぎ、メロン）の地域づくり

##### 【将来の方向性】

- 畑作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農基盤等の充実と営農環境の向上を目指します。
- 松林の防風林等が形成する良好な景観の維持を目指します。

## 5-5-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 地域住宅エリアは、住環境の維持や密集している住宅地の改善に努め、コンパクトな地域生活の場を図り、周辺への無秩序な宅地化を抑制していきます。
- 生活商業エリアは、地域生活に必要な商業や生活サービス等の集積している機能を維持していきます。
- 集落居住エリアは、集落地周辺への無秩序な宅地化を抑制し、良好な農業居住環境、コミュニティを維持していきます。
- 田園エリア、丘陵部・畑作エリアは、農業基盤として優良な農地を維持していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 集落居住エリアのネットワーク強化や防災性の向上のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。

#### ②公園・緑地の方針

- 点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、防災、高齢化社会等の新たなニーズに対応できるように改修を検討します。
- 集落地内では、必要に応じて、地域ニーズに見合った身近な公園・広場の確保を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 公共下水道認可区域外については、農業集落排水事業や浄化槽による整備を進めます。既存施設については、適切な維持管理に努めます。

#### ④公益的施設の方針

- 既存の交流施設であるフラットは、特産品をPRするイベントの会場として活用し、観光ネットワークを担う施設として維持管理を推進していきます。
- 車力漁港は、つがる水産振興プランと連動し、漁港を中心とした交流機能の拠点づくりやPR活動の場として、交流機能の強化・食文化の伝承を図ります。
- 市役所出先機関は、現在のサービスの維持・向上に努め、地域にとって利便性の高い複合的な利用を図ります。
- 地域の活性化のために、高山稻荷神社のPRを通して、広域交流を促進していきます。

### (3) 地域環境形成の方針

#### ①自然環境保全の方針

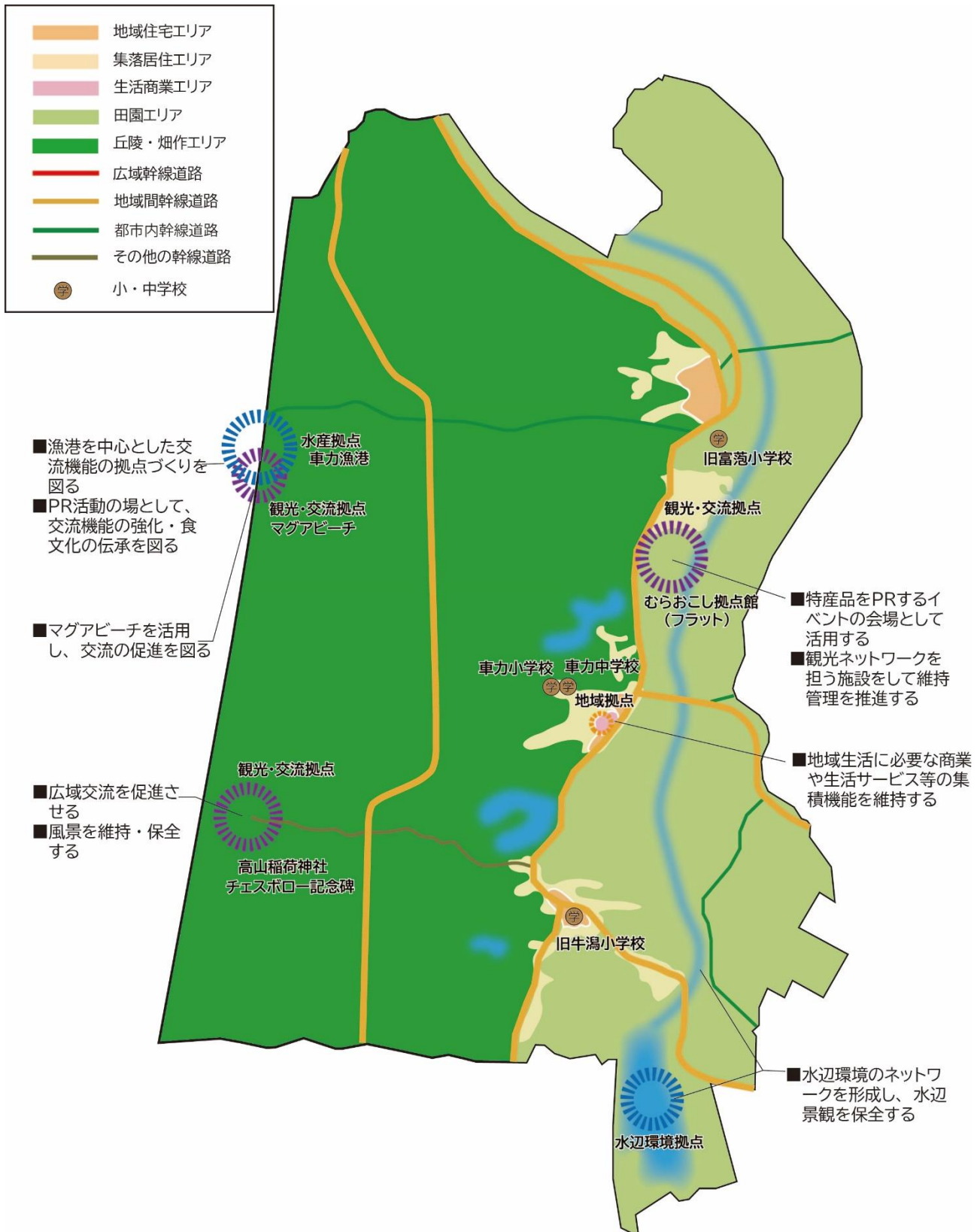
○岩木川・山田川水系は、優良な水田を維持していくため、水辺の環境の維持に努めていきます。

#### ②景観形成の方針

○観光拠点である高山稻荷神社の風景を維持・保全していきます。

○良好な緑の風景を保全していきます。また、岩木川、山田川水系、田光沼の水辺環境のネットワークを形成し、水辺景観を保全していきます。

## 5-5-5 整備方針図



## 5－6 稲垣地域

### 5－6－1 地域の現況

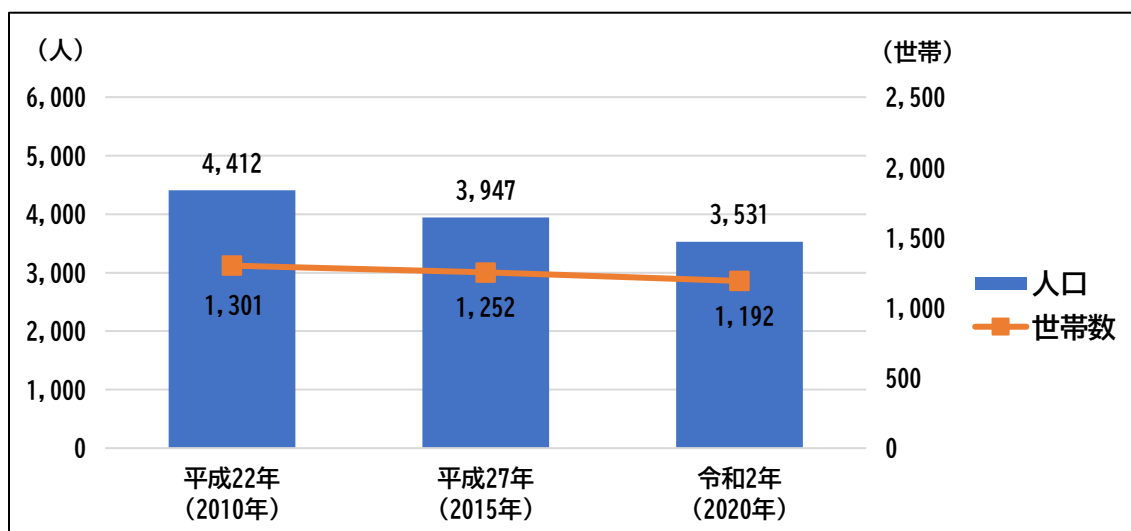
#### ■地域の特性

- ・本地域は、津軽平野の優良な農地が広がる田園地帯を形成しており、地域の東側には、岩木川が流れております。
- ・その田園地帯では、米、トマト、ねぎの生産が盛んに行われています。
- ・市役所出先機関の周辺に、老人福祉施設（安住の里）、宿泊施設やレクリエーション施設の主要な施設が集積しています。
- ・主な施設としては、岩木川河川公園、稲穂いこいの里、稲垣交流センターが地域内にあります。
- ・主に（主）五所川原車力線、（一）下派立沼崎線の沿道に集落地が点在しています。主な集落地は、沼崎、豊川、繁田、沼館等です。
- ・統廃合による廃校が存在しています。
- ・岩木川河川沿いには、樹齢1,000年とされる市指定文化財のヤチダモ「一本タモ」が観光資源として存在しています。
- ・地域の人口、世帯数ともに平成22年から減少傾向にあります。

#### ■人口・世帯数

| 年次               | 人口<br>(人) | 人口増加率<br>(%) | 世帯数<br>(世帯) | 世帯数増加率<br>(%) |
|------------------|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 平成22年<br>(2010年) | 4,412     | -            | 1,301       | -             |
| 平成27年<br>(2015年) | 3,947     | -10.5        | 1,252       | -3.8          |
| 令和2年<br>(2020年)  | 3,531     | -10.5        | 1,192       | -4.8          |

資料：国勢調査



## ■法規制

農業振興地域、農用地区域

## ■都市基盤

|       |      |                 |
|-------|------|-----------------|
| 国道    | —    | —               |
| 主要地方道 | 2 路線 | 五所川原車力線、屏風山内真部線 |
| 一般県道  | 2 路線 | 豊川館岡線、下派立沼崎線    |

## 5－6－2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等  | 地域づくりの課題   |
|--|--|
| ◇沼崎・豊川地区に老人福祉施設（安住の里）、宿泊施設やレクリエーション施設の主要な施設が集積しています。 | ◆生活に密着した地域の中心地の機能を維持する必要があります。<br>◆コンパクトな地域生活空間を形成する必要があります。 |
| ◇広大な田園地帯が形成されています。                                   | ◆優良な水田等を保全していく必要があります。<br>◆良好な田園風景を保全していく必要があります。            |
| ◇公共交通の利用が不便な地区があります。                                 | ◆既存のバス路線に該当していない集落地の公共交通の利便性を向上させる必要があります。                   |
| ◇レクリエーション施設の岩木川河川公園が活用されていません。                       | ◆地域のスポーツ振興のために、ニーズに対応する機能の充実を図る必要があります。                      |
| ◇統廃合による廃校が存在しています。                                   | ◆廃校となった学校等を活用し、市民ニーズに応じたオープンスペースの整備を検討する必要があります。             |
| ◇岩木川沿いに集落が点在しています。<br>◇岩木川の堤防に暫定堤防区間があります。           | ◆岩木川河川沿いの住宅地の安全性を強化する必要があります。                                |
| ◇岩木川河川沿いには、市文化財に指定されている「一本タモ」の観光資源が存在します。            | ◆地域固有の文化資源の活用のために、観光地を拠点化し、有効活用を図る必要があります。                   |

### 5-6-3 地域づくりの目標

稲垣地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇地域サービス施設の集積 ◇岩木川河川公園  
◇稲穂いこいの里 ◇旧尾野家住宅

#### 目標Ⅰ

#### 地域に密着した生活の中心地づくり

##### 【将来の方向性】

- 沼崎・豊川地区は、行政・福祉・商業・交流等の地域に密着した生活の中心地の機能維持を目指します。
- 地域住民に利用しやすい移動手段となる公共交通機関の充実を目指します。
- レクリエーション施設を活用し地域のスポーツ振興を目指します。

#### 【キーワード】

◇点在する集落地 ◇田園

#### 目標Ⅱ

#### 生活・居住環境の向上

##### 【将来の方向性】

- 災害に強い集落地を目指します。
- 居住環境の向上、営農と共生する環境の維持を目指します。
- 集落地においてコミュニティの維持を目指します。
- 高齢化社会に対応する生活・住環境を目指します。

#### 【キーワード】

◇米 ◇トマト ◇ねぎ ◇肥育牛

#### 目標Ⅲ

#### 農業（米、トマト、ねぎ）の地域づくり

##### 【将来の方向性】

- 稲作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農・酪農基盤等の充実を目指します。
- 広大な田園地帯が形成する良好な景観の維持を目指します。

## 5-6-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 地域住宅エリアは、住環境の維持・向上に努め、コンパクトな地域生活の場を図り、周辺への無秩序な宅地化を抑制していきます。
- 生活商業エリアは、現在の市役所出先機関を中心として集積している機能の維持を図り、バランスに考慮し、地域生活に必要な商業や生活サービス等を確保していきます。
- 集落居住エリアは、既存の集落地周辺への無秩序な宅地化を抑制し、良好な田園居住環境、コミュニティを維持していきます。また、岩木川河川沿いの住宅地は、岩木川堤防の整備を図り、住宅地の安全性を強化するように関係機関に働きかけます。
- 田園エリアは、農業基盤として優良な農地を維持していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 集落居住エリアのネットワーク強化のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。
- 集落居住エリアを維持するために、既存のバス路線に該当していない集落地と病院や中心市街地等を結ぶコミュニティバス等の導入を検討します。

#### ②公園・緑地の方針

- 住民のレクリエーションの場としての岩木川河川公園内にある運動公園は、地域ニーズに応じて施設の充実を図ります。
- 点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、地域のニーズに対応できるように改修を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 農業集落排水事業によって整備された下水道施設の適切な維持管理に務めます。

#### ④公益的施設の方針

- 稲穂いこいの里及び市指定文化財の旧尾野家住宅は、機能の維持に努め、さらに特産品をPRするイベントの会場として活用を図ります。
- 今後の利用目的が決定していない廃校や跡地は、地域利用や民間企業等の活用を検討していきます。
- 市役所出先機関は、現在のサービスの維持・向上に努め、地域にとって利便性の高い複合的な利用を図ります。

### (3) 地域環境形成の方針

#### ①自然環境保全の方針

- 岩木川・山田川水系は、優良な水田を維持していくため、水質の維持、水辺の環境の維持に努めていきます。

#### ②景観形成の方針

- 良好な田園風景、岩木川、山田川水系の水辺景観を保全していきます。
- 岩木川河川公園や一本タモを中心として、周辺の景観を保全するとともに、観光資源として活用していきます。

## 5-6-5 整備方針図



## 5－7 森田地域

### 5－7－1 地域の現況

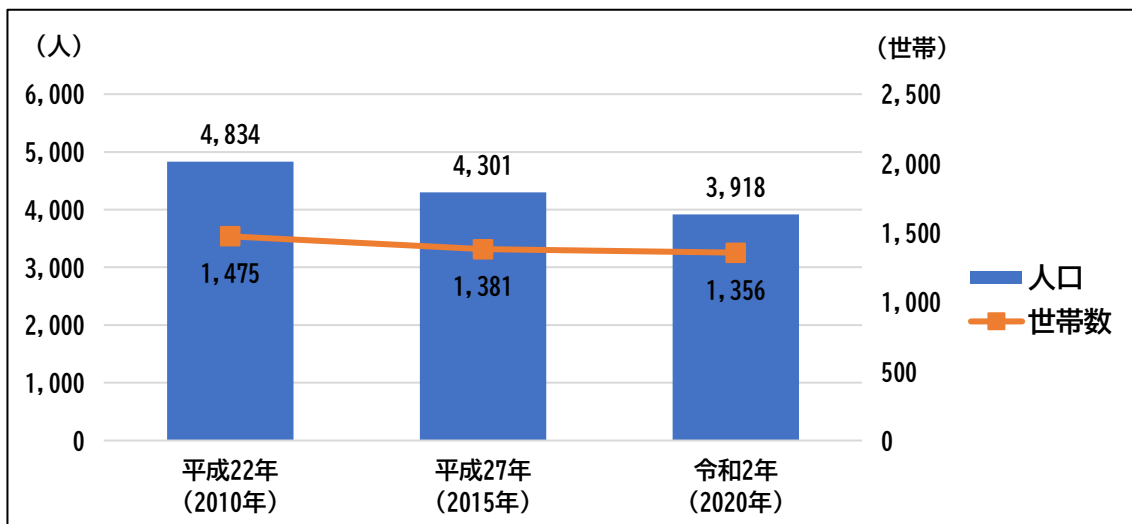
#### ■地域の特性

- ・本地域は、主に農地が広がる丘陵地帯を形成しており、狄ヶ館溜池等のため池が点在しています。
- ・その丘陵地帯では、りんごの生産が盛んに行われており、そのりんごを使った加工品が多数あります。
- ・地域の北東側は都市計画区域に指定されています。JR 五能線の陸奥森田駅を中心に、主要な都市施設、住宅地が集積しています。また、本地域内には、陸奥森田駅をはじめとして、中田駅、越水駅の3つが存在し、バス路線も存在することから、公共交通の利便性がよい地域となっています。
- ・主な施設としては、レクリエーション施設のつがる地球村、山田川河川公園、交流施設の道の駅もりた（アーストップ）があります。
- ・主に（一）山田鯉ヶ沢線の沿道に集落地が点在しています。主な集落地は、大館、床舞、森田、山田、中田、下相野、上相野です。また、地域内には、つきみの団地、月見野丘団地、森田若緑団地等の公営住宅が点在しています。
- ・観光資源としては、縄文前期・中期に繁栄した円筒土器文化の代表的遺跡の石神遺跡が地域内にあります。
- ・地域の人口、世帯数ともに平成22年から減少傾向にあります。

#### ■人口・世帯数

| 年次               | 人口<br>(人) | 人口増加率<br>(%) | 世帯数<br>(世帯) | 世帯数増加率<br>(%) |
|------------------|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 平成22年<br>(2010年) | 4,834     | -            | 1,475       | -             |
| 平成27年<br>(2015年) | 4,301     | -11.0        | 1,381       | -6.4          |
| 令和2年<br>(2020年)  | 3,918     | -8.9         | 1,356       | -1.8          |

資料：国勢調査



## ■法規制

都市計画区域、農業振興地域、農用地区域

## ■都市基盤

|       |      |  |
|-------|------|--|
| 国道    | 1 路線 | 101 号  |
| 主要地方道 | 1 路線 | 長平町森田線   |
| 一般県道  | 7 路線 | 山田鰯ヶ沢線、十腰内陸奥森田停車場線、山田鶴田線、桑野木田南広森線、稲盛千代町山田線、福原陸奥森田停車場線、妙堂崎五所川原線 |

## 5-7-2 地域づくりの課題

地域づくりの課題は、地域の現況特性と住民意見（アンケート調査、地区懇談会）等を踏まえた地域づくりの問題点を基に設定しました。

| 主な特性・問題点等  | 地域づくりの課題  |
|--|---|
| ◇陸奥森田駅周辺に地域サービス施設等が集積しています。<br>◇集落地が点在しています。<br>◇公共交通の利便性が高い地域です。  | ◆利便性が高い公共交通を活用した生活環境を形成する必要があります。<br>◆陸奥森田駅周辺の地域サービス施設等の維持を図る必要があります。   |
| ◇丘陵地帯では、つがるブランドの 8 品目であるりんごの生産が盛んに行われています。<br>◇りんごを使った加工品が多数あります。  | ◆優良な田園、畑地を保全していく必要があります。<br>◆丘陵部の既存の果樹地を活用し、景観の創造を図る必要があります。            |
| ◇自動車利用者の利便に供する場の道の駅もりた（アーストップ）があります。<br>◇他の交流施設とのネットワークが形成されていません。 | ◆収穫時に応じた、特産品のPRの場として活用する必要があります。<br>◆利用者確保のために、各交流施設のネットワーク化を図る必要があります。 |
| ◇広域的集客力のあるレクリエーション施設のつがる地球村が存在します。                                 | ◆多様な余暇、スポーツ、各種交流活動等のニーズに対応するレクリエーション機能の充実を図る必要があります。                    |
| ◇狄ヶ館溜池等の溜池が点在し、良好な水辺環境を形成しています。                                    | ◆良好な水辺環境、水辺景観を保全する必要があります。  |

### 5-7-3 地域づくりの目標

森田地域の地域づくりの目標と具体的な将来の方向性は、次のとおりです。

#### 【キーワード】

◇つがる地球村 ◇道の駅もりた（アーストップ） ◇山田川河川公園

#### 目標Ⅰ

#### 交流・レクリエーション施設を活用した交流拠点づくり

##### 【将来の方向性】

- つがる地球村は、本市唯一の滞在型リゾート施設として観光の中核を担っており、憩いとレクリエーションの交流を促進するため、さらなる活用を目指します。
- 道の駅もりた（アーストップ）は、自動車利用者へのサービスの向上や地域・広域交流を促進するため、有効活用を目指します。
- 点在する交流施設のネットワーク形成を目指します。

#### 【キーワード】

◇3つの鉄道駅 ◇JR五能線 ◇バス路線 ◇国道 ◇点在する集落地

#### 目標Ⅱ

#### 良好な交通環境を活かした生活・居住環境づくり

##### 【将来の方向性】

- 利便性が高い公共交通機関を活用した生活環境の維持を目指します。
- 居住環境の向上、営農と共生する環境の維持を目指します。
- 集落地においてコミュニティの維持を目指します。

#### 【キーワード】

◇りんご ◇りんごの加工品 ◇米 ◇丘陵地の果樹地 ◇道の駅もりた（アーストップ）

#### 目標Ⅲ

#### 農業（りんご、米）の地域づくり

##### 【将来の方向性】

- 稲作、畑作等による農地の保全を目指します。
- 地域の特産物の活用、道の駅の活用により、地域活力の創出を目指します。
- 営農基盤等の充実と営農環境の向上を目指します。
- 丘陵地帯の果樹地等が形成する良好な景観の維持を目指します。

## 5-7-4 整備構想

### (1) 土地利用の方針

- 地域住宅エリアは、住環境の維持・向上に努め、良好な交通環境を活かしたコンパクトな地域生活の場を図り、周辺への無秩序な宅地化を抑制していきます。
- 生活商業エリアは、陸奥森田駅周辺に集積している機能の維持を図り、バランスに考慮し、地域生活に必要な商業や生活サービス等を確保していきます。
- 集落居住エリアは、既存の集落地周辺への無秩序な宅地化を抑制し、良好な田園居住環境、コミュニティを維持していきます。
- 田園エリア、丘陵・畑作エリアの果樹地は、農業基盤として優良な農地を維持していきます。
- 観光・レクリエーションエリアは、住民等のレクリエーションの場、交流の場としての機能維持を図り、必要ニーズに応じて整備を検討していきます。

### (2) 都市施設整備の方針

#### ①交通施設の方針

- 鉄道利用の促進と駅周辺の利便性向上を図るため、鉄道利用者用の駐車場・駐輪場の確保に努めます。
- 集落居住エリアのネットワーク強化のため、既存道路の幅員の拡幅整備や、冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を進めます。
- 道の駅もりた（アーストップ）と市街地の街の駅「あるびょん」等の施設間交流のためのアクセス道路及び（仮）木造 IC の整備について関係機関に働きかけます。

#### ②公園・緑地の方針

- つがる地球村は、住民のレクリエーションの場であるとともに、広域の人との交流の場としての機能を維持し、さらに施設の充実を図ります。
- 点在する既存公園は、必要に応じてコミュニティの場、防災、高齢化社会等の新たなニーズに対応できるように改修を検討します。

#### ③河川・下水道の方針

- 浄化槽による整備を進めます。

#### ④公益的施設の方針

- 道の駅もりた（アーストップ）、つがる地球村は、現在の機能の維持に努め、さらに交流の場として活用を図ります。

### (3) 地域環境形成の方針

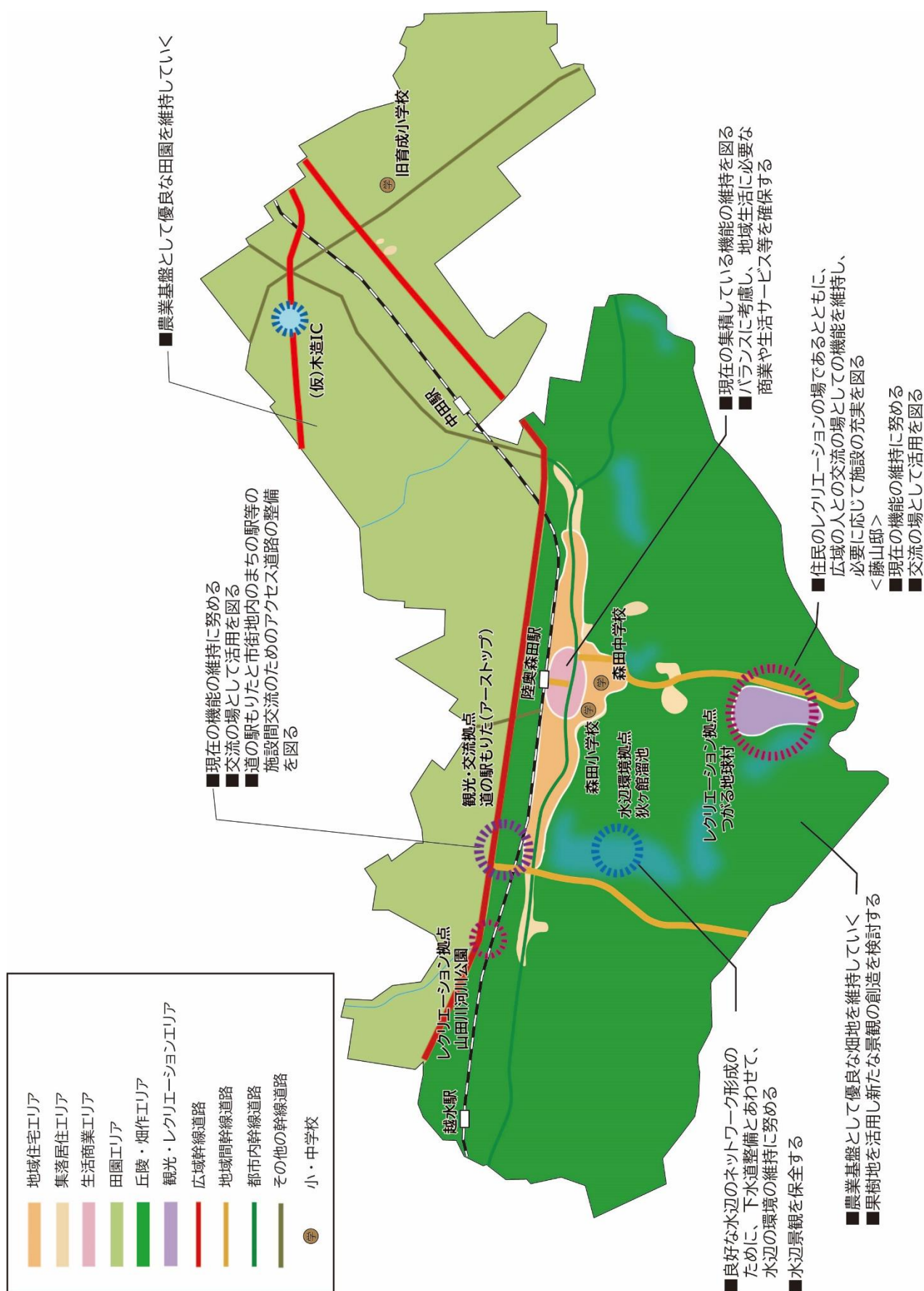
#### ①自然環境保全の方針

- 水辺環境拠点となっている狄ヶ館溜池と水辺環境軸となっている山田川水系は、良好な水辺のネットワーク形成のために、下水道整備とあわせて、水辺の環境の維持に努めていきます。

#### ②景観形成の方針

- 良好な丘陵風景、狄ヶ館溜池等のため池と山田川水系の水辺景観を保全していきます。
- 果樹地を活用し新たな景観の創造を検討します。

## 5-7-5 整備方針図



## 第6章 実現化方策の検討

### 6-1 土地利用の実現化方策

#### 6-1-1 都市基盤が整備された良好な住環境の維持と向上

【対象】住宅市街地エリアの都市基盤が整備された地区

| 実現化に向けた考え方  | 想定される事業・取り組み           |
|---|------------------------|
| ○地域住民や民間団体等による街路樹、公園・緑地等の維持管理を検討します。              | ◆地域住民、ボランティア、NPO等の活動支援 |
| ○街並み景観づくりに向けて、土地利用用途や建築物等の建て方等の地域ルール（規制、誘導）を定めます。 | ◆地区計画、建築協定等による誘導       |
| ○建築物の建て替え時期等に合わせて、街並み景観づくりを図ります。                  |                        |

#### 6-1-2 既成市街地で建物の密集等がみられる地区の住環境の改善

【対象】住宅市街地エリアの都市基盤の整備が不足している地区

| 実現化に向けた考え方  | 想定される事業・取り組み     |
|---|------------------|
| ○必要な公共施設の位置、地区における土地利用用途や建築物等の建て方等の地域ルール（規制、誘導）を定めます。 | ◆地区計画、建築協定等による誘導 |
| ○確保された公共施設用地において、道路・公園等の整備を図ります。                      | ◆道路事業、公園事業       |

#### 6-1-3 新しい住宅地の整備

【対象】住宅市街地エリアの一部

| 実現化に向けた考え方  | 想定される事業・取り組み     |
|---|------------------|
| ○権利者、関係者との合意形成と、協働による地域の整備計画の策定を行います。             | ◆土地区画整理事業        |
| ○宅地及び都市基盤整備等の実施を図ります。                             |                  |
| ○街並み景観づくりに向けて、土地利用用途や建築物等の建て方等の地域ルール（規制、誘導）を定めます。 | ◆地区計画、建築協定等による誘導 |

## 6-1-4 集落地の住環境の向上

【対象】地域住宅エリア、集落居住エリア

| 実現化に向けた考え方  | 想定される事業・取り組み   |
|---|--|
| ○公共施設が不足している集落地においては、生活道路や歩道、排水施設等の整備、改善を必要に応じて行います。                                    | ◆道路事業<br>◆浄化槽の設置   |
| ○良好な集落環境の維持と営農等の保全を図り、田園または丘陵の集落景観づくりを推進します。<br>○集落の景観づくりに向けた土地利用、建築物等の建て方等の規制、誘導を図ります。 | ◆集落地区計画、地区計画・建築協定、景観法・条例等による規制誘導   |
| ○水田、畑地の維持保全を図ります。（農政関係機関の所管事業が基本）<br>○森林等の自然環境の維持保全を図ります。                               | ◆各種の農業基盤整備事業<br>◆農業振興に資する事業、助成制度<br>◆都市計画法または農業振興地域整備法等に基づく、農地及び自然環境保全に関する地域、地区の指定 |

## 6-1-5 中心商業地の活性化

【対象】中心商業エリア

| 実現化に向けた考え方   | 想定される事業・取り組み  |
|--|---|
| ○中心市街地の将来像を描くとともに、活性化へ向けた整備方策を定めます。<br><br>【ハード事業の展開】<br>・道路、広場等の公共施設等の整備、改善<br>・電線の地中化、歩道のユニバーサルデザイン化への対応等<br>・共同店舗、街なか住宅等の建築物の建設等<br><br>【ソフト事業の展開】<br>・商店街の街並み景観づくりに向けた土地利用用途や建築物等の規制・誘導<br>・空き店舗の有効活用等 | 【ハード事業】<br>◆土地区画整理事業（市街地改善型）、市街地再開発事業による都市基盤、建築物の整備<br>◆様々な交付金及び各種認定計画に基づく事業の助成等による道路・歩道・広場等の整備<br><br>【ソフト事業】<br>◆地区計画、建築協定、景観法・条例等による規制、誘導<br>◆各種活性化事業の助成制度等の活用 |

## 6-1-6 幹線道路沿道への商業施設の誘導

【対象】沿道型商業エリア、IC 周辺複合エリアの一部

| 実現化に向けた考え方   | 想定される事業・取り組み   |
|--|--|
| <p>○幹線道路沿道の商業系土地利用に関する地域の特性に応じた規制・誘導の内容を定めます。</p> <p>○土地利用や建築の方針に見合った店舗・事業所等の計画的誘導、出店企業、事業者の誘致を図ります。</p> <p>【ハード事業の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線道路の整備、改修等と併せた沿道宅地の整備</li> <li>・ 面的な開発、整備事業の実施</li> </ul> <p>【ソフト事業の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出店企業、事業者の誘致</li> <li>・ 沿道景観づくりの誘導</li> </ul> | <p>◆用途地域及び特別用途制限地域の指定による規制・誘導</p> <p>◆条例、協定等の制定</p> <p>◆企業誘致等への支援</p> <p>【ハード事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆様々な交付金等による道路・歩道等の整備</li> <li>◆土地区画整理事業（新市街地整備型）等の面的整備事業</li> </ul> <p>【ソフト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区計画、沿道地区計画、建築協定、景観法・条例等による規制、誘導</li> </ul> |

## 6-1-7 地域特性を活かした地域の商業空間の形成

【対象】生活商業エリア

| 実現化に向けた考え方   | 想定される事業・取り組み                         |
|--|--------------------------------------|
| <p>○商業地の道路や歩道、商業施設・公益的施設等の各種施設のユニバーサルデザインへの整備、改善を図ります。</p> <p>○地域の個性を活かした商業空間、街並みづくりに向けた土地利用、建築物等の規制誘導を図ります。</p> | <p>◆道路事業</p> <p>◆地区計画、建築協定等による誘導</p> |

## 6-1-8 工業系土地利用の促進

【対象】IC 周辺複合エリアの一部

| 実現化に向けた考え方  | 想定される事業・取り組み   |
|---|--|
| <p>○都市基盤づくりと同時に、企業の誘致を図ります。</p> <p>○土地利用や用途・業種に見合った工場・事業所施設等の建築は、計画的な誘導を図ります。</p> <p>○住宅地等に隣接する工業地は、周辺環境と調和を図るため、工業系土地利用の規制・誘導の方策を定めます。</p> | <p>◆企業誘致等への支援</p> <p>◆用途地域及び特別用途制限地域の指定</p> <p>◆地区計画、建築協定、緑地協定等による規制誘導</p> |
| <p>○ハード事業を図ります。</p>   | <p>◆土地区画整理事業（大規模街区整備型）等の面的整備事業</p>   |

## 6-1-9 都市的土地利用の抑制

【対象】田園エリア、丘陵・畑作エリア、観光・レクリエーションエリアの一部

| 実現化に向けた考え方                                     | 想定される事業・取り組み  |
|--|---|
| <p>○自然環境や山林、樹林地等の維持保全のための土地利用規制や開発抑制を図ります。</p> | <p>◆各種の自然・森林等の保全に関する地域、地区の指定</p> <p>◆特定用途制限地域、条例、協定等の制定</p> |
| <p>○住民参加等による自然環境の維持保全の組織、仕組みづくりを図ります。</p>      | <p>◆地域住民、ボランティア、NPO 等による維持活動の支援</p>                         |

## 6－2 都市施設整備の実現化の考え方

### 6－2－1 道路

#### （１）広域幹線道路

- 津軽自動車道の早期完成を関係機関に要望していきます。
- 国道 101 号は、各々の問題点を解消するため、幅員の拡幅、歩道の設置及び改良等を必要に応じて、関係機関に要望していきます。

#### （２）地域間幹線道路、都市内幹線道路

- 主に現道を位置づけていることから、各々の道路の問題点を踏まえ、幅員の拡幅、歩道の設置及び改善等や冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を必要に応じて関係機関へ要望していきます。

#### （３）市街地内幹線道路

- 整備済みの都市計画道路は、適正な維持管理に努めます。
- 長期にわたり整備が未着手となっている都市計画道路は、見直しを行います。

#### （４）生活道路

- 適正な維持管理に努めるとともに、問題箇所について必要な整備、改修を進めます。
- 冬期の交通を確保するための流・融雪溝の充実等を必要に応じて進めます。

#### （５）歩道

- 道路管理者と協議の上、幹線道路の整備、改修とあわせて進めます。

### 6－2－2 公共交通機関

- 在来線の鉄道利用の促進、利便性の向上を図るため、施設の整備、改善を鉄道関係者に要望していきます。
- バス路線の利用促進と利便性の向上を図るため、運行の維持と運行本数・ルート of 拡充や停留所施設の改善等を運行事業者と連携し協議します。

### 6－2－3 公園・緑地

- 整備済みの都市計画決定された公園は、地域住民やボランティア等による既設公園の維持管理体制の確立に努めます。
- 集落地における新たな公園は、地域住民の協力を得て確保に努めます。

## 6-2-4 河川・下水道

- 河川管理者と協議し、河川は、治水機能の維持・強化と親水性の高い水辺空間の整備に努めます。
- 下水道は、公共下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽設置事業との整合を図り推進します。

## 6-2-5 公共公益施設

- 既存施設の維持管理に努めるとともに、老朽化が目立つ施設の改修を必要に応じて進めていきます。  
また、施設の統廃合や複合利用等の配置に関する検討も合わせて進めていきます。
- 新たに必要となる施設は、施設整備計画や維持管理方針の立案を住民との協働により進めます。また、施設整備にあたっては、民間活力やPFI事業等の導入を検討します。
- 今後の施設の維持管理については、地域住民・ボランティア・NPO等による維持管理や指定管理者制度の活用を進めます。

## 6－3 都市環境形成の実現化の考え方

### 6－3－1 自然環境の保全・活用

- 森林や河川・池沼群の水辺、農地等の自然環境は、農業振興地域等、各種土地利用の規制及び環境を保全する法律等を遵守して保全を図ります。

### 6－3－2 景観形成

#### (1) 自然景観

- 市街地や集落地から岩木山の眺望景観を維持するため、眺望を遮る建築物等の高さの制限や景観を阻害する土地利用転換の抑制を都市計画法、建築基準法等の法律により、適切な規制・誘導を行います。
- 田園エリア、丘陵・畑作エリアの集落の景観は、農業振興地域農用地区域による優良農地の維持と集落地区計画、地区計画、建築協定等、住民合意に基づく集落地の土地利用の規制誘導を図っていきます。
- 農林水産部局の施策との整合を図り、森林、水田、畑地の保全や農林業の振興に資する事業、助成等を有効に活用していきます。

#### (2) 市街地の景観

- 中心市街地においては、各種事業の導入や助成制度を活用した商業地の景観づくりを進めていくことを検討します。
- 住宅地の景観は、地区計画、建築協定、景観法・景観条例等、住民合意に基づく規制誘導によって景観づくりを進めます。
- JR 木造駅周辺は、現在のシンボルとなっている駅舎を活かした景観づくりを進めます。
- 沿道型商業エリア、IC 周辺複合エリアの国道 101 号の沿道の商業地等については、広域的な自動車交通の玄関口にふさわしい景観づくりを進めます。

#### (3) 道路の景観

- 街路事業等による道路整備に伴い、植樹帯の設置、舗装等の工夫を施します。
- 幹線道路沿道の街区においては、地区計画、建築協定等、関係権利者等の合意に基づいて沿道の土地利用や建築物の形態意匠等の規制・誘導を検討します。
- 各地域の中心地においては、シンボルロード整備や商店街の道路整備等を検討していきます。

### 6－3－3 生活環境の向上

- 福祉、環境保全、防災等に関連する各関係機関との連携を図り、実現化に努めます。

## 6-4 都市計画決定へ向けた基本的な考え方

### 6-4-1 土地利用の誘導規制

#### (1) 都市計画区域

本市の都市計画区域は、木造の市街地とその周辺地区、柏地域の一部、森田地域の一部が指定されています。

現行の都市計画区域外には、柏地域の幹線道路沿道等に大型店舗の出店がみられる区域が一部存在していることや、公共下水道認可区域が存在すること等から、市全体の都市計画を考え、都市計画区域の見直しを適切に行い、「開発する区域」での開発促進と「保全する区域」での農地等の保全を都市計画法に基づき明確に定める必要があります。

以上を踏まえ、都市計画区域の設定について、次の見直しを行うこととします。

| 見直し項目           |
|-----------------|
| ○都市計画区域の拡大を検討する |

#### (2) 用途地域及び特定用途制限地域

用途地域及び特定用途制限地域は、本マスタープランに位置づけた土地利用の方向性や現況土地利用の状況等に配慮し、必要に応じて見直し検討を行っていきます。

なお、見直しを行う場合に当たっては、都市的土地利用を考慮しながら用途地域及び特定用途制限地域を設定していきます。

以上を踏まえ、用途地域及び特定用途制限地域について、次の見直しの検討を行うこととします。

| 見直し項目   |
|---|
| ○市役所周辺の用途地域の拡大を検討する   |
| ○柏地域の幹線道路沿道に商業地が集積している区域や（仮）木造 IC 周辺の用途地域の拡大や特定用途制限地域の指定を検討する |

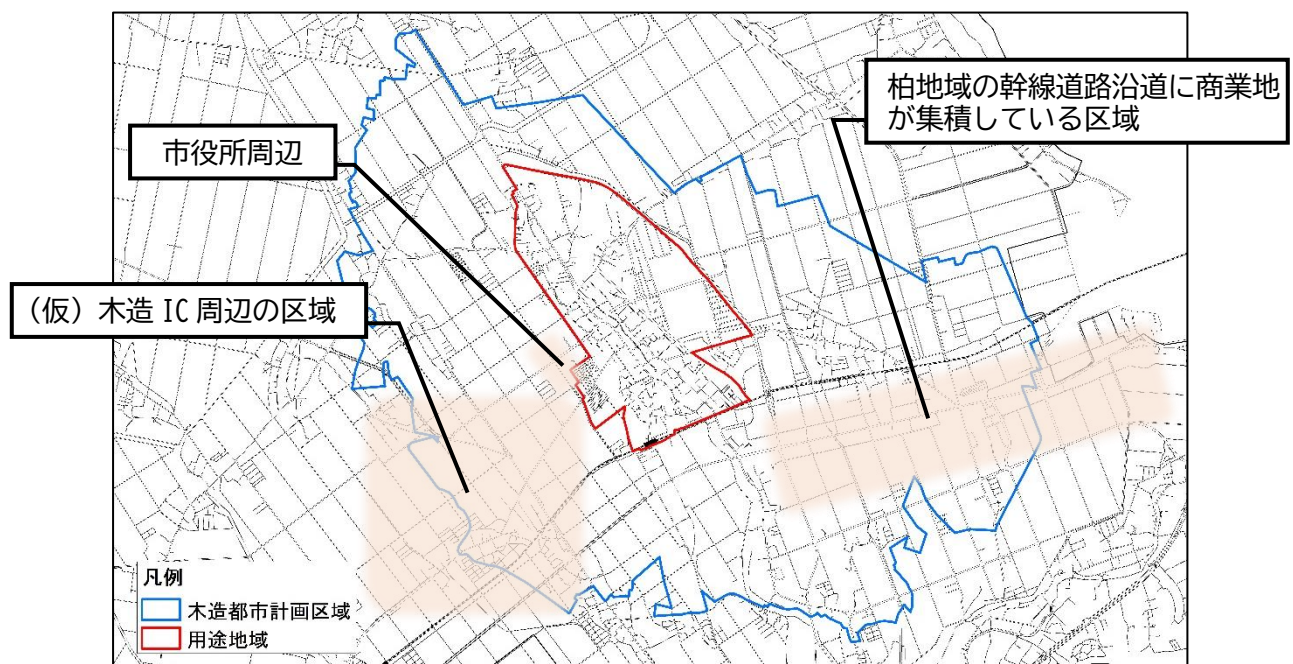


図 用途地域の見直しを検討する区域

### (3) 立地適正化計画

地域の実情に即した利便性の高い多極ネットワーク型のまちづくりを目的に、都市機能を誘導すべき区域の設定、居住を誘導すべき区域の設定等の施策により、市内それぞれの生活拠点で安心できる質の高い暮らしを維持できるように、立地適正化計画の策定を検討します。

## 6-4-2 都市施設

### (1) 交通施設

- 一部が未整備区間となっている都市計画道路は、本マスタープランにおける道路機能の位置づけを踏まえつつ、都市計画道路の見直しも含め検討します。
- 都市計画決定後、長期間にわたり事業が進展していない路線については、過大な公共投資を抑制する観点、効率的な整備をする観点等から、幅員の減少、廃止も視野に入れ検討し、見直しを行います。

### (2) 公園・緑地

- 既存市街地においては、既存の公園の位置、規模及び誘致圏の詳細な検討を踏まえ、新たな都市計画決定を検討します。
- つながる地球村を中心に施設の充実を図っていきます。

### (3) 下水道

- 公共下水道認可区域は、公共下水道事業を今後とも推進していくものとし、また、社会状況等に応じて認可区域の見直しを行っていきます。
- 公共下水道認可区域外については、農業集落排水事業、浄化槽設置事業による整備を検討します。

## 6-4-3 市街地開発事業

- 沿道型商業エリア、IC 周辺複合エリアの都市的土地利用が行われていない区域については、土地区画整理事業や市街地再開発事業等の手法を用いて都市基盤施設の整備と建築物の建築を併せて行うことを検討していきます。

## 6-4-4 地区計画

市街地環境の保全または改善が必要な地区、地域特性を活かしたまちづくりを行う地区等には、地区計画制度を活用した土地、建物利用の規制誘導を行います。本市において、導入が考えられる地区計画のタイプは次のとおり想定されます。

| 地区計画の種類           | 地区の概要   |
|-------------------|---|
| 拠点形成型             | 都市拠点にふさわしい機能、施設の維持や集積、景観形成を図る地区                             |
| 商店街改善型            | 既存の商業地・商店街の景観づくり、活性化を図る地区                                   |
| 沿道業務地整序型          | 幹線道路沿道に商業・業務系の施設の適切な誘導を図る地区                                 |
| 住環境整備改善型          | 道路等の基盤施設の整備が不十分なままに形成された主に密集市街地であり、住環境・機能の確保・向上を図る地区        |
| 住環境保全型            | 計画的な開発・整備が行われ、既存の良好な住環境の保全を図る地区                             |
| 宅地計画開発型           | 土地区画整理事業等の面的整備を行う市街地において、良好な土地利用、建築誘導等を一体的に行い、良好な環境の形成を図る地区 |
| 集落環境整備保全型（集落地区計画） | 田園地域、森林地域に位置する集落地で、居住環境の維持及び向上を図る地区                         |

## 6-5 住民主体のまちづくりの実現化

本マスタープランに示された将来像の実現化、まちづくりの計画的な推進においては、住民と協働で進めることが重要です。

### 6-5-1 まちづくり意識の啓発

まちづくりへの参加に対する住民の意識の向上を図るため、まちづくりに関する情報提供や意見収集の機会創出等の啓発活動を進めます。また、都市計画制度の運用、まちづくりの進め方等について、わかりやすく解説していくことに努めます。

### 6-5-2 住民のまちづくり活動への支援

住民発意のまちづくり、計画策定段階からの住民参加を促進するため、地域住民やまちづくり市民団体、NPO等の組織づくり、人材育成等の活動を支援します。

## 6－6 国・県等との連携

まちづくりは長時間をかけて進めていくとともに、実現までには多額な費用を要することから、本市の限られた人員・財源だけでは将来像の実現に向けた対応が困難なものと考えられます。

そのため、民間活力の積極的な活用や国・青森県等の関係行政機関に対して、各種の補助・助成による支援や事業主体となって関与すること等の要望を適宜行っていきます。また、必要に応じて、既存の制度の拡充や創設等の要望も併せて行っていくこととします。



参考資料



# 参考資料

## 資料 1. 住民意向調査（市民アンケート調査）

### （1）住民意向調査（市民アンケート調査）の概要

- ・調査期間：2023 年 11 月 20 日（発送）回収期限 12 月 5 日  
12 月 27 日到着分までを反映
- ・調査対象：つがる市民 18 歳以上（無作為抽出）1,200 名
- ・調査方法：郵送配布郵送回収
- ・回収結果：395 票（32.9%）

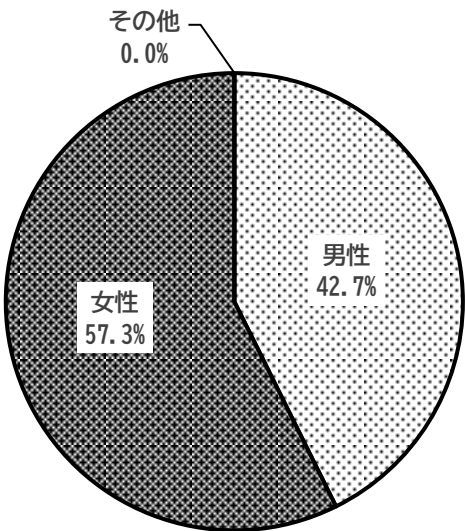
### （2）設問と集計結果

問 1. あなたの性別、年齢、職業、お住まいの地区を教えてください。（1 つ選択）

#### 1. 性別

・回答者の性別は、男性が 42.7%、女性が 57.3%となっている。

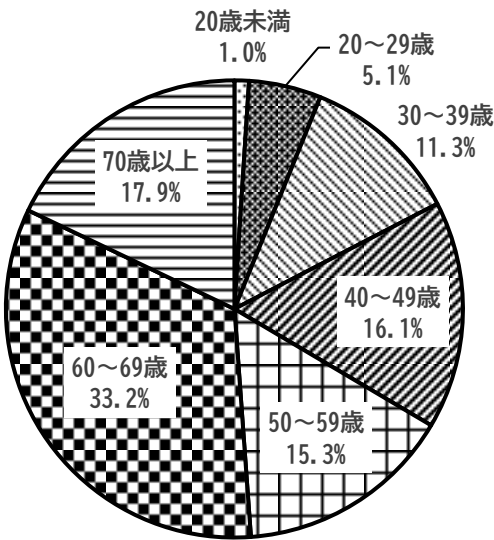
| 性別  | 回答数 | 割合    |
|-----|-----|-------|
| 男性  | 160 | 42.7  |
| 女性  | 215 | 57.3  |
| その他 | 0   | 0.0   |
| 計   | 375 | 100.0 |
| 無回答 | 20  |       |
| 総計  | 395 |       |



#### 2. 年齢

・回答者の年齢は、60～69 歳が 33.2%と最も多い。

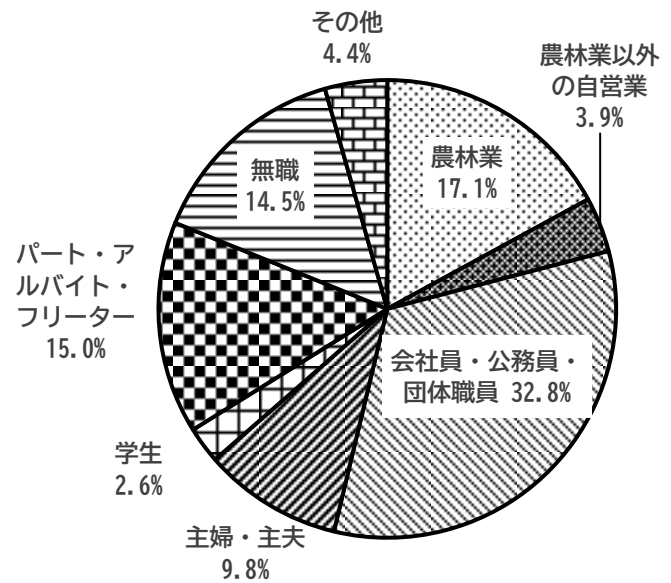
| 年齢     | 回答数 | 割合    |
|--------|-----|-------|
| 20歳未満  | 4   | 1.0   |
| 20～29歳 | 20  | 5.1   |
| 30～39歳 | 44  | 11.3  |
| 40～49歳 | 63  | 16.1  |
| 50～59歳 | 60  | 15.3  |
| 60～69歳 | 130 | 33.2  |
| 70歳以上  | 70  | 17.9  |
| 計      | 391 | 100.0 |
| 無回答    | 4   |       |
| 総計     | 395 |       |



### 3. 職業

- ・回答者の職業は、会社員・公務員・団体職員が32.8%と最も多い。
- ・農林漁業、パート・アルバイト・フリーター、無職は1割台となっている。

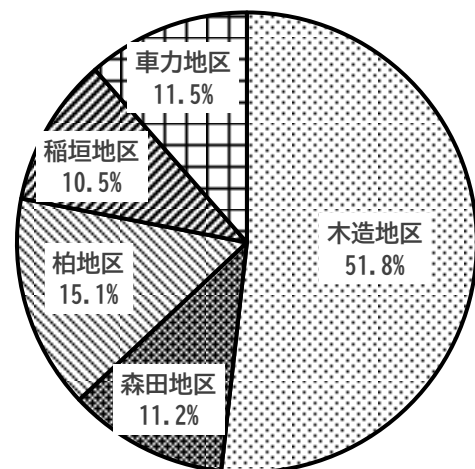
| 職業              | 回答数 | 割合    |
|-----------------|-----|-------|
| 農林業             | 66  | 17.1  |
| 農林業以外の自営業       | 15  | 3.9   |
| 会社員・公務員・団体職員    | 127 | 32.8  |
| 主婦・主夫           | 38  | 9.8   |
| 学生              | 10  | 2.6   |
| パート・アルバイト・フリーター | 58  | 15.0  |
| 無職              | 56  | 14.5  |
| その他             | 17  | 4.4   |
| 計               | 387 | 100.0 |
| 無回答             | 8   |       |
| 総計              | 395 |       |



### 4. お住まいの地区

- ・回答者の住まいは、木造地区が51.8%と最も多い。
- ・森田地区、柏地区、稲垣地区、車力地区は1割台となっている。

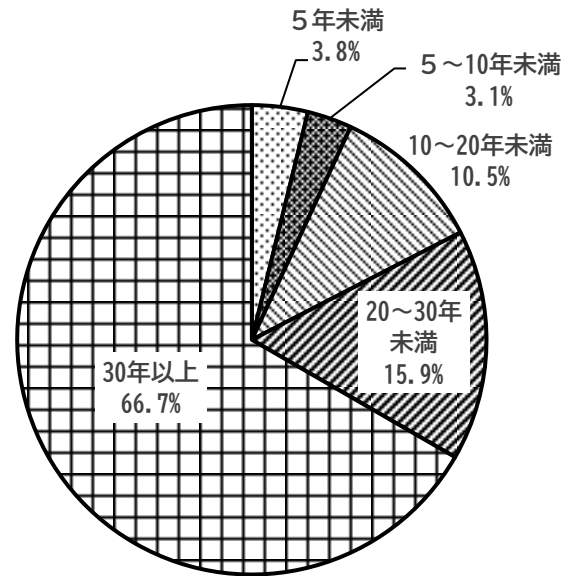
| 地区名  | 回答数 | 割合    |
|------|-----|-------|
| 木造地区 | 203 | 51.8  |
| 森田地区 | 44  | 11.2  |
| 柏地区  | 59  | 15.1  |
| 稲垣地区 | 41  | 10.5  |
| 車力地区 | 45  | 11.5  |
| 計    | 392 | 100.0 |
| 無回答  | 3   |       |
| 総計   | 395 |       |



## 5. 居住年数（通算）

・回答者の居住年数（通算）は、30 年以上が 66.7%と最も多い。

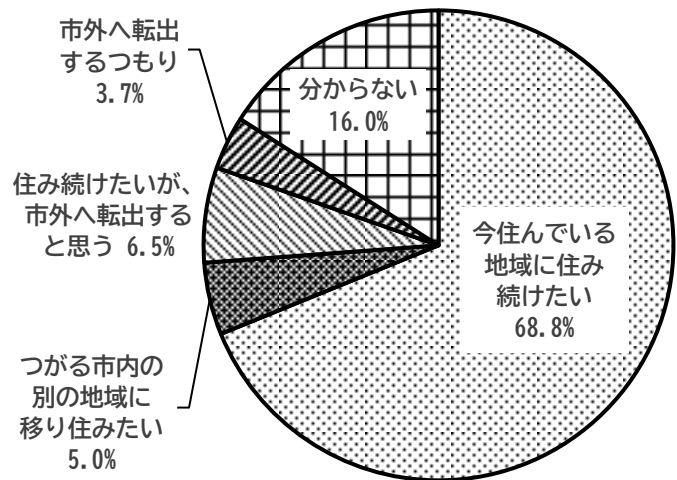
| 居住年数     | 回答数 | 割合    |
|----------|-----|-------|
| 5 年未満    | 15  | 3.8   |
| 5～10年未満  | 12  | 3.1   |
| 10～20年未満 | 41  | 10.5  |
| 20～30年未満 | 62  | 15.9  |
| 30年以上    | 260 | 66.7  |
| 計        | 390 | 100.0 |
| 無回答      | 5   |       |
| 総計       | 395 |       |



## 6. 定住意向

・回答者の定住意向は、「今住んでいる地域に住み続けたい」が 68.8%と最も多い。

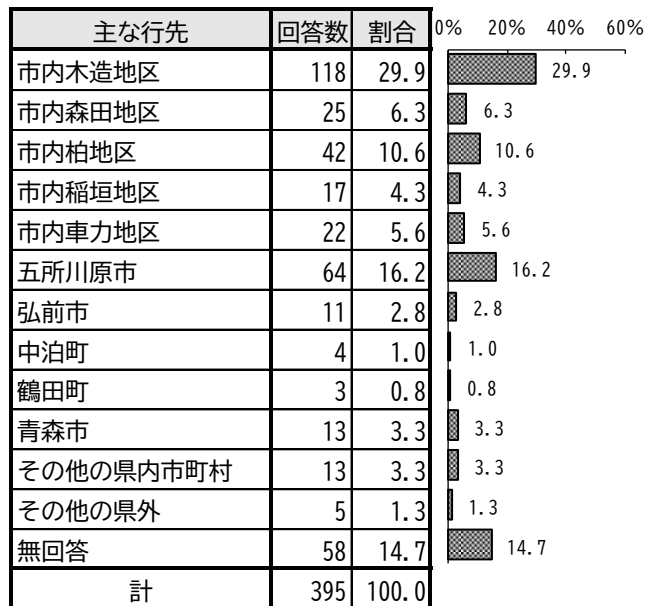
| 定住意向               | 実数  | 割合    |
|--------------------|-----|-------|
| 今住んでいる地域に住み続けたい    | 263 | 68.8  |
| つがる市内の別の地域に移り住みたい  | 19  | 5.0   |
| 住み続けたいが、市外へ転出すると思う | 25  | 6.5   |
| 市外へ転出するつもり         | 14  | 3.7   |
| 分からない              | 61  | 16.0  |
| 計                  | 382 | 100.0 |
| 無回答                | 13  |       |
| 総計                 | 395 |       |



## 問2. あなたが次の1～6の行動をとるとき、主な行き先はどちらですか。(1つ選択)

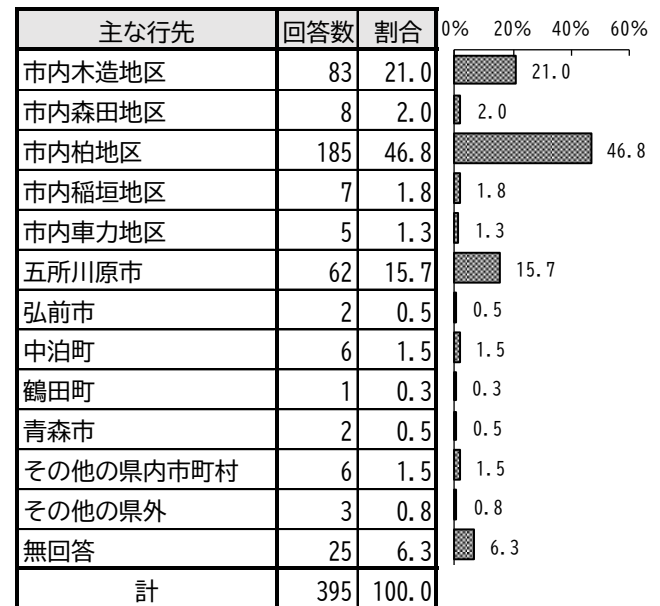
### 1. 通勤・通学または日常的な業務

・市内木造地区が約3割、五所川原市が1割半ばとなっている。



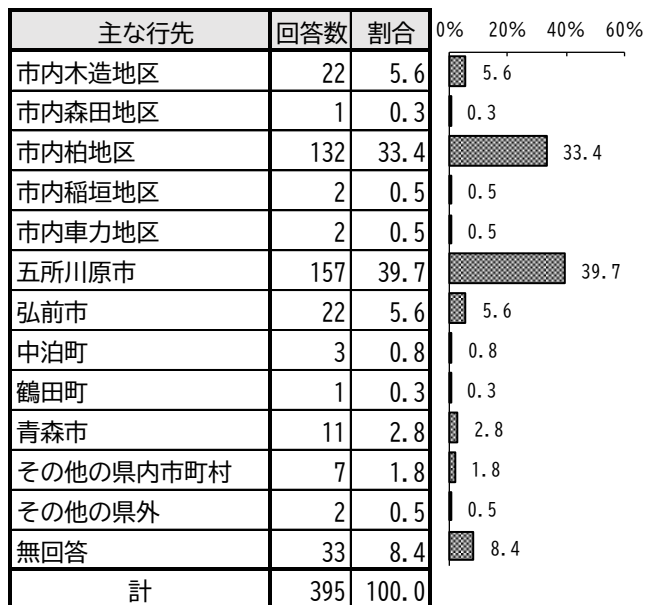
### 2. 日常的な買い物

・市内柏地区が4割半ば、市内木造地区が約2割となっている。



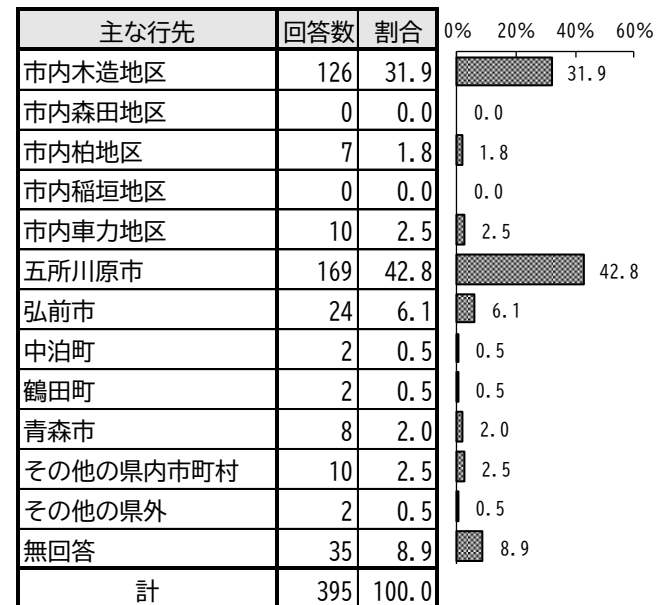
### 3. 休日などの買い物

・五所川原市が約44、市内柏地区が3割半ばとなっている。



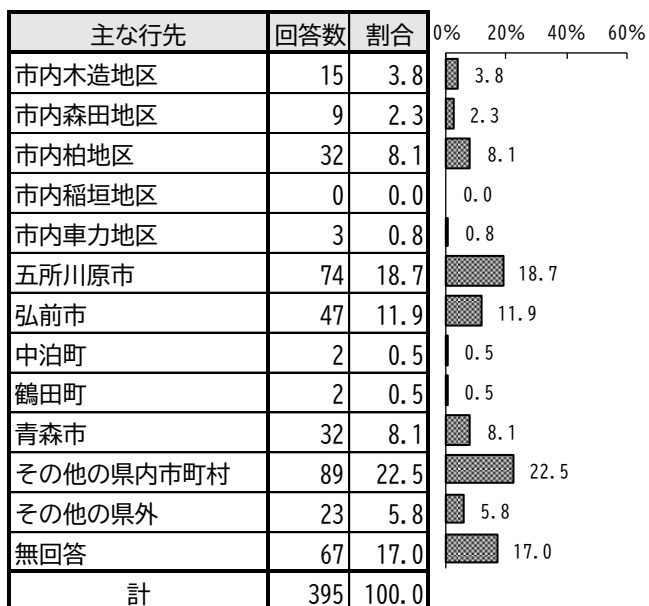
### 4. かかりつけの病院

・五所川原市が4割超え、市内木造地区が3割超えとなっている。



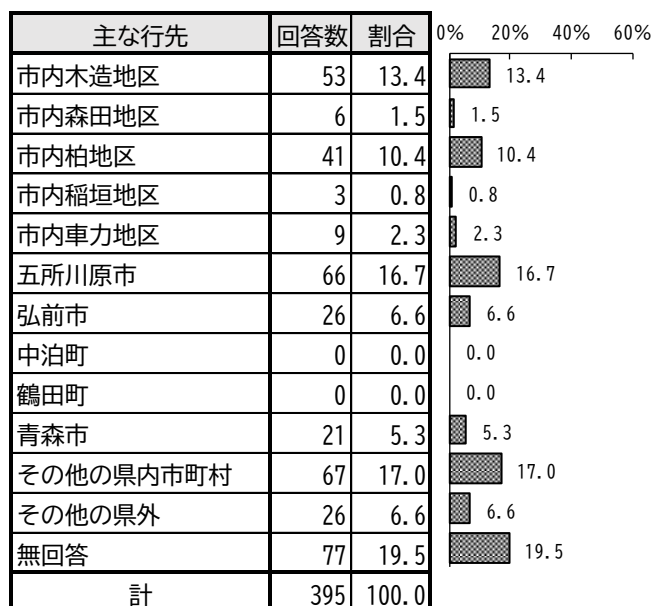
## 5. レジャー・レクリエーション

・その他の県内市町村が2割超え、五所川原市が約2割、弘前市が1割超えとなっている。



## 6. 趣味・スポーツ

・その他の県内市町村、五所川原市、市内木造地区が1割半ばとなっている。



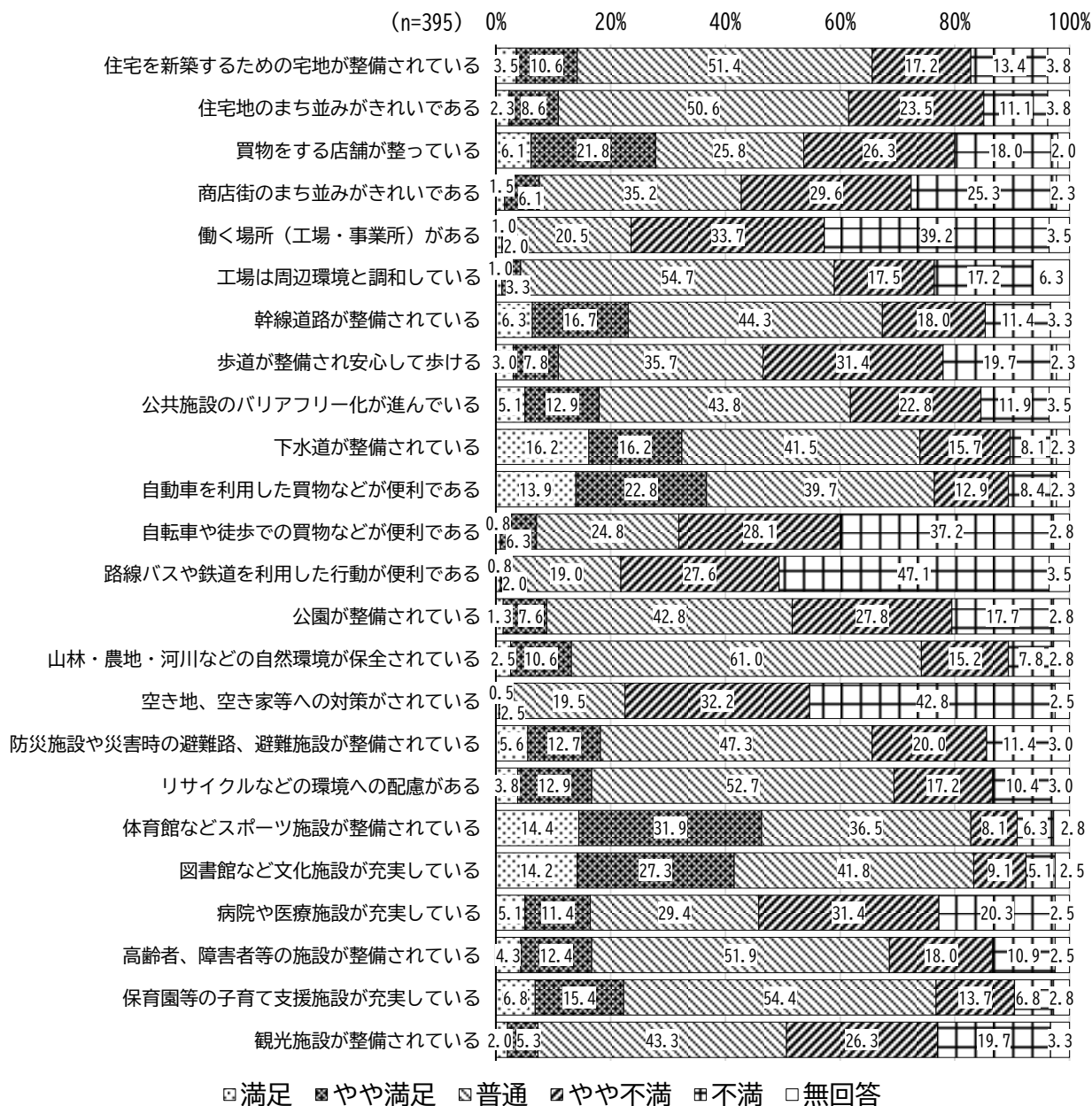
問3. 次の項目について、現状に対する「満足度」と、今後の整備や保全などの「重要度」を、あなたのお考えに最も近いものを下表から、それぞれ1つ選び○で囲んでください。

1. 各項目の満足度（つがる市全体）

・「下水道が整備されている」「自動車を利用した買い物などが便利である」「体育館などスポーツ施設が整備されている」「図書館など文化施設が充実している」「保育園等の子育て支援施設が充実している」の5項目については、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』を上回っている。

(n=395)

|                           | 満足  |      | やや満足 |      | 普通  |      | やや不満 |      | 不満  |      | 無回答 |     | 『満足』 | 『不満』 |
|---------------------------|-----|------|------|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|-----|------|------|
|                           | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数 | 割合   | 回答数 | 割合  | 割合   | 割合   |
| 住宅を新築するための宅地が整備されている      | 14  | 3.5  | 42   | 10.6 | 203 | 51.4 | 68   | 17.2 | 53  | 13.4 | 15  | 3.8 | 14.2 | 30.6 |
| 住宅地のまち並みがきれいだである          | 9   | 2.3  | 34   | 8.6  | 200 | 50.6 | 93   | 23.5 | 44  | 11.1 | 15  | 3.8 | 10.9 | 34.7 |
| 買物をする店舗が整っている             | 24  | 6.1  | 86   | 21.8 | 102 | 25.8 | 104  | 26.3 | 71  | 18.0 | 8   | 2.0 | 27.8 | 44.3 |
| 商店街のまち並みがきれいだである          | 6   | 1.5  | 24   | 6.1  | 139 | 35.2 | 117  | 29.6 | 100 | 25.3 | 9   | 2.3 | 7.6  | 54.9 |
| 働く場所（工場・事業所）がある           | 4   | 1.0  | 8    | 2.0  | 81  | 20.5 | 133  | 33.7 | 155 | 39.2 | 14  | 3.5 | 3.0  | 72.9 |
| 工場は周辺環境と調和している            | 4   | 1.0  | 13   | 3.3  | 216 | 54.7 | 69   | 17.5 | 68  | 17.2 | 25  | 6.3 | 4.3  | 34.7 |
| 幹線道路が整備されている              | 25  | 6.3  | 66   | 16.7 | 175 | 44.3 | 71   | 18.0 | 45  | 11.4 | 13  | 3.3 | 23.0 | 29.4 |
| 歩道が整備され安心して歩ける            | 12  | 3.0  | 31   | 7.8  | 141 | 35.7 | 124  | 31.4 | 78  | 19.7 | 9   | 2.3 | 10.9 | 51.1 |
| 公共施設のバリアフリー化が進んでいる        | 20  | 5.1  | 51   | 12.9 | 173 | 43.8 | 90   | 22.8 | 47  | 11.9 | 14  | 3.5 | 18.0 | 34.7 |
| 下水道が整備されている               | 64  | 16.2 | 64   | 16.2 | 164 | 41.5 | 62   | 15.7 | 32  | 8.1  | 9   | 2.3 | 32.4 | 23.8 |
| 自動車を利用した買物などが便利である        | 55  | 13.9 | 90   | 22.8 | 157 | 39.7 | 51   | 12.9 | 33  | 8.4  | 9   | 2.3 | 36.7 | 21.3 |
| 自転車や徒歩での買物などが便利である        | 3   | 0.8  | 25   | 6.3  | 98  | 24.8 | 111  | 28.1 | 147 | 37.2 | 11  | 2.8 | 7.1  | 65.3 |
| 路線バスや鉄道を利用した行動が便利である      | 3   | 0.8  | 8    | 2.0  | 75  | 19.0 | 109  | 27.6 | 186 | 47.1 | 14  | 3.5 | 2.8  | 74.7 |
| 公園が整備されている                | 5   | 1.3  | 30   | 7.6  | 169 | 42.8 | 110  | 27.8 | 70  | 17.7 | 11  | 2.8 | 8.9  | 45.6 |
| 山林・農地・河川などの自然環境が保全されている   | 10  | 2.5  | 42   | 10.6 | 241 | 61.0 | 60   | 15.2 | 31  | 7.8  | 11  | 2.8 | 13.2 | 23.0 |
| 空き地、空き家等への対策がされている        | 2   | 0.5  | 10   | 2.5  | 77  | 19.5 | 127  | 32.2 | 169 | 42.8 | 10  | 2.5 | 3.0  | 74.9 |
| 防災施設や災害時の避難路、避難施設が整備されている | 22  | 5.6  | 50   | 12.7 | 187 | 47.3 | 79   | 20.0 | 45  | 11.4 | 12  | 3.0 | 18.2 | 31.4 |
| リサイクルなどの環境への配慮がある         | 15  | 3.8  | 51   | 12.9 | 208 | 52.7 | 68   | 17.2 | 41  | 10.4 | 12  | 3.0 | 16.7 | 27.6 |
| 体育館などスポーツ施設が整備されている       | 57  | 14.4 | 126  | 31.9 | 144 | 36.5 | 32   | 8.1  | 25  | 6.3  | 11  | 2.8 | 46.3 | 14.4 |
| 図書館など文化施設が充実している          | 56  | 14.2 | 108  | 27.3 | 165 | 41.8 | 36   | 9.1  | 20  | 5.1  | 10  | 2.5 | 41.5 | 14.2 |
| 病院や医療施設が充実している            | 20  | 5.1  | 45   | 11.4 | 116 | 29.4 | 124  | 31.4 | 80  | 20.3 | 10  | 2.5 | 16.5 | 51.6 |
| 高齢者、障害者等の施設が整備されている       | 17  | 4.3  | 49   | 12.4 | 205 | 51.9 | 71   | 18.0 | 43  | 10.9 | 10  | 2.5 | 16.7 | 28.9 |
| 保育園等の子育て支援施設が充実している       | 27  | 6.8  | 61   | 15.4 | 215 | 54.4 | 54   | 13.7 | 27  | 6.8  | 11  | 2.8 | 22.3 | 20.5 |
| 観光施設が整備されている              | 8   | 2.0  | 21   | 5.3  | 171 | 43.3 | 104  | 26.3 | 78  | 19.7 | 13  | 3.3 | 7.3  | 46.1 |

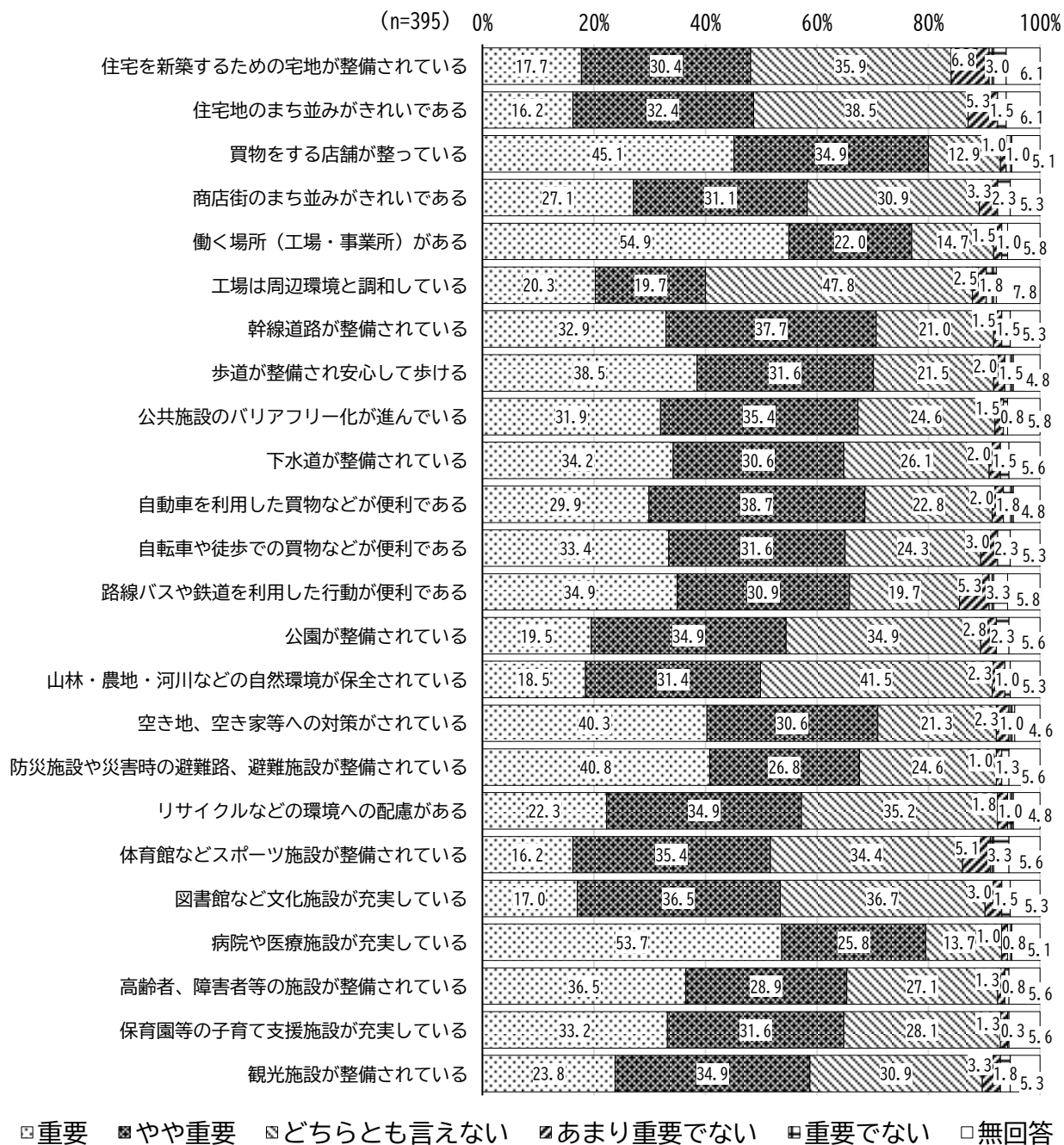


## 2. 各項目の重要度（つがる市全体）

・全ての項目で「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』が「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』を上回っている。

(n=395)

|                           | 重要  |      | やや重要 |      | どちらとも言えない |      | あまり重要でない |     | 重要でない |     | 無回答 |     | 『重要』 | 『重要でない』 |
|---------------------------|-----|------|------|------|-----------|------|----------|-----|-------|-----|-----|-----|------|---------|
|                           | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数       | 割合   | 回答数      | 割合  | 回答数   | 割合  | 回答数 | 割合  | 割合   | 割合      |
| 住宅を新築するための宅地が整備されている      | 70  | 17.7 | 120  | 30.4 | 142       | 35.9 | 27       | 6.8 | 12    | 3.0 | 24  | 6.1 | 48.1 | 9.1     |
| 住宅地のまち並みがきれいである           | 64  | 16.2 | 128  | 32.4 | 152       | 38.5 | 21       | 5.3 | 6     | 1.5 | 24  | 6.1 | 48.6 | 7.6     |
| 買物をする店舗が整っている             | 178 | 45.1 | 138  | 34.9 | 51        | 12.9 | 4        | 1.0 | 4     | 1.0 | 20  | 5.1 | 80.0 | 6.1     |
| 商店街のまち並みがきれいである           | 107 | 27.1 | 123  | 31.1 | 122       | 30.9 | 13       | 3.3 | 9     | 2.3 | 21  | 5.3 | 58.2 | 7.6     |
| 働く場所（工場・事業所）がある           | 217 | 54.9 | 87   | 22.0 | 58        | 14.7 | 6        | 1.5 | 4     | 1.0 | 23  | 5.8 | 77.0 | 6.8     |
| 工場は周辺環境と調和している            | 80  | 20.3 | 78   | 19.7 | 189       | 47.8 | 10       | 2.5 | 7     | 1.8 | 31  | 7.8 | 40.0 | 9.6     |
| 幹線道路が整備されている              | 130 | 32.9 | 149  | 37.7 | 83        | 21.0 | 6        | 1.5 | 6     | 1.5 | 21  | 5.3 | 70.6 | 6.8     |
| 歩道が整備され安心して歩ける            | 152 | 38.5 | 125  | 31.6 | 85        | 21.5 | 8        | 2.0 | 6     | 1.5 | 19  | 4.8 | 70.1 | 6.3     |
| 公共施設のバリアフリー化が進んでいる        | 126 | 31.9 | 140  | 35.4 | 97        | 24.6 | 6        | 1.5 | 3     | 0.8 | 23  | 5.8 | 67.3 | 6.6     |
| 下水道が整備されている               | 135 | 34.2 | 121  | 30.6 | 103       | 26.1 | 8        | 2.0 | 6     | 1.5 | 22  | 5.6 | 64.8 | 7.1     |
| 自動車を利用した買物などが便利である        | 118 | 29.9 | 153  | 38.7 | 90        | 22.8 | 8        | 2.0 | 7     | 1.8 | 19  | 4.8 | 68.6 | 6.6     |
| 自転車や徒歩での買物などが便利である        | 132 | 33.4 | 125  | 31.6 | 96        | 24.3 | 12       | 3.0 | 9     | 2.3 | 21  | 5.3 | 65.1 | 7.6     |
| 路線バスや鉄道を利用した行動が便利である      | 138 | 34.9 | 122  | 30.9 | 78        | 19.7 | 21       | 5.3 | 13    | 3.3 | 23  | 5.8 | 65.8 | 9.1     |
| 公園が整備されている                | 77  | 19.5 | 138  | 34.9 | 138       | 34.9 | 11       | 2.8 | 9     | 2.3 | 22  | 5.6 | 54.4 | 7.8     |
| 山林・農地・河川などの自然環境が保全されている   | 73  | 18.5 | 124  | 31.4 | 164       | 41.5 | 9        | 2.3 | 4     | 1.0 | 21  | 5.3 | 49.9 | 6.3     |
| 空き地、空き家等への対策がされている        | 159 | 40.3 | 121  | 30.6 | 84        | 21.3 | 9        | 2.3 | 4     | 1.0 | 18  | 4.6 | 70.9 | 5.6     |
| 防災施設や災害時の避難路、避難施設が整備されている | 161 | 40.8 | 106  | 26.8 | 97        | 24.6 | 4        | 1.0 | 5     | 1.3 | 22  | 5.6 | 67.6 | 6.8     |
| リサイクルなどの環境への配慮がある         | 88  | 22.3 | 138  | 34.9 | 139       | 35.2 | 7        | 1.8 | 4     | 1.0 | 19  | 4.8 | 57.2 | 5.8     |
| 体育館などスポーツ施設が整備されている       | 64  | 16.2 | 140  | 35.4 | 136       | 34.4 | 20       | 5.1 | 13    | 3.3 | 22  | 5.6 | 51.6 | 8.9     |
| 図書館など文化施設が充実している          | 67  | 17.0 | 144  | 36.5 | 145       | 36.7 | 12       | 3.0 | 6     | 1.5 | 21  | 5.3 | 53.4 | 6.8     |
| 病院や医療施設が充実している            | 212 | 53.7 | 102  | 25.8 | 54        | 13.7 | 4        | 1.0 | 3     | 0.8 | 20  | 5.1 | 79.5 | 5.8     |
| 高齢者、障害者等の施設が整備されている       | 144 | 36.5 | 114  | 28.9 | 107       | 27.1 | 5        | 1.3 | 3     | 0.8 | 22  | 5.6 | 65.3 | 6.3     |
| 保育園等の子育て支援施設が充実している       | 131 | 33.2 | 125  | 31.6 | 111       | 28.1 | 5        | 1.3 | 1     | 0.3 | 22  | 5.6 | 64.8 | 5.8     |
| 観光施設が整備されている              | 94  | 23.8 | 138  | 34.9 | 122       | 30.9 | 13       | 3.3 | 7     | 1.8 | 21  | 5.3 | 58.7 | 7.1     |

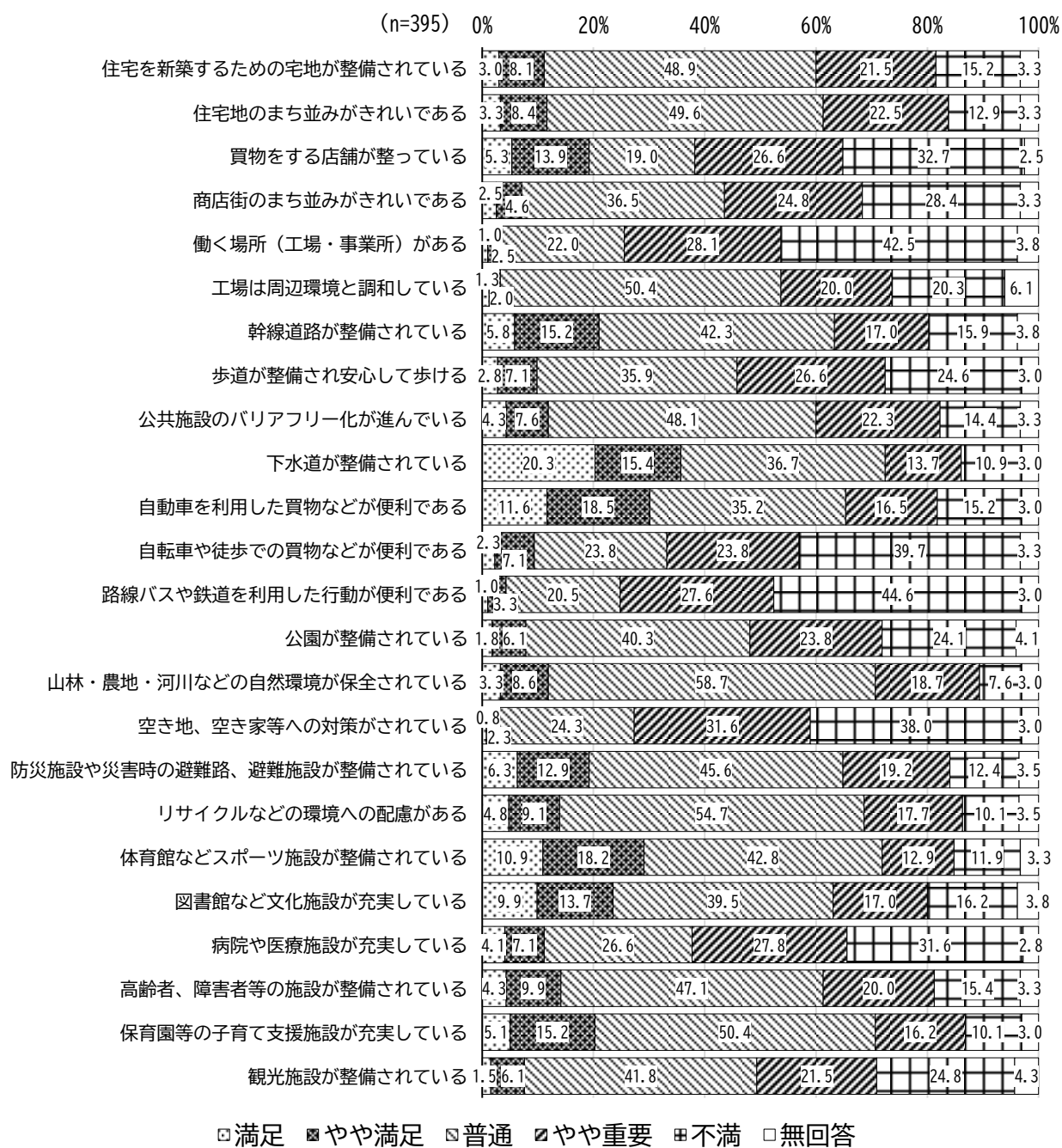


### 3. 各項目の満足度（お住まいの地区）

・「下水道が整備されている」「体育館などスポーツ施設が整備されている」の2項目については、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』を上回っている。

(n=395)

|                           | 満足  |      | やや満足 |      | 普通  |      | やや不満 |      | 不満  |      | 無回答 |     | 『満足』 | 『不満』 |
|---------------------------|-----|------|------|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|-----|------|------|
|                           | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数 | 割合   | 回答数 | 割合  | 割合   | 割合   |
| 住宅を新築するための宅地が整備されている      | 12  | 3.0  | 32   | 8.1  | 193 | 48.9 | 85   | 21.5 | 60  | 15.2 | 13  | 3.3 | 11.1 | 36.7 |
| 住宅地のまち並みがきれいである           | 13  | 3.3  | 33   | 8.4  | 196 | 49.6 | 89   | 22.5 | 51  | 12.9 | 13  | 3.3 | 11.6 | 35.4 |
| 買物をする店舗が整っている             | 21  | 5.3  | 55   | 13.9 | 75  | 19.0 | 105  | 26.6 | 129 | 32.7 | 10  | 2.5 | 19.2 | 59.2 |
| 商店街のまち並みがきれいである           | 10  | 2.5  | 18   | 4.6  | 144 | 36.5 | 98   | 24.8 | 112 | 28.4 | 13  | 3.3 | 7.1  | 53.2 |
| 働く場所（工場・事業所）がある           | 4   | 1.0  | 10   | 2.5  | 87  | 22.0 | 111  | 28.1 | 168 | 42.5 | 15  | 3.8 | 3.5  | 70.6 |
| 工場は周辺環境と調和している            | 5   | 1.3  | 8    | 2.0  | 199 | 50.4 | 79   | 20.0 | 80  | 20.3 | 24  | 6.1 | 3.3  | 40.3 |
| 幹線道路が整備されている              | 23  | 5.8  | 60   | 15.2 | 167 | 42.3 | 67   | 17.0 | 63  | 15.9 | 15  | 3.8 | 21.0 | 32.9 |
| 歩道が整備され安心して歩ける            | 11  | 2.8  | 28   | 7.1  | 142 | 35.9 | 105  | 26.6 | 97  | 24.6 | 12  | 3.0 | 9.9  | 51.1 |
| 公共施設のバリアフリー化が進んでいる        | 17  | 4.3  | 30   | 7.6  | 190 | 48.1 | 88   | 22.3 | 57  | 14.4 | 13  | 3.3 | 11.9 | 36.7 |
| 下水道が整備されている               | 80  | 20.3 | 61   | 15.4 | 145 | 36.7 | 54   | 13.7 | 43  | 10.9 | 12  | 3.0 | 35.7 | 24.6 |
| 自動車を利用した買物などが便利である        | 46  | 11.6 | 73   | 18.5 | 139 | 35.2 | 65   | 16.5 | 60  | 15.2 | 12  | 3.0 | 30.1 | 31.6 |
| 自転車や徒歩での買物などが便利である        | 9   | 2.3  | 28   | 7.1  | 94  | 23.8 | 94   | 23.8 | 157 | 39.7 | 13  | 3.3 | 9.4  | 63.5 |
| 路線バスや鉄道を利用した行動が便利である      | 4   | 1.0  | 13   | 3.3  | 81  | 20.5 | 109  | 27.6 | 176 | 44.6 | 12  | 3.0 | 4.3  | 72.2 |
| 公園が整備されている                | 7   | 1.8  | 24   | 6.1  | 159 | 40.3 | 94   | 23.8 | 95  | 24.1 | 16  | 4.1 | 7.8  | 47.8 |
| 山林・農地・河川などの自然環境が保全されている   | 13  | 3.3  | 34   | 8.6  | 232 | 58.7 | 74   | 18.7 | 30  | 7.6  | 12  | 3.0 | 11.9 | 26.3 |
| 空き地、空き家等への対策がされている        | 3   | 0.8  | 9    | 2.3  | 96  | 24.3 | 125  | 31.6 | 150 | 38.0 | 12  | 3.0 | 3.0  | 69.6 |
| 防災施設や災害時の避難路、避難施設が整備されている | 25  | 6.3  | 51   | 12.9 | 180 | 45.6 | 76   | 19.2 | 49  | 12.4 | 14  | 3.5 | 19.2 | 31.6 |
| リサイクルなどの環境への配慮がある         | 19  | 4.8  | 36   | 9.1  | 216 | 54.7 | 70   | 17.7 | 40  | 10.1 | 14  | 3.5 | 13.9 | 27.8 |
| 体育館などスポーツ施設が整備されている       | 43  | 10.9 | 72   | 18.2 | 169 | 42.8 | 51   | 12.9 | 47  | 11.9 | 13  | 3.3 | 29.1 | 24.8 |
| 図書館など文化施設が充実している          | 39  | 9.9  | 54   | 13.7 | 156 | 39.5 | 67   | 17.0 | 64  | 16.2 | 15  | 3.8 | 23.5 | 33.2 |
| 病院や医療施設が充実している            | 16  | 4.1  | 28   | 7.1  | 105 | 26.6 | 110  | 27.8 | 125 | 31.6 | 11  | 2.8 | 11.1 | 59.5 |
| 高齢者、障害者等の施設が整備されている       | 17  | 4.3  | 39   | 9.9  | 186 | 47.1 | 79   | 20.0 | 61  | 15.4 | 13  | 3.3 | 14.2 | 35.4 |
| 保育園等の子育て支援施設が充実している       | 20  | 5.1  | 60   | 15.2 | 199 | 50.4 | 64   | 16.2 | 40  | 10.1 | 12  | 3.0 | 20.3 | 26.3 |
| 観光施設が整備されている              | 6   | 1.5  | 24   | 6.1  | 165 | 41.8 | 85   | 21.5 | 98  | 24.8 | 17  | 4.3 | 7.6  | 46.3 |

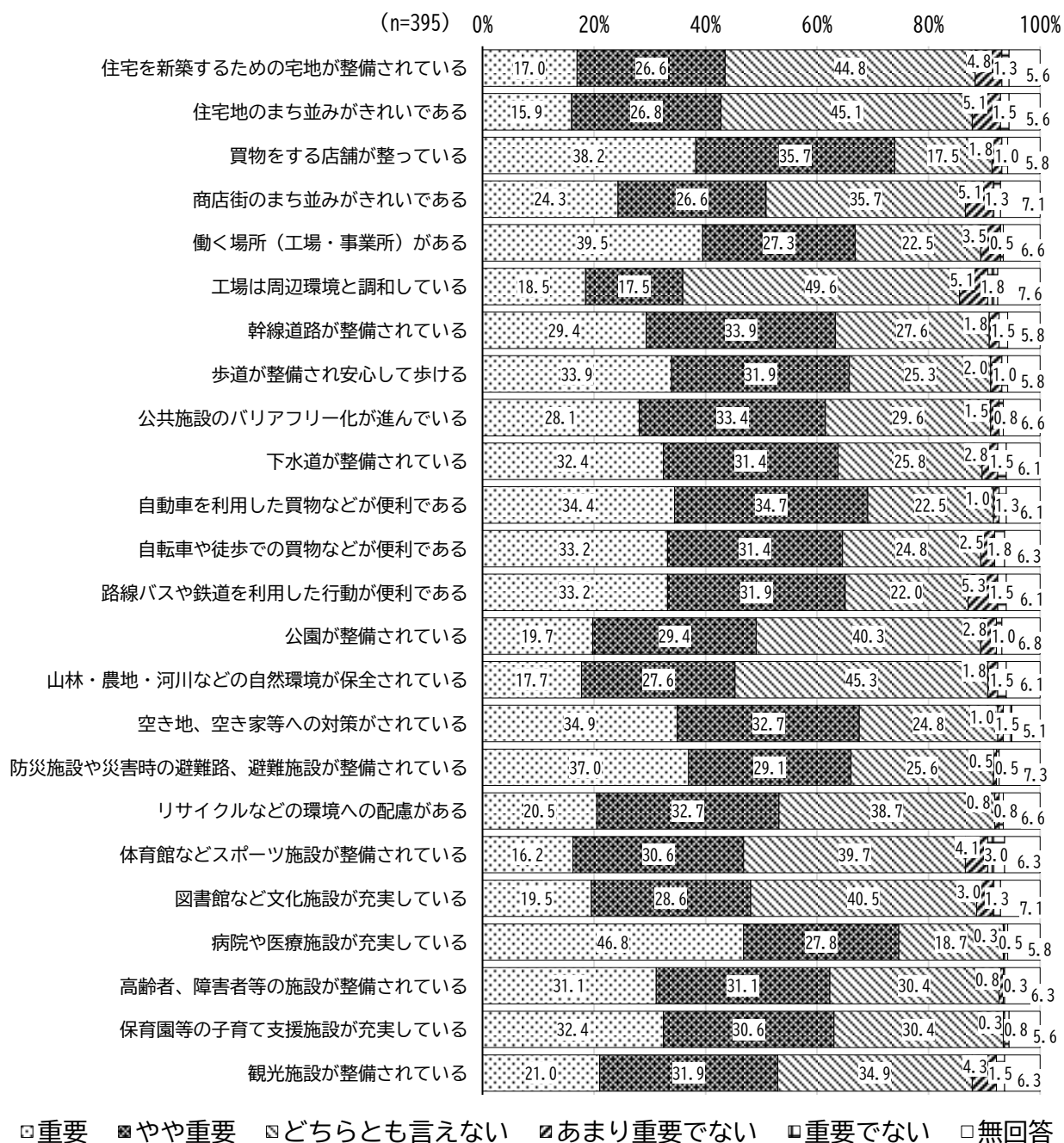


#### 4. 各項目の重要度（お住まいの地区）

・全ての項目で「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』が「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』を上回っている。

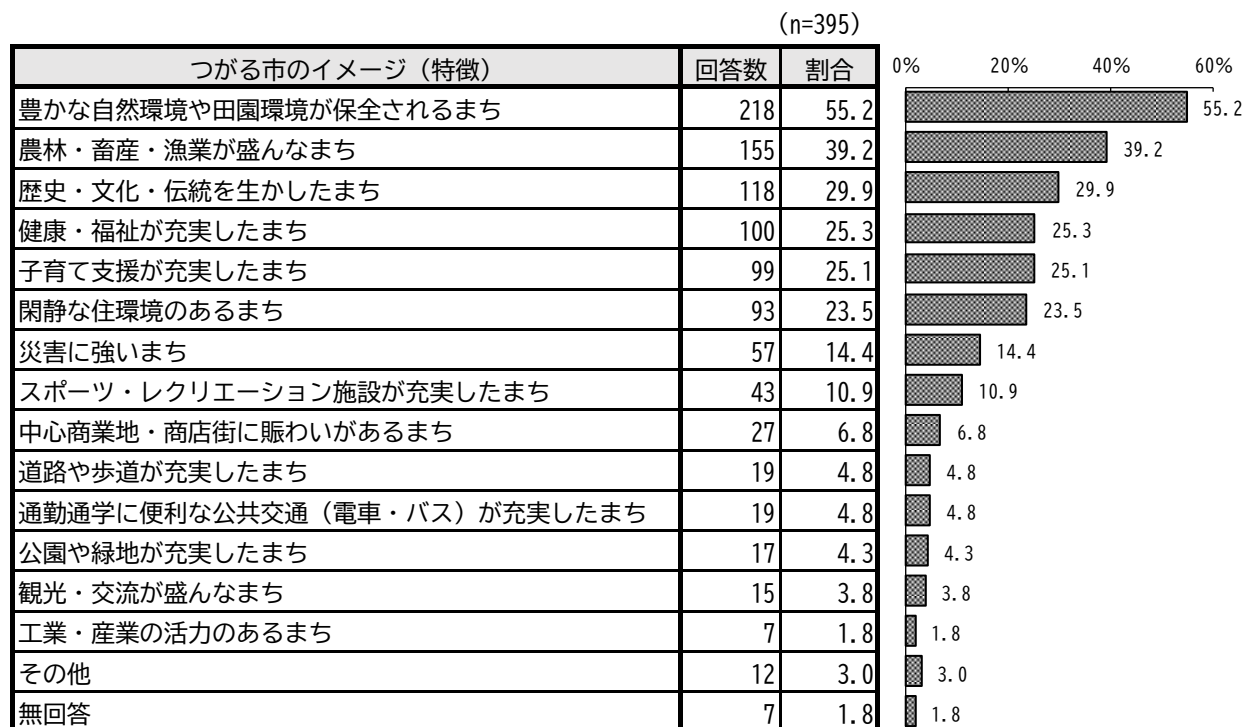
(n=395)

|                           | 重要  |      | やや重要 |      | どちらとも言えない |      | あまり重要でない |     | 重要でない |     | 無回答 |     | 『重要』 | 『重要でない』 |
|---------------------------|-----|------|------|------|-----------|------|----------|-----|-------|-----|-----|-----|------|---------|
|                           | 回答数 | 割合   | 回答数  | 割合   | 回答数       | 割合   | 回答数      | 割合  | 回答数   | 割合  | 回答数 | 割合  | 割合   | 割合      |
| 住宅を新築するための宅地が整備されている      | 67  | 17.0 | 105  | 26.6 | 177       | 44.8 | 19       | 4.8 | 5     | 1.3 | 22  | 5.6 | 43.5 | 6.1     |
| 住宅地のまち並みがきれいだである          | 63  | 15.9 | 106  | 26.8 | 178       | 45.1 | 20       | 5.1 | 6     | 1.5 | 22  | 5.6 | 42.8 | 6.6     |
| 買物をする店舗が整っている             | 151 | 38.2 | 141  | 35.7 | 69        | 17.5 | 7        | 1.8 | 4     | 1.0 | 23  | 5.8 | 73.9 | 2.8     |
| 商店街のまち並みがきれいだである          | 96  | 24.3 | 105  | 26.6 | 141       | 35.7 | 20       | 5.1 | 5     | 1.3 | 28  | 7.1 | 50.9 | 6.3     |
| 働く場所（工場・事業所）がある           | 156 | 39.5 | 108  | 27.3 | 89        | 22.5 | 14       | 3.5 | 2     | 0.5 | 26  | 6.6 | 66.8 | 4.1     |
| 工場は周辺環境と調和している            | 73  | 18.5 | 69   | 17.5 | 196       | 49.6 | 20       | 5.1 | 7     | 1.8 | 30  | 7.6 | 35.9 | 6.8     |
| 幹線道路が整備されている              | 116 | 29.4 | 134  | 33.9 | 109       | 27.6 | 7        | 1.8 | 6     | 1.5 | 23  | 5.8 | 63.3 | 3.3     |
| 歩道が整備され安心して歩ける            | 134 | 33.9 | 126  | 31.9 | 100       | 25.3 | 8        | 2.0 | 4     | 1.0 | 23  | 5.8 | 65.8 | 3.0     |
| 公共施設のバリアフリー化が進んでいる        | 111 | 28.1 | 132  | 33.4 | 117       | 29.6 | 6        | 1.5 | 3     | 0.8 | 26  | 6.6 | 61.5 | 2.3     |
| 下水道が整備されている               | 128 | 32.4 | 124  | 31.4 | 102       | 25.8 | 11       | 2.8 | 6     | 1.5 | 24  | 6.1 | 63.8 | 4.3     |
| 自動車を利用した買物などが便利である        | 136 | 34.4 | 137  | 34.7 | 89        | 22.5 | 4        | 1.0 | 5     | 1.3 | 24  | 6.1 | 69.1 | 2.3     |
| 自転車や徒歩での買物などが便利である        | 131 | 33.2 | 124  | 31.4 | 98        | 24.8 | 10       | 2.5 | 7     | 1.8 | 25  | 6.3 | 64.6 | 4.3     |
| 路線バスや鉄道を利用した行動が便利である      | 131 | 33.2 | 126  | 31.9 | 87        | 22.0 | 21       | 5.3 | 6     | 1.5 | 24  | 6.1 | 65.1 | 6.8     |
| 公園が整備されている                | 78  | 19.7 | 116  | 29.4 | 159       | 40.3 | 11       | 2.8 | 4     | 1.0 | 27  | 6.8 | 49.1 | 3.8     |
| 山林・農地・河川などの自然環境が保全されている   | 70  | 17.7 | 109  | 27.6 | 179       | 45.3 | 7        | 1.8 | 6     | 1.5 | 24  | 6.1 | 45.3 | 3.3     |
| 空き地、空き家等への対策がされている        | 138 | 34.9 | 129  | 32.7 | 98        | 24.8 | 4        | 1.0 | 6     | 1.5 | 20  | 5.1 | 67.6 | 2.5     |
| 防災施設や災害時の避難路、避難施設が整備されている | 146 | 37.0 | 115  | 29.1 | 101       | 25.6 | 2        | 0.5 | 2     | 0.5 | 29  | 7.3 | 66.1 | 1.0     |
| リサイクルなどの環境への配慮がある         | 81  | 20.5 | 129  | 32.7 | 153       | 38.7 | 3        | 0.8 | 3     | 0.8 | 26  | 6.6 | 53.2 | 1.5     |
| 体育館などスポーツ施設が整備されている       | 64  | 16.2 | 121  | 30.6 | 157       | 39.7 | 16       | 4.1 | 12    | 3.0 | 25  | 6.3 | 46.8 | 7.1     |
| 図書館など文化施設が充実している          | 77  | 19.5 | 113  | 28.6 | 160       | 40.5 | 12       | 3.0 | 5     | 1.3 | 28  | 7.1 | 48.1 | 4.3     |
| 病院や医療施設が充実している            | 185 | 46.8 | 110  | 27.8 | 74        | 18.7 | 1        | 0.3 | 2     | 0.5 | 23  | 5.8 | 74.7 | 0.8     |
| 高齢者、障害者等の施設が整備されている       | 123 | 31.1 | 123  | 31.1 | 120       | 30.4 | 3        | 0.8 | 1     | 0.3 | 25  | 6.3 | 62.3 | 1.0     |
| 保育園等の子育て支援施設が充実している       | 128 | 32.4 | 121  | 30.6 | 120       | 30.4 | 1        | 0.3 | 3     | 0.8 | 22  | 5.6 | 63.0 | 1.0     |
| 観光施設が整備されている              | 83  | 21.0 | 126  | 31.9 | 138       | 34.9 | 17       | 4.3 | 6     | 1.5 | 25  | 6.3 | 52.9 | 5.8     |



問4. つがる市のイメージ（特徴）は、どんなところだと思いますか。（3つ選択）

・「豊かな自然環境や田園環境が保全されるまち」が55.2%と最も多く、次いで「農林・畜産・漁業が盛んなまち」が39.2%、「歴史・文化・伝統を生かしたまち」が29.9%となっている。



問5. つがる市の良いところは、どんなところだと思いますか。（3つ選択）

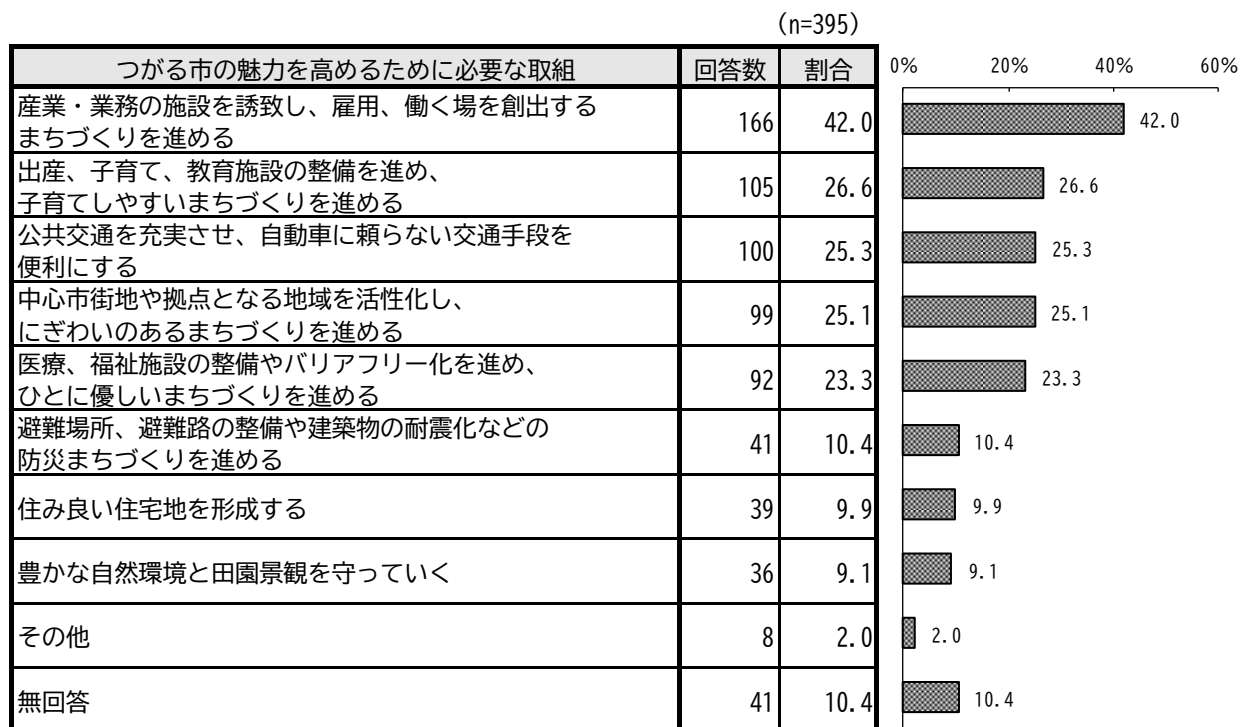
・「自然や公園等の緑が豊かにある」が48.4%と最も多く、次いで「学校や公民館、体育館等が充実している」が31.1%、「地域の歴史・文化性の高さ」が27.6%となっている。



問6. つがる市の魅力を高めるためには、今後、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(2つ選択)

・「産業・業務の施設を誘致し、雇用、働く場を創出するまちづくりを進める」が42.0%と最も多く、次いで「出産、子育て、教育施設の整備を進め、子育てしやすいまちづくりを進める」が26.6%、「公共交通を充実させ、自動車に頼らない交通手段を便利にする」が25.3%となっている。



問7. お住まいの地区は、つがる市全体からみて、どのような役割を担っている地区だと思いますか。

(3つ選択)

### 1. 木造地区

・「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」が54.7%と最も多く、次いで「基幹的な医療・福祉を担う地区」が35.0%、「広域的な行政機能を担う地区」が34.5%となっている。

(n=203)



### 2. 森田地区

・「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」が65.9%と最も多く、次いで「基幹的な医療・福祉を担う地区」が22.7%、「観光・交流・レクリエーションの中心的な地区」が18.2%となっている。

(n=44)



### 3. 柏地区

・「つがる市の商業の中心を担う地区」が74.6%と最も多く、次いで「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」が45.8%、「周辺地域のための商業を担う地区」が33.9%となっている。

(n=59)



### 4. 稲垣地区

・「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」が90.2%と最も多い。

(n=41)



### 5. 車力地区

・「農林業を中心とした農産物の生産を担う地区」が80.0%と最も多く、次いで「漁業を中心とした水産物の生産を担う地区」が26.7%、「基幹的な医療・福祉を担う地区」が20.0%となっている。

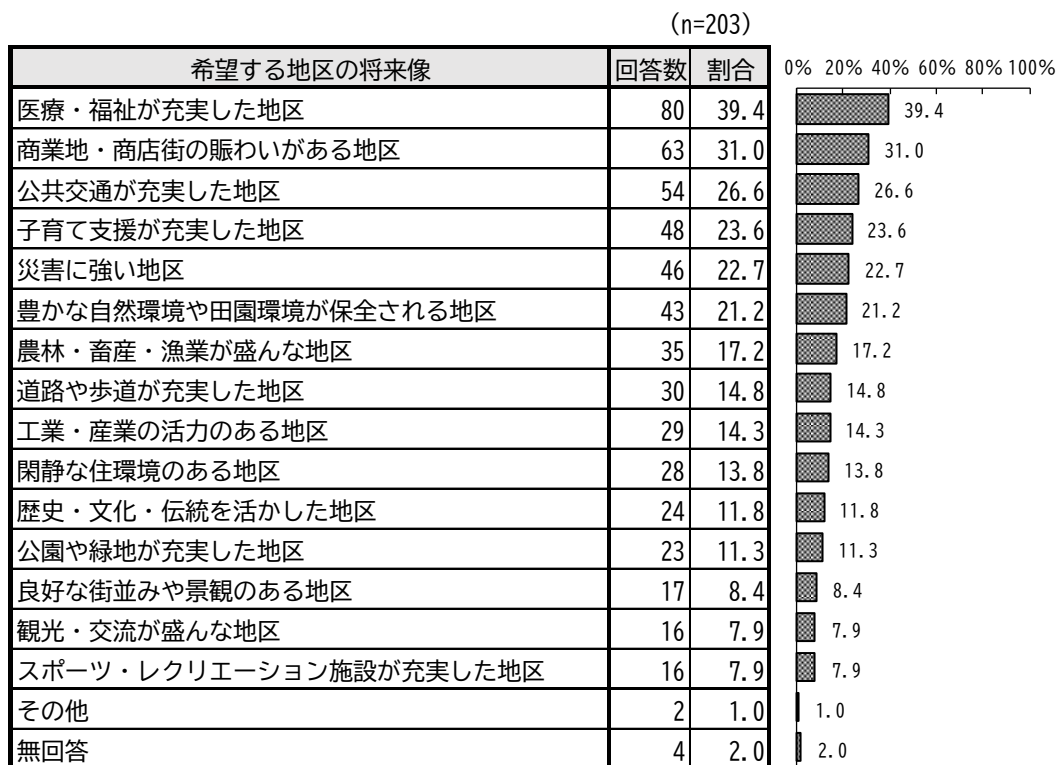
(n=45)



問8. お住まいの地区が将来どのようなになったらよいと思いますか。(3つ選択)

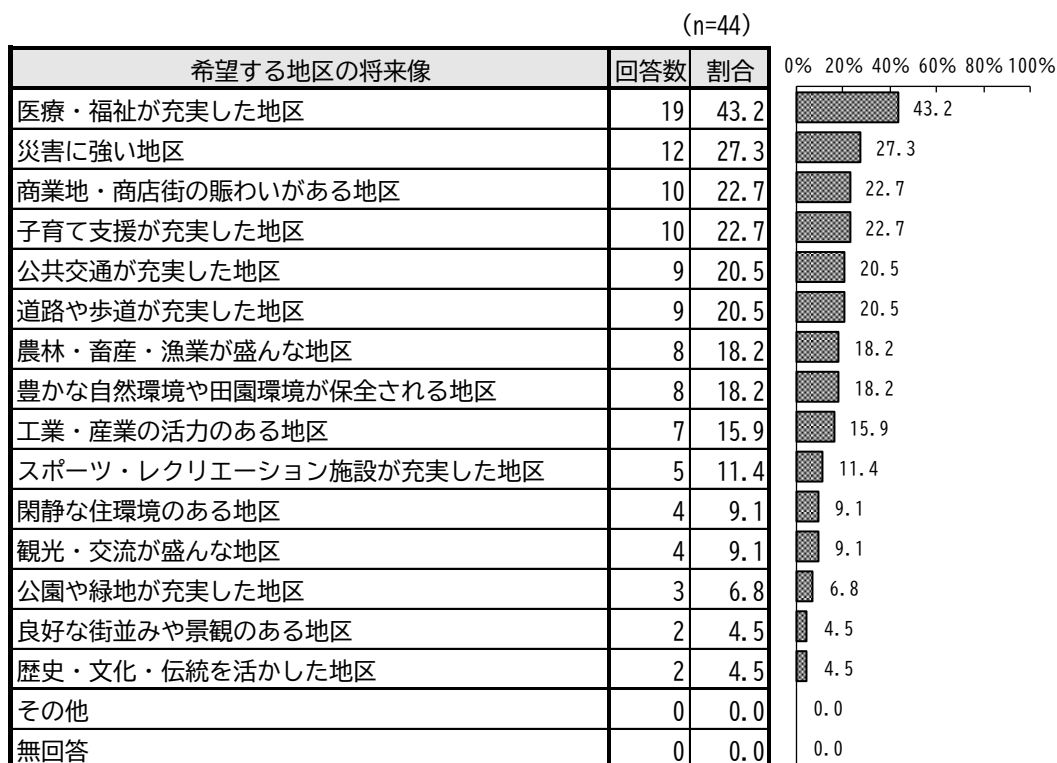
### 1. 木造地区

・「医療・福祉が充実した地区」が39.4%と最も多く、次いで「商業地・商店街の賑わいがある地区」が31.0%、「公共交通が充実した地区」が26.6%となっている。



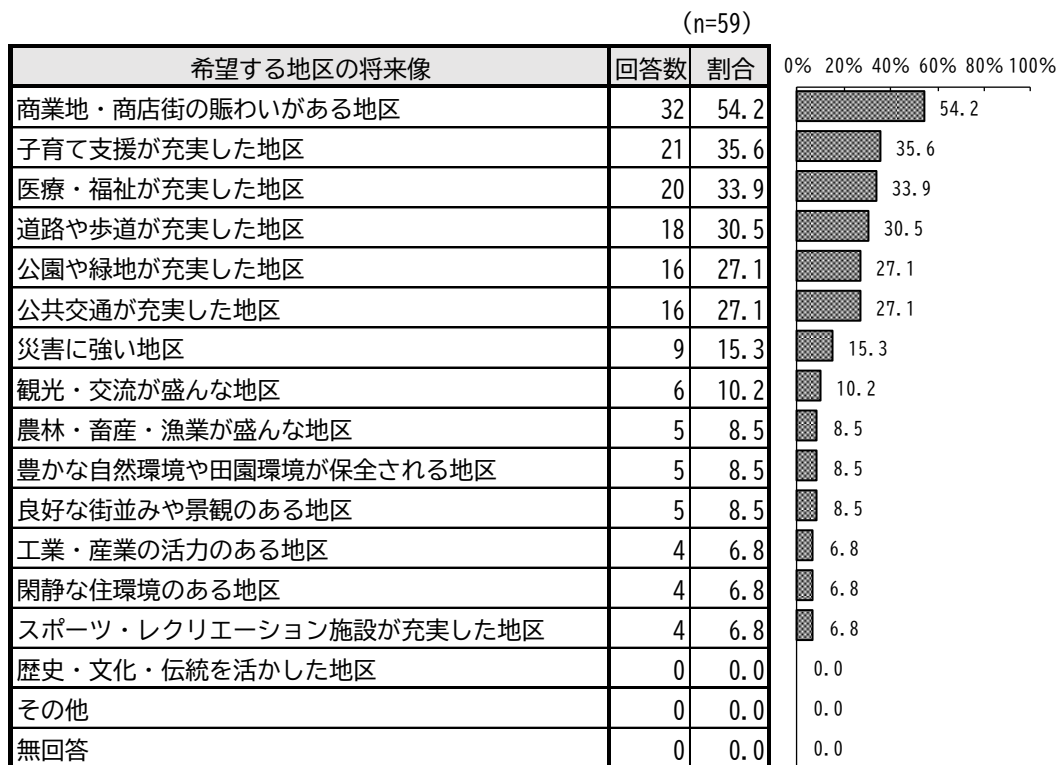
### 2. 森田地区

・「医療・福祉が充実した地区」が43.2%と最も多く、次いで「災害に強い地区」が27.3%、「商業地・商店街の賑わいがある地区」「子育て支援が充実した地区」が22.7%となっている。



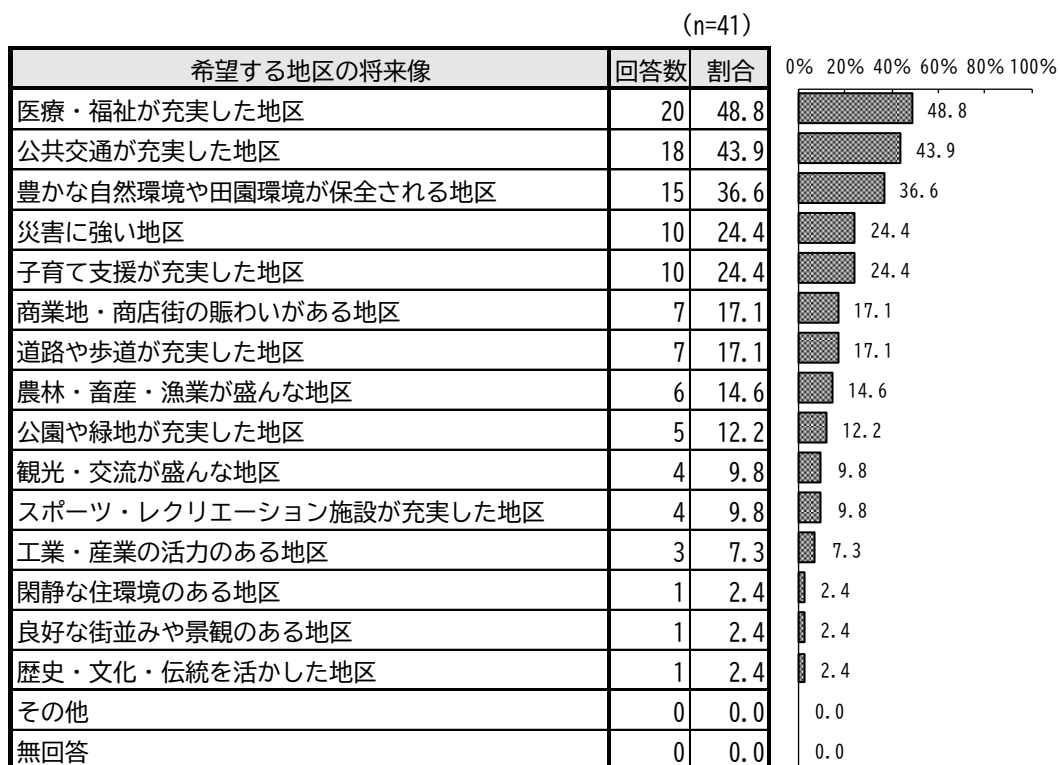
### 3. 柏地区

・「商業地・商店街の賑わいがある地区」が54.2%と最も多く、次いで「子育て支援が充実した地区」が35.6%、「医療・福祉が充実した地区」が33.9%となっている。



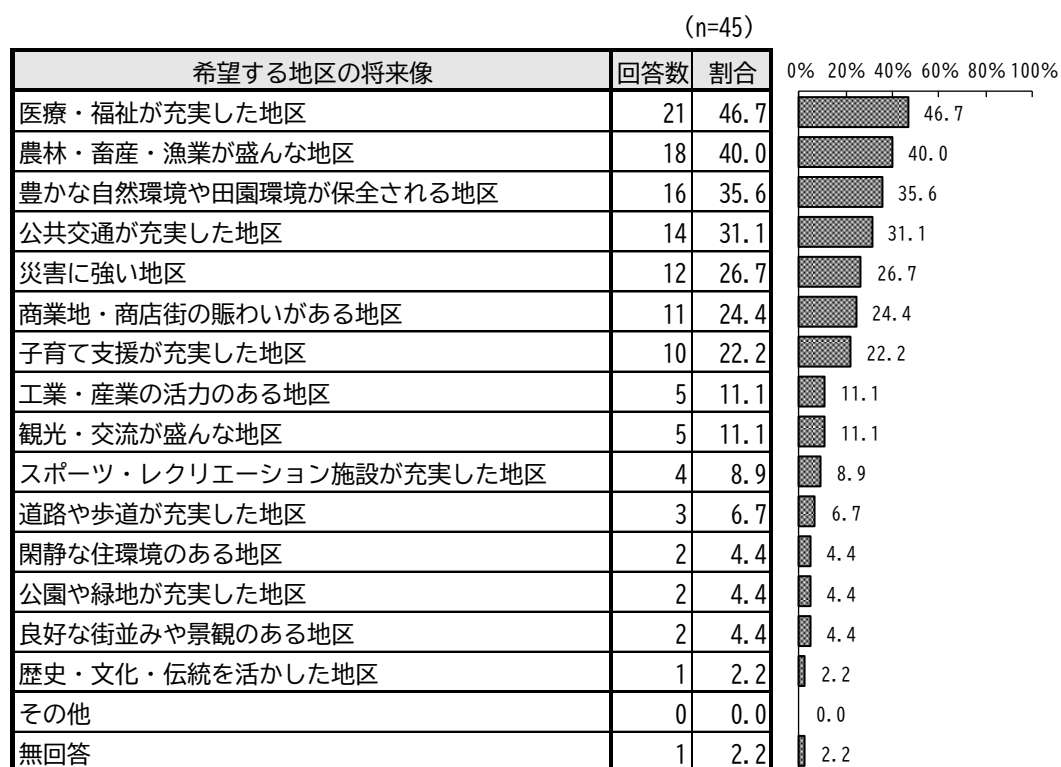
### 4. 稲垣地区

・「医療・福祉が充実した地区」が48.8%と最も多く、次いで「公共交通が充実した地区」が43.9%、「豊かな自然環境や田園環境が保全される地区」が36.6%となっている。



## 5. 車力地区

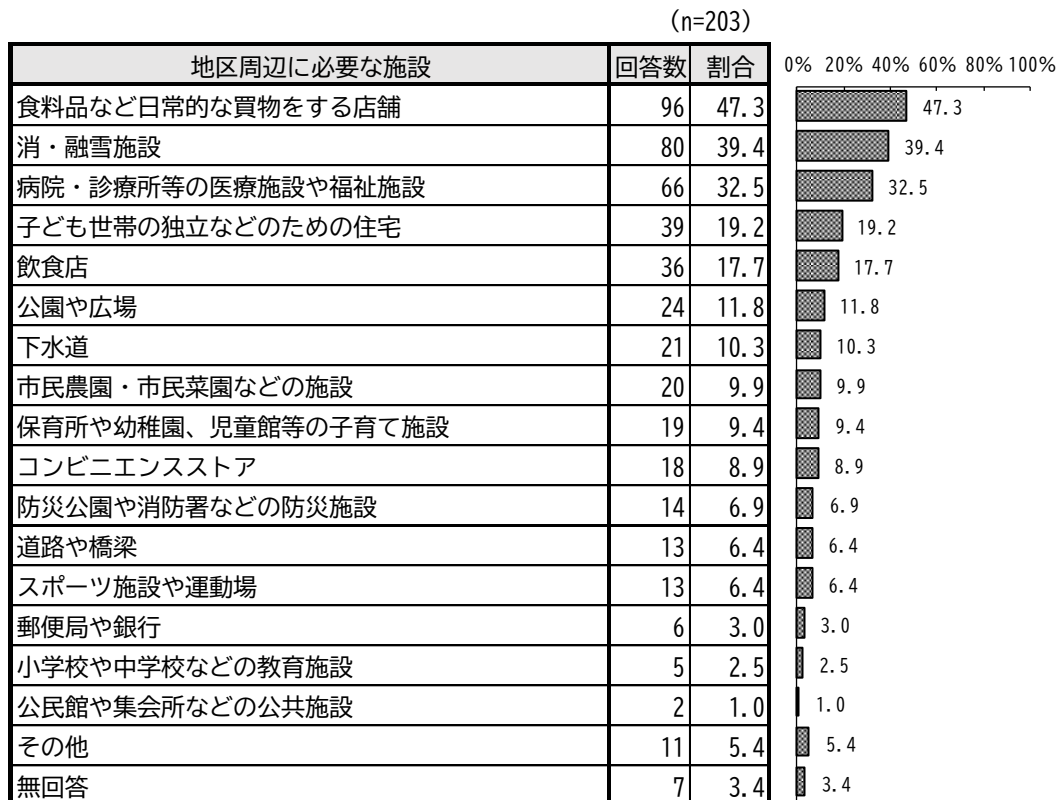
・「医療・福祉が充実した地区」が46.7%と最も多く、次いで「農林・畜産・漁業が盛んな地区」が40.0%、「豊かな自然環境や田園環境が保全される地区」が35.6%となっている。



問9. お住まいの地区の周辺にはどのような施設が必要だと思いますか。(3つ選択)

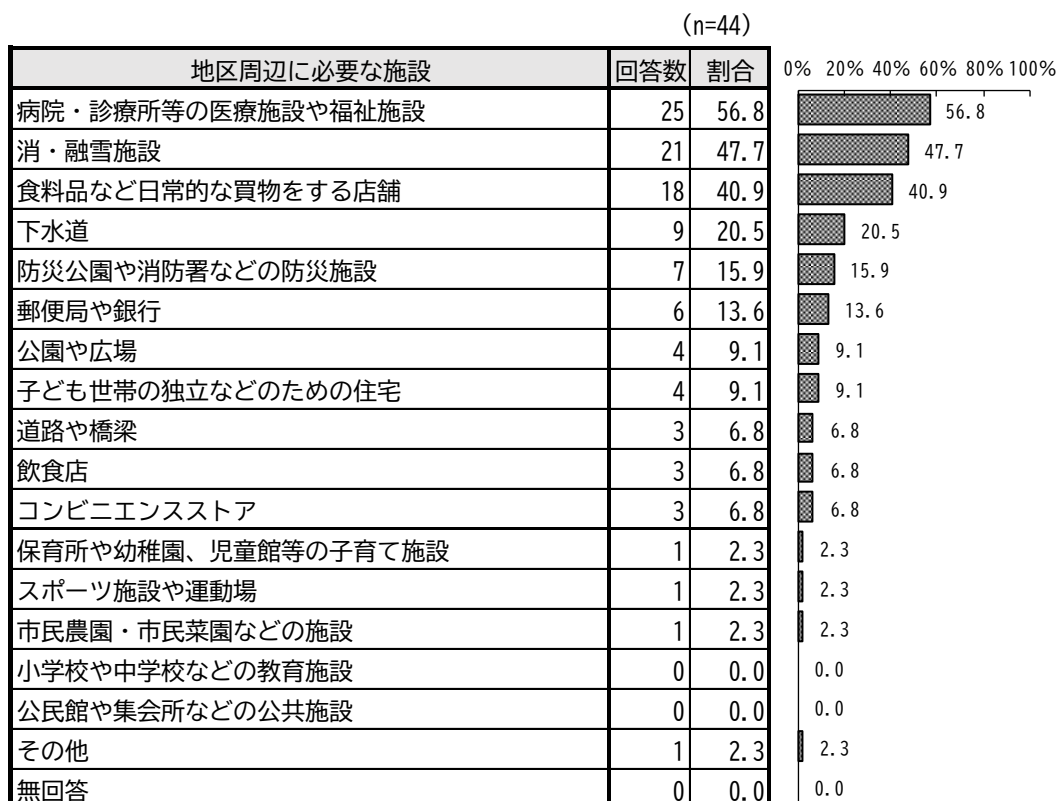
### 1. 木造地区

・「食料品など日常的な買物をする店舗」が47.3%と最も多く、次いで「消・融雪施設」が39.4%、「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」が32.5%となっている。



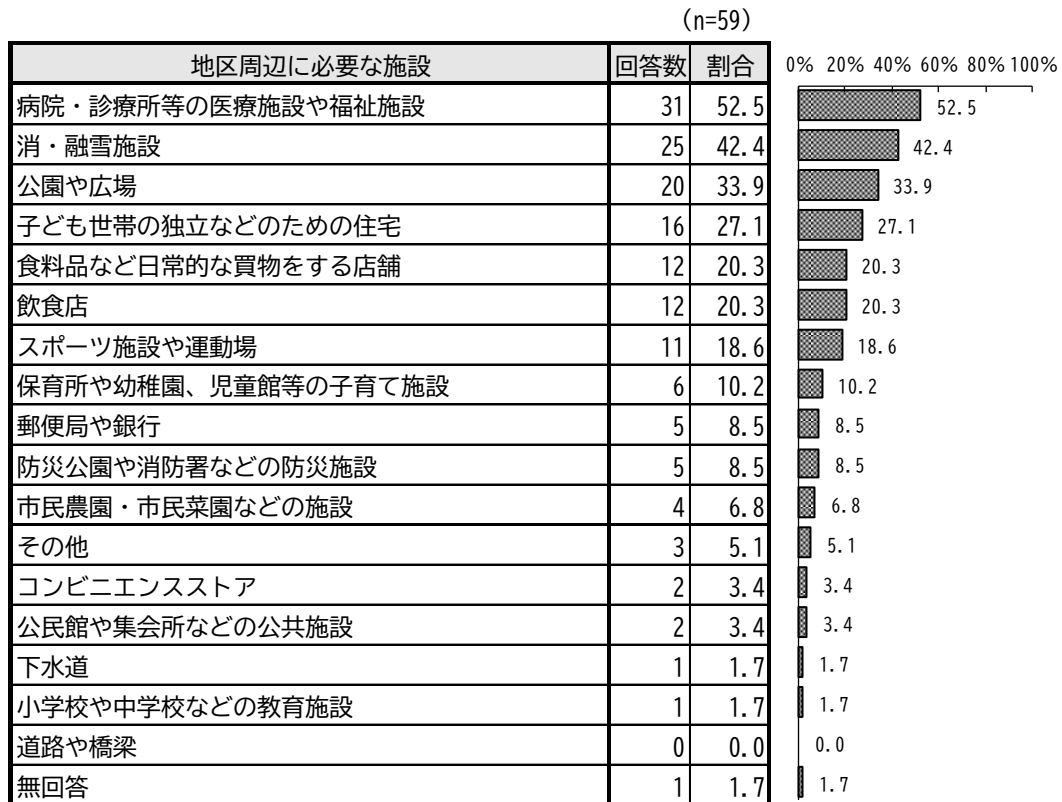
### 2. 森田地区

・「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」が56.8%と最も多く、次いで「消・融雪施設」が47.7%、「食料品など日常的な買物をする店舗」が40.9%となっている。



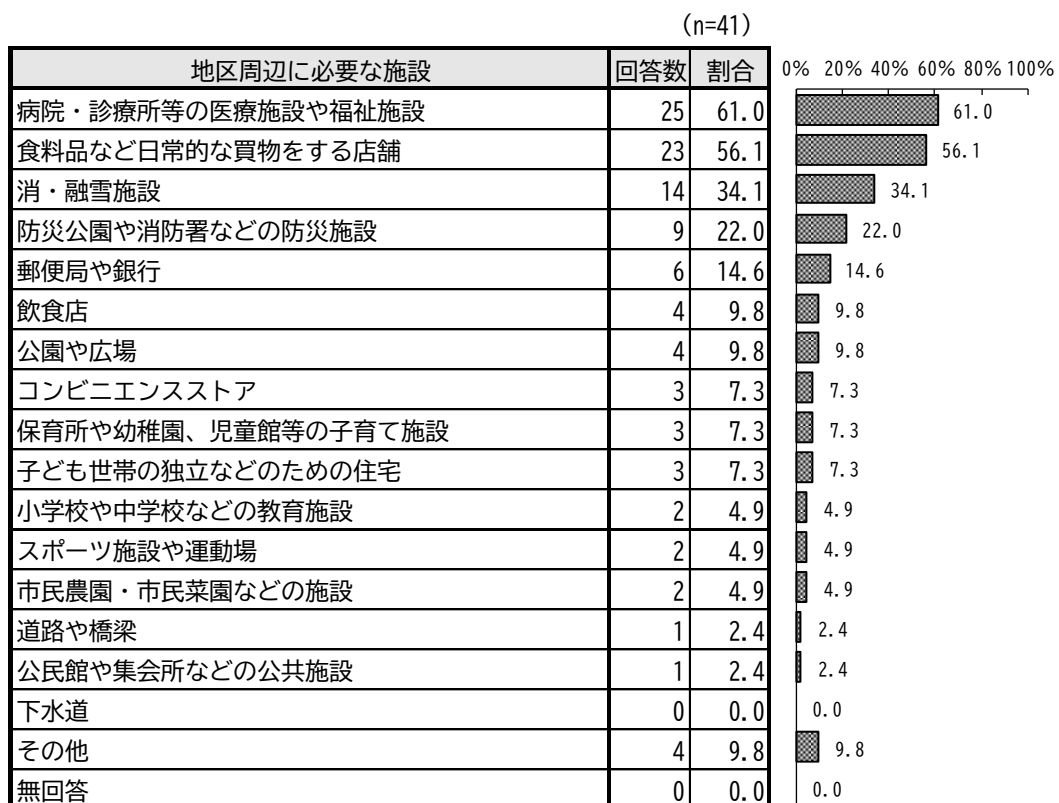
### 3. 柏地区

・「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」が52.5%と最も多く、次いで「消・融雪施設」が42.4%、「公園や広場」が33.9%となっている。



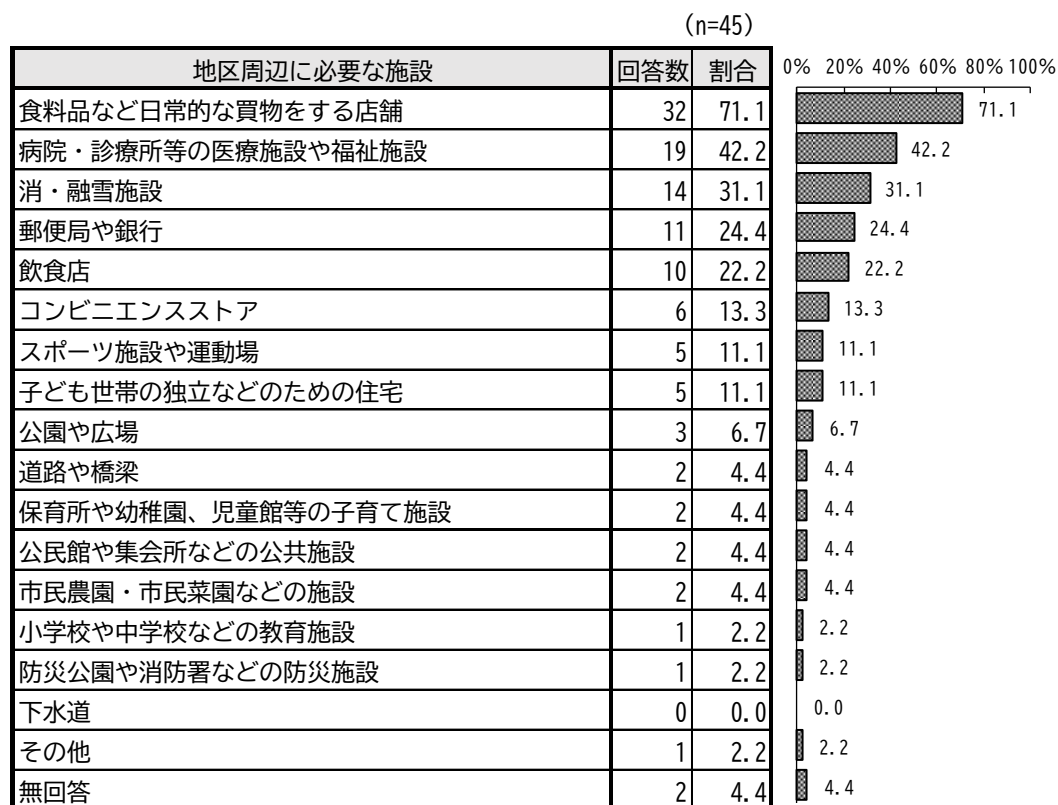
### 4. 稲垣地区

・「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」が61.0%と最も多く、次いで「食料品など日常的な買物をする店舗」が56.1%、「消・融雪施設」が34.1%となっている。



## 5. 車力地区

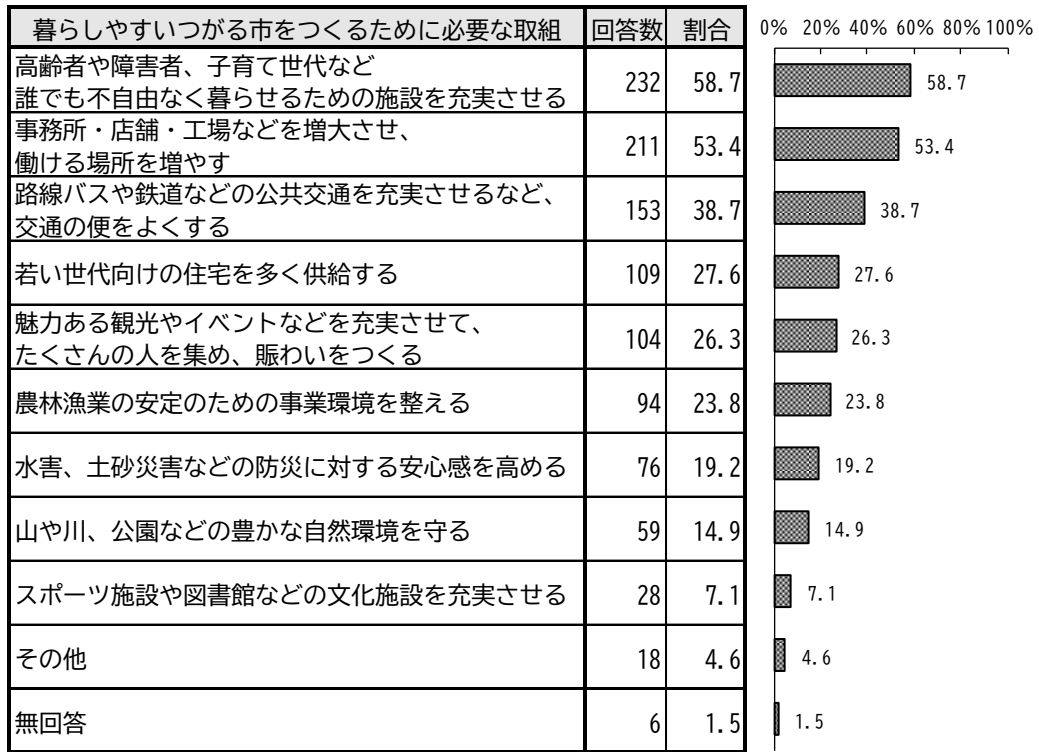
・「食料品など日常的な買物をする店舗」が71.1%と最も多く、次いで「病院・診療所等の医療施設や福祉施設」が42.2%、「消・融雪施設」が31.1%となっている。



問 10. 将来、今よりも暮らしやすいつがる市をつくるためにはどのような取り組みが必要だと考えますか。(3つ選択)

・「高齢者や障害者、子育て世代など誰でも不自由なく暮らせるための施設を充実させる」が 58.7%と最も多く、次いで「事務所・店舗・工場などを増大させ、働ける場所を増やす」が 53.4%、「路線バスや鉄道などの公共交通を充実させるなど、交通の便をよくする」が 38.7%となっています。

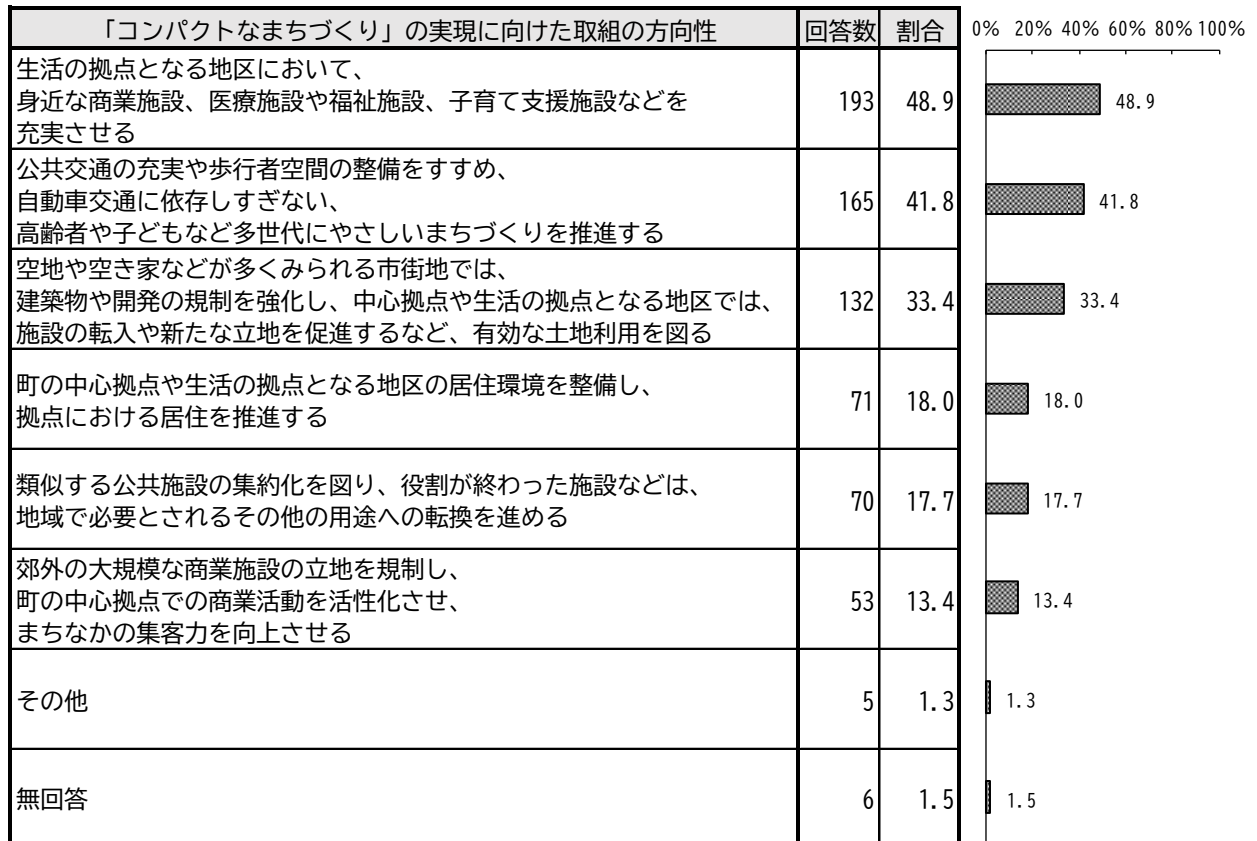
(n=395)



問 11. これからのまちづくりにおいては、人や施設がコンパクトに集まり、自動車に過度な依存をすることなく生活できるまちづくりが重要とされています。あなたは、この「コンパクトなまちづくり」の実現のため、つがる市において、どのように取り組んでいくのがよいと思いますか。（2つ選択）

- ・「生活の拠点となる地区において、身近な商業施設、医療施設や福祉施設、子育て支援施設などを充実させる」が48.9%と最も多く、次いで「公共交通の充実や歩行者空間の整備をすすめ、自動車交通に依存しすぎない、高齢者や子どもなど多世代にやさしいまちづくりを推進する」が41.8%、「空地や空き家などが多くみられる市街地では、建築物や開発の規制を強化し、中心拠点や生活の拠点となる地区では、施設の転入や新たな立地を促進するなど、有効な土地利用を図る」が33.4%となっている。

(n=395)



## 資料2. 市民懇談会

### (1) 開催経緯・メンバー

#### 【開催経緯】

|   |
|---|
| 令和6年11月23日(日)   |
| <p>テーマ：『つがる市の良いところ・悪いところ』『将来どのような地域にしたいか、そのためには何が必要か』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画、つがる市の現況について説明を行う。</li> <li>・住んでいる地域の魅力と課題（良いところ・悪いところ）、地域の将来像（こんな地域がいいな、地域にあったらいいもの）について、2班に分かれて議論を行う。</li> <li>・各班で成果のまとめと発表を行う。</li> </ul> |

#### 都市計画マスタープラン市民懇談会

| Aグループ  | Bグループ  |
|--------|--------|
| 高井 敏伸  | 小倉 浩久  |
| 長内 貴志  | 木村 一   |
| 長内 信行  | 長谷川 優希 |
| 山内 亜希子 | 白戸 和也  |
| 三上 秀昭  | 田中 淳二  |
| 宮田 真梨子 | 対馬 優子  |
| 野呂 政弘  |        |

※敬称略

#### 事務局

| 氏名     | 所属・役職           |
|--------|-----------------|
| 秋田谷 有正 | 建築住宅課長          |
| 中西 健   | 建築住宅課長補佐兼都市計画係長 |
| 山口 貴央  | 建築住宅課主幹         |

【Aグループ】

187

| つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の魅力と課題（Aテーブル） |  |  |
|--|--|--|
|  | 住んでいる地域の特性(いいところ)  | 住んでいる地域の改善したい点(悪いところ)  |
| ソ<br>フ<br>ト                              | ○自然(田園風景など)環境を大切にしたい(つがる市)<br>まちづくりを進めてほしい(つがる市)<br>○景色が良い(木造)<br>○自然が豊か(犬の散歩に良い)(稲垣)<br>○イベント、お祭りが多い(木造)<br>○人とのつながりが強い(稲垣) | ○謎の敵対心…?<br>地区とか外から見るとそんなに変わらない(木造)<br>○ごみ捨てが記名制(木造)<br>○家を聞いてくるのはなぜ?(木造)<br>○商店街に入りづらい、どう使った方がいいのか分からない(木造)<br>○仕事の魅力を発信できていない(木造)                            |
|  |  | ○冬に歩けない寒さ 暗くて怖い(柏)<br>○軽自動車じゃないと通れない道(柏)<br>○吹雪がすごすぎる(木造) ○夜の街が暗い(木造)<br>○宿泊施設が少ない(木造)<br>○公共交通の便が悪い(稲垣)<br>○冬の市外へのアクセスが悪い(稲垣)<br>○幹線道路ごみが多い(柏)<br>○商業施設が弱い(柏) |
|  | ○冬季の流雪の充実(柏) ○雪捨てに困らない(稲垣)<br>○五所川原に近い(柏)<br>○海水浴場がある(木造)  | ○アパート(家族向け)もっと増えても良い(奪い合い)(木造)<br>○移住(単身)がいまいち(つがる市)<br>○歩道がまだ多少ある(木造)<br>○道路歩道の整備(木造)<br>○通れる道と通れない道が分からない(稲垣)<br>○商店街がもっていない(木造)                             |
|  | ○買い物便利(柏) ○商業施設が充実している(柏)<br>○徒歩圏内に病院等の生活インフラがある(木造)<br>○公共施設が増えた(木造)<br>○吹雪がアトラクション(稲垣)<br>○道の駅が良い(柏)<br>○市外へのアクセスが良い(柏)    | ○高齢者、若者などが集える場所(施設)を(木造)<br>○公共施設の活用 学校、公民館等(つがる市)<br>○学べる所が少ない(つがる市)<br>○空家が多くなっていく(稲垣)<br>○特に空家、空地対策を強くすすめてほしい(木造)   |
|  |  |  |
| ハ<br>ー<br>ド                              |  |  |

つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の魅力と課題 (B) テーブル (松の館 2階視聴覚室)

|     | 住んでいる地域の特性 (いいところ)  | 住んでいる地域の改善したい点 (悪いところ)  |
|-----|---|---|
| ソフト | <p>のどか</p> <p>自然が豊か</p> <p>自然が豊か</p> <p>自然が豊か</p> <p>比較的都市部に近い</p> <p>つがる市に人が住みやすい</p> <p>言葉が通じやすい</p> <p>移動販売</p>                                    | <p>子育ての場が少い</p> <p>高齢者の生活がしやすい</p> <p>子育ての場が少い</p> <p>高齢者の生活がしやすい</p> <p>子育ての場が少い</p> <p>高齢者の生活がしやすい</p> <p>子育ての場が少い</p> <p>高齢者の生活がしやすい</p> |
| ハード | <p>総合病院に近い</p> <p>商業施設が少い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> <p>第一中学校のバス停が遠い</p> | <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p> <p>公共交通機関が少い</p>                      |

2024/11/24 (日)

図 Bグループ テーマ①

| つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の魅力と課題（Bテーブル） |  |   |
|--|--|---|
|  | 住んでいる地域の特性(いいところ)  | 住んでいる地域の改善したい点(悪いところ)   |
| ソフト                                      | <p>○のどか(木造) ○自然が豊、緑広い(木造)</p> <p>○自然が豊(車力)</p> <p>○近所どおし助けあっている(木造)</p> <p>○比較的都市部に近い(柏)</p> <p>○つがるちゃんがかわいい(木造)</p> <p>○災害が少ない(木造)</p> <p>○移動販売(木造)</p> | <p>○近くの住民との交流は少ない。一人暮らしの増加、保全会などで交流があるくらい(柏)</p> <p>○買い物するので車が必要(木造) ○移動販売(木造)</p> <p>○子供の遊び場がない(木造) ○遊ぶところがない(木造)</p> <p>○人が集まれる場所がない(木造) ○子供が少ない(木造)</p>                    |
| ハード                                      | <p>○総合病院に近い(柏) ○商業施設が多い(柏)</p> <p>○買い物など商業施設が集約しているので利便は良い(柏)</p> <p>○災害に強くなった、消防が近くなった(車力)</p>  | <p>○交通が不便(木造) ○バス停が遠い(木造)</p> <p>○歩道が凹凸 自転車が走りづらい(木造)</p> <p>○公共交通機関が少ない(柏) ○車がないと不便(柏)</p> <p>○産科、小児科が少ない(柏)</p> <p>○宿泊施設が少ない(木造)</p> <p>○店がない(木造) ○商業施設がなく、遠い(車力)※地図1参照</p> |

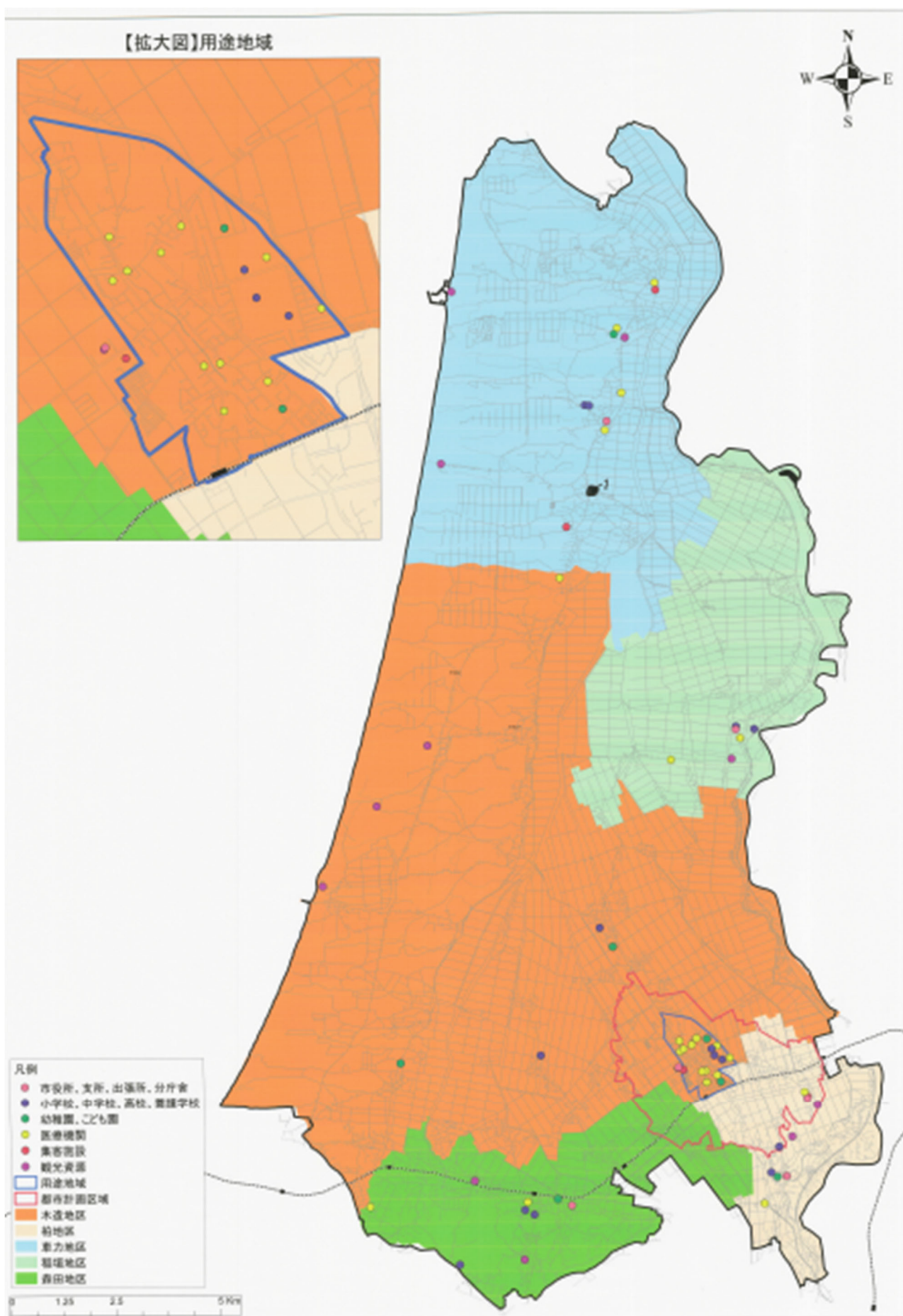


図 Bグループ テーマ①地図面

○地域の将来像（こんな地域がいいな、地域にあったらいいもの）

【Aグループ】

| つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の将来像（入） |     | 地域にあったらいいもの  |   |
|------------------------------------|-----|--|---|
|                                    |     | こんな地域がいいな  |   |
| ソフト                                | ハード | <p>雪も活用が<br/>イベント</p> <p>農業系の<br/>人オビク</p> <p>雪も活用が<br/>イベント</p> <p>雪も活用が<br/>イベント</p> | <p>雪も活用が<br/>イベント</p> <p>雪も活用が<br/>イベント</p> <p>雪も活用が<br/>イベント</p> <p>雪も活用が<br/>イベント</p> |

2024/11/24 (日)

図 Aグループ テーマ②

つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の将来像（Aテーブル）

|             | こんな地域がいいな  | 地域にあったらいいもの   |
|-------------|--|---|
| ソ<br>フ<br>ト | <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者と若者が一緒に集える所(稲垣)</li> <li>○大学卒業後、適正賃金で活躍できる仕事場(柏)</li> <li>○多世代が交流できるイベントがある(木造)</li> <li>○ちょっとおしゃれ(車力)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○雪を活用したイベント(稲垣)</li> <li>○農業系の人材バンク(木造)</li> </ul>   |
| ハ<br>ー<br>ド | <ul style="list-style-type: none"> <li>○住みたい人は住める地域(アパート、仕事)(柏)</li> <li>○空地、空公施設の活用(木造)</li> <li>○勉強できる場所(木造)</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○冬場のドッグラン(廃校などを利用)(稲垣)</li> <li>○空家、空地を利用した農作業ステーション(稲垣)</li> <li>○コミュニティがほしい(木造)</li> <li>○地元の食物を食べれる所が欲しい(木造)</li> </ul> |

木 稻 車 柏 森

図 Bグループ テーマ②

| つがる市都市計画マスタープラン地区懇談会 テーマ：地域の将来像（Bテーブル） |                     |  |
|--|---------------------|--|
|  | こんな地域がいいな           | 地域にあつたらしいもの  |
| ソフト                                    | ○災害に強い街(柏)          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○バスの本数を増やしてほしい5年後、10年後(木造)</li> <li>○地区ごとの祭り、集会(木造)</li> <li>○庭の雪の除雪をしてくれる(木造)</li> <li>○県内から集まる大型商業施設コストコなど(車力)</li> <li>○教育委員会でスポーツが出来る、部活が出来る体制準備をする(車力)</li> </ul>  |
| ハード                                    | ○市広報施設兼バス停、たまり場(木造) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○子供の居場所 学校帰り一人でのいる(木造)</li> <li>○空教室を利用し、高齢者の集いの場 多世代交流(木造)</li> <li>○融雪溝(柏)</li> <li>○ホテル(柏)</li> <li>○医療、買い物などの集約化(柏) ○産科、小児科(柏)</li> <li>○移動販売の充実(木造)</li> <li>○商業施設、医療施設を巡回するバス整備を考えるタクシーの助成ではなく(車力)</li> <li>○移動手段の効率化(柏) ○循環バス(それなりの本数で)(柏)</li> <li>○市民バス、市内循環(無料or低料金)(木造) ○循環バス(木造)</li> </ul> |

## ○Aグループ発表

### 【地域の魅力と課題】

(良いところ)

- ・ 自然が豊かで特に津軽平野と岩木山の景色が良い
- ・ 柏地区は買い物が便利で利便性が良い
- ・ 融雪溝が整備されている

(悪いところ)

- ・ 暮らしに合わせた魅力を発信できていない
- ・ どの地区も道が暗く、国道でも街灯がない場所がある
- ・ 商店街が入りづらい

### 【地域の将来像】

(こんな地域がいいな)

- ・ 高齢者と若者が気軽に集える場所がほしい
- ・ わざわざ行きたいと思える、ちょっとおしゃれな施設がたくさんあるといい
- ・ 空家、空公共施設の活用

(地域にあったらいいもの)

- ・ 農業希望者の人材バンク制度
- ・ 冬の屋外ドッグラン
- ・ 空家、空地を活用した農作業ステーション

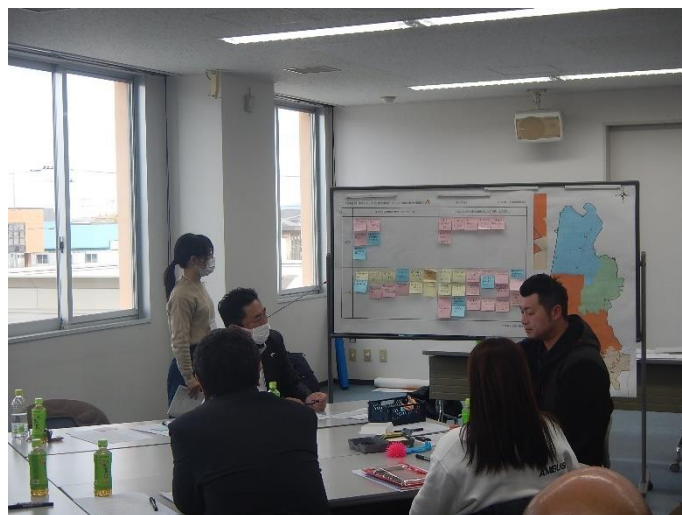


図 Aグループ ワークショップの様子

## ○Bグループ発表

### 【地域の魅力と課題】

(良いところ)

- ・ 自然が豊か
- ・ 近所でコミュニティが繋がっている
- ・ 災害が少ない

(悪いところ)

- ・ 公共交通機関が弱いため、買い物や移動するために車が必要
- ・ 子供や高齢者になるべくお金をかけずに集まれる場所が少ない
- ・ 産科、小児科がない

### 【地域の将来像】

(こんな地域がいいな)

- ・ 地域バスなどを集約して移動できれば、子供も大人も便利に暮らしていける
- ・ 朝の時間帯のスクールバスに高齢者も乗車可能にする
- ・ 子供たち気軽にスポーツできるようになる

(地域にあったらいいもの)

- ・ 循環バス
- ・ 融雪溝をもう少し増やす
- ・ 民泊やホテルなどの宿泊施設



図 Bグループ ワークショップの様子

## 資料3. 策定委員会等

### (1) 策定委員会

#### 【開催経緯】

|  |
|--|
| 第1回 令和6年7月31日（水）   |
| 報告事項<br>・都市計画とは<br>・これまでの経緯<br>・住民意向調査（アンケート）の結果<br>・基礎調査の結果<br>議事<br>・主要課題の整理について |
| 第2回 令和6年10月30日（水）  |
| 報告事項<br>・全体構想案の検討<br>議事<br>・将来目標の設定について<br>・分野別の整備保全の方針（木造駅周辺整備）について               |
| 第3回 令和6年12月25日（水）  |
| 報告事項<br>・全体取りまとめについて<br>議事<br>・地域別構想案の検討について<br>・実現化方策の検討について                      |

都市計画マスタープラン都市計画審議会（策定委員会）

|     | 氏名     | 所属・役職               |
|-----|--------|---------------------|
| 委員長 | 長内 明彦  | つがる市商工会長            |
| 委員  | 増田 教正  | 西津軽土地改良区理事長         |
| //  | 金澤 榮   | つがるにしきた農業協同組合代表理事常務 |
| //  | 工藤 良二  | ごしょつがる農業協同組合代表理事常務  |
| //  | 佐藤 孝志  | つがる市議会経済建設常任委員会委員   |
| //  | 天坂 昭一  | つがる市議会経済建設常任委員会委員   |
| //  | 佐々木 慶和 | つがる市議会経済建設常任委員会委員   |
| //  | 平川 豊   | つがる市議会経済建設常任委員会委員   |
| //  | 村田 尚樹  | 西北地域県民局地域整備部長       |
| //  | 白戸 英行  | つがる市自治会連合会会長        |
| //  | 工藤 巍   | つがる市自治会連合会副会長       |
| //  | 鶴賀 善宏  | つがる市自治会連合会副会長       |
| //  | 柴谷 松雄  | つがる市自治会連合会副会長       |
| //  | 菊地 導英  | つがる市自治会連合会副会長       |
| //  | 野呂 康生  | 亀ヶ岡自治会長             |

事務局

| 氏名     | 所属・役職       |
|--------|-------------|
| 成田 正隆  | 建設部長        |
| 秋田谷 有正 | 建築住宅課長      |
| 中西 健   | 課長補佐兼都市計画係長 |
| 山口 貴央  | 建築住宅課主幹     |

## (2) 庁内検討委員会

### 【開催経緯】

|  |
|--|
| 第1回 令和6年6月24日（月）   |
| 報告事項<br>・これまでの経緯と今後の予定について                                   |
| 案件<br>・住民意向調査（アンケート）の結果について<br>・基礎調査の結果について<br>・主要課題等の検討について |
| 第2回 令和6年10月15日（火）  |
| 案件<br>・全体構想案の検討について  |
| 第3回 令和6年12月17日（火）  |
| 案件<br>・地域別構想案の検討について<br>・実現化方策の検討について                        |

### 都市計画マスタープラン庁内検討委員会

|     | 氏名     | 所属・役職     |
|-----|--------|-----------|
| 委員長 | 成田 正隆  | 建設部長      |
| 委員  | 葛西 正美  | 総務課長      |
| //  | 野村 純也  | 地域創生課長    |
| //  | 高橋 勝幸  | 防災危機管理課長  |
| //  | 葛西 明仁  | 財政課長      |
| //  | 川越 七重  | 市民課長      |
| //  | 宮西 良和  | 福祉課長      |
| //  | 佐々木 雅規 | 農林水産課長    |
| //  | 長瀬 公秀  | 商工労政課長    |
| //  | 長内 研也  | 土木課長      |
| //  | 秋元 淳一  | 下水道課長     |
| //  | 小田桐 勇人 | 教育総務課長    |
| //  | 竹内 攻規  | 農業委員会事務局長 |

### 事務局

| 氏名     | 所属・役職       |
|--------|-------------|
| 秋田谷 有正 | 建築住宅課長      |
| 中西 健   | 課長補佐兼都市計画係長 |
| 山口 貴央  | 建築住宅課主幹     |

# つがる市都市計画マスタープラン

令和 7 年 3 月

つがる市 建設部 建築住宅課

〒038-3192 青森県つがる市木造若緑 61 番地 1

電話：0173-42-2111（代表） FAX：0173-42-9522







新田の歴史が彩る  
日本のふるさと



つがる市